

日本史文化史

[文化史]	仏教史	2
	神道史	6
	文化史概説	8
	古代の文化	14
	中世の文化	22
	近世の文化	26
	近現代の文化	34
[付 録]	文化史〔予習・復習編〕	44
	史 料	86
	史 料〔予習・復習編〕	100

この講座は、文化史の全てを網羅することを目的としている。しかし、文化史は膨大な分量があり、夏期だけで全てをマスターするのは不可能だろう。なおかつ、通史と異なって、歴史的な因果関係だけでは覚えられないものも数多い。そして、多くの受験生がする過ちは、夏期に文化史を徹底的に学習したものの、2 学期にはそれを忘れてしまい、冬期に再び学習をし直すことである。それは、効率の悪い学習になってしまうのではないだろうか？

そのため、僕の授業では、仏教史・神道史・儒学史など、通史と密接に関連してくるもの、また全文化の大まかな全体像を掴むことを主眼に置いている。そして、2 学期以降に詳細な学習が出来るように、別冊として[文化史講義録]を配布する。授業と[文化史講義録]を有効活用して、志望校合格につなげてほしい。

編者 根本剛

馬で行くことも、車で行くことも、
二人で行くことも、三人で行くこともできる。
だが、最後の一步は自分ひとりで歩かなければならない。
(ゲーテ)

[講義用ページの色分け(頻度の違い)]

記述問題・選択問題で問われる語句	正誤問題・論述問題で問われる内容
赤色の蛍光ペン＝出題頻度が多い最重要語句	赤色のアンダーライン＝出題頻度が多い最重要内容
青色の蛍光ペン＝出題頻度が多い重要語句	青色のアンダーライン＝出題頻度が多い重要内容
緑色の蛍光ペン＝出題頻度が少ない語句	緑色のアンダーライン＝出題頻度が少ない内容
黄色の蛍光ペン＝出題頻度が非常に少ない語句	黄色のアンダーライン＝出題頻度が非常に少ない内容

[穴埋め用ページの下線部(対応頻度)]

記述問題・選択問題で問われる語句	正誤問題・論述問題で問われる内容
_____＝赤色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝赤色のアンダーラインにあたる
~~~~~＝青色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝青色のアンダーラインにあたる
_____＝緑色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝緑色のアンダーラインにあたる
.....＝黄色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝黄色のアンダーラインにあたる

古墳文化

②崇仏論争

蘇我稲目 [大臣]	VS	物部尾輿 [大連]	
蘇我馬子 [大臣]	VS	物部守屋 [大連]	→蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす(587)

飛鳥文化

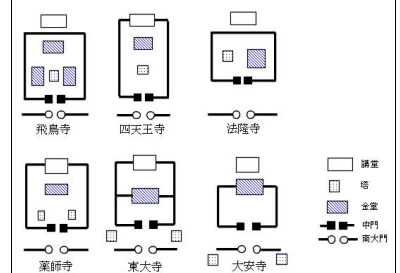
〔渡来僧（推古朝時に来日）〕

えじ 恵慈	（高句麗の僧→595年に来日し厩戸王に仏教を教授）
かん 観勒	（百濟の僧→602年に来日し暦・天文学を伝える）
どんじょう 曇徴	（高句麗の僧→610年に来日し紙・墨・絵具を伝える）

★法隆寺再建非再建論争→若草伽藍跡(四天王寺式)の発掘調査(1939)で再建説が有力となる

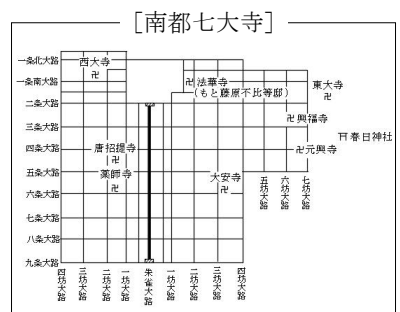
白鳳文化

— [伽藍配置]



天平文化

「南都六宗」



聖武天皇

背景①=飢饉・疫病の流行による社会不安  
背景②=藤原広嗣の乱(740)による政治不安  
背景③=国家仏教(官寺の建立・護国の経典)

孝謙天皇

[社会事業]

① ぎょうき行基 (灌漑施設など社会事業に尽力)  
僧尼令違反で政府に弾圧されるが、  
大仏造営に協力し大僧正に任じられる

② ひでみ光明子 (皇后) (聖武天皇の皇后)  
悲田院 (貧窮者に食料を施す施設)  
施薬院 (貧窮者に薬を施す施設)

③ わきの へつら ひし和気虫史 (法均尼)  
惠美押勝の乱後の孤児養育につとめる



弘仁・貞観文化	密教の隆盛	①平安新仏教 →天台宗(桓武天皇が支持)・真言宗(嵯峨天皇が支持)の形成				
		宗派	開祖	教義	中心寺院	著書
		天台宗	最澄(伝教大師) ★804年渡唐 →805年帰国	法華経(根本經典) ↓ 顕教(經典・修行による悟りを説く) →大乘戒壇設立を主張	比叡山延暦寺(近江国)	『山家学生式』 比叡山で学生を養成 するための法式をまとめる 『顕戒論』 延暦寺の大乘戒壇設立に 反対する南都諸宗への反論書
国風文化	密教の隆盛・浄土教の広まり	真言宗	空海(弘法大師) ★804年渡唐 →806年帰国	大日経・金剛頂経(根本經典) ↓ 密教(加持祈禱による現世利益を説く)	高野山金剛峰寺(紀伊国) 教王護国寺(東寺) ★嵯峨天皇から賜る	『三教指帰』 仏教・儒教・道教のうち 仏教が優れていることを説く 『十住心論』 悟りを開くまでの過程を 十の段階に分類した教理書
		[慈善事業]				
		①綜芸種智院(庶民教育のための施設) ②満濃池(讃岐国)の修築				
院政期文化	浄土教の隆盛	②円仁・円珍による天台宗の密教化 →のち、円仁と円珍の仏教解釈の違いからその末流が対立 →円仁(慈覚大師)→山門派=延暦寺 ↳『入唐求法巡礼行記』(遣唐使時の巡礼日記) →円珍(智証大師)→寺門派=園城寺(三井寺) ↳『行歴記』(遣唐使時の巡礼日記)				
		①末法思想(釈迦入滅後、正法→像法→末法の世となる思想) ↓ ★末法元年=承永7年(1052年) ②浄土教(阿弥陀如来の住む浄土への往生を願う教え) →「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることで極楽往生できる (1)聖(正規の寺院から離れた民間の宗教者) 空也(庶民層へ布教し、市聖・阿弥陀聖と呼ばれる) ★六波羅蜜寺空也上人像(康勝が鎌倉時代に制作した彫刻) 源信(恵心僧都)(天台宗の高僧) ↳『往生要集』(往生の方法を示した仏教書) (2)往生伝(浄土往生を遂げたとされる人々の伝記を集めた編纂書) 慶滋保胤『日本往生極楽記』 三善為康『拾遺往生伝』・『後拾遺往生伝』				
		①院による仏教保護(上皇の仏教信仰→出家し法皇となる) (1)造寺造仏→六勝寺の建立 法勝寺(白河天皇)・尊勝寺(堀河天皇)・最勝寺(鳥羽天皇) 円勝寺(待賢門院)・成勝寺(崇徳天皇)・延勝寺(近衛天皇) (2)寺社参詣→熊野詣・高野詣(紀伊国) ②南都北嶺の僧兵による強訴 南都=興福寺(奈良法師) 春日神社の神木をもちい強訴 北嶺=延暦寺(山法師) 日吉神社の神典をもちい強訴 ★天下三不如意(白河法皇の意のままにならなかった3つ) 加茂川の水・双六のさいの目・山法師(in『源平盛衰記』)				

## 図解NOTE [平安仏教]

①顕教(經典を研究することで悟りを開く)

南都六宗(華嚴経などを研究)

↓  
天台宗(法華経を研究)

②密教(加持祈禱による現世利益を説く)

→曼荼羅を用いた灌頂の儀式を受けたり、山岳修行を行って超自然的な力を体得した僧侶が、加持祈禱で病氣平癒・立身出世・除災を行う  
→貴族・皇族の支持を得る(保護を受ける)  
※朝廷では法会など鎮護国家仏教の役割

③神仏習合(神祇思想=仏教)の浸透(奈良時代~)

④1052年を末法元年とする末法思想の広まり

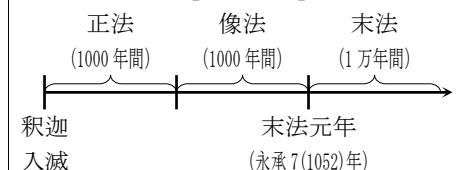
↓  
→人々は現世に失望し、来世での幸福を願う

⑤浄土教(浄土への往生を願う来世利益を説く)

→念仏を唱え阿弥陀如来の住む浄土に往生する  
→上流貴族・中流貴族の支持を得る  
ex. 法成寺無量寿院(藤原道長が建立した阿弥陀堂)  
平等院鳳凰堂(藤原頼通が建立した阿弥陀堂)

⑥聖による布教で地方伝播→地方豪族に普及  
ex. 中尊寺金色堂(藤原清衡が平泉に建立した阿弥陀堂)

## [末法思想]



## 〔A〕鎌倉仏教

	宗 派	開 祖	特 徴	著 書	中心寺院
浄土宗系	浄土宗	法然 (美作出身) (源空) ★讃岐に配流 (当初の土佐から変更)	専修念仏 (ひたすら念仏「南無阿弥陀仏」を唱える) ★承元の法難(1207) (朝廷による法然一門への宗教弾圧)	『選択本願念仏集』 九条兼実に応じて著した浄土宗の根本經典 『一枚起請文』(念仏往生の要点を記す) 『法然上人絵伝』(土佐吉光が描いた絵巻物)	知恩院 (京都)
	浄土真宗 (一向宗)	親鸞 (京都出身) ★越後に配流	絶対他力 (阿弥陀仏の救いを信じる心で往生できる) 悪人正機説 (煩惱をもつ悪人こそ救済される)	『教行信証』(親鸞が著した根本經典) 『歎異抄』(悪人正機説などを記す) 親鸞自らの信仰体験を弟子の唯円が著す 『親鸞聖人像(鏡御影)』(専阿弥陀仏が描く)	本願寺 (京都)
	時 宗	一遍 (伊予出身) (智真) ★遊行上人・ 捨聖と呼ばれる	賦 算 (「南無阿弥陀仏」と書かれた算を配る) 遊 行 (布教や修行のため各地を巡り歩くこと) 踊念仏 (念仏を称えながら踊る) ★時衆 (一遍に従い全国を遊行した人々)	『一遍上人絵伝』 一遍死後に円伊が一遍の生涯を描いた絵巻物 ★武士の館・備前国(岡山県)福岡市の様子	清浄光寺 (神奈川)
法華宗系	日蓮宗 (法華宗)	日蓮 (安房出身) ★伊豆(1261)・ 佐渡(1271)配流	法華経至上主義 題目 (「南無妙法蓮華経」)を唱える(唱題)	『立正安国論』(北条時頼に提出) 法華経こそ唯一の正法であると説き、天変 地異が続くのは邪法を信じるためと述べる	久遠寺 (山梨県身延山)
禅宗系	臨済宗	荣西 (備中出身) ★荣西が北条政子・源頼家の 帰依を受けた後、臨済宗は 鎌倉幕府の保護を受け隆盛	公案 (師から弟子に与えられる問題)の解決 [幕府による臨済宗保護] 蘭溪道隆 (南宋の僧→北条時頼の帰依を受け、建長寺を開く) 無学祖元 (南宋の僧→北条時宗の帰依を受け、円覚寺を開く) 一山一寧 (元 の 僧→北条貞時の帰依を受ける)	『興禅護国論』 旧仏教の禅宗非難に対して禅の要旨を述べる 『喫茶養生記』 源実朝に献上した茶の効用を説いた書 一山一寧を訪ねたのを機に、虎閑師錬は 日本最初の仏教史書『元亨釈書』を著す	寿福寺 (北条政子が 鎌倉に建立 建仁寺 (源頼家が 京都に建立)
	曹洞宗	道元 (京都出身)	只管打坐 (余念を排してひたすら坐禅する) ★道元は公武(朝廷・幕府)の権力者との結びつきを嫌う	『正法眼蔵』 道元が著した曹洞宗の根本經典 『正法眼蔵随聞記』 道元の言行を弟子の懷奘が筆録したもの	永平寺 (福井)

※活躍期＝法然 (1133～1212) → 荣西 (1141～1215) → 親鸞 (1173～1262) → 道元 (1200～1253) → 日蓮 (1222～1282) → 一遍 (1239～1289)

	宗 派	尽力者	特 徴	著 書	中心寺院
旧仏教の革新運動	法相宗	貞慶(解脱)	法相宗の復興に努力 (笠置山に隠棲)	『興福寺奏状』 朝廷に法然の念仏禁止を求める	笠置寺 (京都)
	華嚴宗	高弁(明恵)	華嚴宗の復興に努力 (高山寺を再興)	『摧邪輪』『選択本願念仏集』を批判 『明恵上人樹上坐禅図』(成忍が描いた似絵)	高山寺 (京都)
	律 宗	俊仿 叡尊(思円) 忍性(良観)	戒律の復興に努力 (泉涌寺を再興) 戒律の復興に努力 (社会事業を行い西大寺を復興) 戒律の復興に努力 (奈良に北山十八間戸を設立) →のち、鎌倉に極楽寺を開く		

## 〔NOTE〕

平安時代(旧仏教)＝南都六宗・天台宗・真言宗→僧侶は厳しい修行、貴族は造寺・造仏で救われる

→荘園公領制の成立以降、旧仏教(顕密仏教)は世俗化(荘園を集積し、権力者としての性格を強める)

鎌倉時代(新仏教)＝平易な修行(易行)の中から、一つだけ選び(選択)、それに専心して行う(専修)

浄土教(平安時代) → 浄土宗(法然) → 浄土真宗(親鸞) → 時宗(一遍)

→観想念仏(仏の姿を思い浮かべる) → 称名(口称)念仏(仏の名を称える) → 念仏+信心(阿弥陀如来を信じる) → 信じる信じないに関わらず

→専修念仏(ひたすら念仏を称える) → 絶対他力(仏を信じ仏にすがる) 念仏を唱えれば往生できる

→「南無阿弥陀仏往生決定」と

書かれた札を配り回る(賦算)

南北朝文化		①足利尊氏が臨済宗を保護し、夢窓疎石に帰依 (1) 夢窓疎石の建議で京都に天龍寺を建立 (後醍醐天皇の冥福を祈るため) (2) 夢窓疎石の建議で全国に安国寺・利生塔を建立 (南北朝の動乱の戦没者供養のため)																						
北山文化	臨済宗	②足利義満が臨済宗を保護し、春屋妙葩 (夢窓疎石の弟子) に帰依 (1) 五山の制 (南宋の官寺の制にならった臨済宗寺院の寺格) 整備 →五山 (最高格の5寺)・十刹 (五山に次ぐ10寺)・諸山 (甲刹) (十刹下の寺院) ★五山の住持に任命された僧は幕府に礼銭を納入 (金融活動を行っていた五山の僧にも課税) (2) 相国寺 (足利義満が建立) に僧録司 (五山派寺院の管理機関) 設置 →春屋妙葩を初代僧録 (官寺の住持任免など禅僧を管理する役職) に任命 (3) 五山文学 (京都・鎌倉両五山の禅僧を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称) →五山版 (五山の禅僧によって出版された書籍) の出版  ————— [代表的五山文学僧] ————— 義堂周信 (夢窓疎石に師事した南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『空華集』) 絶海中津 (夢窓疎石に師事した相国寺の五山文学僧)	<table><tr><td></td><td>京都五山</td><td>鎌倉五山</td></tr><tr><td>別格</td><td>南禅寺</td><td></td></tr><tr><td>1位</td><td>天龍寺 (足利尊氏が建立)</td><td>建長寺 (北条時頼が建立)</td></tr><tr><td>2位</td><td>相国寺 (足利義満が建立)</td><td>円覚寺 (北条時宗が建立)</td></tr><tr><td>3位</td><td>建仁寺 (源頼家が建立)</td><td>寿福寺 (北条政子が建立)</td></tr><tr><td>4位</td><td>東福寺</td><td>浄智寺</td></tr><tr><td>5位</td><td>万寿寺</td><td>浄妙寺</td></tr></table>		京都五山	鎌倉五山	別格	南禅寺		1位	天龍寺 (足利尊氏が建立)	建長寺 (北条時頼が建立)	2位	相国寺 (足利義満が建立)	円覚寺 (北条時宗が建立)	3位	建仁寺 (源頼家が建立)	寿福寺 (北条政子が建立)	4位	東福寺	浄智寺	5位	万寿寺	浄妙寺
	京都五山	鎌倉五山																						
別格	南禅寺																							
1位	天龍寺 (足利尊氏が建立)	建長寺 (北条時頼が建立)																						
2位	相国寺 (足利義満が建立)	円覚寺 (北条時宗が建立)																						
3位	建仁寺 (源頼家が建立)	寿福寺 (北条政子が建立)																						
4位	東福寺	浄智寺																						
5位	万寿寺	浄妙寺																						
		③林下 (幕府の保護を受けた五山派に対し、幕府の保護を受けずに民間布教に努めた禅宗諸派) (1) 臨済宗＝大徳寺 (一休宗純が住持となる)・妙心寺 (関山慧玄が開創) (2) 曹洞宗＝永平寺 (鎌倉時代に道元が開創)・総持寺 (永平寺と並ぶ二大本山)																						
東山文化	浄土真宗(一向宗)	①覚如 (本願寺3世法主→浄土真宗本願寺派を形成) ②蓮如 (本願寺8世法主→当時ふるわなかった本願寺を再興＝本願寺中興の祖とされる) (1) 御文 (御文章) (かな交じりの平易な文書) による布教 (近畿・北陸・東海地方の惣村に広まる) →各地の惣村に「講」(信仰によって結ばれた門徒の集団) を組織し、一向一揆 (浄土真宗(一向宗)門徒による一揆) を結成 ex. 加賀の一向一揆 (1488) (浄土真宗の門徒が守護の富樫政親を滅ぼし、「百姓の持ちたる国」として約100年間の自治) (2) 布教拠点 (寺内町) 吉崎道場 (越前国) ↓ 山科本願寺 (山城国) ↓ 石山本願寺 (摂津国) ★その他＝富田林 (河内国の興正寺)・今井 (大和国の称念寺) ③顕如 (光佐) (本願寺11世法主) →石山本願寺を拠点に織田信長と戦う (石山戦争) 1574年 伊勢長島の一向一揆を織田信長が鎮圧 1575年 越前の一向一揆を織田信長が鎮圧 1580年 正親町天皇の仲裁により石山から退去 1585年 根来・雑賀の一向一揆を豊臣秀吉が鎮圧 ★江戸初期に教如の東本願寺・准如の西本願寺に分かれる	————— [日蓮宗(法華宗) (京都の商工業者を中心に西日本に広まる)] ———  ①日像 (鎌倉後期、日蓮宗で初めて京都の商工業者 (町衆) に布教) ②日親 (『立正治国論』を著し足利義教に諫言するが拷問を受ける) →熱せられた鍋をかぶせられ、「鍋冠り上人」と呼ばれる) 1532年～法華一揆 (京都町衆の日蓮宗(法華宗)門徒が団結) 近江の六角定頼らの援軍を受けて山科本願寺を焼打ち 1536年 天文法華の乱 (延暦寺と法華一揆の対立が背景) 近江の六角定頼らの援軍を受けて比叡山延暦寺が 京都の日蓮宗二十一本山を焼打ちし、法華一揆は壊滅 →日蓮宗は大打撃を受けて、数年間京都を追われる 1579年 織田信長の命による安土宗論 浄土宗と日蓮宗の安土で行われた宗論で日蓮宗が敗北 ★京都の町衆と結びつきが強い日蓮宗を弾圧するため																					
桃山文化																								
寛永文化	江戸幕府の寺院統制	1601年～寺院法度 (諸宗諸本山法度) 真言宗・天台宗など各宗派の大寺院ごとに出示された 寺院・僧侶を統制するための法令の総称 (1601～1616) →本末制度 (宗派ごとの寺院の寺格制度を定める) ★本山 (中心寺院)・末寺 (一般寺院) の関係を制度化 1654年 隠元隆琦 (明の僧) が黄檗宗を伝える 万福寺 (宇治の黄檗宗本山)・崇福寺 (長崎の黄檗宗寺院) 1665年 諸宗寺院法度 (各宗派共通の寺院を統制するための法令)	————— [禁教政策] —————  ①宗門改 (幕府の宗門改役が行った禁教目的の信仰調査) →宗門改帳 (宗旨人別帳) を作成 (戸籍の役割となる) 家族ごとに名・年齢・宗旨 (所属宗派)・檀那寺などを記載 ②寺請制度 (一般民衆を寺院の檀家になることを強制させる制度) ★キリスト教・日蓮宗不受不施派を信仰させないことが目的 →寺請証文 (宗旨手形) を檀那寺が発行 檀那寺が自分の檀家であることを証明するため発行する文書																					

縄文   古   境   平   安   鎌倉   室町   江戸	①アニミズム(精霊崇拜)(自然物・自然現象を畏怖する)	―― [習俗] ――   ①禊みそぎ(けがれなどを水で清める)・禊はらえ(けがれなどを払い除ける)   ②太占たうらひの法ほう(鹿の肩甲骨を焼いて、今後の吉凶を占う)   ③盟神探湯めいじんたんとう(火傷の有無によって真偽を確かめる原始的裁判)   ④祈年祭しねんさい(春に行う豊作を祈願する祭り)   ⑤新嘗祭にいねめ(秋に行う収穫を感謝する祭り)   ★天皇即位の年に行われるものを特に大嘗祭という
	②社やしろ(氏の祖先神(氏神)・自然神をまつる)   伊勢神宮いせじんぐう(三重県)(内宮に天照大神・外宮に豊受大神を祀る)   ★神明造しんめいぞう(伊勢神宮の建築様式)   出雲大社いずのおおじや(島根県)(大国主神を祀る) ★大社造おほおほぞう(出雲大社の建築様式)   住吉大社すみよしおおじや(大阪府)(海神を祀る) ★住吉造すみよしぞう(住吉大社の建築様式)   大神神社おほみわ(奈良県)(三輪山を神体とする)   宗像神社むながた(福岡県)(沖ノ島を神体とする→2017年に世界文化遺産登録)   ★沖ノ島＝玄界灘に浮かぶ島で海の新倉院と呼ばれる	
	③神道の形成(密教の伝来により、仏教に対する概念として神道が形成される)	―― [民間信仰] ――   ①修験道しゆげんどう(神道の山岳信仰と仏教の密教的信仰の影響を受けた宗教)   ★役小角えくせかく(修験道の開祖)・山伏さんぶつ(修験道における修行者)   →中心道場＝金峰山・大峰山(大和国吉野)・熊野山(紀伊国)   白山(加賀国・飛騨国)・出羽三山(出羽国)   ②御霊会ごりようえ(怨みを残して死んだ者の霊を鎮めるための祭礼)   ex. 祇園御霊会ぎおんごりようえ(祇園祭)(祇園社(現在の八坂神社))   北野御霊会きたのごりようえ(菅原道真を祀る北野神社(天満宮))   ③陰陽道の発展おんみようどう(古代中国の陰陽五行説に基づく)   物忌ものい(一定期間、特定の建物の中で謹慎する)   方違かたがたがへ(外出の時忌避すべき方向を避ける)
	―― [神仏習合(神仏混濁)(神道信仰と仏教信仰の融合)] ――   (1) 神宮寺しんぐうじ(神社の境内に寺院を設置し、神前読経などを行う)   (2) 鎮守ちんしゅ(寺院の境内に鎮守の神をまつる)   (3) 僧形八幡神像そうぎやうはちまんじんざう(僧の形をした八幡神の像)   ex. 薬師寺僧形八幡神像やくしじそうぎやうはちまんじんざう(弘仁・貞観文化期の八幡神像)   東大寺僧形八幡神像とうだいじそうぎやうはちまんじんざう(鎌倉期に快慶が制作した八幡神像)   ④本地垂迹説ほんぢすいじやくせつ(仏を本物の姿、神を仮の姿とする思想)   天台宗系＝山王さんおう(日吉)神道   真言宗系＝両部りやうぶ神道	
鎌倉	⑤反本地垂迹説(神本仏迹説)はんほんぢすいじやくせつ しんほんぶつじやくせつ(神を本物の姿、仏を仮の姿とする思想)の発生   伊勢神道いせじんどう(度会神道)(日本の神国思想・伊勢神宮が神社の根源であることを強調)   →度会家行たけいけいこう(伊勢神宮外宮の神官)が創始   『類聚神祇本源』(伊勢神道の根本經典)	
	⑥反本地垂迹説(神本仏迹説)の発展はんほんぢすいじやくせつ しんほんぶつじやくせつ   唯一神道いちじじんどう(吉田神道)(神道に儒教・仏教を取り入れる)   →吉田兼俱よしかねき(京都吉田神社の神職)が創始	
江戸	⑦諸社禰宜神主法度しよしゃねぎかんしゅはつど(1665)(神社・神職を統制するための法令)   吉田家よしか(吉田神道)が神道の本所として統制(神祇伯(長官)の白川家は衰退)	―― [民間信仰] ――   ①富突とみつき(富籤とみくじ)(江戸初期から行われた賞金目当ての興行)   ②開帳かいちやう(寺社の秘仏を境内や他所に出張して公開すること)   ③五節句ごせつこう(江戸幕府が定めた公式行事・祝日)   人日じんじつ(1/7)・上巳じやうし(3/3)・端午たんご(5/5)・七夕たなばた(7/7)・長陽ちやうよう(9/9)   ④日待ひまち(特定日の日の出を待つ)・月待つきまち(特定日の月の出を拝む)   ⑤講こう(同じ信仰をもつ者によって結ばれた組織)   ex. 庚申講こうしんこう(招福除災のため庚申の夜に集会し徹夜する)   富士講ふじこう(富士山を信仰・参拝)・伊勢講いせこう(伊勢神宮を信仰・参拝)   ⑥巡礼こんり(観音信仰に基づいた西国三十三所の霊場に巡拝する)   (弘法大師信仰に基づいた四国八十八所の霊場に巡拝する)   ⑦金毘羅参りこんぴらまい(讃岐の金毘羅宮(金刀比羅宮)への参拝)   ⑧御蔭参りおかげまい(伊勢神宮への庶民の集団的な参詣)   1705年・1771年・1830年の3度で約60年周期で発生
	⑧学派神道の発展がくはいじんどう   (1) 吉川神道よしかわじんどう＝吉川惟足よしかわこれたりが提唱(吉田神道から仏教色を除く)   (2) 垂加神道たしかじんどう＝山崎闇斎やまざきあんさいが提唱(吉川神道と朱子学を結合)   (3) 復古神道ふこじんどう＝平田篤胤あつたねが提唱(儒教・仏教を排した古道を確立)   ★荷田春満かたのあすまふ→賀茂真淵かもまふみ→本居宣長もんのりながが唱え、平田篤胤が大成   ⑨教派神道けうはいじんどう(幕末に起こった民間の神道系新興宗教)   (1) 天理教てんりけう(大和国出身の中山みきが創始)   (2) 黒住教くろずけう(備前国出身の黒住宗忠が創始)   (3) 金光教こんこうけう(備前国出身の川手文治郎(赤沢文治)が創始)   ★明治政府は神道団体13派を国家神道とは別に教派神道として公認   ⑩ええじゃないかええじゃないか(1867年に東海地方から広がった民衆乱舞)←	

## 〔B〕神道史(近現代)

明治	⑪神道国教化の推進 (王政復古による祭政一致の立場から神道国教化政策を推進)   1868 年 <b>神仏分離(判然)令</b> (神仏習合(混淆)を禁止した法令) →<b>廃仏毀釈</b> (仏教排斥運動) の風潮が激化 (→仏教衰退) ★島地黙雷 (浄土真宗の僧)・井上円了 (哲学館を創立) らが仏教復興に努力   1870 年 <b>大教宣布の詔</b> (神道国教化の推進を表明) 宣教師による神道国教化の推進→仏教側の抵抗などで失敗   ⑫国家神道の推進 (神社神道 (神社に対する信仰) を国家神道として政府が特別に保護)   1871 年 <b>神社制度の成立</b> (神社神道を国家神道として保護) 神社の社格制度の制定→官社 (官幣社・国幣社) と諸社に大別 ★官幣社 (神祇官→のち宮内省が管轄)・国幣社 (地方官が管轄) ★招魂社 (戊辰戦争の戦没者を祭る)→靖国神社と改称 (別格官幣社となる)   1873 年 祝祭日の制定 <b>紀元節</b>＝2 月 11 日 (神武天皇の即位日) <b>天長節</b>＝11 月 3 日 (明治天皇の誕生日)   1890 年 <b>教育勅語</b> (教育の基本理念を示した明治天皇による「教育に関する勅語」) (山県有朋①内閣) 起草＝井上毅 (大日本帝国憲法の起草に参与)・元田永孚 (宮中顧問官・枢密顧問官) 内容＝儒教的精神に基づく「忠君愛国」などの国民道徳を説き、全国の学校に配布 ★御真影 (イタリア人画家キヨソネが描いた明治天皇の肖像画) と共に奉安殿に保管	〔神道国教化政策〕   1869 年 <b>神祇官</b> (版籍奉還後の官制改革で設置) 神祇官は太政官より上位に置かれた   1871 年 <b>神祇省</b> (廃藩置県後の官制改革で設置)   1872 年 <b>教部省</b> (のち、1877 年に廃止)   〔神社制度〕   伊勢神宮 (天皇家の祖先神である天照大神を祀る) (全ての神社の上に位置する社格のない特別な神社)   官社      - 官幣社    - 国幣社    - 別格官幣社 (出雲大社など)(熊野神社など) (靖国神社など)       諸社      - 府県社    - 郷村社
昭和	〔国家神道による弾圧事件〕   1891 年 <b>内村鑑三不敬事件</b> (内村鑑三がキリスト教徒の立場から教育勅語に拝礼を拒否したことが不敬と非難され第一高等中学校を辞職) →井上哲次郎 (帝国大学教授) が「教育と宗教の衝突」で国家主義の立場からキリスト教を攻撃   1892 年 <b>久米邦武筆禍事件</b> (久米邦武が発表した論文「神道は祭天の古俗」が神道家の非難を浴び帝国大学教授を辞職) ★久米邦武は岩倉遣外使節団に随行し(1871～1873),『米欧回覧実記』を編纂し刊行(1878)   1935 年 <b>第 2 次大本教事件</b> (出口なおが創始し、女婿の出口王仁三郎により組織化された大本教 (神道系宗教団体) が結社禁止となる)   1940 年 <b>津田左右吉筆禍事件</b> (『神代史の研究』など 4 冊などが皇室の尊厳を冒瀆するものとして発禁処分とされ、早稲田大学教授も辞職)   ⑬八紘一宇 (天皇が全世界を一つの家にするという意味→1935 年頃から政治スローガンとなる)   1937 年 『<b>国体の本義</b>』(文部省思想局が発行した国民思想教化のテキスト) 国体の尊厳・君臣の大儀を説き、天皇への絶対随順を説く   1940 年 <b>皇紀二千六百年記念式典</b> 神武天皇即位から 2600 年目にあたるとして皇居前で挙行された式典 ★1937 年に勃発した日中戦争の長期化により、開催が決定していた オリンピック東京大会(1940)は中止・日本万国博覧会(1940)は延期   1941 年 『<b>臣民の道</b>』(文部省教学局が発行した国民思想教化のテキスト) 皇国臣民としての道徳と日常生活のあり方を説く	〔皇民化政策 (朝鮮人に対する同化政策)〕   ①創氏改名 (朝鮮人を日本式氏名に改姓させる)   ②神社参拝の強要 (朝鮮神社への参拝)   ③日本語の強制 (朝鮮語教育の廃止)   ④徴兵制の実施 (1943～)   ⑤朝鮮人の強制連行 →従軍慰安婦 (軍人の性的奉仕をさせられる)
戦後	⑭国家神道の消滅   1945 年 <b>神道指令</b> (国家と神道の分離指令) GHQ が神社・神道に対する政府の援助・監督など国家神道の廃止を命じる   1946 年 <b>天皇の人間宣言</b> (1 月 1 日に天皇自ら「現御神(現人神)」としての天皇神格化を否定)   1951 年 <b>宗教法人法</b> (日本国憲法施行による信仰の自由・政教分離の確立にともない、宗教団体に対し法人格を与える)	

## 〔NOTE〕



〔ええじゃないか〕



〔廃仏毀釈〕



	飛鳥文化 (推古天皇前後の文化)	白鳳文化 (天武・持統天皇時の文化)	天平文化 (聖武天皇時の文化)
特徴	南北朝文化の影響	初唐文化の影響	盛唐文化の影響
建築	〔氏寺〕(豪族が建立・管理した寺院)   蘇我馬子＝飛鳥寺(法興寺)(588) → 飛鳥寺(法興寺)(のち元興寺に改称) → 元興寺・西大寺(称徳天皇が建立)   厩戸王＝四天王寺(難波)(593) → 大官大寺(もと百濟大寺→のち大安寺に改称) → 大安寺・東大寺(聖武天皇が建立)   法隆寺(斑鳩寺)(607) → 法隆寺・興福寺(藤原氏の氏寺)   秦河勝＝広隆寺(太秦寺)(603) → 薬師寺(天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) → 薬師寺・唐招提寺(鑑真が建立)	〔官(大)寺〕(国家が建立・管理した寺院)   飛鳥寺(法興寺)(のち元興寺に改称) → 元興寺・西大寺(称徳天皇が建立)   大官大寺(もと百濟大寺→のち大安寺に改称) → 大安寺・東大寺(聖武天皇が建立)   川原寺(弘福寺)(川原宮の地に建立) → 法隆寺・興福寺(藤原氏の氏寺)   薬師寺(天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) → 薬師寺・唐招提寺(鑑真が建立)   → 東塔(フェノロサが「凍れる音楽」と形容) → 金堂・講堂(平城宮朝集殿を移築)   薬師寺金堂薬師三尊像 (漆を用いる)   薬師寺東院堂聖観音像   山田寺本尊(蘇我(倉山田)石川麻呂が建立)   → 興福寺仏頭(1187年に興福寺僧が奪取)   法隆寺夢違観音像 (粘土を用いる)   法隆寺阿弥陀三尊像(橘三千代の持念仏)	〔南都七大寺〕(平城京内の七寺院)   元興寺・西大寺(称徳天皇が建立)   大安寺・東大寺(聖武天皇が建立)   法隆寺・興福寺(藤原氏の氏寺)   薬師寺・唐招提寺(鑑真が建立)   → 金堂・講堂(平城宮朝集殿を移築)   興福寺阿修羅像   唐招提寺鑑真和上像   東大寺法華堂不空羂索観音像   東大寺法華堂日光・月光菩薩像   東大寺法華堂執金剛神像   東大寺戒壇院四天王像
彫刻	北魏様式(厳しい表情)   飛鳥寺釈迦如来像   法隆寺金堂釈迦三尊像   法隆寺夢殿救世観音像   法隆寺百済観音像   広隆寺半跏思惟(弥勒菩薩)像   中宮寺半跏思惟(弥勒菩薩)像   南梁様式(優しい表情)	薬師寺金堂薬師三尊像 (漆を用いる)   薬師寺東院堂聖観音像   山田寺本尊(蘇我(倉山田)石川麻呂が建立)   → 興福寺仏頭(1187年に興福寺僧が奪取)   法隆寺夢違観音像 (粘土を用いる)   法隆寺阿弥陀三尊像(橘三千代の持念仏)	乾漆像   興福寺阿修羅像   唐招提寺鑑真和上像   東大寺法華堂不空羂索観音像   東大寺法華堂日光・月光菩薩像   東大寺法華堂執金剛神像   東大寺戒壇院四天王像
絵画・工芸	法隆寺『玉虫厨子』須弥座絵   密陀絵(漆絵ともいわれる)の技法で描いた絵画   法隆寺獅子狩文様錦(バルシアの影響)   忍冬唐草文様(蔓草が絡み合った文様)   エジプト・ギリシアで発達し、中国を経て伝来   中宮寺大寿国繡帳   厩戸王の死後、妃の橘大娘が作らせた刺繍   ―― [法隆寺再建論争] ――   『日本書紀』の670年の法隆寺炎上に関する記事の真偽をめぐり、歴史学者が再建説・非再建説をそれぞれ主張。1939年の若草伽藍跡の発掘により再建説が有力となる。   『天皇記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   『国記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   ★乙巳の変(645)で蘇我蝦夷邸焼亡とともに焼失   (『帝紀』(天皇の系譜などを記録した史書))   (『旧辞』(神話・伝承などを記録した史書))   ★6世紀前半(古墳文化)の成立とされる	法隆寺金堂壁画(1949年の金堂火災で焼損)   1950年の文化財保護法が制定される契機となる   ★アジャンター壁画・敦煌石窟壁画に類似   高松塚古墳壁画(1972年に奈良県で発見)   天井に星宿(星座)・壁面に四神が描かれている   ★朝鮮半島の高句麗古墳壁画の人物図に類似   キトラ古墳壁画(1983年に奈良県で発見)   白村江の戦い後、百済から亡命した貴族から学ぶ   大友皇子(天智天皇の皇子) → 作品を収録   大津皇子(天武天皇の皇子) → 作品を収録   額田王(天智天皇の妃) → 作品を収録   大伴御行(上級官吏) → 作品を収録   柿本人麻呂(下級官吏) → 作品を収録   (天武天皇が稗田阿礼に『帝紀』『旧辞』を覚えさせる)   ①漢字の音・訓を用いた日本語で表記   ②天皇の代ごとに記事をまとめる形で記述   ①中国の史書にならった漢文で表記   ②年代を追って出来事を記す編年体で記述	法隆寺百万塔(百万基の木製三重の小塔)   恵美押勝の乱後に称徳天皇の発願で作成される   ★百万塔陀羅尼經(百万塔内の現存最古の印刷物)   正倉院宝物(螺鈿紫檀五絃琵琶・漆胡瓶など)   光明子(聖武天皇の遺品を奉納(校倉造の様式))   正倉院『鳥毛立女屏風』(美人画)   薬師寺『吉祥天像』(仏教絵画)   醍醐寺『過去現在絵因果經』   『懷風藻』(751) 現存最古の漢詩集   編纂＝淡海三船?   『万葉集』(770) 最古の和歌集   編纂＝大伴家持?(大伴旅人の子)   山上憶良・山部赤人・大伴旅人・大伴家持などの有名歌人や東歌・防人の歌など約4500首を収録   ★漢字の音・訓を用いた万葉仮名で表記   [歴史書]   →『古事記』(712)(神代～推古天皇まで)   稗田阿礼が誦習したものを太安万侶(安麻呂)が筆録   『風土記』(713)   ★現存＝出雲(完備現存)・豊後・播磨・常陸・肥前   →『日本書紀』(720)(神代～持統天皇まで)   舎人親王が編纂した最初の勅撰国史(六国史の最初)
文学	『日本書紀』の670年の法隆寺炎上に関する記事の真偽をめぐり、歴史学者が再建説・非再建説をそれぞれ主張。1939年の若草伽藍跡の発掘により再建説が有力となる。   『天皇記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   『国記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   ★乙巳の変(645)で蘇我蝦夷邸焼亡とともに焼失   (『帝紀』(天皇の系譜などを記録した史書))   (『旧辞』(神話・伝承などを記録した史書))   ★6世紀前半(古墳文化)の成立とされる	大友皇子(天智天皇の皇子) → 作品を収録   大津皇子(天武天皇の皇子) → 作品を収録   額田王(天智天皇の妃) → 作品を収録   大伴御行(上級官吏) → 作品を収録   柿本人麻呂(下級官吏) → 作品を収録   (天武天皇が稗田阿礼に『帝紀』『旧辞』を覚えさせる)   ①漢字の音・訓を用いた日本語で表記   ②天皇の代ごとに記事をまとめる形で記述   ①中国の史書にならった漢文で表記   ②年代を追って出来事を記す編年体で記述	『懷風藻』(751) 現存最古の漢詩集   編纂＝淡海三船?   『万葉集』(770) 最古の和歌集   編纂＝大伴家持?(大伴旅人の子)   山上憶良・山部赤人・大伴旅人・大伴家持などの有名歌人や東歌・防人の歌など約4500首を収録   ★漢字の音・訓を用いた万葉仮名で表記   [歴史書]   →『古事記』(712)(神代～推古天皇まで)   稗田阿礼が誦習したものを太安万侶(安麻呂)が筆録   『風土記』(713)   ★現存＝出雲(完備現存)・豊後・播磨・常陸・肥前   →『日本書紀』(720)(神代～持統天皇まで)   舎人親王が編纂した最初の勅撰国史(六国史の最初)
教育			中央＝大学(貴族の子弟の教育→式部省の管轄)   明経道(儒教の經典)・明法道(律令・格式)   紀伝道(漢詩・歴史)・算道(算術)   地方＝国学(郡司の子弟の教育→国司の管轄)   ★芸亭(石上宅嗣が設置した最初の私設図書館)
六国史	日本書紀(720) → 続日本紀(797) → 日本後紀(840) → 続日本後紀(869) → 日本文徳天皇実録(879) → 日本三代実録(901)   (神代～持統朝) (文武朝～桓武朝) (桓武朝～淳和朝) (仁明朝一代) (文徳朝一代) (清和・陽成・光孝)   (舎人親王) (菅野真道・藤原繼縄) (藤原緒嗣・藤原冬嗣) (藤原良房) (藤原基経) (藤原時平・菅原道真)	日本書紀(720) → 続日本紀(797) → 日本後紀(840) → 続日本後紀(869) → 日本文徳天皇実録(879) → 日本三代実録(901)   (神代～持統朝) (文武朝～桓武朝) (桓武朝～淳和朝) (仁明朝一代) (文徳朝一代) (清和・陽成・光孝)   (舎人親王) (菅野真道・藤原繼縄) (藤原緒嗣・藤原冬嗣) (藤原良房) (藤原基経) (藤原時平・菅原道真)	日本書紀(720) → 続日本紀(797) → 日本後紀(840) → 続日本後紀(869) → 日本文徳天皇実録(879) → 日本三代実録(901)   (神代～持統朝) (文武朝～桓武朝) (桓武朝～淳和朝) (仁明朝一代) (文徳朝一代) (清和・陽成・光孝)   (舎人親王) (菅野真道・藤原繼縄) (藤原緒嗣・藤原冬嗣) (藤原良房) (藤原基経) (藤原時平・菅原道真)

	弘仁・貞観文化 (桓武・嵯峨・清和天皇時の文化)	国風(藤原)文化 (藤原摂関政治全盛期の文化)	院政期文化 (白河・鳥羽・後白河法皇時の文化)
特徴	晩唐文化の影響	唐文化に基礎を置いた日本風文化	
建築	〔山岳寺院 (山中に自由な伽藍配置)〕 比叡山延暦寺 (最澄が創建) 高野山金剛峰寺 (空海が創建) 室生寺 (「女人高野」と呼ばれる) →五重塔・金堂 (屋根は檜皮葺→現在は柿葺)	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀如来を安置する堂) 法成寺無量寿院 (藤原道長が1020年に建立) 平等院鳳凰堂 (藤原頼通が1053年に建立) 法界寺阿弥陀堂 (日野資業が1051年に建立)	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及) 中尊寺金色堂 (陸奥国平泉に藤原清衡が建立) 富貴寺大堂 (豊後国(大分県)) 白水阿弥陀堂 (陸奥国(福島県)) 三仏寺投入堂 (伯耆国(鳥取県))
彫刻	〔一木造〕(一本の木材から丸彫りして制作) 〔翻波式〕(仏像の衣のひだを表現する技法) 観心寺如意輪観音像 (密教彫刻の代表作) 薬師寺僧形八幡神像 (神仏習合の影響) 室生寺金堂釈迦如来像 (金堂の本尊) 室生寺弥勒堂釈迦如来像 (翻波式)	→〔寄木造〕(各部を別々に制作し組み合わせる) 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 (定朝) 法界寺阿弥陀如来像 浄瑠璃寺阿弥陀如来像	
絵画・工芸	〔曼荼羅〕(密教の仏の世界を構図化したもの) 神護寺両界曼荼羅 教王護国寺両界曼荼羅 〔不動明王信仰〕 園城寺不動明王像 (黄不動) 高野山明王院不動明王像 (赤不動)	〔来迎図〕(阿弥陀如来が迎えに来る姿を描く) 『高野山聖衆来迎図』 〔大和絵〕(唐絵に対する日本風絵画の総称) 巨勢金岡 (大和絵の祖)・百済河成 〔蒔絵〕(金・銀粉を蒔いて文様を描く技法) 〔螺鈿〕(貝片を漆地や木地にはめこむ手法)	〔装飾経〕(経典に特別な装飾をほどこしたもの) 『扇面古写経』(大和絵の上に経文を墨書) 『平家納経』(平清盛が厳島神社に奉納) 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『源氏物語絵巻』『源氏物語』が題材 『伴大納言絵巻』(応天門の変(866)が題材) 『鳥獣戯画』(動物を擬人化して世相を風刺) 『信貴山縁起絵巻』(僧命蓮に関する奇跡談)
文学	〔勅撰漢詩文集〕 『凌雲集』(嵯峨天皇の命で小野岑岑が編纂) 『文華秀麗集』(「」の命で藤原冬嗣が編纂) 『経国集』(淳和天皇の命で良岑安世が編纂) 〔私撰漢詩文集・漢詩評論〕 『性霊集』(空海の漢詩文を真済が編纂) 『文鏡秘府論』(空海の著した漢詩評論書) 『菅家文草』(菅原道真の漢詩文集) 〔説話文学〕 『日本霊異記』(景戒の著した仏教説話集) 『漢詩文集は遣唐使が共通項』	〔勅撰和歌集〕 『古今和歌集』(最初の勅撰和歌集) 醍醐天皇の命で紀貫之・紀友則・凡河内躬恒が編纂 〔物語・日記・随筆〕 『竹取物語』(最古の物語文学) 『伊勢物語』(在原業平が主人公の歌物語集) 『源氏物語』(紫式部) 『枕草子』(清少納言) 『土佐日記』(紀貫之) 『蜻蛉日記』(藤原道綱の母) 『更級日記』(菅原孝標の女)	(八代集の編纂) → 〔軍記物語〕 『将門記』(平将門の乱が題材) 『陸奥話記』(前九年の役が題材) 〔歴史物語〕 『栄花(華)物語』(藤原道長の栄華を賛美) 『大鏡』(藤原道長の栄華に批判的) 〔説話文学〕 『今昔物語集』(本朝・天竺・震旦から成る)
書道	三筆＝嵯峨天皇・空海・橘逸勢 『風信帖』	三蹟＝小野道風・藤原佐理・藤原行成 『離洛帖』(世尊寺流の祖)	鎌倉時代に世尊寺流を学んで『鷹巣帖』を書いた 尊円入道親王は青蓮院流を創始(のちの御家流)
教育	①大学教育で紀伝道(文章道)を重視 ②大学別曹(有力貴族が設置した寄宿舎) 勸学院(藤原氏)・弘文院(和気氏) 奨学院(在原氏)・学館院(橘氏) ③綜芸種智院(空海が設立した民衆教育機関)	①寝殿造(平安時代の貴族の住宅) ②衣服・裳着(男子・女子の成人儀式) ③陰陽道(中国の陰陽五行説に基づく) 物忌(一定期間、建物の中で謹慎する) 方違(外出の時忌避すべき方向を避ける)	〔今様〕(貴族も愛好した現代歌謡) 〔催馬楽〕(貴族も愛好した古代歌謡) 『梁塵秘抄』(後白河法皇が歌謡を集成)
	④服装	男性 正装 束帯・衣冠 日常着 直衣・狩衣 庶民着 水干・直垂	女性 女房装束 小桂・袴 小袖・腰布

	院政期文化 (貴族層が民衆文化を受容、独自の地方文化が発展)	鎌倉文化 (公武二元文化、禅宗文化の影響)	南北朝文化
建築	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及) 中尊寺金色堂 (陸奥国平泉に藤原清衡が建立) 富貴寺大堂 (豊後国(大分県)) 白水阿弥陀堂 (陸奥国(福島県)) 三仏寺投入堂 (伯耆国(鳥取県))	東大寺南大門＝大仏様(天竺様) ★重源(俊乗坊)の指導・陳和卿(宋の工人)の協力 円覚寺舍利殿＝禅宗様(唐様) 蓮華王院本堂＝和様 観心寺金堂＝折衷様(新和様)	〔慶派(奈良仏師)の彫刻(鎌倉文化)〕 東大寺南大門金剛力士像 (運慶・快慶ら) 東大寺僧形八幡神像 (快慶) 興福寺無著像・世親像 (運慶ら) 興福寺天灯鬼像・竜灯鬼像 (康弁ら) 六波羅蜜寺空也上人像 (康勝)
絵画	〔装飾経〕(経典に特別な装飾をほどこしたもの) 『扇面古写経』(大和絵の上に経文を墨書) 『平家納経』(平清盛が厳島神社に奉納) ★厳島神社参詣のために菅戸瀬戸(安芸国)を開削 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『源氏物語絵巻』『源氏物語』が題材 ★藤原隆能が引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く 『伴大納言絵巻』(応天門の変(866))が題材 『鳥獣戯画』(動物を擬人化して世相を風刺) 『信貴山縁起絵巻』(僧命蓮に関する奇跡談)	〔似絵〕(写実的な大和絵の肖像画) 藤原隆能(父)『源頼朝像・平重盛像』 藤原信実(子)『後鳥羽上皇像』 〔頂相〕(禅宗で師から与えられる師の肖像画) 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『北野天神縁起絵巻』(菅原道真の生涯を描く) 『春日権現験記』(建築現場の様子を描く) 『一遍上人絵伝』(備前国福岡市の様子) 『蒙古襲来絵巻』(肥後の御家人竹崎季長) 『男衾三郎絵巻』(武蔵国の武士の生活)	〔水墨画〕(禅の精神を墨の濃淡で描く) 默庵『布袋図』 可翁『寒山図』  〔工芸(鎌倉文化)〕 ①刀工＝粟田口吉光(京都) 長船長光(備前) 岡崎正宗(鎌倉) ②甲冑＝明珍(京都の甲冑製作の名家) ③陶器＝加藤藤正(尾張の瀬戸焼の祖?)
文学	〔軍記物語〕 『将門記』(平将門の乱が題材) 『陸奥話記』(前九年の役が題材) 〔歴史物語〕 『栄花(華)物語』(道長の栄華を賛美し記述) ★赤染衛門(女流歌人)の作といわれる 『大鏡』(道長の栄華を批判的に記述) 〔説話文学〕 『今昔物語集』(源隆国が著したとされる?) 本朝・天竺・震旦の3国から成る仏教等説話集	〔軍記物語〕 『平家物語』(琵琶法師の平曲で庶民に流行) 『源平盛衰記』(平家物語を増補したもの) 〔歴史書・歴史物語〕 『吾妻鏡』(鎌倉幕府の記録を編年体で記述) 『愚管抄』(慈円(天台座主)の道理による歴史書) 『今鏡』→『水鏡』 〔説話文学〕 『古今著聞集』(橘成季が著した古今の説話集) 『沙石集』(無住が著した庶民的な仏教説話集) 〔私設図書館〕 金沢文庫(北条実時が設立した私設図書館)	〔軍記物語〕 『太平記』(南北朝の動乱が題材) ★南朝に同情的な記述が多い 〔歴史書・歴史物語〕 『神皇正統記』(南朝の正統性) 『梅松論』(北朝の正統性) 『増鏡』(公家の立場から記述した歴史物語)  〔日記・随筆(鎌倉文化)〕 『玉葉』(九条兼実(摂政・関白)の日記) 『十六夜日記』(阿仏尼の京都～鎌倉の日記) 『方丈記』(鴨長明の随筆) 『徒然草』(吉田兼好の随筆)
詩歌	(八代集の編纂)	〔勅撰和歌集〕 →『新古今和歌集』(八代集の最後) 後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編纂 〔私撰和歌集〕 『金槐和歌集』(源実朝) 『山家集』(西行)	〔連歌〕(上の句と下の句を交互に読み合わせる) 二条良基 『菟玖波集』(最初の連歌集→準勅撰となる) 『応安新式』(連歌の規則書)
学問	〔有職書〕(朝廷の儀式・年中行事などを記す) 源高明『西宮記』(国風文化) 藤原公任『北山抄』(国風文化) 大江匡房『江家次第』(院政期文化)	〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究) 順徳天皇『禁秘抄』 〔古典研究〕 ト部兼方『和歌日本紀』(日本書紀の注釈書)	〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究) 後醍醐天皇『建武年中行事』 北畠親房『職原抄』
芸能	→〔猿楽〕(滑稽を主とした雑芸)→ →〔田楽〕(田植祭りの際の歌舞)→	芸として専門的に演じる者が登場 →演劇(能)としての仕組みを整える	→〔猿楽能〕(大和猿楽四座＝観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座)→ →〔田楽能〕(田楽の要素を取り入れる)→
	〔今様〕(貴族も愛好した現代歌謡) 〔催馬楽〕(貴族も愛好した古代歌謡) 後白河法皇『梁塵秘抄』(歌謡を集成)	〔茶道(茶の湯)〕 抹茶の伝来(栄西が宋から伝える)	→〔茶道(茶の湯)〕 茶寄合(多人数で開かれた娯楽的な茶会) 闘茶(茶の種類や産地を飲みあてる競技)

	北山文化 (公家文化を基礎に武家文化が発展, 禅宗文化の影響)	東山文化 (伝統的な日本文化の形成, 中央文化の地方普及)	桃山文化 (新興武家などの豪壮・華麗な文化, 南蛮文化の影響)
建 築	鹿苑寺金閣 (足利義満が京都北山山荘に建立)	慈照寺銀閣 (足利義政が京都東山山荘に建立) 慈照寺東求堂同仁齋 (書院造の義政の書斎) 慈照寺庭園 (山水河原者(作庭師)の善阿弥の作) 〔枯山水〕(岩石で滝, 砂利で水を表現した庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	〔城郭〕(天守閣を持つ本丸を中心とする建築) 大坂城 (豊臣秀吉が1583年に築城) 聚楽第 (秀吉晩年の邸宅兼城郭→後陽成天皇行幸) 伏見城 (秀吉晩年の邸宅兼城郭→江戸時代に破却) 姫路城 (池田輝政が1609年に改築した平山城)
絵 画	〔水墨画〕(禅の精神を墨の濃淡で描く) 明兆 → 如拙 → 周文 → 雪舟 (日本の水墨山水画を大成) 『四季山水図巻(山水長巻)』 『秋冬山水図』・『天橋立図』 〔大和絵〕(日本風絵画の総称) 土佐派=土佐光信 (大和絵の主流) 狩野派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) 狩野正信(父)『周茂叔愛蓮図』 狩野元信(子)『大仙院花鳥図』	〔水墨画〕(禅の精神を墨の濃淡で描く) 雪舟 (日本の水墨山水画を大成) 『四季山水図巻(山水長巻)』 『秋冬山水図』・『天橋立図』 〔大和絵〕(日本風絵画の総称) 土佐派=土佐光信 (大和絵の主流) 狩野派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) 狩野正信(父)『周茂叔愛蓮図』 狩野元信(子)『大仙院花鳥図』	〔障壁画〕(屏風・障子・襖などに描かれた絵画) 濃絵 (金碧に青・緑などの濃彩で描いた障壁画) 狩野永徳 (狩野元信の孫) 『唐獅子図屏風』・『繪図屏風』 『洛中洛外図屏風』(信長が上杉謙信に贈る) 狩野山楽『牡丹図』・『松鷹図』 長谷川等伯 (雪舟5代を自称) 『智積院襖絵』・『松林図屏風』 海北友松『山水図屏風』 〔南蛮屏風〕(南蛮人の風俗を狩野派が描く)
文 学	〔軍記物語〕 『難太平記』(今川貞世(了俊)) ★北朝の立場から『太平記』中の誤りを訂正 〔五山文学〕(五山の僧による漢文学・漢詩文) →五山版 (五山の僧によって出版された書籍) 義堂周信 (南禅寺の五山文学僧) 絶海中津 (相国寺の五山文学僧)	〔御伽草子〕(室町時代の庶民的な短編物語) ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』 『物くさ太郎』・『酒呑童子』 〔教育〕 足利学校 (上杉憲実が再興した学校施設) ★ザビエルから「坂東の大学」と称される 儒学普及 桂庵玄樹 (薩南学派の祖) (地方伝播) 南村梅軒 (海南学派の祖) 庶民教育『庭訓往来』(庶民教科書) 『節用集』(国語辞典)	(江戸時代の仮名草子に大きな影響を与える) 〔活字印刷術〕 ①活字印刷術(ヨーロッパ式) ★ヴァリニャーニが伝えた銅活字の印刷術 →天草(キリシタン)版 (エズ会の出版物) 『どちらに＝きりしたん』 『天草版平家物語』 ②活字印刷術(朝鮮式) ★朝鮮出兵で伝えられた木活字の印刷術 →慶長勅版 (後陽成天皇の命で出版)
詩 歌		→〔連歌〕(上の句と下の句を交互に読み合わせる) 宗祇 (正風連歌を確立) 『新撰菟玖波集』(準勅撰の連歌集) 『水無瀬三吟百韻』(宗祇・肖柏・宗長) 〔俳諧連歌〕(連歌から生じた五・七・五の短詩) 山崎宗鑑『犬筑波集』(俳諧連歌集)	
学 問	謡曲 (能の脚本→観阿弥・世阿弥の作が多い) 狂言 (風刺性の強い喜劇でしばしば上演停止)	→〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究) 一条良良『公事根源』(有職故実書) 〔古今伝授〕(古今和歌集に関する秘事を口伝) 東常縁 → 宗祇 → 三条西実隆	一条良良 (子は興福寺の僧尋尊) 『花鳥余情』(源氏物語の注釈書) 『樵談治要』(足利義尚の諮問に答える)
芸 能	〔猿楽能〕(観阿弥(父)・世阿弥(子)が大成) 『風姿花伝(花伝書)』(世阿弥の能楽書) 『中楽談儀』(世阿弥の秘伝を二男元能が筆録) 一休宗純 (大徳寺の僧) から 禅の精神を学んで取り入れる	〔小 歌〕(庶民に広く流行した民間歌謡) → 『閑吟集』(1518年に成立した小歌集) 〔幸若舞〕(桃井直詮が創始→織田信長も愛好) →〔茶道(茶の湯)〕 村田珠光 → 武野紹鷗 → 千利休(宗易) (堺の豪商出身→茶焼を指導) (詫び茶を創始) (詫び茶を簡素化) (詫び茶を大成) ex. 妙喜庵待庵 (千利休の茶室)	→〔隆達節〕(高三隆達が節付けした小歌) 〔人形浄瑠璃〕(浄瑠璃節+人形操り+三味線) 〔阿国歌舞伎〕(出雲阿国が創始した踊り)

	桃山文化 (豪壮・華麗な文化)	寛永文化 (豪壮・華麗な桃山文化の継承)	元禄文化 (上方(京都・大阪)を中心とした町人文化)
建 築		〔権現造〕(霊廟建築様式の一つ)   日光東照宮 (徳川家康を東照大権現として祀る)   〔数寄屋造〕(書院造に茶室建築を取り入れる)   桂離宮 (八条宮智仁親王の別邸)   修学院離宮 (後水尾上皇の山荘)	学 問   本草学 貝原益軒 (本草学の基礎)『大和本草』   稲生若水 (本草学を大成)『庶物類纂』   和 算 吉田光由 (和算の基礎)『塵劫記』   関 孝和 (和算を大成)『発微算法』   暦 学 渋川春海 (安井算哲) (貞享暦を作成)
文 学	小説   〔御伽草子〕→〔仮名草子〕(仮名書きによる小説の総称)→〔浮世草子〕(町人・武家社会の生活を描いた風俗小説)   (東山文化～)		井原西鶴 (浮世草子の祖)   好色物『好色一代男』   『好色五人女』・『好色一代女』   武家物『武道伝来記』・『武家義理物語』   町人物『日本永代蔵』・『世間胸算用』
俳 諧	〔俳諧連歌〕→〔俳諧〕(連歌から独立した五・七・五の短詩)→〔俳諧〕(連歌から独立した五・七・五の短詩)   (東山文化～)	松永貞徳＝貞門俳諧 (貞門派)   西山宗因＝談林俳諧 (談林派)	松尾芭蕉 (蕉風(正風)俳諧を確立)   『奥の細道』・『野ざらし紀行』・『笈の小文』   『猿蓑』(芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)
風 俗 画		『彦根屏風』(彦根藩井伊家が所有)	〔浮世絵〕(遊女や役者を題材とした庶民的風俗画)   菱川師宣 (浮世絵版画の創始者→元禄期は墨一色刷りの木版画)   『見返り美人図』(肉筆画)
障 壁 画	(狩野派) 狩野永徳 → 狩野探幽 (幕府御用絵師)   『大徳寺方丈襖絵』 → 久隅守景 (狩野派を破門される)   『夕顔棚納涼図屏風』 (明治期まで続く)		
(土佐派)	土佐光信 → [土佐派 (京都) 土佐光起 (土佐派を復興) → 住吉具慶 (住吉派の祖) → 住吉具慶『洛中洛外図巻』 (明治期まで続く)		
(琳派)	〔装飾画〕(大胆な構図で、装飾性に富んだ大和絵)   俵屋宗達 (本阿弥光悦に絵画を師事→琳派の先駆者) → 尾形光琳 (琳派の創始者)   『風神雷神図屏風』   『紅白梅図屏風』・『燕子花図屏風』		
工 芸	蒔 絵   本阿弥光悦「舟橋蒔絵硯箱」 → 尾形光琳「八橋蒔絵硯箱」		
陶磁器	〔お国焼〕   有田焼 (鍋島氏) → 酒井田柿右衛門 (有田焼の陶工) → 野々村仁清 (京焼の祖) → 尾形乾山 (尾形光琳の弟)   薩摩焼 (島津氏)   萩 焼 (毛利氏)   色絵磁器の創始者 (赤を基調とした赤絵の技法を完成)   ★有田焼 (肥前) の技法が九谷焼 (加賀) に伝わる   色絵陶器の創始者   〔染物〕 宮崎友禪 (友禪染の祖)   〔彫刻〕 円空 (鈍彫による造像)		
浄 瑠 璃	〔人形浄瑠璃〕   ①浄瑠璃 (語り＝ナレーション)   ②人形遣い (操り人形を操る人)   ③琉球から伝来した三味線の伴奏	近松門左衛門 (浄瑠璃脚本家)   竹本義太夫 (義太夫節)   辰松八郎兵衛 (人形遣い)	時代物『国性(姓)爺合戦』(明の鄭成功の史実を脚色)   世話物『曾根崎心中』(大坂で起こった心中事件を脚色)   『冥途の飛脚』・『心中天網島』
歌 舞 伎	〔阿国歌舞伎〕→〔女歌舞伎→若衆歌舞伎→野郎歌舞伎〕→〔元禄歌舞伎〕(役者の容色中心から演技・脚本の演劇に発達)   (出雲阿国が創始)   (幕府により禁止) (幕府により禁止)		江戸＝市川団十郎 (荒事) (勇猛な演技)   上方＝坂田藤十郎 (和事) (恋愛的な演技)   上方＝芳沢あやめ (女形) (女役)

特徴	化政文化 (江戸を中心とした享楽的・退廃的な町人文化)		
	田沼時代(宝暦・天明期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(文化・文政期の文化)
文 学	小 説   〔読本(前期)〕(怪奇物を題材) 上田秋成『雨月物語』   貸本屋 (見料という料金をとって本を貸す) ★江戸で約650軒・大坂で約300軒(19世紀初め)   〔浮世草子〕 〔洒落本〕(遊里での会話を主体とした小説) 山東京伝『仕懸文庫』   〔草双紙〕(赤本・青本・黒本から始まる絵入り小説の総称) →〔黄表紙〕(大人向けの絵入り小説) 恋川春町『金々先生栄花夢』 山東京伝『江戸生艶気樺焼』	寛政の改革   五街道の発達により 旅への関心が高まる	〔読本(後期)〕(歴史物を題材) 滝沢(曲亭)馬琴『南総里見八犬伝』 『椿説弓張月』(源為朝の武勇伝)   〔滑稽本〕(滑稽を要素とした会話中心の小説) 十返舎一九『東海道中膝栗毛』 式亭三馬『浮世風呂』・『浮世床』   〔人情本〕(男女間の恋愛小説) 為永春水『春色梅児誉美』   〔合巻〕(黄表紙を数冊分綴じた長編絵入り小説) 柳亭種彦『修紫田舎源氏』(家齊の大奥生活を描く) ★紀行文＝鈴木牧之『北越雪譜』・菅江真澄『菅江真澄遊覧記』   天保の改革
	俳 諧 な ど   〔俳諧〕(連歌から独立した五・七・五の短詩) 与謝蕪村(摂津国出身)『蕪村七部集』 〔川柳〕柄井川柳『詠風柳多留』 〔狂歌〕大田南畝(蜀山人・四方赤良)・石川雅望(宿屋飯盛)		〔俳諧〕(連歌から独立した五・七・五の短詩) 小林一茶(信濃国出身)『おらが春』 〔和歌〕香川景樹(桂園派の祖・古今調の和歌) 良寛(越後出雲崎の僧侶・万葉調の和歌)
絵 画	浮 世 絵   〔錦絵〕(多色刷り浮世絵版画) → 〔大首絵〕(美人・役者を上半身で大写しに描く) → 〔風景版画〕(旅への関心の高まりが背景) 鈴木春信(錦絵の創始者) 喜多川歌麿『婦女人相十品』(美人画) 葛飾北斎『富嶽三十六景』 『弾琴美人』 東洲斎写楽『市川鯉蔵』(役者絵) 歌川(安藤)広重『東海道五十三次』 浮世絵版画が墨一色刷り→三色刷り→多色刷りへ		
	文 人 画 (南 画)   〔文人画(南画)〕(絵画の専門ではない文人や学者が趣味として描いた絵画) 池大雅 + 与謝蕪村 → 谷文晁(渡辺華山らを指導) → 渡辺華山(三河田原藩家老で高野長英らと蘭学を学ぶ) 『十便十宜図』(二人による合作) 由能村竹田(豊後竹田の人) 『鷹見泉石像』(鷹見泉石は古河藩家老)		
	洋 風 画   〔洋風画〕(蘭学の隆盛の影響を受けて、西洋画の手法に基づき描かれた絵画) 銅版を薬品で腐食させた版画 平賀源内 → 小田野直武 → 司馬江漢(銅版画を創始) → 亜欧堂田善(白河藩主松平定信に仕える) 『西洋婦人図』『解体新書』の挿絵を描く 『不忍池図』(油絵) 『浅間山図屏風』		
	写 生 画   〔写生画〕(遠近法や陰影法を用いた写実的絵画) 円山応挙(円山派を創始) → 吳春(松村月溪)(円山応挙に学び、四条派を創始) 『雪松図屏風』 『柳鶯群禽図屏風』		
教 育	藩校(藩学)   〔藩校(藩学)〕(藩士の子弟教育機関) 岡山藩＝花島教場(池田光政が創始) ★郷校(庶民教育機関)＝閑谷学校(岡山藩)	熊本藩＝時習館(細川重賢が創始) 秋田藩＝明德館(佐竹義和が創始) 米沢藩＝興讓館(上杉治憲が創始)	会津藩＝日新館(松平容頤が創始) 水戸藩＝弘道館(徳川斉昭が創始) 薩摩藩＝造士館(島津重豪が創始)
芸 能	浄 瑠 璃   竹田出雲(近松門左衛門に師事) → 近松半二(竹田出雲に師事) → 〔歌(唄)浄瑠璃〕(人形操りを離れた演奏中心) 『仮名手本忠臣蔵』(赤穂事件が題材) 『本朝廿四孝』(衰退) 『菅原伝授手習鑑』(目録の変を脚色) 常盤津節・新内節・清元節・一中節 『義経千本桜』(義経伝説を脚色)		
	歌 舞 伎   〔芝居小屋〕(歌舞伎の劇場) → 〔江戸三座〕(興行を幕府が公認) → 鶴屋南北(四世)(歌舞伎作者) ★浄瑠璃に押され、歌舞伎は一時停滞するが、中村座・市村座・森田座 『東海道四谷怪談』(写実性の強い生世話物) 花道・付舞台・回り舞台・せり上がりなど 河竹默阿弥(五世鶴屋南北に師事した歌舞伎作者) 舞台装置の開発・所作事の発達で再度隆盛 『白浪五人男』(盗賊を主人公とする白浪物)		



特徴	①最初の仏教文化（飛鳥地方を中心とした文化）                  ②南北朝文化の影響（朝鮮半島を経由して導入）                  ③国際性に富む文化（ギリシア・インドとの共通性）	
建築	〔氏寺〕（古墳に代わる新たな権威の象徴として豪族が建立・管理した寺院）                  仏教受容に伴い、従来の掘立柱（地面に穴を掘り、そこに柱を立てる技法）から、礎石（建物の土台となる石）の上に柱を立てて屋根に瓦を葺く技法が導入される  <b>蘇我馬子＝飛鳥寺（法興寺）</b>（596年に建立された日本最古の寺院）                  ★飛鳥寺塔の心礎（中心柱となる礎石）から従来の古墳の副葬品と同種の品が出土  <b>秦 河勝＝広隆寺（太秦寺）</b>（603年に京都の太秦に建立）  <b>厩戸王（聖徳太子）＝法隆寺（斑鳩寺）・四天王寺（難波）</b>                  用明天皇（厩戸王（聖徳太子）の父）のために建立した世界最古の木造建築物                  ★法隆寺金堂などの柱はエンタシス（円柱の中央部がふくらんでいる様式）                  →古代ギリシアのパルテノン神殿に用いられている技法                  〔法隆寺再建論争〕                  法隆寺は607年に建立されたが、『日本書紀』に670年法隆寺炎上の記事があり、その真偽をめぐって明治末以降歴史学者の中で再建説・非再建説が主張された。その後、1939年に若草伽藍跡（四天王寺式）の発掘により再建説が有力となり、2004年に木材の建築年代の調査によって再建説が確定した。	〔法隆寺金堂釈迦三尊像〕 〔飛鳥寺釈迦如来像〕 〔法隆寺夢殿救世観音像〕  
彫刻	〔北魏様式〕（力強く端厳で男性的な造像様式）  <b>飛鳥寺釈迦如来像</b>（飛鳥大仏）（鞍作鳥（止利仏師）が606年に制作した金銅像）  <b>法隆寺金堂釈迦三尊像</b>（鞍作鳥（止利仏師）が623年に制作した金銅像）  <b>法隆寺夢殿救世観音像</b>（フェノロサの調査で初めて解明された木像）                  〔南梁様式〕（柔和で丸みがある造像様式）  <b>法隆寺百済観音像</b>（百済からの渡来と伝えられる（？）木像）  <b>広隆寺半跏思惟像</b>（弥勒菩薩像）（木像）  <b>中宮寺半跏思惟像</b>（弥勒菩薩像）（木像）	〔広隆寺半跏思惟像〕 〔中宮寺半跏思惟像〕 〔法隆寺百済観音像〕                  〔広隆寺弥勒菩薩像〕 〔中宮寺弥勒菩薩像〕  
工芸	<b>中宮寺天寿国繡帳</b>（聖徳太子の死後、橘大郎女が作らせた刺繍）  <b>忍冬唐草文様</b>（つる草がからみあった様子を図式化した文様）                  ★古代エジプト・ギリシアで発達し、中国を経て伝来  <b>法隆寺獅子狩文様錦</b>（ベガサスにまたがった武者が獅子を射る様子）                  ★西アジアササン朝ペルシアの狩猟文の影響  <b>法隆寺竜首水瓶</b>（竜をかたどった蓋と把手を付けた水差し）  <b>法隆寺『玉虫厨子』</b>（玉虫の羽が伏せてあった仏像・経巻などを安置する箱）	〔中宮寺天寿国繡帳〕 〔法隆寺玉虫厨子〕  
絵画	<b>法隆寺『玉虫厨子』須弥座絵</b>                  須弥座の左右に「捨身飼虎図」・「施身聞偈図」が描かれている                  ★密陀絵（古代の油絵の一種）の技法（漆絵ともいわれる）	〔忍冬唐草文様〕 〔法隆寺獅子狩文様錦〕 〔法隆寺竜首水瓶〕  

# 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

①池辺の太宮に天下治めしし天皇②太御身勞づき賜ひし時、③歳は丙午に次る年、④太玉天皇太子とを召して誓願し賜ひ、  
 「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に、將に寺を造りて⑥薬師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ  
 賜ひて造り堪へずありしかば、⑦小治田の太宮に天下治めしし太玉天皇及び⑧東宮聖王、大命を受け賜はりて⑨歳は丁卯に次れ  
 る年に仕へ奉る。

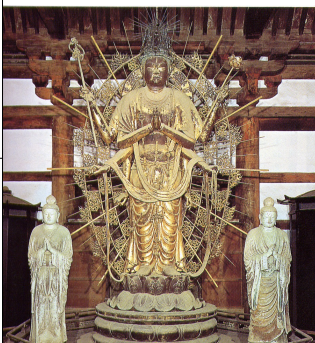
〔①用明天皇 ②病気になられた時 ③586年 ④推古天皇 ⑤聖徳太子 ⑥薬師如来像 ⑦推古天皇 ⑧厩戸王（聖徳太子）  
 ⑨607年〕

特徴	①初唐文化の影響 (インド・アジア・高句麗の影響もみられる) ②律令国家建設期の文化 (若々しい清新な文化)			
建築	〔官寺(官大寺)〕(国家が建立・管理した寺院) 大官大寺 (もと舒明天皇が建立した百済大寺)   薬師寺 (天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) ↳ 薬師寺東塔 ①頂上に天女と飛雲を配した水煙がある ②三重塔の各層に裳階がつく   飛鳥寺 (法興寺) 川原寺 (弘福寺)	[薬師寺東塔]	[興福寺仏頭] (もと山田寺の本尊)	[法隆寺夢違観音像]
彫刻	興福寺仏頭 (金銅像) ★もと蘇我(倉山田)石川麻呂の建立した山田寺の本尊 薬師寺金堂薬師三尊像 (金銅像) 薬師寺東院堂聖観音像 (金銅像) 法隆寺夢違観音像 (金銅像) 法隆寺阿弥陀三尊像 (金銅像)			
絵画	法隆寺金堂壁画 (1949年に焼損した仏教壁画) インドのアジャンター壁画・中国の敦煌石窟壁画に類似   高松塚古墳壁画 (1972年に奈良県明日香村で発見された古墳の壁画) 高句麗古墳壁画の影響/キトラ古墳(奈良県)と類似 石室の天井に星宿(星座)・東西南北の壁面に四神や男女群像が描かれている ★四神=青竜(東)・白虎(西)・朱雀(南)・玄武(北)	[薬師寺金堂薬師三尊像]	[薬師寺東院堂聖観音像]	
文学	漢詩文＝大友皇子(天智天皇の皇子) 大津皇子(天武天皇の皇子) 和歌＝額田王(天智天皇の妃) 柿本人麻呂(下級官吏)   のち『懷風藻』に収録される のち『万葉集』に収録される   「大君は 神にし坐せば 天雲の 雷の上に 慮せるかも」			
		[法隆寺金堂壁画]	[高松塚古墳壁画]	

時代名	文化名	特徴	詩歌(漢詩文・和歌・俳句など)の展開
飛鳥時代	飛鳥文化	南北朝文化の影響	
白鳳時代	白鳳文化	初唐文化の影響	漢詩文・和歌の成立
奈良時代	天平文化	盛唐文化の影響	↓ ex. 『懷風藻』(漢詩文集)・『万葉集』(和歌集)
平安初期	弘仁貞観文化	晩唐文化の影響	漢詩文の隆盛 ex. 『凌雲集』(最初の勅撰漢詩文集)
平安中期	国風文化	唐風文化を基礎にした日本文化の形成	和歌の隆盛 ex. 『古今和歌集』(最初の勅撰和歌集)
平安末期	院政期文化	貴族層が民衆文化を受容, 独自の地方文化が発展	↓
鎌倉時代	鎌倉文化	公武二元文化, 禅宗文化の影響	ex. 『新古今和歌集』(八代集の最後)
南北朝時代	南北朝文化	南北朝の動乱期の世相を反映	連歌の隆盛 ex. 『菟玖波集』(最初の准勅撰連歌集)
足利義満時代	北山文化	公家文化を基礎に武家文化が発展, 禅宗文化の影響	↓
足利義政時代	東山文化	「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成	ex. 『新撰菟玖波集』(宗祇の連歌集)
戦国時代	天文文化	応仁の乱で京都荒廃による中央文化の地方普及	俳諧連歌成立 ex. 『犬筑波集』(山崎宗鑑の俳諧連歌集)
安土桃山時代	桃山文化	豪壮・華麗な文化, 南蛮文化の影響	↓
徳川家光時代	寛永文化	豪壮・華麗な桃山文化の継承	俳諧の隆盛
元禄時代	元禄文化	上方(京都・大坂)を中心とした町人文化	ex. 『奥の細道』(松尾芭蕉の俳諧集)
大御所時代	化政文化	江戸を中心とした享楽的・退廃的な町人文化	ex. 『おらが春』(小林一茶の俳諧集)



〔東大寺正倉院宝庫〕



中央「東大寺法華堂不空羅索觀音像」

〔東大寺法華堂執金剛神像〕

右左〔東大寺法華堂日光・月光菩薩像〕



〔東大寺戒壇院四天王像〕



〔唐招提寺鑑真和上像〕



〔興福寺阿修羅像〕



〔藥師寺吉祥天像〕



〔下倉院鳥毛立女屏風〕



〔法隆寺百万塔〕



〔百万塔陀羅尼經〕

記・紀の編集		編纂過程			
天武		天武天皇が ^{ひえだの あ れ} 稗田阿礼に『 ^{てい き} 帝紀』『 ^{きゅうじ} 旧辞』を誦習させる ★『 ^{てい き} 帝紀』(天皇の系譜を記録)・『 ^{きゅうじ} 旧辞』(神話・伝承などを記録)		 〔漆胡瓶〕  〔螺鈿紫檀五絃琵琶〕	
元明	『 ^{こじき} 古事記』(712)	^{ひえだの あ れ} 稗田阿礼が誦習→ ^{おあのみ す みろ} 太安麻呂が筆録(神代～推古天皇までを記述)			
	『 ^{ふどき} 風土記』(713)	諸国の地誌(地名の由来・産物・伝承など)を編纂させる 現存＝ ^{いすも} 出雲(完備現存)・ ^{ひたち} 常陸・ ^{はりま} 播磨・ ^{ぶんご} 豊後・ ^{ひぜん} 肥前			
元正	『 ^{よめわけ} 日本書紀』(720)	^{よめわけ} 舎人親王(天武天皇皇子)が編纂(神代～持統天皇までを記述) ①六国史の最初(最初の勅撰国史) ②編年体(年代を追って出来事を記す叙述法)で記述(異説も併記)		 〔過去現在絵因果経〕	
天皇	成立	六 国 史	内 容	編 者	そ の 他
元正	720 年	『 ^{にほんしよき} 日本書紀』	神代～持統	^{よめわけ} 舎人親王	『 ^{るいじゆうこくし} 類聚国史』(編纂＝菅原道真) 六国史の内容を部門別に分類したもの
桓武	797 年	『 ^{つぎにほんしよき} 続日本紀』	文武～桓武	^{すがの ま みち} 菅野真道・ ^{つぐただ} 藤原継縄	
仁明	840 年	『 ^{にほんごき} 日本後紀』	桓武～淳和	^{おつぐ} 藤原緒嗣・ ^{ふゆ} 藤原冬嗣	
清和	869 年	『 ^{つぎにほんごき} 続日本後紀』	仁明一代	^{よしか} 藤原良房	
陽成	879 年	『 ^{にほんぶんていてんすいりく} 日本文徳天皇実録』	文徳一代	^{よしか} 藤原基経	
醍醐	901 年	『 ^{にほんさんだいすいりく} 日本三代実録』	清和・陽成・光孝	^{よしか} 藤原時平・ ^{つぐただ} 菅原道真	

### ㊦ 山上憶良の貧窮問答歌『万葉集』

…綿も無き 布肩衣の ①海松の如 ②わけさがれる ③襦袢のみ 肩にうち懸け ④伏慮の ⑤曲慮の 内に⑥直土に 藁  
 解き敷きて 父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に 囲み居て 憂へ⑦吟ひ 竈には 火氣ふき立てず ⑧顛には 蜘蛛の  
 巣懸きて 飯炊く 事も忘れて ⑨鵲鳥の ⑩呻吟ひ居るに いとのきて 短き物を ⑪端載ると 云へるが如く ⑫楚取る  
 ⑬五十戸良が声は 寝屋処まで 来立ち呼びばぬ 斯くばかり 術無きものか 世間の道 世間を憂しとやさしと思へども 飛  
 び立ちかねつ鳥にしあらねば

〔①海藻の一種 ②破れてぶら下がる ③ぼろ ④屋根の低い家 ⑤ゆがみ傾いた家 ⑥土にじかに ⑦うめく ⑧蒸し器  
 ⑨呻吟うの枕詞 ⑩細々と力のない声で鳴く ⑪短いものをさらに端を切って短くすること ⑫むち ⑬里長〕

### ㊦ 古事記の序文『古事記』

臣①安万侶言す。……是に於て②天皇詔すらく。「朕聞く。諸家の責る所の③帝紀及び④本辞、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふ。今の時に当りて其の失を改めざれば、未だ幾年をも経ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯、王化の⑤鴻基なり。故惟に帝紀を撰録し、旧辞を⑥討纂し、偽を削り実を定め、後葉に流えむと欲す」と。時に⑦舎人有り。姓は稗田、名は阿礼。年は是れ廿八。人となり聡明にして、⑧目に度れば口に読み、耳に払るれば心に勤す。即ち阿礼に勅語して、⑨帝皇の日継及び先代の旧辞を⑩誦み習はしむ。然れども⑪遷移り世異りて、未だ其の事を行はず。伏して惟るに⑫皇帝陛下、……ここに於て旧辞の誤り忤えるを惜しみ、⑬先紀の謬り錯えるを正さむとして、⑭和銅四年九月十八日を以て臣安万侶に詔すらく。「稗田阿礼の誦める所の勅語の旧辞を撰録して以て献上せよ」者り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り撰ふ。……大抵所記せるは、天地の開闢けしより始めて、⑮小治田の御世に記る。……并せて三巻を録し、謹みて献上る。

⑮和銅五年正月二十八日

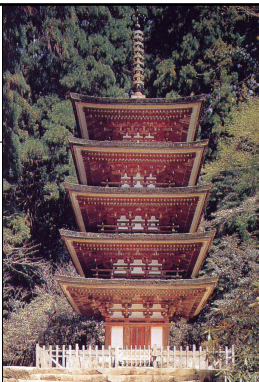
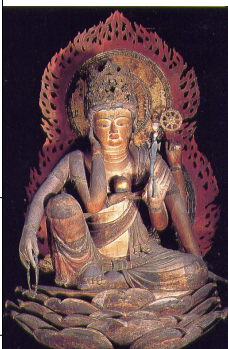
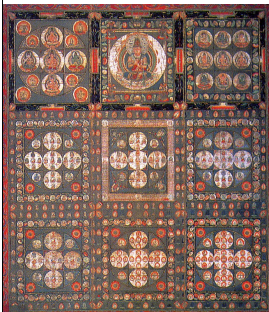
正五位上勳五等太朝臣臣安万侶謹上

〔①太安万侶 ②天武天皇 ③歴代の天皇の事績や皇位継承の記録 ④旧辞と同じ。神話や伝説など ⑤天皇が徳をもって人々を導くための基礎 ⑥検討する ⑦天皇や皇子などの側近く仕え、雑事を勤めた下級官人 ⑧一度見れば声に出して読み、一度聞けば記憶する ⑨天皇 ⑩暗誦させる ⑪時代が移り、天武天皇から代が改まった ⑫元明天皇 ⑬帝紀 ⑭711 年 ⑮推古天皇 ⑯712 年〕

### ㊦ 風土記の編纂命令『続日本紀』

(①和銅六年)五月甲子。制すらく、畿内・七道諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の、銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫等の物は、具に②魚目を録せしむ。……  
 〔①713 年 ②種類・品目〕



建 築	[山岳寺院 (山岳修行を重視するため、自由な伽藍配置で山中に建立)] 室生寺 (女性が唯一参詣できる寺→「女人高野」と呼ばれる) ↳ 五重塔・金堂 (金堂の屋根は檜の皮で葺いた檜皮葺→現在は柿葺)			
	[一木造] (一本の木材から丸彫りして制作する彫法) [翻波式] (仏像の衣のひだを表現する彫刻技法) 観心寺如意輪観音像 (密教彫刻の代表作) 室生寺金堂釈迦如来像 (金堂の本尊) 室生寺弥勒堂釈迦如来像 (翻波式の典型例) 薬師寺僧形八幡神像 (僧の形をした八幡神の像)			
彫 刻				
絵 画	[曼荼羅] (密教の仏の世界を構図化したもの) 神護寺両界曼荼羅・教王護国寺両界曼荼羅 ★両界曼荼羅＝金剛界 (金剛頂經に依拠)・胎藏界 (大日經に依拠) [不動明王信仰] 園城寺不動明王像 (黄不動と呼ばれる→円珍が描かせたもの) 高野山明王院不動明王像 (赤不動と呼ばれる)			
書 道	三筆＝空海・嵯峨天皇・橘逸勢 ↳ 「風信帖」 (812年、空海が最澄へ送った書状) cf. 「久隔帖」 (813年、最澄が弟子の素範へ送った書状)			
文 学	[勅撰漢詩文集] (天皇の命により撰定・編集された漢詩文集) 『凌雲集』 (嵯峨天皇の命で小野岑守らが編集した最初の勅撰漢詩文集) 『文華秀麗集』 (嵯峨天皇の命で藤原冬嗣らが編集した2番目の勅撰漢詩文集) 『経国集』 (淳和天皇の命で良岑安世らが編集した3番目の勅撰漢詩文集) [私撰漢詩文集・漢詩評論] 『性靈集』 (空海の漢詩文を弟子の真済が編集した漢詩文集) 『菅家文草』 (菅原道真的漢詩文集) 『文鏡秘府論』 (空海の著した漢詩評論書) [その他] 『日本霊異記』 (薬師寺の僧である景戒が著した日本最古の仏教説話集) 『新撰姓氏録』 (万多親王が編集した畿内氏族の系譜→氏姓の乱れを正す)			
教 育	①紀伝道 (文章道) (漢詩文・歴史を学ぶ→教授＝文章博士) を重視 ②大学別曹 (有力貴族が子弟教育のために設置した寄宿舎) 藤原氏＝勸学院 ・ 和気氏＝弘文院 在原氏＝奨学院 ・ 橘氏＝学館院 ③綜芸種智院 (828年に空海が設立した身分差別を設けない民衆教育機関)			

〔室生寺五重塔〕

〔薬師寺僧形八幡神像〕

〔観心寺如意輪観音像〕

〔園城寺黄不動〕

〔教王護国寺曼荼羅 (金剛界)〕

〔教王護国寺曼荼羅 (胎藏界)〕

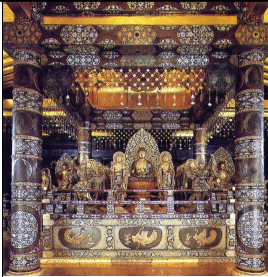
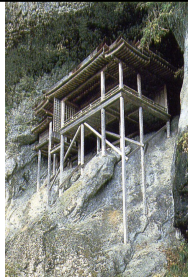
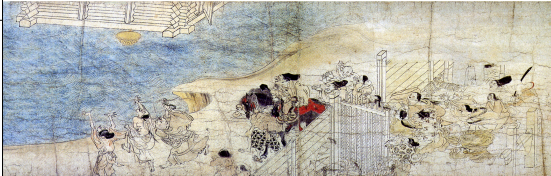
文化	弘仁・貞観文化 (嵯峨・清和天皇)	国風文化 (藤原摂関政治)	院政期文化
特徴	嵯峨天皇による唐風文化政策 →唐風文化 (晩唐文化) が全盛 →①漢詩文の流行→勅撰漢詩集の編纂 →文章経国思想に基づき、貴族の 教養として漢詩文が重視される →②三筆 (唐風の書体)	唐の衰退・嵯峨上皇の死・律令国家の変質→貴族社会の成熟 →唐風文化を基盤に日本的に発展させた日本文化の形成 →①仮名文字の発達 (1) 和歌の隆盛→勅撰和歌集の編纂 (2) 仮名文学の隆盛 →②三蹟 (和風の書体)	→継続 →聖による布教で 浄土教地方伝播
仏教	天台宗・真言宗→密教の隆盛 →密教美術 (曼荼羅・不動明王像)	末法思想の影響→浄土教の隆盛 →浄土教美術 (阿弥陀堂・阿弥陀如来像・来迎図)	
生活	唐風の衣服・建築	日本的な衣服・建築 (束帯・衣冠・寝殿造など)	

## 〔E〕国風(藤原)文化

建築	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀如来を安置する堂)   法成寺無量寿院 (1020年に藤原道長が建立→現存せず)   平等院鳳凰堂 (1053年に藤原頼通が建立)   法界寺阿弥陀堂 (1051年に日野資業が建立)													
彫刻	〔寄木造〕(仏像の各部を別々に制作し、組み合わせる彫法→定朝が大成)   平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 (制作＝定朝)   法界寺阿弥陀如来像   浄瑠璃寺阿弥陀如来像	〔平等院鳳凰堂〕  												
絵画	〔来迎図〕(阿弥陀如来が臨終の人を迎えに来る姿を描いたもの)   ex. 高野山聖衆来迎図   〔大和絵〕(唐絵に対する日本的風物を題材にした日本風絵画の総称)   絵師＝巨勢金剛 (大和絵の祖)・百済河成	〔高野山聖衆来迎図〕  												
工芸	〔蒔絵〕(漆を塗った漆器に、金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法)   〔螺鈿〕(夜光貝・あわび貝などの貝片を漆地や木地にはめこむ手法)	〔平等院鳳凰堂阿弥陀如来像〕 by 定朝  												
書道	三蹟＝小野道風「秋萩帖」(小野道風の書と伝わる)   藤原佐理「離洛帖」(大宰大貳の赴任途中にあてた書状)   藤原行成「白氏詩卷」(世尊寺流の祖とされる)	〔束帯〕   〔女房装束(十二単)〕  												
文学	―――〔かな文字の発達〕―――   漢字 → 万葉仮名 → 平仮名 (草書体を簡略化)   (真名) (漢字の音・訓を用いる) → 片仮名 (漢字の一部から)   〔勅撰和歌集〕(天皇の命により撰定・編集された和歌集)   『古今和歌集』(最初の勅撰和歌集→「八代集」の最初)   905年に醍醐天皇の命で、紀貫之・紀友則・凡河内躬恒らが編集   →序文＝平仮名による仮名序(紀貫之作)と漢字による真名序(紀淑望)がある   〔物語〕   『竹取物語』(かぐや姫などを描いた最古の物語文学)   『伊勢物語』(主人公の在原業平の恋愛談を中心とした短編歌物語集)   ★六歌仙(在原業平・僧正遍昭・小野小町・喜撰・文屋康秀・大友黒主)   『大和物語』(伝説・説話集的性格の強い歌物語)   『宇津保物語』(洞穴に住む貧しい一家が、琴の霊力により繁栄する物語)   『落窪物語』(継母にいじめられる落窪姫が、貴公子と結婚し幸福になる物語)   『源氏物語』(紫式部/光源氏の恋愛と薫大将の悲劇を描いた代表的物語文学)   〔日記・随筆〕   『土佐日記』(紀貫之/任期を終えた貫之が土佐から帰京するまでの仮名日記)   『蜻蛉日記』(藤原道綱の母/夫兼家との不和を中心とする結婚生活を描く)   『枕草子』(清少納言/一条天皇の中宮定子に仕えていた頃の宮廷生活を描く)   『和泉式部日記』(和泉式部/敦道親王との恋愛を歌日記風に記した回想記)   『紫式部日記』(紫式部/宮廷での見聞や人物評などを随筆風に記す)   『更級日記』(菅原孝標の女/上総からの帰郷より老境までの一生を回想)   〔漢詩文〕   『本朝文粹』(藤原明衡/今までの優れた漢詩文を集める)   『和漢朗詠集』(藤原公任/和歌と漢詩文の中で朗詠に適したものを編集)   『倭名類聚抄』(源順/百科事典的漢和辞書)	―――〔生活〕―――   ①服装  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>男性</th><th>女性</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正装</td><td>束帯・衣冠</td><td>女房装束(十二単)</td></tr> <tr> <td>日常着</td><td>直衣・狩衣</td><td>小袷・袴</td></tr> <tr> <td>庶民着</td><td>水干・直垂</td><td>小袖・腰布</td></tr> </tbody> </table>  ②邸宅   寝殿造 (平安時代の貴族の住宅)   ex. 東三条邸 (源高明の娘の明子の邸宅)   土御門邸 (藤原道長の邸宅)   ③成人儀式   男子＝元服・女子＝裳着   ④年中行事 (朝廷で慣例として毎年行われる儀式)   ↓ ex. 節会 (元日・端午・七夕など)・祈年祭・大祓   ⑤儀式書 (朝廷の儀式・行事のあり方を記したもの)   ex. 『西宮記』(源高明)・『北山抄』(藤原公任)   ⑥迷信の流行   陰陽道の影響 (古代中国の陰陽五行説に基づく)   → 物忌 (一定期間、特定の建物の中で謹慎する)   → 方違 (外出の時忌避すべき方向を避ける)		男性	女性	正装	束帯・衣冠	女房装束(十二単)	日常着	直衣・狩衣	小袷・袴	庶民着	水干・直垂	小袖・腰布
	男性	女性												
正装	束帯・衣冠	女房装束(十二単)												
日常着	直衣・狩衣	小袷・袴												
庶民着	水干・直垂	小袖・腰布												



## 〔F〕院政期文化

建   築	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及)  ちゅうぞん じ こん じき じやう  <b>中尊寺金色堂</b> (岩手県〔陸奥国〕) ★藤原清衡が平泉に建立   〔奥州藤原氏〕   清衡 → 基衡 → 秀衡 → 泰衡  きま ひら      もと ひら      ひで ひら      やす ひら  (中尊寺金色堂) (毛越寺) (無量光院)   富貴寺大堂 (大分県〔豊後国〕)  ふき じ おお じやう  白水阿弥陀堂 (福島県〔陸奥国〕)  しら みず あ み だ じやう  三仏寺投入堂 (鳥取県〔伯耆国〕)  さん ぶつ じ なげ いれ じやう	   〔中尊寺金色堂(岩手県平泉)〕      〔三仏寺投入堂(鳥取県)〕
繪   画	〔裝飾経〕(仏教経典に特別な装飾をほどこしたもので、後に寺院に奉納する)  『扇面古写経』(下絵に大和絵で風俗を描き、その上に経文を墨書した古写経)  ★大阪四天王寺・東京国立博物館に所蔵されている   『平家納経』(平清盛が一門の繁栄を祈って安芸国厳島神社に奉納した古写経)  もいつくし まじん じや   〔絵巻物〕   『源氏物語絵巻』(絵師=藤原隆能/源氏物語を絵巻物にしたもの)  ひめのかざはな      ふきぬけやだい  ★引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く   『伴大納言絵巻』(絵師=常盤光長/応天門の変(866)を題材にしたもの)  とぎわみつなが   『鳥獣戯画』(絵師=鳥羽僧正覚猷/動物を擬人化して世相を風刺)  とふや しょう しょう けう   『信貴山縁起絵巻』(絵師=鳥羽僧正覚猷?/僧命蓮に関する奇跡談を描く)	   〔富貴寺大堂(大分県)〕      〔白水阿弥陀堂(福島県)〕    〔鳥獣戯画〕 by 鳥羽僧正覚猷
文   学	〔歴史物語〕   『栄花(華)物語』(作者=赤染衛門?/藤原道長の栄華を賛美して記述)  あかぞめもん   『大鏡』(大宅世継と夏山繁樹の対談形式で、藤原道長の栄華を批判的に記述)   〔説話文学〕   『今昔物語集』(編者=源隆国?/本朝・天竺・震旦の3種類から成る説話文学)  こん じゃく      たかくに      ほんちやう      てん じく      しん だん   〔軍記物語〕   『将門記』(平将門の乱を題材にした軍記物語)  しょうもん   『陸奥話記』(前九年の役を題材にした軍記物語)  りくお   〔歌謡〕   今様 (貴族も愛好した現代歌謡)  いま じやう   催馬楽 (貴族も愛好した古代歌謡)  さいば   → 『梁塵秘抄』(後白河法皇が当時流行した今様・催馬楽などを集成)  いまいちやう      さいばら	  〔信貴山縁起絵巻〕     〔源氏物語絵巻〕 by 藤原隆能      〔扇面古写経〕

## □ 今様『梁塵秘抄』 by 後白河法皇

仏は常に在せども、①現ならぬぞあはれなる、人の音せぬ暁に、仄かに夢に見えたまふ  
遊びをせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ③動がるれ  
〔①姿として現実に現れない ②尊く心うたれる、または仏の姿をおがめず悲しい、と解する二様ある ③自然におどり動きたくなる〕

## 〔NOTE〕



## 《 三浦知良－カズー 》

サッカー選手として、そして一人の人間として僕は三浦知良を尊敬している。最近では欧州で活躍する海外組の選手達が脚光を浴びているが、僕の小学校の頃のヒーローは何と言ってもカズだった。当時のカズは J リーグ草創期を象徴するスターだった。華々しいプレーは観るものを魅了し、そしてここぞという時に決めてくれる偉大なストライカーだった。もちろん、今現在も横浜 FC で現役としてプレーしている。ただ、やはり全盛期のようなキレはあまり見られなくなってしまった。それでも僕は、その全盛期の頃のカズと今のカズでは、今のカズの方が人を魅了する選手だと思っている。

高校一年の時学校を中退し、ブラジルでプロとなり、数クラブを渡り歩きあのベレのいた名門サントス FC でレギュラーを担っていたカズは 1990 年、日本に帰国した。そのまま、ヨーロッパに出て行くことも出来ただろうが、まだ、プロリーグさえなかった日本に彼は戻ってきたのだ、「日本を W 杯に連れて行くために帰ってきました」これが、カズの日本帰国の第一声だ。今現在の日本代表を見ると想像できないかもしれないが、その当時の日本代表はアジアの中でも決して強いチームではなかった。その日本を W 杯に連れて行く、それは簡単に言えることではない。自らに責任というプレッシャーをわざとかけていたのではないだろうか。やがて J リーグが開幕し、初代 J リーグ MVP を獲得したカズだったが、夢である W 杯出場は本当にあと一步のところで届かなかった。有名な「ドーハの悲劇」、ロスタイム残りあと 1 分さえ凌ぎできれば W 杯が決まるところだった。しかし悪夢のようなロスタイム、イラクのゴールによって日本代表は W 杯への出場権を得ることはできなかった。彼が掴みかけていた夢はすりと逃げていってしまった。

その後、イタリアセリエ A へと舞台を移したカズは結果を残すことはできなかったが、日本に帰ってきたその翌年、彼は J リーグ得点王となっている。次のフランス W 杯の時には彼は 30 歳になる、それだけラストチャンスにかける意気込みもあったのだと思う。

1997 年、最後のチャンス、フランス W 杯のアジア予選が始まった。カズは初戦のウズベキスタン戦で 4 得点を挙げ、見事に結果を残した。しかし、その後怪我の回復具合が思わしくないなど、彼はゴールを決めることが出来なかった。日本の苦戦と共に、点の取れないカズへの批判は徐々に増していった。何とかイランとのアジア第 3 代表決定戦にまわった日本は延長後半、岡野雅行(当時浦和レッズ)のゴールによって W 杯への出場権をもぎ取る。カズにとっても 8 年かけてやっと掴んだ W 杯への出場権であった。

1998 年 5 月、日本代表監督である岡田武史はフランスへ向かう代表 25 人を発表した。その中にはカズの名前があった、正直ホッとした。実はこの時、カズは年齢限界説や、足の怪我の回復が思わしくないなど、当落線上にいと噂になっていたからだ。5 月 27 日、日本代表は直前合宿が行われるスイスへ出発した。この合宿の後、W 杯に出場する最終登録メンバー 22 人が発表される。もしかしてその外れる 3 人にカズが入ってしまうのではないかと、といった不安もあった。しかし、この時の代表についてのコメントをしたジーコも「カズのような経験のある選手はこういった大舞台でこそ代えの効かない最も重要な選手なんだ、私が現役時代そうだったようにね」というように、代表から外れるといったことは考えられなかった。だが、その選考当日 6 月 2 日、岡田武史が発表した言葉に僕は耳を疑うしかなかった、「外れるメンバーは市川、カズ、三浦カズ、北沢の 3 選手です。」

カズは北沢と共に日本に帰国することになった。どれだけ辛かったかというのは、正直僕も想像が出来ない。日本サッカーのため、ブラジルから帰国し、J リーグを盛り上げ、ドーハの悲劇を経験し、それでも夢である W 杯を目指し、そして 4 年後出場権をようやく得た。それにもかかわらず、W 杯のピッチに立つことは出来なかったのだ。それもフランスの隣国スイスにまで来ていながら…。

しかし、帰国したカズと北沢を待っていたものは、マスメディアへの会見だった。2 人に対しいろいろな質問が飛び交う。「岡田監督から話を聞いた際、どのようなことが頭をよぎったか?」「いま挫折感を味わっているか?」質問をするレポーター達を殺してやりたいと思った。そんな中、カズは文句の一つも言わず、丁寧に応じた。そして「向こう(フランス)に自分の魂みたいなものは置いてきたと思っている。」と最後に結んだ…。正直文句の一つくらい言って欲しかった。でも、言いたい事は山ほどあるはずなのにカズも、そして北沢も文句を何一つ言わなかった。それとも辛くて言えなかったのかもしれない。

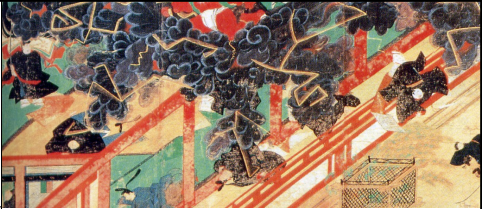
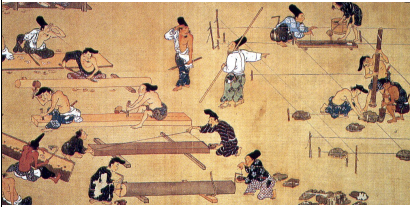
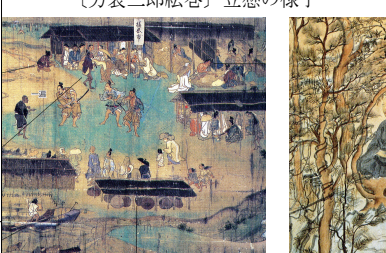
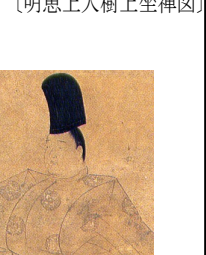
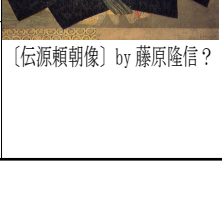
この後、彼がこの事をどう考え、どう乗り越えていったのかはわからない。それはカズ本人が話していないから。でも、一つだけ僕にわかるのは、カズが今とってもいい顔をしているということ。見た目のかさよさとかじゃないんだ。なんか、ほんとこんな人になりたいなって思う。これまでも本当に辛くて、逃げ出したくなった時もあった。将来もしかしてこれまで以上に辛いことがあるかもしれない。でも、それを乗り越えた時、人としてもう一つ大きくなれるんだって感じる。そんな風に思わせてくれる人。



## [A] 鎌倉文化(建築・彫刻・絵画・工芸)

特徴	①公武二元文化(公家の伝統的文化と武士の新しい文化) ②宋・元の新しい中国文化の導入(禅宗の伝来など) ③庶民文化の成長			
建築	東大寺南大門＝大仏様(天竺様) ★平重衡の南部(東大寺・興福寺)焼打ち(1180) ★源頼朝による東大寺再建事業(重源(勸進職)の指導・陳和卿[宋の工人]の協力) 円覚寺舍利殿＝禅宗様(唐様) 蓮華王院本堂＝和様 ★三十三間堂ともよばれる(蓮華王院は後白河法皇の命で平清盛が創建) ★その他の和様建築＝石山寺多宝塔・秋篠寺本堂・興福寺北円堂 観心寺金堂＝折衷様(新和様)			
彫刻	東大寺南大門金剛力士像(運慶・快慶・湛慶ら) 東大寺僧形八幡神像(快慶) 興福寺無著・世親像(運慶ら) 興福寺天灯鬼・竜灯鬼(康弁ら) 六波羅蜜寺空也上人像(康勝) 東大寺重源上人像(運慶一派の作と推定される) 鎌倉名月院上杉重房像(奈良仏師に属さない人物が作成)		[奈良仏師(慶派)の系譜] 定朝……康慶——運慶(東大寺金剛力士像) (興福寺無著・世親像) 快慶(東大寺金剛力士像) 湛慶(東大寺金剛力士像) 康弁(興福寺天灯鬼・竜灯鬼) 康勝(六波羅蜜寺空也上人像)	
絵画	肖像画	①似絵(写実的な大和絵の肖像画) 藤原隆信 『源頼朝像(伝)・平重盛像(伝)』 藤原信実 『後鳥羽上皇像』 専阿弥陀仏 『親鸞聖人像』(鏡の御影と呼ばれる) 成忍 『明恵上人樹上坐禅図』 ②頂相(禅宗で、修行僧が一人前になった時、師から与えられる師の肖像画)		
	絵巻物	『一遍上人絵伝』(円伊/備前国(岡山県)福岡市の様子が描かれている) 『法然上人絵伝』(土佐吉光/法然の生涯を描く) 『北野天神縁起絵巻』(藤原信実/菅原道真の生涯と寺社の由来を描く) 『粉河寺縁起絵巻』(作者不詳/粉河寺の靈験談を描く) 『石山寺縁起絵巻』(高階隆兼/石山寺の靈験談を描く) 『春日権現験記』(高階隆兼/鎌倉時代の建築現場の様子を描く) 『地獄草紙』(地獄の場面を描いた六道絵巻の一つ) 『餓鬼草紙』(餓鬼の苦しみを描いた六道絵巻の一つ) 『病草紙』(病の苦しみなどを描いた六道絵巻の一種) 『平治物語絵巻』(平治の乱を題材にした合戦絵巻) 『蒙古襲来絵巻(詞)』(肥後の御家人竹崎季長が描かせる) 『男衾三郎絵巻』(武蔵国の武士の生活を描く→笠懸の様子が有名)	by 運慶・快慶・湛慶	上人像 by 康勝
工芸・書道	工芸	①刀工＝粟田口吉光(京都)・長船長光(備前)・岡崎正宗(鎌倉) ②甲冑＝明珍(京都の甲冑製作の名家) ③陶器＝加藤景正(道元に従って入宋し陶法を学び、尾張の瀬戸焼の祖となる?)		
		④書道＝尊円入道親王(伏見天皇皇子/青蓮院流を創始し、『鷹巢帖』を書く) ★世尊寺流(国風文化に藤原行成が創始した流派)を学び、江戸時代に御家流へ発展	by 康弁	by 運慶



文 学	古典研究	『<b>有職故実</b>』(朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『<b>禁秘抄</b>』(順徳天皇の<b>有職故実書</b>)   〔<b>古典注釈書</b>〕   『<b>釈日本紀</b>』(卜部兼方が著した『日本書紀』の注釈書)   『<b>万葉集註釈</b>』(仙覚が著した『万葉集』の注釈書)	
	和歌集	〔<b>勅撰和歌集</b>〕(天皇の命により撰定・編集された和歌集)   『<b>新古今和歌集</b>』(1205)   後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編集した勅撰和歌集(「八代集」の最後)   ★<b>明月記</b>(藤原定家の日記)   〔<b>私撰和歌集</b>〕   『<b>金槐和歌集</b>』(源実朝/格調高い万葉調の歌を詠む)   『<b>山家集</b>』(西行[もと北面の武士]/隠者となり、諸国をまわり歌を詠む)	〔北野天神縁起絵巻〕    〔春日権現験記〕  
	随筆	『<b>方丈記</b>』(鴨長明[鎌倉初期]/天変地異を体験して世の無常を嘆く)   『<b>徒然草</b>』(吉田[卜部]兼好[鎌倉後期]/自然・人間・社会を深い洞察力で描く)	
	紀行文・日記	『<b>海道記</b>』(作者不詳/京都・鎌倉間の紀行文)   『<b>東関紀行</b>』(源親行?/京都・鎌倉間の紀行文)   『<b>十六夜日記</b>』(阿仏尼/息子の所領訴訟解決のため、京都から鎌倉に赴く紀行文)   『<b>玉葉</b>』(九条兼実/平氏最盛期~幕府成立までを知る史料的な意味の濃い日記)	〔蒙古襲来絵詞〕 騎馬武将=竹崎季長  
	歴史書	『<b>今鏡</b>』(藤原為経?/藤原頼通~基房までの歴史を記す)   『<b>水鏡</b>』(中山忠親?/神武~仁明天皇までの歴史を記す)   『<b>吾妻鏡</b>』(作者不詳/鎌倉幕府の記録を日記の体裁をとり編年体で記す)   『<b>愚管抄</b>』(慈円[天台座主]/末法思想と道理による歴史観)   →承久の乱後に後鳥羽上皇に提出し、討幕挙兵を諫める   ★道理=社会的に正しいと認められた物事の筋道(規範)   『<b>元亨釈書</b>』(虎関師鍊/日本最初の日本仏教歴史書)	〔男舍三郎絵巻〕 笠懸の様子   
	軍記物語	『<b>保元物語</b>』(作者不詳/鎮西八郎と呼ばれた源為朝の活躍を中心に保元の乱を描く)   『<b>平治物語</b>』(作者不詳/源義朝の子の義平を英雄的に平治の乱を描く)   『<b>平家物語</b>』(信濃前司行長?/琵琶法師による琵琶の伴奏で語る平曲で庶民に流行)   『<b>源平盛衰記</b>』(作者不詳/『平家物語』を増補したもの)	〔一遍上人絵伝〕 by 円伊    備前国(岡山県)福岡市の様子    〔明恵上人樹上坐禅図〕
学 問	説話集	『<b>十訓抄</b>』(作者不詳/年少者の修養のため、仏教的教訓にあたる説話を集める)   『<b>沙石集</b>』(無住/庶民的・地方的な説話を集めた仏教説話集)   『<b>古今著聞集</b>』(橘成季/神祇・政道・忠臣など古今の説話を集める)   『<b>宇治拾遺物語</b>』(作者不詳/『今昔物語集』の後を追った説話集)	  〔伝源頼朝像〕 by 藤原隆信?    〔後鳥羽上皇像〕 by 藤原信実
	図書館	〔<b>私設図書館</b>〕   <b>金沢文庫</b>(評定衆として幕政に参加した北条[金沢]実時が設立した私設図書館)   ★自分の蔵書を公開して武蔵国六浦荘の称名寺(金沢氏の菩提寺)境内に設置	

## [C] 室町文化(南北朝文化・北山文化)

特徴	南北朝文化(建武新政～南北朝) 南北朝の動乱を背景に発達	北山文化(足利義満＝幕府全盛期) ①武家文化が伝統的な公家文化を基礎に発展/②元・明の禅宗文化の影響
文 学	〔歴史書・軍記物語〕   『<b>神皇正統記</b>』(伊勢神道の理論に基づき、常陸国小田城で<b>北畠親房</b>が著した南朝側〔後村上天皇〕の正統性を説いた歴史書)   『<b>梅松論</b>』(北朝側〔足利幕府〕の正統性を説いた歴史書)   『<b>増鏡</b>』(公家の立場から鎌倉時代の歴史を記述した歴史書)   『<b>太平記</b>』(小島法師が著したといわれる南北朝を題材にした軍記物語) →   ★南朝に同情的な記述が多い(江戸時代に太平記読で普及)   〔連歌〕(和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる)   『<b>菟玖波集</b>』(二条良基が著した最初の連歌集→準勅撰となる)   『<b>応安新式</b>』(二条良基が著した連歌の規則書)   〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『<b>建武年中行事</b>』(後醍醐天皇が著した有職故実書)   『<b>職原抄</b>』(北畠親房が著した有職故実書)	〔<b>五山文学</b>〕(五山の禅僧を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称)   五山版(五山の禅僧によって出版された書籍)の出版   → <b>義堂周信</b>(南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『空華集])   → <b>絶海中津</b>(相国寺の五山文学僧)   〔歴史書・軍記物語〕   『<b>難太平記</b>』(今川貞世(了俊)(九州探題)が著した歴史書)
建 築	  〔田楽〕    〔同朋衆〕    〔太平記読〕    〔能の興行風景〕    〔風流踊り〕	①<b>鹿苑寺金閣</b>(足利義満〔3代將軍〕が建立した3層の楼閣)   (1層)寝殿造・(2層)和様・(3層)禅宗様     〔鹿苑寺金閣〕by 足利義満 〔慈照寺銀閣〕by 足利義政
絵 画	水墨画〔草創期〕(禅の精神を墨の濃淡による墨一色で描く) →   <b>黙庵</b>(画僧)『布袋図』   <b>可翁</b>(画僧)『寒山図』	〔水墨画(確立期)〕   <b>明兆</b>(東福寺の画僧) → <b>如拙</b>(相国寺の画僧) → <b>周文</b>(相国寺の画僧)   『五百羅漢図』 〔瓢鮎図〕 〔寒山拾得図〕
芸 能	〔能(能楽)〕(猿楽・田楽から発達した演劇) →   <b>因解 NOTE 〔能楽の発達〕</b>   飛鳥時代 伎楽(百済から伝わった仮面を用いた舞踊)   奈良時代 散楽(唐から伝わった滑稽な物まね芸)   ↓   平安時代 猿楽(物まね) 田楽(田植えの際にする踊り)   ↓   芸として専門的に演じる者が登場 → 演劇(能)としての仕組みを整える   ↓   猿楽能 ←…… 田楽能   ↓ (田楽の要素を取り入れる)	〔猿楽能〕(寺社の保護を受けて座を結成)   〔大和猿楽四座(本所=興福寺)〕   観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座   ↓   〔猿楽能〕(足利義満〔3代將軍〕の保護を受けて観阿弥・世阿弥が大成)   <b>観阿弥清次</b>(父) } 將軍の同朋衆(阿弥号を持つ時宗の信者が多い)   <b>世阿弥元清</b>(子) }   『風姿花伝(花伝書)』(能作論・演出法などを記した能の伝書)   『花鏡』(『風姿花伝』に続き、嫡子の元雅に伝えた能の伝書)   『申楽談儀』(世阿弥の能楽に関する秘伝を二男の元能が筆録)   ★謡曲(能の脚本のこと→観阿弥・世阿弥の作が多い)   ★狂言(能の合間に演じられ、猿楽や田楽の物真似を受け継ぐ)

## ☐ 能一能楽論一『花鏡』by 世阿弥

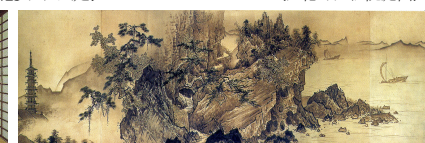
## 幽玄の④風体の事

書道諸事において幽玄なるをもて②上果とせり。ことさら③当芸において、幽玄の風体第一とせり。……

そもそも幽玄の④塙とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔和なる体、幽玄の本体なり。……

〔①芸風 ②最高の境地 ③能 ④境地〕



特徴	東山文化(足利義政＝応仁の乱期)		
	①「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成／②応仁の乱による中央文化の地方普及と民衆化が進む		
文学	[学問]   ①<b>一条兼良</b> (関白・太政大臣となった当代随一の学者／子は尋尊) 『公事根源』(有職故実書) 『花鳥余情』『源氏物語』の注釈書 『樵談治要』(足利義尚 [9代将軍] の問いに答えた政治意見書)   ②<b>古今伝授</b> 『古今和歌集』の故事・解釈などの秘事を口伝 東常縁 → 宗祇 → 三条西実隆   [連歌] (和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる)   ①<b>宗祇</b> (正風連歌を確立) 『新撰菟玖波集』(宗祇が編集した準勅撰の連歌集) 『水無瀬三吟百韻』(宗祇・肖柏・宗長の3人が詠んだ百韻の連歌)   ②<b>山崎宗鑑</b> (俳諧連歌の祖) 『犬筑波集』(山崎宗鑑が編集した俳諧連歌集)	[教育]   ①<b>足利学校</b> (上杉憲実 [関東管領] が再興した学校施設) フランシスコ・ザビエルから「坂東の大学」と称される   ②<b>儒学の普及(地方伝播)</b> <b>桂庵玄樹</b> (薩摩の島津氏, 肥後の菊池氏に招かれる→薩南学派の祖) <b>南村梅軒</b> (土佐の吉良氏に招かれる→海南学派(南学派)の祖となる)   ③その他 『<b>庭訓往来</b>』(玄恵が作者と言われる往来物(書簡形式)の庶民教科書) ★往来物 (往復一対の手紙形式の教科書)   『<b>節用集</b>』(観頌屋宗二が刊行したと言われる国語辞典)	
建築	①<b>慈照寺銀閣</b> (足利義政 [8代将軍] が建立した2層の楼閣) (1層)書院造・(2層)禅宗様   ②<b>慈照寺東求堂同仁斎</b> (書院造による足利義政の書斎) ★書院造 (明障子・付書院・違い棚などを持つ室町時代の住宅建築様式)   ③<b>回遊式庭園</b> (一巡することによりいろいろな風景を鑑賞できる庭園) 慈照寺庭園(善阿弥)・西芳寺庭園(苔寺)(夢想疎石) ★作庭師＝山水河原者 ex. 善阿弥 (義政から天下第一と称えられた作庭)   ④<b>枯山水</b> (岩石と砂利による象徴的な自然をつくりだした禅宗風の庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	   [龍安寺石庭] [大徳寺大仙院庭園]     [慈照寺東求堂同仁斎] [四季山水図巻(山水長巻)] by 雪舟	
絵画	[水墨画(大成期)] <b>雪舟</b> (日本の水墨山水画を大成) 『四季山水図巻(山水長巻)』 『秋冬山水図』・『天橋立図』   [大和絵] (唐絵に対する日本の風物を題材にした日本風絵画の総称)   ①<b>土佐派</b> (室町中期以降の大和絵の一派) 土佐光信 (宮廷絵所預や幕府絵所預となり, 土佐派の地位を確立)   ②<b>狩野派</b> (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) <b>狩野正信</b> (狩野派の始祖) 『周茂叔愛蓮図』 <b>狩野元信</b> (狩野派を大成) 『大仙院花鳥図』	   [瓢鮎図] by 如拙 [大仙院花鳥図] by 狩野元信	
芸能	[茶道(茶の湯)]   ①<b>南北朝文化</b> <b>茶寄合</b> (多人数で開かれた娯楽的な茶会) ↓ <b>闘茶</b> (茶の種類や産地を飲みあてる競技)   ②<b>東山文化</b> <b>侘び茶</b> (茶に禅宗の精神を取り入れる閑寂な茶) <b>村田珠光</b> → <b>武野紹鷗</b> → (千利休) (侘び茶を創始) (侘び茶を簡素化) (侘び茶を大成)   [花道(華道)] <b>立花</b> (仏前に添える花から発展した生け花の様式) <b>池坊専慶</b> → <b>池坊専心</b> → <b>池坊専好</b> (池坊花道の祖)   [金工(刀に装飾をする)] 後藤祐栢 (足利義政に仕える)	—— [庶民文芸] ——   ①<b>幸若舞</b> (桃井直詮(幸若丸)が創始し, 織田信長も愛好した舞) ②<b>風流踊り</b> (華美な風体で踊る) 念仏踊り (念仏を唱えて踊る) 盆踊り (盆に歌謡にあわせて踊る) ③<b>小歌</b> (庶民に広く流行した民間歌謡) 『閑吟集』(1518年に成立した小歌集) ④<b>御伽草子</b> (室町時代の庶民的な短編物語) ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』・『物くさ太郎』	

特徴	桃山文化 ①新興武家や富裕な豪商らが担いで豪華・壮大 (桃山＝豊臣秀吉晩年の居城である伏見城の跡地)／②南蛮文化の影響		
建築	城郭	〔城郭〕 (壮麗な天守閣を持つ本丸を中心に、二の丸、三の丸などを配した建築様式)   └─ 天守閣 (城郭の中心部の本丸にある高層の楼閣)   └─ 居館 (城郭の内部に設けられた書院造による大名の住居)   ★欄間 (居館内部に用いられた榻居と天井の間にはめ込まれた格子や透し彫の板)   〔代表的な城郭〕   犬山城 (現存最古の天守閣)   安土城 (織田信長が 1576 年に築城)   大坂城 (豊臣秀吉が 1583 年に築城)   聚楽第 (秀吉晩年の邸宅を兼ねた城郭) (聚楽第の遺構)   ★1588 年に後陽成天皇が行幸   伏見城 (秀吉晩年の邸宅を兼ねた城郭) (伏見城の遺構)   姫路城 (白鷺城とも呼ばれる池田輝政が改築した平山城)   → 西本願寺飛雲閣   → 大徳寺唐門   → 西本願寺書院 (鴻の間) ・唐門   → 都久夫須麻神社本殿 ・唐門   〔築城法〕   山城 → 平山城 → 平城   (領国経営の政治面が重視されたため)      〔姫路城〕	
	障壁画	〔障壁画〕 (屏風・障子・襖などに描かれた絵画)   └─ 水墨画 (墨の濃淡による墨一色で描いた障壁画)   └─ 濃絵 (金碧に青・緑などの濃彩で描いた障壁画)   狩野永徳 (狩野元信の孫)   『唐獅子図屏風』 (金碧画) ・ 『檜図屏風』 (金碧画)   狩野山楽 (狩野永徳の門人)   『牡丹図』 (金碧画) ・ 『松鷹図』 (水墨画)   長谷川等伯 (雪舟 5 代を自称)   『智積院模絵』 (金碧画) ・ 『松林図屏風』 (水墨画)   海北友松 (浅井長政の重臣の子)   『山水図屏風』 (水墨画)   風俗画   〔風俗画〕 (日常生活など市井の風俗を題材とした絵画)   狩野永徳 『洛中洛外図屏風』   狩野長信 『花下遊楽図屏風』   狩野吉信 『職人尽図屏風』   狩野秀頼 『高雄観楓図屏風』   〔南蛮屏風〕 (南蛮人や南蛮人の風俗を主題とした風俗画屏風)   『世界地図屏風』 ・ 『泰西王侯騎馬図屏風』   狩野派   正信 — 元信 — ○ — 永徳 — 山楽 (永徳の門人)   長信 — ○ — 探幽	
芸能・印刷	茶道	〔茶道 (茶の湯)〕   千利休 (宗易) (堺の豪商出身) が侘び茶を大成 ★織田信長・豊臣秀吉に仕え、「天下第一の茶匠」とうたわれたが、京都の陶工   ★妙喜庵侍庵 (千利休が造作した 2 畳の草庵風茶室) 長次郎に命じて茶焼を作らせたことなどにより、秀吉と対立し切腹させられた   cf. 如庵 (織田有楽斎 (織田信長の弟) が造作した茶室)   〔大名による茶道保護〕   ①古田織部 (千利休の高弟でもある茶人の大名一武家的茶道を成立)   ②北野大茶会 (1587 年に豊臣秀吉が京都の北野神社で行った大茶会)   ★三宗匠 (千利休・今井宗久・津田宗及) らが参加   ③お国焼 (朝鮮出兵で諸大名が連れ帰った朝鮮人陶工による陶磁器)   鍋島氏＝有田焼 (李参平) ・毛利氏＝萩焼 (李勺光・李敬)   松浦氏＝平戸焼 (巨 関) ・島津氏＝薩摩焼 (金海・朴平意)   〔活字印刷術〕   ①活字印刷術 (朝鮮式)   ★朝鮮出兵の際に伝えられた主に木活字を用いた印刷   →慶長勅版 (後陽成天皇の命で出版された最初の活字本)   ②活字印刷術 (ヨーロッパ式)   ★宣教師ヴァリニャーニが伝えた主に銅活字を用いた印刷   →キリシタン版 (天草版) (イエズス会による出版物)   『どちらにな＝きりしたん』 (キリシタン入門書)   『天草版平家物語』 (ローマ字記述の平家物語)   『天草版伊曾保物語』 (ローマ字記述の伊ソッ保物語)   『日葡辞書』 (日本語をポルトガル語で説明した辞書)	
	その他	〔歌謡〕   隆達節 (高三隆達 (堺の商人) が節付けした小歌) の流行   〔歌舞伎〕   阿国歌舞伎 (出雲阿国〔出雲大社の巫女〕が創始したかぶき踊り)   ★京都でかぶき踊りを創始したあと、北野神社などで勧進興行を行った   〔人形浄瑠璃〕 (三味線を伴奏に取り入れ、浄瑠璃節と人形操りが結合したもの)   人形浄瑠璃 (浄瑠璃節＋人形操り＋三味線 (琉球伝来の蛇皮線から発達))	



《 母が僕にしてくれた話～帰ってきたアスラ～ 》

以前、母が僕にしてくれた話です。ずいぶん昔の話になりますが、母が学生のころの話です。当時、家は小さくありませんでしたが犬のシェパードを飼っていました(アスラと言います)。非常に賢く、真っ黒な毛並みを持ち、母と祖母になついていたのですが、友人に賢いだから訓練所に預けてみてはどうかと言われ、母と祖母はアスラを埼玉の訓練所に預けることにしました。

最初のうちはそちらにお世話になっていたのですが、ある日、その訓練所からアスラが訓練中に逃げ出してしまった、という連絡がきました。推測ですが、アスラは母と祖母に会いたかったのではないのでしょうか。とにかく、母と祖母は車や自転車で埼玉中を探しました。祖母は仕事があったのですが、それでも探し続けました。一ヶ月…二ヶ月すぎましたが見つかりませんでした。ある日、母が林の中を探していると、遠くにアスラらしき犬を見かけました。驚きながらも母は「アスラ!」と叫びました。しかし、その犬はびっくりしたのか、何故か遠くへ逃げ去ってしまいました。

すっかり気落ちした母は家に帰るとそのことを祖母に話しました。「もうダメだよ、アスラ私だってわからないんだよ。もう探しても無理だよ、もうアスラ帰ってこないよ…。」すると、祖母は「あんた何言ってるのよ、アスラ見たんでしょ?つまり生きてるってことでしょ!生きてるってわかったのなら、なおさら諦めるわけにはいかないでしょ!このままだとアスラが野犬になっちゃうのよ、あんたそれでもいいの?私たちが一緒にいればアスラだってわかるはずよ」と言ったそうです。

その日から二人で一緒に探すことになったのですが、それ以降アスラを見かけることはありませんでした。また、一ヶ月…二ヶ月が過ぎようとしていました…。

諦めかけようとしていたある日の帰り道でした。二人が農道を歩いていると、遠くに汚れた灰色をした犬が道を横切って歩いていた。母は「あれアスラじゃないよね…アスラあんな汚くないもん…」祖母が「いや、アスラよ!きっとアスラよ!」と言ったその瞬間。灰色に汚れた犬がこちらを向き、まっしぐらに駆けてきたのです。その犬は母と祖母に駆けてくると、すごい勢いで飛びついたのです。

真っ黒だった毛並みは、汚れのせいで灰色になっていました。その帰り道、車の中で普段は泣き声などたてないアスラが泣いていたそうです。

そのアスラは僕が生まれるずっと前に亡くなりました。そして、迷惑ばかりかけつづけたけど、大学に合格したという報告も出来ずに、僕が18の時に祖母も亡くなりました。祖母が亡くなり、自分自身何をしたらよいのかわからず浪人していた頃、気落ちしていた僕に母が話してくれた話です。

そんな我が家ですが、今僕の家には5代目の名前をもらったアスラが暮らしています。

A man is not finished when he is defeated. He is finished when he quits.

「人間は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。」 R. Nixon



〔唐獅子図屏風〕 by 狩野永徳



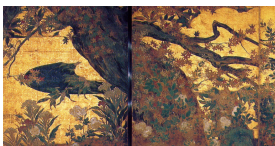
〔牡丹図〕 by 狩野山楽



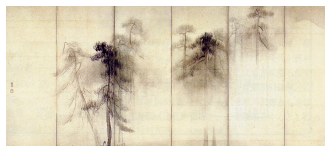
〔松鷹図〕 by 狩野山楽



〔花下遊楽図屏風〕 by 狩野長信



〔智積院襖絵〕 by 長谷川等伯



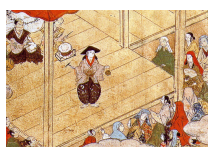
〔松林図屏風〕 by 長谷川等伯



〔山水図屏風〕 by 海北友松



〔欄間〕



〔阿国歌舞伎〕



〔南蛮屏風〕



〔天草版平家物語〕

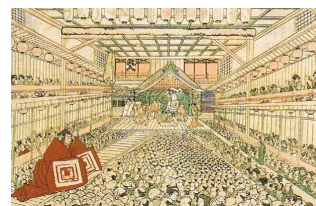


特徴	(桃山文化)	寛 永 文 化 ①桃山文化の継承/②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化	元 禄 文 化 上方(京都・大坂)を中心とした町人文化
建 築		①<b>権現造</b>(霊廟建築様式の一つ)  <b>日光東照宮</b>(徳川家康を東照大権現として祀る)            ②<b>数寄屋造</b>(書院造に茶室風建築の様式を取り入れる)  <b>桂離宮</b>(八条宮智仁親王の別邸)  <b>修学院離宮</b>(後水尾上皇の山荘)	東大寺大仏殿            松永久秀により焼失したため1705年再建  <b>善光寺本堂</b>            火災により焼失したため1707年再建    〔日光東照宮〕
小 説	御伽草子 (室町文化～)	→ <b>仮名草子</b>(仮名書きによる啓蒙・教訓など            様々な内容を扱った小説の総称)	→ <b>浮世草子</b>(町人・武家社会の生活を描いた風俗小説)  <b>井原西鶴</b>(浮世草子の祖)            好色物『<b>好色一代男</b>』(世之介の愛欲生活を描く)            『<b>好色五人女</b>』(実在した5件の恋愛事件を描く)            『<b>好色一代女</b>』(好色女の愛欲生活と転落を描く)            武家物『<b>武道伝来記</b>』(武家の敵討ちが題材)            『<b>武家義理物語</b>』(武家社会の義理が題材)            町人物『<b>日本永代蔵</b>』(町人社会の出世・没落を描く)            『<b>世間胸算用</b>』(大晦日の借金取り立てを描く)
俳 諧	山崎宗鑑 (俳諧連歌)	→ <b>松永貞徳</b>＝<b>貞門俳諧</b>            ↓            ★<b>貞門派</b>(保守的で形式的な作品) ex. 北村季吟  <b>西山宗因</b>＝<b>談林俳諧</b>            ★<b>談林派</b>(自由奔放な作品) ex. 井原西鶴	→ <b>松尾芭蕉</b>＝<b>蕉風(正風)俳諧</b>            『<b>野ざらし紀行</b>』(江戸～大和までの俳文紀行)            『<b>笈の小文</b>』(江戸～関西地方までの俳文紀行)            『<b>奥の細道</b>』(江戸～奥羽・北陸～美濃大垣までの俳文紀行)            『<b>猿蓑</b>』(芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)
浄 瑠 璃	人形浄瑠璃	→ 人形浄瑠璃	<b>竹本義太夫</b>(語り＝義太夫節)  <b>辰松八郎兵衛</b>(人形遣い)  <b>近松門左衛門</b>(脚本)            時代物『<b>国性(姓)爺合戦</b>』            明の復興をはかった鄭成功の史実を脚色            世話物『<b>曾根崎心中</b>』(徳兵衛と遊女お初的心中物語)            『<b>冥途の飛脚</b>』(忠兵衛と遊女梅川の墮落失敗)            『<b>心中天網島</b>』(治兵衛と遊女小春の心中物語)
歌 舞 伎	阿国歌舞伎	→ <b>女歌舞伎</b>(1629年幕府により禁止)            ↓  <b>若衆歌舞伎</b>(1652年幕府により禁止)            ↓  <b>野郎歌舞伎</b>	→ <b>元禄歌舞伎</b>  <b>江戸＝市川団十郎</b>(<b>荒事</b>) (勇猛な演技)  <b>上方＝坂田藤十郎</b>(<b>和事</b>) (恋愛的な演技)  <b>上方＝芳沢あやめ</b>(<b>女形</b>) (女優)

本草学	<b>貝原益軒</b> (本草学の基礎)『 <b>大和本草</b> 』 <b>稻生若水</b> (本草学を大成)『 <b>庶物類纂</b> 』
和算	<b>吉田光由</b> (和算の基礎)『 <b>塵劫記</b> 』 <b>関 孝和</b> (和算を大成)『 <b>発微算法</b> 』
暦学	<b>洪川春海</b> ( <b>安井算哲</b> ) (幕府の天文方に任じられる) 従来の宣明暦に代わり、元の授時暦を参考にして貞享暦を作成



〔人形浄瑠璃(曾根崎心中)〕



〔歌舞伎(中村座)〕

特徴	化政文化(大御所時代) 江戸を中心とした享乐的・退廃的な町人文化		
	田沼時代(宝暦・天明期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(文化・文政期の文化)
文学	<b>小説</b>   読本(草双紙に対し、文章を読むことを主体とした小説)            前期読本(怪奇物を題材) → 後期読本(歴史物を題材)            上田秋成『雨月物語』 滝沢(曲亭)馬琴『南総里見八犬伝』(里見家を題材)            『椿説弓張月』(源為朝を題材)   浮世草子 → 滑稽本(滑稽を要素とした会話中心の小説)            十返舎一九『東海道中膝栗毛』            式亭三馬『浮世風呂』『浮世床』   洒落本(遊里での会話を主体とした小説)            山東京伝『仕懸文庫』   人情本(男女間の恋愛小説)            為永春水『春色梅児誉美』   寛政の改革   処罰   天保の改革   処罰   草双紙(絵を主体とした小説の総称)            赤本 → 青本・黒本 → 黄表紙(大人向けの絵入り小説)            恋川春町『金々先生栄花夢』   台巻(黄表紙を数冊分綴じた長編絵入り小説)            柳亭種彦『修紫田舎源氏』		
	<b>俳諧</b>   与謝蕪村(俳諧を中興/文人画を大成『十便十宜図』) → 小林一茶(強者への反感・弱者への同情をうたう)            『蕪村七部集』 『おらが春』		
	<b>その他</b>   ①和歌=香川景樹(桂園派の祖・古今調の和歌)            良寛(越後出雲崎の禅僧・万葉調の和歌)            ②紀行文=鈴木牧之『北越雪譜』(雪国の自然や生活を紹介)            菅江真澄『菅江真澄遊覧記』(東北地方を巡歴)   ③狂歌=大田南畝(蜀山人・四方赤良・寝惚け先生)            石川雅望(宿屋飯盛)            ④川柳=柄井川柳『俳風柳多留』		
芸能	<b>浄瑠璃</b>   竹田出雲 → 近松半二 → 歌(唄)浄瑠璃(人形操りを離れた演奏中心)            『仮名手本忠臣蔵』(赤穂浪士の討入りを素材) 『本朝廿四孝』(衰退)            『菅原伝授手習鑑』(菅原道真の左遷を題材) 常盤津節・新内節・清元節・一中節など		
	<b>歌舞伎</b>   一時停滞 → 再び隆盛 → 隆盛続く(歌舞伎脚本作者の活躍)            (一浄瑠璃に押される) (一舞台装置の開発・所作事の発達) 鶴屋南北『東海道四谷怪談』(生世話物)            ★江戸三座(中村座・市村座・森田座) 河竹黙阿弥『白浪五人男』(白浪物)		

教育機関	①幕府 朱子学=聖堂学問所(1691)→昌平坂学問所(昌平黌)(1797)            ★網吉時に上野忍ヶ岡の弘文館(林羅山の設立した林家の家塾)を湯島に移築→のち、昌平坂学問所として幕府の官立学校とする(1797)            洋学=蛮(蕃)書和解御用(1811)→洋学所(1855)→蕃書調所(1856)→洋書調所(1862)→開成所(1863)            ★高橋景保の建議により設置された洋書翻訳機関            医学=種痘所(1858)→医学所(1863) ★伊東玄朴が設立した牛痘接種機関→のち、幕府に移管され(1860)、医学所と改称(1863)		
	②諸藩 藩校(藩学)(藩士の子弟教育機関)・郷校(郷学)(藩士の子弟・庶民教育機関) ex. 開谷学校[岡山藩]・含翠堂[摂津野藩]            ③民間 寺子屋(読み・書き・算盤を教える庶民教育→『庭訓往来』・『実語教』・『童子教』などを初等教科書として使用)		
	明徳館(秋田藩)=佐竹義和            養賢堂(仙台藩)=伊達吉村            興譲館(米沢藩)=上杉治憲            日新館(会津藩)=松平容頌            弘道館(水戸藩)=徳川斉昭            明倫堂(加賀藩)=前田治脩            明倫堂(尾張藩)=徳川宗睦	花島教場(岡山藩)=池田光政            ★郷校=開谷学校(岡山藩)            修道館(広島藩)=浅野重晟            明倫館(長州藩)=毛利吉元            修猷館(福岡藩)=黒田斉隆            時習館(熊本藩)=細川重賢            造士館(薩摩藩)=島津重豪	私塾(設立者)            洗心洞(大坂)=大塩平八郎            懷徳堂(大坂)=中井鶯庵            学主=三宅石庵→中井鶯庵→中井竹山            出身者=富永仲基『出定後語』・山片蟠桃『夢の代』            咸宜園(豊後日田)=広瀬淡窓            松下村塾(長州)=吉田松陰の叔父            出身者=久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・前原一誠

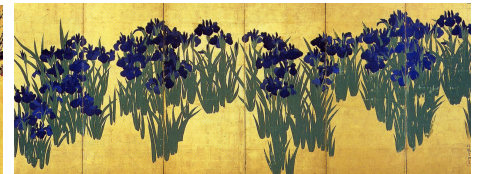
特徴	(桃山文化)		寛 永 文 化 ①桃山文化の継承/②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化		元 禄 文 化 上方(京都・大阪)を中心とした町人文化	
	風俗画					
絵 画	(狩野派)	狩野永徳 → 狩野探幽 (幕府御用絵師) 『大徳寺方丈襖絵』	→ 久隅守景 『夕顔棚納涼図屏風』	→ 英一蝶 (明治期まで続く)		
	障壁画 (土佐派)	土佐光信 (室町期)	→ [土佐派] 土佐光起 (官廷絵所預) → [住吉派] 住吉如慶 (住吉派の祖)		→ 住吉具慶 (幕府御用絵師) 『洛中洛外図巻』	(明治期まで続く)
	(琳派)	装飾画 (大胆な構図で、装飾性に富んだ大和絵) 俵屋宗達 (琳派の先駆け) 『風神雷神図屏風』		→ 尾形光琳 (琳派の創始者) 『紅白梅図屏風』 『燕子花図屏風』		
工 芸	蒔絵	本阿弥光悦 「舟橋蒔絵硯箱」 ★蒔絵 (漆を塗った漆器に金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法)			尾形光琳 「八橋蒔絵硯箱」	
	陶磁器	楽焼 (長次郎が創始) [お国焼] 鍋島氏=有田焼 毛利氏=萩焼 島津氏=薩摩焼 松浦氏=平戸焼	→ 酒井田祐右衛門 (有田焼の陶工→色絵の創始者) 赤絵 (赤を基調とした色絵) の技法 ★「色絵花鳥文大深鉢」 ★色絵 (釉をつけた陶器や磁器に絵を描いて仕上げる技法) 色絵磁器=有田焼(肥前) 九谷焼(加賀)		野々村仁清 (京焼色絵陶器の創始者) ↓ 尾形乾山 (尾形光琳の弟)	
	その他				[染物] 宮崎友禪=友禪染 [仏像] 円空=鉦彫	



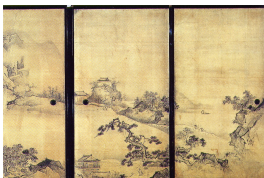
〔風神雷神図屏風〕 by 俵屋宗達



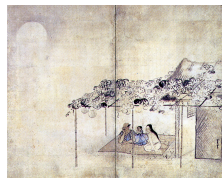
〔紅白梅図屏風〕 by 尾形光琳



〔燕子花図屏風〕 by 尾形光琳



〔大徳寺方丈襖絵〕  
by 狩野探幽



〔夕顔棚納涼図屏風〕  
by 久隅守景

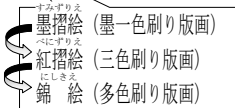


〔彦根屏風〕



〔見返り美人図〕  
by 菱川師宣



特徴	化政文化(大御所時代) 江戸を中心とした享乐的・退廃的な町人文化		
	田沼時代(宝暦・天明期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(文化・文政期)
絵画	<b>風俗画(浮世絵)</b> <b>鈴木春信=錦絵を創始</b> 『弾琴美人』 	<b>喜多川歌麿=美人画</b> 『婦女人相十品』 <b>東洲斎写楽=役者絵</b> 『市川鯉藏』	<b>葛飾北斎=風景画</b> 『富嶽三十六景』 <b>歌川(安藤)広重=風景画</b> 『東海道五十三次』
	<b>文人画(南画)</b> 『文人や学者が余技として描いた絵画』 <b>池大雅+与謝蕪村</b> 『十便十宜図』(二人による合作)	<b>谷文晁</b> 田能村竹田 (豊後竹田の人/谷文晁の門人)	<b>渡辺崋山(谷文晁の門人)</b> 『鷹見泉石像』
	<b>洋風画</b> 『西洋画の手法に基づき描かれた絵画』 <b>平賀源内</b> → <b>小田野直武</b> 『西洋婦人図』 『解体新書』の挿絵を描く	<b>司馬江漢=銅版画を創始</b> 『不忍池図』(油絵) ★銅版画 (銅版を薬品で腐食させた版画)	<b>亜欧堂田善</b> 『浅間山図屏風』
	<b>写生画</b> 『遠近法や陰影法を用いた写実的絵画』 <b>円山応挙(円山派を創始)</b> 『雪松図屏風』	<b>呉春(松村月溪)</b> (四条派を創始) 『柳鶯群禽図屏風』	



〔弾琴美人〕  
by 鈴木春信



〔婦女人相十品〕  
「ポッピンを吹く女」  
by 喜多川歌麿



〔市川鯉藏〕  
by 東洲斎写楽



〔富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」〕  
by 葛飾北斎



〔東海道五十三次「庄野」〕  
by 歌川広重



〔十便十宜図「釣便図」〕  
by 池大雅



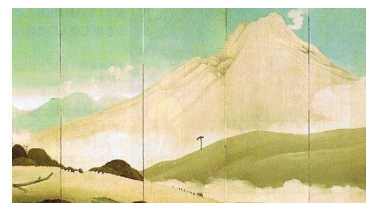
〔鷹見泉石像〕  
by 渡辺崋山



〔西洋婦人図〕  
by 平賀源内



〔不忍池図〕 by 司馬江漢



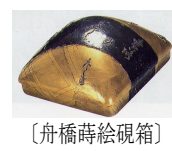
〔浅間山図屏風〕 by 亜欧堂田善



〔雪松図屏風〕 by 円山応挙



〔色絵花鳥文大深鉢〕  
by 酒井田柿右衛門



〔舟橋蒔絵硯箱〕



〔八橋蒔絵硯箱〕



〔護法神像〕 by 円空

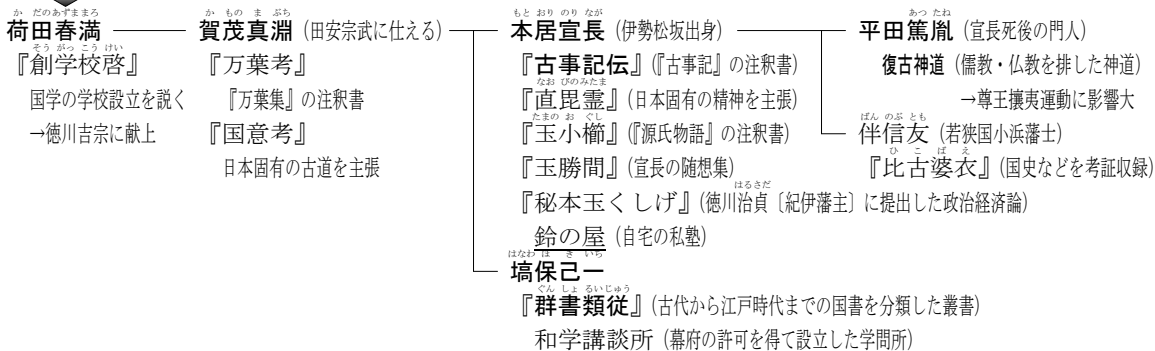
朱子学	<b>朱子学</b> (南宋の朱熹(朱子)が大成)          → 「大義名分論」(君臣や親子といった上下の秩序・身分を重んじる)           <b>[寛政異学の禁(1790)]</b>          儒学のうち朱子学を正学とし、朱子学以外の学派を異学とする          聖堂学問所での朱子学以外の講義を禁止 (柴野栗山の建議)           <b>[京学派]</b> (京都を中心に発達した朱子学の一派)                <b>林羅山</b>(道春) — <b>林鷺峰</b>(春斎) — <b>林信篤</b>(鳳岡)   家康〜家綱の侍講 『<b>本朝通鑑</b>』   藤原惺窩 — 近世朱子学の祖 → 相国寺の僧となり 朝鮮の儒学者姜沆 から朱子学を学ぶ   松永尺五 — <b>木下順庵</b>   前田綱紀(加賀藩主)に仕える → のち、綱吉の侍講となる   新井白石(家宣・家継の侍講)   室鳩巢(吉宗の侍講) 『<b>六諭衍義大意</b>』(庶民教育に用いられる)   雨森芳洲(対馬藩に仕え朝鮮との外交にあたる)       <b>柴野栗山</b>   林羅山が上野忍ヶ岡に設立した弘文館(林家の家塾)を 湯島に移築した<b>聖堂学問所</b>の初代大学頭となる(綱吉時)   尾藤二洲   岡田寒泉 (古賀精里)   三宅石庵・中井養庵・中井竹山        <b>[南学派(海南学派)]</b> (土佐に興った朱子学の一派)          (南村梅軒) — <b>谷時中</b> — <b>野中兼山</b>(土佐藩家老)  <b>山崎闇斎</b>          保科正之(会津藩主)に仕える          → <b>垂加神道</b>(吉川神道と朱子学を結合)を創始
陽明学	<b>陽明学</b> (明の王陽明が創始) → 「知行合一」(知識は人間の経験・実践を通して初めて本当の知となるという思想)              <b>中江藤樹</b> — <b>熊沢蕃山</b>(池田光政[岡山藩主]に仕える)   『<b>翁問答</b>』(師と門人の問答形式) 『<b>大学或問</b>』(武士の帰農や参勤交代の緩和を主張)   藤樹書院(近江) → 幕政も批判したため下総古河に幽閉        <b>[懷徳堂(大坂)]</b>            (大坂町人が出資して設立)            出身=富永仲基『<b>出定後語</b>』            山片蟠桃『<b>夢の代</b>』
古学	<b>古学</b> (朱熹の朱子学や王陽明の陽明学などの解釈を排し、孔子・孟子の原典から聖人の真意を汲み取ろうとする)               <b>聖学</b> <b>山鹿素行</b>            『<b>聖教要録</b>』(朱子学を批判し、古代の聖賢に戻ることを主張→赤穂に配流される)            『<b>中朝事実</b>』(「中華」の中心は中国ではなく、日本こそ「中華」であることを主張)            『<b>武家事紀</b>』(武家政治の由来・武家の儀礼・風俗・習慣などを集大成した実用書)             <b>古義学派</b> (堀川学派) <b>伊藤仁斎</b> — <b>伊藤東涯</b> — <b>青木昆陽</b>  <b>古義堂</b>(堀川塾)(京都)             <b>古文辞学派</b> (護園学派) <b>荻生徂徠</b> — <b>太宰春台</b>            『<b>政談</b>』(吉宗の諮問に答える) 『<b>経済録</b>』(武士の土着を説く)  <b>護園塾</b>(江戸) 『<b>経済録拾遺</b>』(藩専売制を説く)
経世論  社会批判	① <b>海保青陵</b> 『<b>稽古談</b>』(藩専売制の採用など重商主義を説く)     ② <b>本多利明</b> 『<b>西域物語</b>』(海外貿易による富国策を説く) 『<b>経世秘策</b>』(蝦夷地の開発・海外貿易による富国策を説く)     ③ <b>佐藤信淵</b> 『<b>農政本論</b>』(農政の心得・農業による富国策を説く) 『<b>経済要録</b>』(流通の国家統制による富国策を説く)              ① <b>富永仲基</b>(懷徳堂出身) 『<b>出定後語</b>』(儒教・仏教・神道を歴史的立場から否定)     ② <b>山片蟠桃</b>(懷徳堂出身) 『<b>夢の代</b>』(無神論により儒教・仏教を批判)     ③ <b>林子平</b>(寛政三奇人) 『<b>三国通覧図説</b>』(朝鮮・琉球・蝦夷の地理的關係を解説) 『<b>海国兵談</b>』(ロシアの南下を警告し、海防の警備を主張)     ④ <b>安藤昌益</b>(八戸の医師) 『<b>自然真営道</b>』(万人が農耕に従事することで、階級のない万人平等の社会「自然の世」を理想とする)     (⑤ <b>三浦梅園</b> 『<b>玄語</b>』(儒学と洋学の知識をあわせた自然哲学である「条理学」を説く))     (⑥ <b>佐久間象山</b> 「<b>和魂洋才</b>」(東洋の道徳(精神)・西洋の芸術(技術)との融合を説く))            <b>[水戸学(大義名分による皇室尊崇を説く)]</b>            前期=尊王論(中心=徳川光圀)            ↓            → 江戸の彰考館で『大日本史』の編纂事業            後期=尊王攘夷論(中心=徳川斉昭)            水戸藩の藩校(藩学)として弘道館を設立  <b>藤田幽谷</b> 『<b>正名論</b>』  <b>藤田東湖</b> 『<b>弘道館記述義</b>』  <b>会沢安</b>(正志斎) 『<b>新論</b>』            [尊王論者](幕政批判で処罰される者も)                ① <b>竹内式部</b>(1758年の宝暦事件で京都追放)     ② <b>山県大弼</b>(1767年の天明事件で死罪となる) 『<b>柳子新論</b>』で尊王論を説き幕政を批判したため     ③ <b>頼山陽</b> 『<b>日本外史</b>』(歴史書)     ④ <b>高山彦九郎</b>・<b>蒲生君平</b>(寛政の三奇人)

**国学**『万葉集』や『古事記』などの日本古典の研究から、日本固有の民族精神を明らかにしようとする学問)

[国学の先駆]

- ①北村季吟『源氏物語湖月抄』(『源氏物語』の注釈書)
- ②戸田茂睦『梨本集』(古今伝授や制禁の詞など従来の拘束を排斥し、歌学の改革を主張した歌論書)
- ③契沖『万葉代匠記』(徳川光圀〔水戸藩主〕の命で編纂した『万葉集』の注釈書)

国  
学



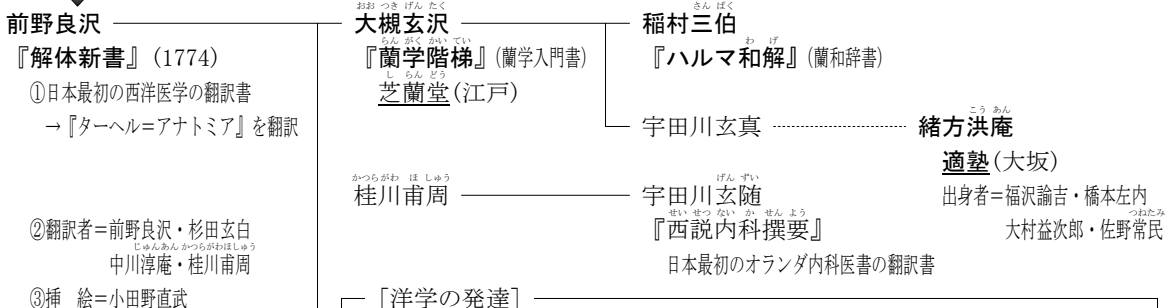
[蘭学の先駆]

- ①西川如見『華夷通商考』(長崎で見聞した海外事情を紹介した外国地理書)
- ②新井白石『西洋紀聞』(西洋の地理・風俗などを記録→極秘に伝えられる)  
『采覧異言』(世界の地理・風俗などを記録→将軍に献上される)
- ③漢訳洋書 (中国語に翻訳された洋書) の輸入制限の緩和 (享保の改革)  
→青木昆陽・野呂元丈にオランダ語の学習を命じる

[新井白石の著書]

- 『折たく柴の記』(家継死後の隠退までの自叙伝)  
『西洋紀聞』(西洋の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
『采覧異言』(世界の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
『読史余論』(九変五変論で幕府の正統性を説いた史論書)  
『古史通』(『日本書紀』の合理的注釈書)  
『藩翰譜』(大名の系譜と伝記を集録)  
『東雅』(日本の古代語の辞書)

蘭  
学



杉田玄白 (すぎた げんぱく) ————  
『蘭学事始』  
杉田玄白の『解体新書』翻訳時の苦心談

[洋学の発達]

- ①物理学=平賀源内……エレキテル・寒暖計・火流布 (石綿) を発明
- ②化学=宇田川榕庵…『舍密開宗』(日本最初の西洋化学の翻訳書)
- ③天文学=志筑忠雄……『暦象新書』(ニュートンの力学やコペルニクスの地動説などを紹介)
- ④暦学=高橋至時……「寛政暦」を作成 ★貞享暦(洪川春海)→宝暦暦→寛政暦
- ⑤地理学=伊能忠敬……「大日本沿海輿地全図」を作成
- ⑥医学=シーボルト…鳴滝塾 (長崎) (出身者=高野長英・小関三英)  
★シーボルト事件 (1828年、高橋景保〔幕府天文方〕を処分・シーボルトを国外追放)  
伊東玄朴……種痘所 (江戸) を開設 (→のち、幕府に移管され医学所に改称)

心  
学

**心学** (神道・儒教・仏教などの諸説を融合し、町人道德を説いた平易な庶民の学問)  
→人間性の尊さにおいては平等→商人の存在意義と商業の正当性を説く

石田梅岩 (いしだ うめいわ) ———— 手島堵庵 (てしま とうあん) ———— 中沢道二 (なかつさ だうに)  
『都鄙問答』(心学の根本原理を説く) 京都に明倫舎を創設 江戸に参前舎を創設

漢  
学  
など

寺子屋 (読み・書き・算盤を教える近世の庶民教育機関)  
松下村塾 (長州) (吉田松陰が長門萩に開設した私塾)  
出身者=久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・品川弥二郎など  
咸宜園 (豊後) (広瀬淡窓が豊後日田に開設した私塾)



明治初期	①神道国教化の推進 (王政復古による祭政一致の立場から神道国教化政策を推進)   1868年 神仏分離(判然)令 (神仏混淆を禁止した法令) → 廃仏毀釈 (仏教排斥運動) が激化 (→ 仏教衰退) ★島地黙雷 (浄土真宗の僧)・井上円了 (哲学館を創立) らが仏教復興に努力   1870年 大教宣布の詔 (神道国教化の推進を表明) 宣教師による神道国教化の推進→失敗   1873年 祝祭日の制定 紀元節＝2月11日 (神話上の神武天皇即位日) 天長節＝11月3日 (天皇誕生日)   ②啓蒙思想   中村正直 『西国立志編』 (スマイルズの『自助論(Self Help)』を翻訳) 『自由之理』 (ミルの『自由論(On Liberty)』を翻訳)   福沢諭吉 『西洋事情』 (欧米諸国の諸制度・実情を紹介) 『学問のすゝめ』 (学問による個人の独立・国家の隆盛を説く) 『文明論之概略』 (自国の自主独立のための西洋文明の摂取を説く) 『国会論』 (イギリスをモデルとした三権分立を伴った立憲君主制を説く)   1873年 明六社結成 (初代社長＝森有礼 [初代文相]) 社員＝福沢諭吉・中村正直・加藤弘之・西周 (『万国公法』) 津田真道 (『泰西国法論』)・西村茂樹 (『日本道徳論』)   1874年 『明六雑誌』 (明六社の機関誌) 発行	――[神道国教化政策]――   1869年 神祇官 (版籍奉還後の官制改革で設置) ★招魂社 (戊辰戦争の戦没者を祭る) →靖国神社と改称(1879)   1871年 神祇省 (廃藩置県後の官制改革で設置)   1872年 教部省 (のち、1877年に廃止)
明治10年代	③民権論 (人民の権利伸張を第一に主張する考え→フランスの天賦人権論を基礎理論とする)   加藤弘之 『国体新論』『真政大意』 (天賦人権論を紹介) 中江兆民 『民約訳解』 (ルソーの『社会契約論』を翻訳) 植木枝盛 『民権自由論』 (民衆に平易に民権思想を説く)   ④国権論 (国家の権利伸張を第一に主張する考え)   加藤弘之 『人権新説』 (ダーウィンの進化論の立場から天賦人権論を否定)   馬場辰猪 『天賦人権論』 (加藤弘之の『人権新説』を批判) (反発) 植木枝盛 『天賦人権弁』 (加藤弘之の『人権新説』を批判)   福沢諭吉 「脱亜論」 (『時事新報』に発表した「脱亜入欧」を説いた論説)	図解NOTE [近代思想の展開]   ①明治維新後、政府は近代化政策を推進 → 欧米の新しい制度・知識・思想 などを知識人たちが紹介 (啓蒙思想) ex. 天賦人権論(思想) by ルソー (フランス) 「人は生まれながらにして平等である」   ②民権論 (国民の利益を優先しろ) → 五箇条の御誓文の「公儀世論の尊重」を根拠に国会設立・憲法 制定を要求＝自由民権運動   ③国権論 (国家の発展を優先しろ) → 後に国民の利益につながる   ④壬午軍乱(1882)・甲申政変(1884)以後、 朝鮮における日本の影響力が後退 → 福沢諭吉の「脱亜論」(1885) (国権論に与してアジア進出を説く)
明治20年代	⑤近代的民族主義   ――(1) 国粹(保存)主義 (政府の欧化政策を批判して、日本的な伝統・美意識の尊重を説く) 三宅雪嶺・志賀重昂→政教社を結成し『日本人』(雑誌)を発行   ――(2) 国民主義 (政府の欧化政策を批判して、国家の独立・国民の統一・公共の利益を説く) 陸 羯南→『日本』(新聞)を発行   ――(3) 日本主義 (日清戦争後に海外進出を唱え、君民一体・国祖崇拜など伝統の重視を説く) 高山樗牛→『太陽』(雑誌)を発行   ⑥平民的欧化主義   ――(1) 平民主義 (政府による上からの貴族的欧化主義を批判し、平民による下からの平民的欧化主義を説く) 徳富蘇峰→民友社を結成し『国民之友』(雑誌)・『国民新聞』(新聞)を発行 ★徳富蘇峰は日清戦争を機に国家主義へ転じ、対外膨張論を説き、『大日本膨張論』を著す	⑤条約改正交渉における井上馨外相の 欧化主義(西洋文化無批判の模倣)に反発 → 日本民族の尊重を主張 (近代的民族主義)   (1) 国粹保存主義 (日本の伝統を重視) (2) 国民主義 (国民の自立・統一を重視) (3) 日本主義 (日本の大陸進出を肯定)
明治30年代	日清戦争で獲得した遼東半島をロシアの圧力により返還させられる (三国干渉) → 近代的民族主義が発展＝国家主義 (国民の利益よりも国家の利益を優先)   ⑦国家主義 (国家の利益を個人の利益より優先させる思想)   1908年 戊申詔書 (日露戦争後の国家主義思想強化のため、国民の勤儉・節約と皇室の尊重を説く)   1909年 地方改良運動 (内務省が中心となり推進した地方自治体の財政再建と農業復興運動)	――[社会主義]――   (1) キリスト教社会主義 高野房太郎・安部磯雄・木下尚江   (2) ドイツ流社会主義 幸徳秋水・片山潜・堺利彦

大正	①美濃部達吉(憲法学者・東大教授・貴族院議員) in 『憲法講話』(1912)・『憲法撮要』(1923) →天皇機関説(統治権は法人である国家にあり、天皇はその国家法人の最高機関として、憲法に従って統治権を行使するという憲法学説) →天皇の統治権は憲法の制約を受ける(ドイツ人イエリネックの国家法人説に基づく) 天皇主権説(統治権は天皇にあり、天皇の権力行使の制限はないとする憲法学説)→上杉慎吉(徳積八束に師事)らが主張 ②吉野作造(政治学者・東大教授) in 『中央公論』(1916)(論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表) →民本主義(主権在民の民主主義とは一線を画し、主権在君の明治憲法での民衆の政治参加のため、普通選挙法と政党内閣制の実現を説く)	
	1920年 森戸事件(森戸辰男の論文「クロボトキンの社会思想の研究」が危険思想とされる) [原敬内閣] →森戸辰男[東大助教授]と掲載した大内兵衛(編集署名人)が休職処分となる 1933年 佐野学・鍋山貞親(共産党幹部)の転向(獄中で国家社会主義への転向を声明) 1933年 滝川事件(滝川幸辰[京大教授]の『刑法読本』が反国体的として鳩山一郎[文相]が休職処分) 1935年 天皇機関説問題(貴族院で菊池武夫が美濃部達吉の天皇機関説が国体に反する学説と非難) [岡田啓介内閣] →著書『憲法撮要』が発禁処分となり、美濃部達吉は貴族院議員を辞職 ↓ 1935年 国体明徴声明(政府は「天皇は統治権の主体」と声明→天皇主権説を支持、天皇機関説を否定) 1937年 矢内原事件(『国家の理想』・『帝国主義下の台湾』で大陸政策を批判した矢内原忠雄[東大教授]が反戦思想と攻撃され辞職) ★キリスト教徒として人権尊重の立場から、軍部の戦争政策、日本の帝国主義的植民地政策を批判したため 1937年 第1次人民戦線事件(加藤勤十・山川均・鈴木茂三郎ら日本無産党員を検挙→日本無産党解散) 1938年 第2次人民戦線事件(大内兵衛・有沢巳巳・美濃部亮吉ら労働派学者を検挙) ★人民戦線(ファシズムに反対する団体)結成を企図したとして弾圧 1938年 河合栄治郎筆禍事件(河合栄治郎[東大教授]の『ファシズム批判』がファシズムに反対するものとして発禁処分とされる) 1940年 津田左右吉筆禍事件(津田左右吉[歴史学者]の『神代史の研究』が皇室の尊厳を傷つけるものとして発禁処分とされる)	―― [特別高等警察(特高)] ―― (社会運動や思想の取り締まりにあたる警察) 1911年 警視庁内に設置 大逆事件(1910)後に設置 1928年 全国の警察に設置 3.15事件(1928)後に設置
昭和初期	1948年 文化勲章(日本文化の向上・発達に寄与した者に授与される勲章)の復活 1949年 日本学術会議(学術の発達・国民生活の反映を目的とした学界の最高代表機関) 1949年 法隆寺金堂壁画の焼損 1950年 文化財保護法(文化財の保護活用をはかるための法律) →のち、文化庁(文化財の指定・保護などにあたる)設置(1968) 1953年 NHKテレビ本放送開始 1964年 東京オリンピック開催 1964年 東海道新幹線(東京～大阪間)開通 1965年 名神高速道路(最初の自動車専用高速道路)開通 ―― [都市問題の深刻化(急速な経済発展に伴い社会問題が発生)] ―― ①公害問題(四大公害訴訟=水俣病・イタイイタイ病・新潟水俣病・四日市喘息) ②都市公害(光化学スモッグ・大気汚染・水質汚濁・地盤沈下・騒音・交通難・住宅難) ③都市の過密化・農村の過疎化(農村の農業衰退・食糧自給率の低下が進む)	―― [核兵器制限] ―― 1963年 部分的核実験停止条約 地下実験を除く水中核実験の禁止 1967年 非核三原則 by 佐藤栄作 ↓ 核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず 1968年 核兵器拡散防止条約 核兵器保有国を拡大させないための条約 1986年 チェルノブイリ原発事故 1987年 INF全廃条約 米ソ2国の中距離核戦力の全廃を約束
	1967年 公害対策基本法(公害対策の推進をはかるため大気汚染・水質汚濁などを規制) ★環境基本法(1993)に引き継がれる(環境問題の複雑化・地球規模化に伴い制定) 1970年 日本万国博覧会開催(シンボルは中央広場の「太陽の塔」(作=岡本太郎)) 1971年 環境庁設置(中央公害対策本部(1970)が前身) 1992年 地球サミット(リオデジャネイロで開かれた国連会議→「アジェンダ21」を採択) 1997年 地球温暖化防止京都議定書(160以上の国・地域・NGOが参加) 1997年 京都議定書(地球温暖化防止京都議定書で採択→日本は2002年に国会で国内批准) ①内 容=二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減率・排出量取引などを定める ②意 義=二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減の数値目標を具体的に示す ③問題点=世界2位(当時1位)のCO2排出国のアメリカが京都議定書から離脱 発展途上国に対してガス排出削減義務が課されていない	―― [戦後の文化人] ―― ①黒澤 明(映画監督) 『羅生門』でベネチア国際映画祭グランプリ受賞(1950) ②溝口健二(映画監督) 『西鶴一代女』でベネチア国際映画祭国際賞受賞(1952) ③美空ひばり(歌手) 『柔』・『川の流れるように』などが代表作 ④手塚治虫(漫画家) 『鉄腕アトム』など「戦後ストーリー漫画の開拓者」 ⑤長嶋茂雄(野球選手) 読売巨人軍背番号「3」(永久欠番)・終身名誉監督 ⑥三浦知良(サッカー選手) 93年のドーハの悲劇を体験・93年Jリーグ初代MVP →のち、98年の仏W杯のスイス直前合宿で代表落選 ★日本サッカー界の至宝「キングKAZU」

明治初期	①戯作文学 (江戸後期の遊戯的文芸の総称で、明治初期に継承)              仮名垣魯文「安愚楽鍋」(文明開化の風俗を牛鍋屋の客を通して描く)              「西洋道中膝栗毛」(弥次・喜多のロンドン見物道中記)	<b>図解NOTE [近代文学の発展]</b>   現実的・客観的      理想的・主観的   写実主義 → ロマン主義   自然主義 (真実のみを強調) → 反自然主義 (高踏派・余裕派)   新思潮派 (深い洞察力) → 理想主義 (理想主義)   耽美派 (虚構性を重視)   白樺派 (理想主義)   日清戦争…日本の自立を確保する戦争              →個人の自立を求めるロマン主義と結合              日露戦争…国民に挫折感を与える              →理想を排した写実的な自然主義へ
明治10年代	②政治小説 (自由民権運動の政治思想を宣伝・啓蒙する目的で書かれた小説)              末広鉄腸「雪中梅」(青年政治家国野基の自由民権運動活動を描く)              矢野竜溪「経国美談」(古代ギリシアになぞらえて民権思想を宣伝)              東海散士「佳人之奇遇」(憂国の青年東海散士の活躍を描く)	
明治20年代前半	③写実主義 (人生や社会の現実をありのまま客観的に描く作風=近代文学の誕生)              坪内逍遙              「小説神髓」(ありのままに描写する写実主義を唱えた文学論)              「当世書生気質」『小説神髓』の趣旨にそい、写実的に描いた小説              二葉亭四迷 ★言文一致体 (文章を話し言葉に近い口語体で表現する)              「浮雲」(小市民生活における人々の心理を言文一致体で描写)              「あひびき」(ツルゲーネフの『嵐日記』を翻訳)              「硯友社」(尾崎紅葉・山田美妙らが結成した文学結社)              『我楽多文庫』(硯友社の文芸同人誌)              山田美妙「夏木立」(言文一致体の短編集)              尾崎紅葉「金色夜叉」(金銭と愛情の相克を描く)              「多情多恨」(知識人の内面を描く)   ④理想主義 (東洋風の雄渾な作風)              幸田露伴「五重塔」(五重塔を建てる大工の姿を力強く描く)              ★「紅露時代」と呼ばれ、尾崎紅葉と幸田露伴は並び称された	
明治20年代後半	⑤ロマン主義 (日清戦争前後) (感情・空想を重んじ、個性の尊重と自我の解放を主張)              森 鷗外「舞姫」(ドイツを舞台とした太田豊太郎と踊り子エリスの恋愛)              「即興詩人」(伊の即興詩人アンデルセンの『愛の物語』を翻訳)              樋口一葉「たけくらべ」(遊郭に近い下町の少年少女たちの淡い恋を流麗に描く)              「にぎりえ」(銘酒屋の酌婦お力をめぐる人情の機微を精細に描く)              北村透谷『文学界』(1893年に創刊されたロマン主義文学の母体となった雑誌)              泉 鏡花「高野聖」(高野山の僧侶が飛騨山中で経験した神秘的な物語)              徳富蘆花「不如帰」(結核にかかった妻が病気感染を理由に離縁される悲劇を扱う)              「自然と人生」(散文詩風の文体で自然風物を写生する)	—— [詩歌] ——   ①俳句              正岡子規 「歌よみに与ふる書」              「病牀六尺」              ★写生を主張して俳句・短歌の革新をめざす              高浜虚子 『ホトトギス』(俳句雑誌)   ②短歌              (1) 明星派 (ロマン的歌風を主張)              与謝野鉄幹『明星』(短歌雑誌)              与謝野晶子「みだれ髪」              ★明星派では北原白秋や石川啄木も活躍              石川啄木 「一握の砂」(歌集)              「悲しき玩具」(歌集)              「時代閉塞の現状」(評論)   (2) アララギ派 (写実的歌風を主張)              伊藤左千夫『アララギ』(短歌雑誌)              長塚 節 「土」
明治30年代	⑥自然主義 (日露戦争前後) (理想を排して現実をありのままに描く→日本では私小説の方向に)              島崎藤村 「破戒」(被差別部落出身者の行き方を扱い、自然主義文学の先駆となる)              ★昭和初期には「夜明け前」(狂死した父をモデルに維新前後の苦闘の生活を描く)              田山花袋 「蒲団」(美しい女弟子芳子へ寄せる中年作家の欲情を描く)              「田舎教師」(利根川べりの田舎の小学校教師の短い生涯の物語)              国木田独步「武蔵野」(武蔵野の自然美を綴った短編集)              「牛肉と馬鈴薯」(現実と理想とを著した短編小説)              徳田秋声「徼」(無為・無理想の男の人生を客観的に描いた自伝的私小説)              「あらくれ」(自我と奔放に生きる女お島の半生を描く本格小説)              正宗白鳥「何処へ」(生活目標を失い「幻滅の悲哀」に生きるインテリの姿を描く)   ⑦反自然主義 (対象から一步離れて高所から眺める高踏派・余裕派)              夏目漱石「吾輩は猫である」「坊っちゃん」「三四郎」「道草」              「それから」「彼岸過迄」「こころ」「草枕」「明暗」              森 鷗外「阿部一族」「雁」	



明治末期 大正	<b>〔耽美派〕</b> 自然主義の現実志向に反発し、 官能的な美を最高の価値とする	<b>『スバル』</b> (耽美派を主とした文芸雑誌)・ <b>『三田文学』</b> (永井荷風が主宰した耽美派を主とした文芸雑誌) <b>永井荷風</b> 「腕くらべ」(新橋の芸者駒代の生活を通して、花柳界(芸者・遊女の社会)の人情の機微を写す) <b>谷崎潤一郎</b> 「刺青」(刺青師の清吉が刺青(入墨)を彫った女性の官能的姿とフェティシズムを描く) 「痴人の愛」(主人公がカフェで見出した少女のナオミにとりつかれ、破滅するまでを描写)
	<b>〔白樺派〕</b> 理想主義・人道主義・個人主義を 基調として、雑誌『白樺』によった 文学者グループ	<b>武者小路実篤</b> 「お目出たき人」(片思いの少女が結婚した後も、少女が自分を愛していたと信じる主人公の失恋話) 「その妹」(戦争で盲目となった画家と、兄の眼となっている妹が人間の葛藤に苦しむ姿を描写) <b>志賀直哉</b> 「暗夜行路」(母と祖父の子という出生の秘密に苦しむ主人公時任謙作の暗夜にも似た人生過程を描く) <b>有島武郎</b> 「カインの末裔」(北海道の荒涼たる自然と小作人の惨めな生活を背景に人間の希望と獣性を描写) 「或る女」(自我に目ざめた強い個性を持つ女性、早月葉子が転落する一生をまとめた長編小説) <b>倉田百三</b> 「出家とその弟子」(親鸞の弟子唯円や子善鸞の恋愛と信仰の対立の苦悩を戯曲化して描く)
	<b>〔新思潮派〕</b> 現実を明晰な知性によってとらえ 直す新現実主義を基調として、雑誌 『新思潮』によった文学者グループ	<b>芥川竜之介</b> 「鼻」(『今昔物語集』が素材となった15cmの異常な鼻の持ち主の心情を描写) 「羅生門」(『今昔物語集』が素材となった死者の髪を抜く老女と盗賊の物語) <b>菊池寛</b> 「恩讐の彼方に」(九州耶馬溪のトンネル開削にまつわる海・実之助の恩讐を超えた物語) 「父帰る」(20年前に妻子を捨て愛人と駆け落ちした父が帰ってきて展開される兄弟の心情の葛藤を描写) <b>久米正雄</b> 「破船」・「学生時代」・「受験生の手記」 <b>山本有三</b> 「女の一生」・「波」・「路傍の石」
大正末期 昭和初期	<b>〔プロレタリア文学〕</b> 社会主義思想による無産階級の文学 →労働者・農民の立場からその思想 や生活を描き現実の発展をめざす	<b>『種蒔く人』</b> (プロレタリア文学の出発点となった雑誌→関東大震災により廃刊) <b>『文芸戦線』</b> (1925年に結成された日本プロレタリア文芸連盟の機関誌的存在) <b>葉山嘉樹</b> 「海に生くる人々」(石炭を運んで室蘭・横浜間を往復する貨物船での船員の苦難と闘争を描く) <b>『戦旗』</b> (1928年に結成された全日本無産者芸術連盟(略称=ナップ)が発刊した機関誌) <b>徳永直</b> 「太陽のない街」(自分が印刷工として体験した1926年の共同印刷争議を素材に描く) <b>小林多喜二</b> 「蟹工船」(カムチャッカに出漁する蟹工船労働者たちの悲惨な労働条件とその争議を描く) ★後に共産党として非合法活動中に治安維持法によって逮捕され、特別高等警察の拷問により警察署で撲殺された
	<b>〔新感覚派〕</b> 自然主義的リアリズムに反発し、 感覚的・印象的な内容を表現する	<b>川端康成</b> 「伊豆の踊子」(下田に向かう旅芸人の一座と道連れになった、孤独に悩む少年の淡い恋と旅情を描く) 「雪国」(雪国の町に住む芸者と東京育ちの青年との純粋な愛情を描く) <b>横光利一</b> 「日輪」(邪馬台国女王卑弥呼を日輪にみたて、周辺の国々の王子たちが倒れる有様を描く) 「旅愁」(日中戦争前後のパリを主な舞台に、主人公矢代が愛する女性をめぐる悩み)
	<b>〔大衆文学〕</b> 広範な小市民階級の要求に応じて 出された娯楽的・商業的な通俗小説	<b>中里介山</b> 「大菩薩峠」(虚無にとりつかれた剣客机竜之介が幕末を舞台に展開する波乱の時代小説) <b>大佛次郎</b> 「鞍馬天狗」(鞍馬天狗の名をもつ志士を描く時代小説)・「赤穂浪士」(赤穂浪士を描く時代小説) <b>吉川英治</b> 「宮本武蔵」(剣禅一如を目指す求道者宮本武蔵を描いた歴史小説) <b>直木三十五</b> 「南国太平記」(南国薩摩藩の島津家をめぐるお家騒動を素材にした時代小説)
戦前 戦後	<b>〔児童文学〕</b> 童謡や童話など児童を対象とする	<b>鈴木三重吉</b> 『赤い鳥』(児童文学雑誌) 『蜘蛛の糸』・『ごんぎつね』などの童話を掲載
	①堀 辰雄 『風立ちぬ』(肺結核の婚約者と療養所で暮らす私が永遠の生を発見する物語) ②火野葦平 『麦と兵隊』(徐州作戦に軍報道班として従軍して描く→ベストセラーとなる) ③石川達三 『生きてゐる兵隊』(南京攻略時の日本軍の残虐を描く→発禁処分となる)	⑦松本清張 『点と線』 ⑧井上 靖 『天平の甕』 ⑨司馬遼太郎 『坂の上の雲』 ⑩三島由紀夫 『仮面の告白』 ⑪石原慎太郎 『太陽の季節』 ⑫大江健三郎 『飼育』・『個人的な体験』
	①大岡昇平 『俘虜記』 ②野間 宏 『真空地帯』 ③峠 三吉 『原爆詩集』 ④井伏鱒二 『黒い雨』 ⑤坂口安吾 『墮落論』・『白痴』 ⑥太宰 治 『斜陽』・『人間失格』	⑦松本清張 『点と線』 ⑧井上 靖 『天平の甕』 ⑨司馬遼太郎 『坂の上の雲』 ⑩三島由紀夫 『仮面の告白』 ⑪石原慎太郎 『太陽の季節』 ⑫大江健三郎 『飼育』・『個人的な体験』

## —— [詩歌(大正時代)] ——

- ①新体詩(西洋詩にならって生まれた新しい詩体)
- 高村光太郎 「道程」  
 萩原朔太郎 「月に吠える」 } 口語自由詩  
 室生犀星 「抒情小曲集」 }
- ②短歌
- (1) アララギ派(伊藤左千夫の死後)
- 斎藤茂吉 「赤光」  
 島木赤彦 「柿蔭集」

明治	功利主義的教育	1871 年 文部省 (教育行政を統轄する機関) ★初代文部卿＝大木喬任 1872 年 学 制 (フランス流の学制にならう) ★序文は「被仰出書(学事奨励に関する太政官布告)」 理念＝①功利主義的な教育観から立身出世を説く・②国民皆学・教育の機会均等 内容＝①画一的で中央集権的 (全国を8大学区・32中学区・210小学区に分ける) ex. 開智(小)学校 (1876年に落成した長野県松本市の和洋折衷式建築の小学校) ②学校の設立費や授業料は民衆の負担・③農民は児童という労働力が奪われる but 当時の実情に合わず、就学率は30%	図解NOTE [教育制度]
	自由主義的教育	1879 年 教育令 (アメリカ流の自由主義的教育制度にならう) ★文部大輔＝田中不二麿 教育方針を地方の実情に合わせるが、教育の混乱を招いたため翌年改正(1880) 1886 年 学校令 (ドイツ流の国家主義的な教育方針) ★初代文相＝森有礼 (伊藤①内閣) 帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令の総称 →小学校令 (尋常小学校(4年制)・高等小学校(4年制)→尋常小学校が義務教育) ★東京大学(1877)→帝国大学(1886)→東京帝国大学(1897)に改称	
	国家主義的教育(義務教育Ⅱ4年間)	1890 年 教育勅語 (教育の基本方針を示した明治天皇による「教育に関する勅語」) (山県①内閣) 起草＝井上毅・元田永孚 内容＝儒教的精神に基づく「忠君爱国」などの国民道徳を説く →内村鑑三不敬事件(1891) キリスト教徒の立場から教育勅語に拝礼を拒否 →井上哲次郎が「教育と宗教の衝突」で国家主義の立場からキリスト教を攻撃	
		〔中等・高等教育機関〕 1894 年 高等学校令 (高等学校を中等学校とする→尋常中学校は中学校に) 1899 年 高等女学校令 (男子の中学校に対応する女子の中等教育機関) 中流階級層の良妻賢母の育成を主眼とする 1903 年 専門学校令 (中学校卒業者を入学資格とする専門高等教育機関)	
大正		1900 年 小学校令改正 (就学義務の規定を厳密化し、義務教育の授業料を無償化) ★国民生活の向上も背景となり、義務教育の就学率が90%を超える(1902) 1903 年 国定教科書制度 (教科書を検定制から文部省著作の国定制に統一) → 南北朝正閏問題(1911) 喜田貞吉が国定教科書に南北朝併立説を執筆→南朝正統側から非難受け辞職 1907 年 小学校令改正 (小学校の義務教育を6年間に延長)	〔私立学校(専門学校からのちに大学へ昇格)〕 福沢諭吉＝慶 応 義 塾 (→慶応義塾大学) 新島 襄＝同志社英学校 (→同志社大学) 大隈重信＝東京専門学校 (→早稲田大学) 津田梅子＝女子英学塾 (→津田塾大学) 井上円了＝哲 学 館 (→東洋大学) 成瀬仁蔵＝日本女子大学校 (→日本女子大学) 山田顕義＝日本法律学校 (→日本大学)  皇典講究所→國學院大学・専修学校→専修大学 関西法律学校→関西大学・東京法学社→法政大学 明治法律学校→明治大学・英吉利法律学校→中央大学 ★ミッションスクール (伝道教会が布教のため設立) 上智大学 (イエズス会)・青山学院大学 (メソジスト教会) 南山大学 (イエズス会)・関西学院大学 (メソジスト教会) 立教大学 (ウィリアムズ)・明治学院大学 (ヘボン)
		〔自由教育運動(大正期)〕 ①沢柳政太郎 (成城小学校を創立) ②羽仁もと子 (自由学園を創立) ③鈴木三重吉 (児童雑誌『赤い鳥』を創刊)	
昭和	6年間	1918 年 大学令 (帝国大学以外に公立・私立大学、単科大学の設置を許可) 1918 年 高等学校令改正 (官立以外に公立・私立の高等学校の設置を許可)  1937 年 『国体の本義』(文部省思想局が発行した天皇への絶対随順などを説いた教科書) 1941 年 『臣民の道』(文部省教学局が発行した国民道徳のあり方などを説いた教科書) 1941 年 国民学校令 (「皇国民」の錬成を目的に、小学校を国民学校と改称)	〔戦後初期の授業形態〕 ①青空教室 (校舎の焼失による校庭授業) ②墨塗り教科書 (不適当な箇所を削除) のち、文部省が『くのにあゆみ』を発行
戦		1945 年 教育改革指令 (GHQが軍国主義教育の禁止を指令) (1) 教職追放 (職業軍人・軍国主義者・国家主義者を教職から追放) (2) 修身・日本歴史・地理の授業停止 (のち社会科として復活) 1946 年 アメリカ教育使節団の来日・勧告 教育勅語に代わる新しい民主主義的な教育理念を提示 (→1948年に教育勅語失効)	
後	9年間	1947 年 教育基本法 (義務教育9年間・男女共学・教育の機会均等など教育の理念を規定) 1947 年 学校教育法 (教育基本法の精神に基づき、六・三・三・四制の単線型学校系列を規定) 1948 年 教育委員会法 (教育委員会を各都道府県・市町村に設置) ★教育委員会委員＝公選制→地方自治体の首長による任命制(1956) 1954 年 教育二法 (教職員の政治活動・政治教育禁止) 2006 年 教育基本法改正 (愛国心に関する条項などが盛り込まれる)	

〔学校教育法〕	
大学(4年制)	↑
高等学校(3年制)	↑
中学校(6年制)	↑
小学校(6年制)	

- 1869年 本木昌造が鉛製活字の活版印刷技術を発明  
 ↓  
 ★(官版)バタヴィア新聞 (1862年に幕府の蕃書調所が発行)  
 1870年 『横浜毎日新聞』(日本最初の日刊新聞)  
 1872年 『日新真事誌』(英人ブラックが創刊→民権議院設立建白書を掲載)  
 1872年 『朝野新聞』(末広鉄腸が主筆を務めた自由民権派の立場の政論新聞)  
 1872年 『東京日日新聞』(福地源一郎が主筆を務めた立憲帝政党の機関紙)  
 1872年 『郵便報知新聞』(前島密の支援で創刊された立憲改進黨の機関紙)  
 1882年 『自由新聞』(板垣退助が社長を務めた自由党の機関紙)  
 1882年 『時事新報』(福沢諭吉が創刊→1885年に福沢諭吉の『脱亜論』を掲載)  
 1883年 『官報』(国の公定事項を記載した政府機関紙)  
 1892年 『万朝報』(黒岩涙香が創刊→幸徳秋水・堺利彦・内村鑑三ら記者が活躍)  
 ★日露戦争に際し、社が非戦論から主戦論に転じたため幸徳らは退社

—— [言論弾圧 (これ以降、新聞は大新聞から小新聞が中心になる)] ——  
 1875年 讒謔律 (事実の有無を問わず、人を讒毀・誹謗する者を処罰する)  
 1875年 新聞紙条例 (政府や法律に対する新聞の非難を禁じ、処罰する)

↓  
 ★大新聞 (自由民権期の政治評論中心の新聞)  
 小新聞 (読売版を継いだ娯楽重視の新聞)

- 1874年 『読売新聞』(小新聞の元祖→のち大衆新聞として全国紙へと成長)  
 1879年 『朝日新聞』(のち『東京朝日新聞』と『大阪朝日新聞』に分かれる)  
 1888年 『大阪毎日新聞』(のち『東京日日新聞』を買収→『毎日新聞』となる)

—— [文明開化 (欧米列強の文明・風俗・慣習を取り入れる)] ——

- ① 太陽暦の採用 (1872)  
 太陰太陽暦 (旧暦) による 1872年 12月3日を  
 太陽暦 (新暦) による 1873年 1月1日とする  
 ★農村ではいぜんとして太陰太陽暦 (旧暦) を使用  
 ② 1日 24時間制・日曜休日制  
 ③ 祝祭日の制定 (1873)  
 紀元節 = 2月11日 (神話上の神武天皇即位日)  
 天長節 = 11月3日 (明治天皇の誕生日)  
 ★端午の節句などの五節供・年中行事は祝祭日とされず

—— [生活 (日本風と西洋風の混合)] ——

- ① 衣……洋服・散髪の普及→ざんざり頭の新風俗  
 ② 食……都市中心に食生活の洋風化 (肉食・コーヒーなど)  
 ex. 牛鍋の流行  
 ③ 住……公共建築の洋風化 (民家は和風が主体)  
 ex. 一般家庭では石油ランプを使用  
 ④ 交通……銀座通りには煉瓦造の洋風建築が並び、鉄道馬車・人力車が走り、街路にガス灯 (→のち電灯) がともる、  
 ★自転車・乗合馬車→鉄道馬車→電車  
 ⑤ 活動写真 (→映画制作)・蓄音機 (→レコード)

- ① 新聞の普及 (発行部数が100万部を超える)  
 『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』・『東京日日新聞』・『大阪毎日新聞』  
 ② 総合雑誌 (政・経・社会・文化全般についての評論など様々な情報を掲載した雑誌)  
 『中央公論』(1887年に創刊→1916年に吉野作造の「民本主義」の論文を掲載)  
 『改造』(1919年に山本実彦が改造社を創立して創刊→社会改造を民衆解放に求める)  
 ③ 文化雑誌 (自由主義からマルクス主義に至る論説を掲載した雑誌)  
 『我等』(1919年に長谷川如是閑・大山郁夫らが創刊)  
 ④ 経済雑誌 (経済を主とした情報を掲載した雑誌)  
 『東洋経済新報』(1895年に創刊→石橋湛山 (記者) の小日本主義の論文を掲載)  
 ⑤ 大衆雑誌 (大衆の要求に応え、娯楽的な内容・情報を掲載した娯楽雑誌)  
 『キング』(1925年に大日本雄弁会講談社が創刊→毎月発行部数が100万部を超える)  
 ⑥ 週刊誌 (1週間に1回発行される雑誌)  
 『週刊朝日』・『サンデー毎日』(1922年に発刊された日本最初の週刊誌)  
 ⑦ 児童雑誌 (児童を読者対象とした文学雑誌)  
 『赤い鳥』(1918年に鈴木三重吉が創刊した児童雑誌)  
 ⑧ 円本 (『現代日本文学全集』などの文学全集を1冊1円で売る)  
 ⑨ 文庫本 (岩波文庫など内外の古典を手軽な形で世に紹介した本の形式)

—— [大衆文化 (教育と活字文化の普及により文化が大衆化)] ——

- ① 教育の発達  
 (1) 義務教育の普及 (日露戦争後に就学率97%を超える)  
 (2) 中等学校卒業者の急増  
 (3) 高等学校卒業生・大学卒業生の増大  
 ↓  
 ★背景=大学令・高等学校令による高等教育機関の拡充  
 ② 一般勤労者の増大  
 (1) 事務系の職場で働く給与生活者 (サラリーマン) の大量出現  
 (2) 女性の産業界への職場進出  
 →職業婦人 (タイピスト・電話交換手など) と呼ばれる

—— [生活 (洋風生活の普及)] ——

- ① 衣……洋服の普及  
 ex. モダンガール (モガ)・モダンボーイ (モボ)  
 ② 食……食生活の洋風化 (トンカツ・カレーライスなど)  
 ③ 住……都心=鉄筋コンクリート造りのビル・デパート (百貨店)  
 郊外=文化住宅 (和洋折衷の小市民住宅)  
 ★一般家庭で電灯が普及 (水道・ガスの供給事業本格化)

ラジオ・テレビ	映画 (活動写真)
1925年 ラジオ放送の開始 ★東京放送局 (1925)・日本放送協会 (NHK) (1926)	1896年 活動写真 (映画の旧称) 輸入 ★大正時代まではサイレント (無声映画) を弁士が解説
1951年 民間放送の開始 (スポーツの実況中継が人気をよぶ) 全国中等学校優勝野球大会 (1915～)・東京六大学野球 (1925～) など	1931年 トーキョー (有声映画) 開始
1953年 テレビ放送の開始 初の国産テレビアニメとして『鉄腕アトム』が人気を博す (1963～)	1951年 カラー映画開始 黒澤明『羅生門』『生きる』・溝口健二『西鶴一代女』 小津安二郎『東京物語』・山田洋二『男はつらいよ』



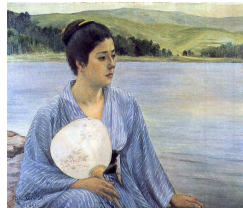
西洋画	★明治政府により工部省内に併設された美術学校 <u>工部美術学校</u> (1876) ————— 廃止 イタリアからフォンタネージ (画家) ラゲーザ (彫刻家) を講師に招く	→ ^{では} 脂派 (暗い色調の画風) と呼ばれる ★浅井忠らが結成した日本最初の洋画団体 <u>明治美術会</u> (1889) ————— <u>浅井忠</u> 『収穫』	★白馬会に対抗して結成 <u>太平洋画会</u> (1901) (文展へ統合)
	————— [日本洋画] ————— <u>高橋由一</u> 『蛙』 近代日本洋画の先駆者 (ワーグマンに師事)	→ ^{がいは} 外光派 (明るい色調の画風) と呼ばれる ★黒田清輝・久米桂一郎を中心に結成された洋画団体 <u>白馬会</u> (1896) ————— (文展へ統合) <u>黒田清輝</u> 『湖畔』『読書』『舞妓』 <u>青木 繁</u> 『海の幸』 <u>藤島武二</u> 『天平の面影』 <u>和田英作</u> 『渡頭の夕暮』 <u>和田三造</u> 『南風』	
日本画	★岡倉天心・フェノロサの尽力により設立 <u>東京美術学校</u> (1887) ————— <u>フェノロサ</u> (アメリカ人) <u>岡倉天心</u> (校長→のち辞職) ————— <u>狩野芳崖</u> 『悲母観音』 <u>橋本雅邦</u> 『竜虎図』 <u>横山大観</u> <u>下村観山</u> <u>菱田春草</u>	→★校長を辞職した岡倉天心が創立した美術団体 → <u>日本美術院</u> (1898) (文展へ統合) <u>橋本雅邦</u> <u>横山大観</u> 『無我』『生々流転』 <u>下村観山</u> 『大原御幸』 <u>菱田春草</u> 『黒き猫』『落葉』	



〔蛙〕by 高橋由一



〔収穫〕by 浅井忠



〔湖畔〕by 黒田清輝



〔読書〕by 黒田清輝



〔舞妓〕by 黒田清輝



〔海の幸〕by 青木繁



〔渡頭の夕暮〕by 和田英作



〔南風〕by 和田三造



〔天平の面影〕  
by 藤島武二



〔竜虎図〕by 橋本雅邦



〔悲母観音〕  
by 狩野芳崖



〔黒き猫〕  
by 菱田春草



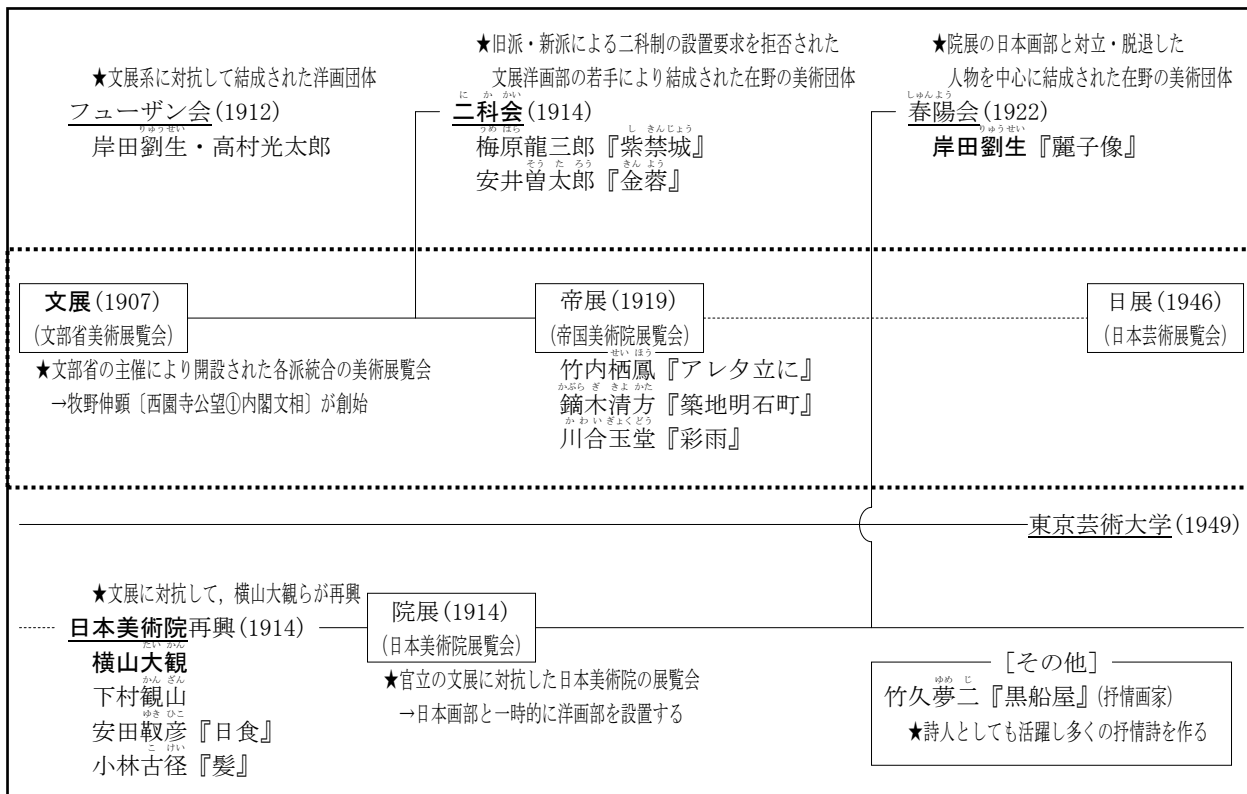
〔無我〕  
by 横山大観



〔生々流転〕by 横山大観



〔大原御幸〕by 下村観山



[建築史]	
明治	①コンドル＝鹿鳴館(東京日比谷の国際社交場) ニコライ堂(神田駿河台の大聖堂) ②辰野金吾＝日本銀行本店・東京駅 ③片山東熊＝赤坂離宮(現在の迎賓館)

[彫刻史]	
明治	①ラグーザ(イタリア人彫刻家で工部美術学校の講師) ②荻原守衛『女』『抗夫』(ブロンズ像) ③新海竹太郎『ゆあみ』(ブロンズ像) ④高村光雲『老猿』(木彫像) 『西郷隆盛像』(原型を木彫で制作)
大正	①朝倉文夫『墓守』『いづみ』(ブロンズ像) ②平櫛田中『転生』『五浦釣人』(木彫像)

[音楽史]	
明治	①東京音楽学校(国立の音楽教育機関)の設立(1887) ②伊沢修二(東京音楽学校初代校長→西洋音楽を導入し、小学校教育に唱歌を採用) ③滝廉太郎(「荒城の月」「花」「箱根八里」などの唱歌を作曲)
大正	④山田耕筰(「赤とんぼ」「この道」「からたちの花」などの唱歌を作曲) ⑤三浦環(オペラ歌手として『蝶々夫人』を欧米で20年間2000回公演) ⑥中山晋平(「カチューシャの唄」「東京音頭」「東京行進曲」などの流行歌を作曲)
戦前	⑦西条八十(中山晋平が作曲した「東京音頭」「東京行進曲」などの流行歌を歌詞) ⑧古賀政男(「酒は泪か溜息か」「影を慕いて」などを作曲)
戦後	⑨並木路子(1945年に「リンゴの歌」の明るいメロディーが大ヒット) ⑩笠置シズ子(1947年に「東京ブギウギ」の爆発的な歌と踊りが大ヒット) ⑪美空ひばり(「柔」・「川の流れるように」などで女性初の国民栄誉賞を受賞)



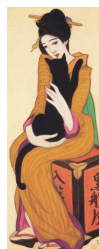
〔紫禁城〕  
by 梅原龍三郎



〔金蓉〕  
by 安井曾太郎



〔麗子像〕  
by 岸田劉生



〔黒船屋〕  
by 竹久夢二



〔女〕  
by 荻原守衛



〔老猿〕  
by 高村光雲

明治	①北里柴三郎(医学)	ペスト菌の発見・破傷風菌の純粋培養に成功・伝染病研究所を設立
	②志賀 潔 (医学)	赤痢菌の発見 (伝染病研究所に入所)
	③秦 佐八郎(医学)	サルバルサン (梅毒の化学療法剤) の発見 (伝染病研究所に入所)
	④高峰 譲吉(薬学)	アドレナリン (強心薬)・タカジアスターゼ (消化薬) の創製
	⑤鈴木梅太郎(薬学)	オリザニン(ビタミンB ¹ ) (脚氣に有効な成分) の創製
	⑥大森 房吉(地震学)	大森式地震計・大森式公式 (地震に関する公式) の考案
	⑦木村 栄 (天文学)	Z 項 (地球の自転軸に関する緯度変化の公式に「Z」を加える) の発見
	⑧長岡半太郎(物理学)	原子構造の研究 (土型原子模型の理論を発表)
	⑨田中館愛橘(物理学)	地磁気の測定 (航空物理学の発達に寄与)
	⑩田口 卯吉(歴史学)	『日本開化小史』(古代から明治維新までの日本史論) ★『東京経済雑誌』を創刊
	⑪久米 邦武(歴史学)	「神道は祭天の古俗」(論文) で教授を辞職 ★『米欧回覧実記』(岩倉使節団の見聞録)
	⑫喜田 貞吉(歴史学)	南北朝正閏問題 (国定教科書に南北朝併立説を執筆したことが問題化) で休職処分
	⑬芳賀 矢一(歴史学)	日本文献学を確立 (国学にドイツ文献学を取り入れる)
大正	①野口 英世(医学)	黄熱病の研究・梅毒スピロヘータの純粋培養に成功
	②八木 秀次(電気工学)	八木アンテナ (今のテレビ用アンテナの原型となる指向性超短波用アンテナ) の発明
	③本多光太郎(物理学)	K S 磁石鋼 (強力磁石鋼) の発明
	④鉄鋼研究所(研究機関)	本多光太郎の主唱で東北帝国大学に設立 (1919)
	⑤航空研究所(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立 (1918)
	⑥地震研究所(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立 (1925)
	⑦理化学研究所(研究機関)	物理・化学の応用研究を目的とする半官半民の研究機関 (初代所長=大河内正敏)
	⑧西田幾多郎(哲学)	『善の研究』(ドイツ流観念論を中心に善などの東洋思想を加味して「西田哲学」を完成)
	⑨和辻 哲郎(哲学)	『風土』(ニーチェ・キルケゴールなど西洋哲学を研究し、独自の思想を示す)
	⑩福田 徳三(経済学)	『資本論』(資本主義経済の運動法則を論理的・歴史的に分析したマルクスの著作) を紹介
	⑪河上 肇 (経済学)	『貧乏物語』(奢侈の根絶による貧乏廃絶を説く) ★『社会問題研究』(雑誌) を刊行し、マルクス主義経済学に傾倒
	⑫野呂栄太郎(経済学)	『日本資本主義発達史講座』(マルクス主義経済学) を企画・編集
	⑬白鳥 庫吉(歴史学)	満州・蒙古・朝鮮など中国周辺民族史・邪馬台国九州説を主張
	⑭津田左右吉(歴史学)	『神代史の研究』(日本神話の科学的解釈を行う) ★国粋主義者から天皇の権威をおかす不敬思想と非難され、1940 年に 4 著が発禁処分となる
	⑮柳田 国男(民俗学)	『遠野物語』(岩手県上閉伊郡遠野郷の民間伝承を採録)・『郷土研究』(民俗学の雑誌) ★民間伝承・風習などを研究する学問 ★柳田国男は知識人に対する階層として、民間伝承を保持している階層を常民と表現した
	⑯柳 宗悦 (思想家)	民芸運動の創始者 (朝鮮や琉球の民衆工芸の美を強調し、朝鮮文化に関する大きな影響を与える)
昭和	①亀井勝一郎(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌) 刊行 (保田与重郎と共に刊行)
	②保田与重郎(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌) 刊行 (亀井勝一郎と共に刊行)
戦後	①丸山 真男(政治学)	日本ファシズムの精神構造を明らかにした『超国家主義の論理と心理』を著す)
	②大塚 久雄(経済史学)	近代社会成立史観(大塚史学)を確立 (『近代資本主義の系譜』を著す)
	③川島 武宜(法社会学)	法社会学者として民法改正にも影響を与える (『日本社会の家族的構成』を著す)

ノ ー ベル 賞 受 賞 者	1949 年 湯川秀樹 (物理学賞)	2008 年 益川敏英 (物理学賞)
	1965 年 朝永振一郎 (物理学賞)	2008 年 南部陽一郎 (物理学賞)
	1968 年 川端康成 (文学賞)	2010 年 鈴木 章 (化学賞)
	1973 年 江崎玲於奈 (物理学賞)	2010 年 根岸英一 (化学賞)
	1974 年 佐藤栄作 (平和賞)	2012 年 山中伸弥 (医学生理学賞)
	1981 年 福井謙一 (化学賞)	2014 年 赤崎 勇 (物理学賞)
	1987 年 利根川進 (医学生理学賞)	2014 年 天野 浩 (物理学賞)
	1994 年 大江健三郎 (文学賞)	2014 年 中村修二 (物理学賞)
	2000 年 白河英樹 (化学賞)	2015 年 梶田隆章 (物理学賞)
	2001 年 野依良治 (化学賞)	2015 年 大村 智 (医学生理学賞)
	2002 年 小柴昌俊 (物理学賞)	2016 年 大隅良典 (医学生理学賞)
	2002 年 田中耕一 (化学賞)	2018 年 本庶 佑 (医学生理学賞)
	2008 年 下村 脩 (化学賞)	2019 年 吉野 彰 (化学賞)
	2008 年 小林 誠 (物理学賞)	2021 年 真鍋淑郎 (物理学賞)

## [ 日本資本主義論争 (マルクス主義者間の論争) ]

- ①講座派 (当面の課題はブルジョア革命であるとする)
- ↑
- 野呂栄太郎・羽仁五郎・服部之総  
『日本資本主義発達史講座』を創刊
- ↓
- ②労農派 (当面の課題はプロレタリア革命であるとする)
- 山川均・猪俣津南雄・荒畑寒村  
『労農』を創刊

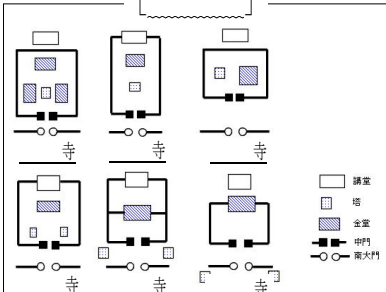


鎖国時の来日外国人	<b>ケンペル</b> (オランダ商館ドイツ人医師) 『日本誌』  ★のち志筑忠雄 (オランダ通詞) が翻訳し『鎖国論』と題す (1801)  <b>ツンベルグ</b> (オランダ商館スウェーデン人医師) 『日本植物誌』  <b>シーボルト</b> (オランダ商館ドイツ人医師) 『日本』  ①長崎郊外に鳴滝塾を創設 (門下生 = 高野長英・小関三英・伊東玄朴)  ②帰国時 (1828), 日本地図の持ち出しが発覚し国外追放 (シーボルト事件)  → 地図を渡した高橋景保 (1811 年に蚕書和解御用の設置を建議) を処罰  ③間宮林蔵 (樺太が島であることを確認) が発見した間宮海峡の命名者	<b>ヘボン</b> (米人宣教師→横浜にヘボン塾 (現在の明治学院) を創設)  ★ヘボン式ローマ字を考案・『和英語林集成』 (日本最初の和英辞典)  <b>ブラウン</b> (米人宣教師→横浜にブラウン塾 (現在の明治学院) を創設)  ★横浜バンド (ブラウン塾の学生が結成) = 植村正久・島田三郎  <b>フルベッキ</b> (米人宣教師→長崎の私塾で大隈重信・副島種臣に英語を教授)  ★開成学校の教師として勤務→政府顧問として翻訳などに尽力)  <b>ジェーンズ</b> (米人宣教師→フルベッキの仲介で熊本洋学校教師として来日)  ★熊本バンド (熊本洋学校の学生が結成) = 海老名弾正・徳富蘇峰
アメリカ	<b>ケプロン</b> (農政家→開拓使顧問として札幌農学校設立の指導にあたる)  <b>クラーク</b> (教育家→札幌農学校教頭となり「Boys be ambitious!」を残す)  ★札幌バンド (札幌農学校の学生が結成) = 内村鑑三・新渡戸稲造  <b>マレー</b> (教育家→文部省顧問として教育制度の整備・女子教育に貢献)  <b>フェノロサ</b> (思想家→東大で哲学を教授→岡倉天心と東京美術学校を設立)  ★薬師寺東塔を「凍れる音楽」と評す・法隆寺夢殿救世観音像を初めて調査  <b>モース</b> (動物学者→東大で生物学を教授→ダーウィンの進化論を紹介)  ★大森貝塚 (東京) の発見などが日記『日本その日その日』に記されている	<b>モッセ</b> (法学者→政府顧問として市制・町村制などの整備に尽力)  <b>ロエスレル</b> (法学者→政府顧問として大日本帝国憲法の制定に尽力)  <b>ベルツ</b> (医学者→東大で医学を教授し『ベルツの日記』を著す)  <b>ホフマン</b> (医学者→大学東校で内科医学を教授)  <b>ケーベル</b> (哲学者→東大で哲学を教授)  <b>ナウマン</b> (地質学者→東大で地質学を教授)  ★ナウマン象の名称の由来・フォッサ=マグナを指摘  <b>メッケル</b> (軍人→陸軍にドイツ式軍制を導入)
イギリス	<b>モレル</b> (鉄道技師→新橋～横浜間の鉄道敷設を指導)  <b>キンダー</b> (大阪造幣寮首長として貨幣鑄造を指導)  <b>ミルン</b> (地震学者→日本地震学会設立に尽力)  <b>ハーン</b> (小説家→日本に帰化して小泉八雲と改名し、『怪談』を著す)  <b>コンドル</b> (建築家→鹿鳴館・ニコライ堂を設計)  ★弟子=辰野金吾 (日本銀行本店・東京駅設計)・片山東熊 (赤坂離宮設計)  <b>ワーグマン</b> (洋画家→『絵入ロンドン=ニューズ』の特派員として来日)  ★横浜で洋画画法を教える→弟子=高橋由一『蛙』	<b>フォンターネ</b> (洋画家→工部美術学校で指導)  ★門下生=浅井忠『収獲』  <b>ラギーザ</b> (彫刻家→工部美術学校で指導)  <b>キヨソネ</b> (銅版画家→紙幣・切手などの製版や銅版画技術を指導)  <b>ブリュナ</b> (製糸技師→富岡製糸場でフランス製の製糸機械を指導)  <b>ボアソナード</b> (法学者→政府顧問として刑法・民法を起草→民法典論争)  <b>ビゴー</b> (洋画家→漫画雑誌『トバエ』を創刊し、世間を風刺)

明治初期	[ 歌舞伎 (旧派劇) ]  ①河竹黙阿弥 (歌舞伎脚本作者)  (1) 散切物 (散切頭の俳優によって演じられた文明開化の新風俗を主題とする演劇)  (2) 活歴物 (史実を重んじ、写実的に演出する歴史劇←仮名垣魯文が「活きた歴史」と評す)
中期	②団・菊・左時代 (歌舞伎の黄金時代)  市川團十郎 (9代目)  尾上菊五郎 (5代目)  市川左団次 (初代)  <b>[ 新派劇 ]</b> (歌舞伎 [ 旧派劇 ] に対抗して新しく起こった演劇 [ 新派劇 ] )  ①壮士芝居 (自由民権運動を宣伝するために自由党壮士らが演じた演劇)  → 川上音二郎 (自由民権を盛り込んだオペケベー節で人気を博す)  ②現代劇 (男女混合の演劇) → 伊井蓉峰 (『金色夜叉』『不如帰』などを上演し人気を博す)  <b>[ 新劇 ]</b> (歌舞伎 [ 旧派劇 ] ・新派劇に対するヨーロッパ近代劇の総称)
後期	<b>[ 新史劇 ]</b> (歌舞伎に西洋劇の要素を取り入れる)  ③坪内逍遙 (演劇の改良を志す) → <b>文芸協会 (1906)</b> (結成=坪内逍遙・島村抱月)  『桐一葉』 (豊臣家滅亡を題材とする)  ★イブセン作『人形の家』の主人公ノラ役を松井須磨子 (女優) が主演して人気を博す  <b>自由劇場 (1909)</b> (結成=小山内薫・2代目市川左団次)  ★新劇発展の先駆的な役割を果たす
大正	<b>宝塚歌劇団 (1913)</b> (結成=小林一三 [ 阪急電鉄社長 ] )  ★関西で女性だけの劇団として発展  <b>新国劇 (1917)</b> (結成=沢田正二郎)  ★『国定忠治』などの剣劇で人気を博す  <b>芸術座 (1913)</b> (結成=島村抱月・松井須磨子)  ★トルストイ作『復活』で松井須磨子の劇中歌「カチューシャの唄」が流行歌として大ヒット  → のち、島村抱月・松井須磨子の死後に解散  <b>築地小劇場 (1924)</b> (結成=小山内薫・土方与志 (弟子))  ★東洋の演劇と西洋の演劇を掛け合わせた新劇運動の拠点となる  → 「演劇の実験室」と呼ばれる



## [A] 仏教伝来

古墳文化	① 仏教伝来 (西域・中国・朝鮮半島を経由して北方仏教(大乘仏教)が伝来) cf. 東南アジアは南方仏教(小乗仏教)   (1) 仏教私伝 _____ が私宅で仏像礼拝(____年) = 『____』 (平安末期に延暦寺の僧 _____ が著す)   (2) 仏教公伝 _____ の _____ が 天皇 に仏像と経典を献上   _____ 年(____) 説 = 『____』 『____』   _____ 年(____) 説 = 『____』   ② 崇仏論争 _____ (____) VS _____ (____)   _____ (____) VS _____ (____) → _____ が _____ を滅ぼす(____年)
文化	③ _____ (594) (仏・法・僧の三宝を興せとの詔)   ④ _____ (____) 『____』 (____ 経・____ 経・____ 経の經典注釈書)   ⑤ _____ (豪族が建立・管理した寺) の建立   _____ = _____ 寺(____寺) (588年に建立された日本最古の寺院)   _____ = _____ 寺 (593年に難波(現在の大阪市四天王寺区)に建立)   (____) _____ 寺(____寺) (____年に父の _____ 天皇のために建立された現存する世界最古の木造建造物→ _____ 年に炎上 in 『____』)   _____ = _____ 寺(太秦寺) ★法隆寺再建非再建論争→ _____ 跡(四天王寺式)の発掘調査(1939)で再建説が有力となる   _____ [渡来僧(推古朝時に来日)] _____ (高句麗の僧→595年に来日し厩戸王に仏教を教授)   _____ (百濟の僧→ _____ 年に来日し暦・天文学を伝える)   _____ (高句麗の僧→ _____ 年に来日し紙・墨・絵具を伝える)
文化	⑥ _____ (国家が建立・管理した寺) の建立 (藤原京四大寺)   _____ 寺 (639年に _____ 天皇が創建した _____ 寺を673年に移築)   _____ 寺 (680年に _____ 天皇が皇后の病氣平癒のため創建)   _____ 寺(____寺)・ _____ 寺(____寺)
国家仏教の発展	⑦ 官大寺の発展 (南都七大寺)   _____ 寺 (藤原氏の氏寺)   ★ _____ が創建した山階寺が前身   _____ 寺 (聖武天皇が728年に建立)   _____ 寺 (____天皇が765年に建立)   _____ 寺 (移転に伴い大官大寺が改称)   _____ 寺 (移転に伴い法興寺が改称)   _____ 寺 (藤原京寺院は本薬師寺とよぶ)   (____寺)   ⑧ 護国の經典 (鎮護国家を祈るために用いられた三つの經典)   護国三部經 = _____ 經・ _____ 經・ _____ 經 (____ 經)   ⑨ _____ (国家による僧尼統制のため、許可なく得度する _____ を禁止・民間布教を禁止)   _____ [南都六宗]   (仏教の經典を學術的に研究する6学派)   _____ 宗 (興福寺が中心寺院)   _____ (最初の大葬者)が唐から伝える   _____ 宗 (東大寺が中心寺院)   _____ 宗 (唐招提寺が中心寺院)   _____ 宗・ _____ 宗・ _____ 宗   _____ [南都七大寺]  
文化	733年 _____ ・ _____ が渡唐(私度僧の増加に対して伝戒師制度の普及を目指す)   ↓   _____ 年 _____ 僧侶に正式な _____ を授けるための伝戒師を招請するため _____ に拝謁して来日を要請   _____ 年 _____ (____で発布→全国に _____ の建立を命ずる)   _____ (国分寺の正式名称)に _____ 經を安置   →僧 _____ 名を配置し, _____ 寺(華嚴宗の中心寺院)を総国分寺とする   _____ (国分尼寺の正式名称)に _____ 經(____ 經)を安置   →尼 _____ 名を配置し, _____ 寺(もと藤原不比等の邸宅)を総国分尼寺とする   _____ 年 _____ (____で発布→ _____ [大仏師]らの技術で完成)   _____ 年 _____ (大仏の正式名称)は _____ 經(東大寺を中心とする華嚴宗の根本經典)の本尊   _____ 年 _____ 大仏開眼供養( _____ [開眼導師]・ _____ [雅楽師]が _____ を伝える)   ★ _____ (大仏開眼供養ののち、初代東大寺別当に就任した華嚴宗の僧侶)   _____ 年 _____ (____宗の僧)が _____ を伝える ★ _____ 『____』(渡航記録)   (1) _____ 寺に最初の戒壇を設立(754) ★聖武上皇・孝謙天皇が受戒   →天下三戒壇(____寺・ _____ 寺・ _____ 寺)   (2) _____ 寺を創建(____年) ★ _____ 寺 _____ 像(____像)   _____ [社会事業]   ① _____ (灌漑施設など社会事業に尽力)   僧尼令違反で政府に弾圧されるが、大仏造営に協力し _____ に任じられる   ② _____ (聖武天皇の皇后)   _____ (貧窮者に食料を施す施設)   _____ (貧窮者に薬を施す施設)   ③ _____ (____)   _____ 恵美押勝の乱後の孤児養育につとめる

文化史

密教の隆盛

文化史

密教の隆盛・浄土教の広まり

文化史

浄土教の隆盛

①平安新仏教

→ 宗 (桓武天皇が支持)・宗 (嵯峨天皇が支持) の形成

宗派	開 祖	教 義	中心寺院	著 書
<u>宗</u>	<u>宗</u> (.....) ★804 年渡唐 →805 年帰国	<u>經</u> (根本經典) ↓ (經典・修行による悟りを説く) → <u>大乘戒壇設立を主張</u>	<u>寺</u> (近江国)	『.....』 比叡山で学生を養成 するための法式をまとめる 『.....』 延暦寺の大乘戒壇設立に 反対する南都諸宗への反論書
<u>宗</u>	<u>宗</u> (.....) ★804 年渡唐 →806 年帰国	<u>經</u> ・..... <u>經</u> (根本經典) ↓ (加持祈禱による現世利益を説く) ★ <u>天皇</u> から賜る [慈善事業] ①..... (庶民教育のための施設) ②..... (.....国) の修築	<u>寺</u> (紀伊国) <u>寺</u> (.....寺) ★ <u>天皇</u> から賜る	『.....』 仏教・儒教・道教のうち 仏教が優れていることを説く 『.....』 悟りを開くまでの過程を 十の段階に分類した教理書

② 宗・宗 による天台宗の密教化

→のち、円仁と円珍の仏教解釈の違いからその末流が対立

→ 宗 (慈覚大師) → 山門派 = 寺  
↳ 『.....』 (遣唐使時の巡礼日記)  
→ 宗 (智証大師) → 寺門派 = 寺 (.....寺)  
↳ 『行歴記』 (遣唐使時の巡礼日記)

① 宗 (.....入滅後、..... → ..... の世となる思想)

★末法元年 = ..... 年 (..... 年)

② 宗 (.....の住む浄土への往生を願う教え)

→「南無阿弥陀仏」と.....を唱えることで極楽往生できる

(1) 宗 (正規の寺院から離れた民間の宗教者)  
..... (庶民層へ布教し、市聖・阿弥陀聖と呼ばれる)  
★.....寺 上人像 (.....が鎌倉時代に制作した彫刻)  
..... (.....) (天台宗の高僧)  
↳ 『.....』 (往生の方法を示した仏教書)  
(2) 往生伝 (浄土往生を遂げたとされる人々の伝記を集めた編纂書)  
.....『.....』  
.....『.....』・『後拾遺往生伝』

①院による仏教保護 (上皇の仏教信仰→出家し法皇となる)

(1) 造寺造仏→六勝寺の建立  
寺 (.....天皇)・寺 (.....天皇)・最勝寺 (鳥羽天皇)  
円勝寺 (待賢門院)・成勝寺 (崇徳天皇)・延勝寺 (近衛天皇)  
(2) 寺社参詣→..... (紀伊国)

②南都北嶺の.....による.....

↳ 南都 = 寺 (.....) 春日神社の神木をもちい強訴  
↳ 北嶺 = 寺 (.....) 日吉神社の神輿をもちい強訴  
★天下三不如意 (.....法皇の意のままにならなかった3つ)  
加茂川の水・双六のさいの目・..... (in 『.....』)

図解NOTE [平安仏教]

①顕教(經典を研究することで悟りを開く)

↓  
南都六宗(華嚴經などを研究)

↓  
天 台 宗(法華經を研究)

②密教(加持祈禱による現世利益を説く)

→曼荼羅を用いた灌頂の儀式を受けたり、山岳修行を行って超自然的な力を体得した僧侶が、加持祈禱で病氣平癒・立身出世・除災を行う  
→貴族・皇族の支持を得る(保護を受ける)  
※朝廷では法会など鎮護国家仏教の役割  
③神仏習合(神祇思想=仏教)の浸透(奈良時代～)

④1052 年を末法元年とする末法思想の広まり

↓  
→人々は現世に失望し、来世での幸福を願う

⑤浄土教(浄土への往生を願う来世利益を説く)

→念仏を唱え阿弥陀如来の住む浄土に往生する  
→上流貴族・中流貴族の支持を得る  
ex. 法成寺無量寿院 (藤原道長が建立した阿弥陀堂)  
平等院鳳 凰 堂 (藤原頼通が建立した阿弥陀堂)

⑥聖による布教で地方伝播→地方豪族に普及

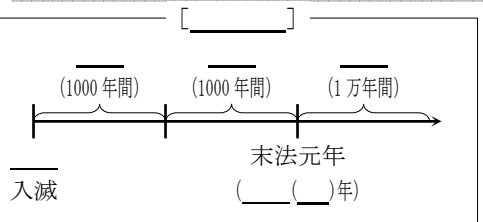
ex. 中尊寺金色堂 (藤原清衡が平泉に建立した阿弥陀堂)

[.....]

(1000 年間) (1000 年間) (1 万年間)

..... 末法元年 (.....年)

入滅



	宗 派	開 祖	特 徴	著 書	中心寺院
浄土宗系	宗 ( )	(美作出身) ( ) ★ に配流 (当初の土佐から変更)	(ひたすら念仏「南無阿弥陀仏」を唱える) ★承元の法難(1207) (朝廷による法然一門への宗教弾圧)	『 』 に応じて著した浄土宗の根本經典 『 』 (念仏往生の要点を記す) 『法然上人絵伝』 (土佐吉光が描いた絵巻物)	(京都)
	宗 ( )	(京都出身) ★ に配流	(阿弥陀仏の救いを信じる心で往生できる) (煩惱をもつ悪人こそ救済される)	『 』 (親鸞が著した根本經典) 『 』 (悪人正機説などを記す) 親鸞自らの信仰体験を弟子の が著す 『親鸞聖人像( )』 ( が描く)	寺 (京都)
	宗 ( )	(伊予出身) ( ) ★遊行上人・ 捨聖と呼ばれる	(「南無阿弥陀仏」と書かれた算を配る) (布教や修行のため各地を巡り歩くこと) (念仏を称えながら踊る) ★ (一遍に従い全国を遊行した人々)	『 』 一遍死後に が一遍の生涯を描いた絵巻物 ★武士の ・ 国( ) の様子	寺 (神奈川)
法華宗系	宗 ( )	(安房出身) ★ (1261)・ (1271)配流	經至上主義 (「 」)を唱える( )	『 』 ( に提出) 法華經こそ唯一の正法であると説き、天変地異が続くのは邪法を信じるためと述べる	寺 (山梨県身延山)
禅宗系	宗 ★栄西が北条政子・源頼家の 帰依を受けた後、臨済宗は 鎌倉幕府の保護を受け隆盛	(備中出身)	(師から弟子に与えられる問題)の解決 [幕府による臨済宗保護] (南宋の僧→ の帰依を受け、 寺を開く) (南宋の僧→ の帰依を受け、 寺を開く) (元 の僧→ の帰依を受ける)	『 』 旧仏教の禅宗非難に対し、禅の要旨を述べる 『 』 に献上した茶の効用を説いた書 一山一寧を訪ねたのを機に、 は 日本最初の仏教史書『 』を著す	寺 ( が 鎌倉に建立) 寺 ( が 京都に建立)
	宗 ( )	(京都出身)	(余念を排してひたすら坐禅する) ★道元は公武(朝廷・幕府)の権力者との結びつきを嫌う	『 』 道元が著した曹洞宗の根本經典 『 』 道元の言行を弟子の が筆録したもの	寺 (福井)

	宗 派	尽力者	特 徴	著 書	中心寺院
旧仏教の革新運動	宗 ( )	(解脱)	宗の復興に努力 (笠置山に隠棲)	『 』 朝廷に法然の念仏禁止を求める	寺 (京都)
	宗 ( )	( )	宗の復興に努力 (高山寺を再興)	『 』 (『選択本願念仏集』を批判) 『明恵上人樹上坐禅図』 ( が描いた似絵)	寺 (京都)
	宗 ( )	(思円) (良観)	戒律の復興に努力 ( 寺を再興) 戒律の復興に努力 (社会事業を行い 寺を復興) 戒律の復興に努力 (奈良に を設立) →のち、鎌倉に 寺を開く		

[NOTE]

平安時代(旧仏教) = 南都六宗・天台宗・真言宗 → 僧侶は厳しい修行、貴族は造寺・造仏で救われる

→ 荘園公領制の成立以降、旧仏教(顕密仏教)は世俗化(荘園を集積し、権力者としての性格を強める)

鎌倉時代(新仏教) = 平易な修行(易行)の中から、一つだけ選び(選択)、それに専心して行う(専修)

浄土教(平安時代) → 浄土宗(法然) → 浄土真宗(親鸞) → 時宗(一遍)

→ 観想念仏(仏の姿を思い浮かべる) → 称名(口称)念仏(仏の名を称える) → 念仏+信心(阿弥陀如来を信じる) → 信じる信じないに関わらず

→ 専修念仏(ひたすら念仏を称える) → 絶対他力(仏を信じ仏にすがる) 念仏を唱えれば往生できる

→ 「南無阿弥陀仏往生決定」と

書かれた札を配り回る(賦算)

文化	臨濟宗	①足利尊氏による臨濟宗保護→_____に帰依   (1) _____の建議で京都に_____寺を建立(_____天皇の冥福を祈るため)   (2) _____の建議で全国に_____・_____を建立(南北朝の動乱の戦没者供養のため)   ↓   ②_____が臨濟宗を保護し、春屋妙葩(夢窓疎石の弟子)に帰依   (1) _____(_____の_____にならった臨濟宗寺院の寺格)整備   → _____(最高格の5寺)・ _____(五山に次ぐ10寺)・ _____(_____) (十刹下の寺院)   ★五山の住持に任命された僧は幕府に礼銭を納入(金融活動を行っていた五山の僧にも課税)   (2) _____寺(足利義満が建立)に _____(五山派寺院の管理機関)設置   → _____を初代 _____(官寺の住持任免など禅僧を管理する役職)に任命   (3) _____(京都・鎌倉両五山の禅僧を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称)   → _____(五山の禅僧によって出版された書籍)の出版    _____ [代表的五山文学僧] _____  _____ (夢窓疎石に師事した南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『_____』)  _____ (夢窓疎石に師事した相国寺の五山文学僧)	<table><tr><th></th><th>京都五山</th><th>鎌倉五山</th></tr><tr><td>別格</td><td>_____寺</td><td>_____寺</td></tr><tr><td>1位</td><td>_____寺 (足利尊氏が建立)</td><td>_____寺 (北条時頼が建立)</td></tr><tr><td>2位</td><td>_____寺 (足利義満が建立)</td><td>_____寺 (北条時宗が建立)</td></tr><tr><td>3位</td><td>_____寺 (源頼家が建立)</td><td>_____寺 (北条政子が建立)</td></tr><tr><td>4位</td><td>_____寺</td><td>_____寺</td></tr><tr><td>5位</td><td>_____寺</td><td>_____寺</td></tr></table>		京都五山	鎌倉五山	別格	_____寺	_____寺	1位	_____寺 (足利尊氏が建立)	_____寺 (北条時頼が建立)	2位	_____寺 (足利義満が建立)	_____寺 (北条時宗が建立)	3位	_____寺 (源頼家が建立)	_____寺 (北条政子が建立)	4位	_____寺	_____寺	5位	_____寺	_____寺
		京都五山	鎌倉五山																					
	別格	_____寺	_____寺																					
1位	_____寺 (足利尊氏が建立)	_____寺 (北条時頼が建立)																						
2位	_____寺 (足利義満が建立)	_____寺 (北条時宗が建立)																						
3位	_____寺 (源頼家が建立)	_____寺 (北条政子が建立)																						
4位	_____寺	_____寺																						
5位	_____寺	_____寺																						
	③ _____(幕府の保護を受けた五山派に対し、幕府の保護を受けずに民間布教に努めた禅宗諸派)   (1) 臨濟宗= _____寺( _____が住持となる)・ _____寺( _____が開創)   (2) 曹洞宗= _____寺(鎌倉時代に道元が開創)・ _____寺(永平寺と並ぶ二大本山)																							
文化	浄土真宗(一向宗)	① _____(本願寺3世法主→浄土真宗本願寺派を形成)   ② _____(本願寺8世法主→当時ふるわなかった本願寺を再興=本願寺中興の祖とされる)   (1) _____(御文章)(かな交じりの平易な文書)による布教(近畿・北陸・東海地方の惣村に広がる)   →各地の惣村に「 _____」(信仰によって結ばれた門徒の集団)を組織し、 _____(浄土真宗(一向宗)門徒による一揆)を結成   ex. _____( _____年)(浄土真宗の門徒が守護の _____を滅ぼし、「百姓の持ちたる国」として約 _____年間の自治)   (2) 布教拠点(寺内町)    _____ ( _____国)  ↓  _____ ( _____国)  ↓  _____ ( _____国)  ★その他= _____(河内国の興正寺)・ _____(大和国の称念寺)    ③ _____( _____)(本願寺11世法主)   → _____を拠点に織田信長と戦う(石山戦争)   1574年 _____の一向一揆を織田信長が鎮圧   1575年 _____の一向一揆を織田信長が鎮圧   _____年 正親町天皇の仲裁により石山から退去   1585年 _____・ _____の一向一揆を豊臣秀吉が鎮圧   ★江戸初期に教如の東本願寺・准如の西本願寺に分かれる	【日蓮宗(法華宗)(京都の商工業者を中心に西日本に広がる)】   ① _____(鎌倉後期、日蓮宗で初めて京都の商工業者( _____)に布教)   ② _____(『 _____』を著し _____に諫言するが拷問を受ける)   →熱せられた鍋をかぶせられ、「鍋冠り上人」と呼ばれる)   1532年~ _____(京都町衆の日蓮宗(法華宗)門徒が団結)   近江の _____らの援軍を受けて山科本願寺を焼打ち   _____年 _____(延暦寺と法華一揆の対立が背景)   近江の _____らの援軍を受けて比叡山延暦寺が   京都の日蓮宗二十一本山を焼打ちし、法華一揆は壊滅   →日蓮宗は大打撃を受けて、数年間京都を追われる   1579年 織田信長の命による _____   _____宗と日蓮宗の安土で行われた宗論で日蓮宗が敗北   ★京都の町衆と結びつき強い日蓮宗を弾圧するため																					
	江戸幕府の寺院統制	1601年~ _____( _____)   真言宗・天台宗など各宗派の大寺院ごとに出された   寺院・僧侶を統制するための法令の総称(1601~1616)   → _____(宗派ごとの寺院の寺格制度を定める)   ★ _____(中心寺院)・ _____(一般寺院)の関係を制度化   _____年 _____(明の僧)が _____を伝える   _____寺(宇治の黄檗宗本山)・ _____寺(長崎の黄檗宗寺院)   _____年 _____(各宗派共通の寺院を統制するための法令)	_____ [禁教政策] _____   ① _____(幕府の宗門改役が行った禁教目的の信仰調査)   → _____( _____)を作成(戸籍の役割となる)   家族ごとに名・年齢・宗旨(所属宗派)・檀那寺などを記載   ② _____(一般民衆を寺院の檀家になることを強制させる制度)   ★キリスト教・日蓮宗 _____を信仰させないことが目的   → _____(宗旨手形)を檀那寺が発行   _____が自分の _____であることを証明するため発行する文書																					





明治

## 「神道国教化政策」

1869年 (版籍奉還後の官制改革で設置)  
↓  
神祇官は太政官より上位に置かれた  
1871年 (廃藩置県後の官制改革で設置)  
1872年 (のち、1877年に廃止)

## 「国家神道による弾圧事件」

1940 年 筆禍事件（『神代史の研究』など4冊がなどが皇室の尊厳を冒瀆するものとして発禁処分とされ、早稲田大学教授も辞職）

皇国臣民としての道徳と日常生活のあり方を説く

→ (軍人の性的奉仕をさせられる)

年 (日本国憲法施行による信仰の自由・政教分離の確立にともない、宗教団体に対し法人格を与える)



	文化 (天皇前後の文化)	文化 (天皇時の文化)	文化 (天皇時の文化)
特徴	文化の影響	文化の影響	文化の影響
建築	[ ] (豪族が建立・管理した寺院) = 寺 (寺) (588) → = 寺 (難波) (593) 寺 (寺) (年) = 寺 (太秦寺) (603)	[ ] (国家が建立・管理した寺院) 寺 (寺) (のち元興寺に改称) → 寺 (もと...寺のち...寺に改称) → 寺 (寺) (川原宮の地に建立) 寺 (天皇が皇后の病氣平癒のため建立) → → ( が「凍れる音楽」と形容)	[南都七大寺] (平城京内の七寺院) 寺・寺 (天皇が建立) 寺・寺 (聖武天皇が建立) 寺・寺 (藤原氏の氏寺) 寺・寺 ( が建立) → (平城宮朝集殿を移築)
彫刻	(厳しい表情) 寺 寺金堂 寺夢殿救世観音像 (優しい表情) 寺百済観音像 寺 (弥勒菩薩) 像 寺 (弥勒菩薩) 像	(漆を用いる) 寺薬師三尊像 寺聖観音像 寺本尊 ( が建立) → 寺仏頭 (1187年に興福寺僧が奪取) 寺夢違観音像 ...寺阿弥陀三尊像 (橘三子代の持念仏) (粘土を用いる)	寺 寺 寺 寺日光・月光菩薩像 寺執金剛神像 寺四天王像
絵画・工芸	寺『 』 (漆絵ともいわれる)の技法で描いた絵画 寺獅子狩文様錦 ( の影響) (蔓草が絡み合った文様) エジプト・ギリシアで発達し、中国を経て伝来 寺 の死後、妃の... が作らせた刺繍 [法隆寺再建論争] 『 』の 年の法隆寺炎上に関する 記事の真偽をめぐり、歴史学者が再建説・非 再建説をそれぞれ主張。1939年の 跡 の発掘により再建説が有力となる。	寺 壁画 ( 年の金堂火災で焼損) 年の... が制定される契機となる ★... 壁画・... 石窟壁画に類似 壁画 ( 年に... 県で発見) 天井に... (星座)・壁面に... が描かれている ★朝鮮半島の高句麗古墳壁画の人物図に類似 壁画 (1983年に奈良県で発見) 白村江の戦い後、百済から亡命した貴族から学ぶ	寺 (百万基の木製三重の小塔) の乱後に 天皇の発願で作成される ★... 経 (百万塔内の現存最古の印刷物) 宝物 ( ・漆胡瓶など) が 天皇の遺品を奉納 ( の様式) 『 』 (美人画) 寺『 』 (仏教絵画) 醍醐寺『 』
文学	『 』 ( ・ が編纂した史書) 『 』 ( ・ が編纂した史書) ★乙巳の変(645)で蘇我蝦夷邸焼亡とともに焼失 (『 』 (天皇の系譜などを記録した史書)) (『 』 (神話・伝承などを記録した史書)) ★6世紀前半(古墳文化)の成立とされる	(天智天皇の皇子) 作品を収録 (天武天皇の皇子) 作品を収録 (天智天皇の妃) 作品を収録 (下級官吏) (天皇が...に『 』『 』を覚えさせる) ①漢字の音・訓を用いた日本語で表記 ②天皇の代ごとに記事をまとめる形で記述 ①中国の史書にならった漢文で表記 ②年代を追って出来事を記す で記述	『 』 ( 年) 現存最古の漢詩集 編纂= ? 『 』 ( 年) 最古の和歌集 編纂=大伴家持? (大伴旅人の子) ・ ・ ・ などの 有名歌人や...の歌など約4500首を収録 ★漢字の音・訓を用いた で表記 [歴史書] 『 』 ( 年) (神代~推古天皇まで) が誦習したものを... が筆録 『 』 ( 年) ★現存= (完備現存) ・ ・ ・ 『 』 ( 年) (神代~持統天皇まで) が編纂した最初の勅撰国史 ( の最初)
教育			中央= (貴族の子弟の教育→ の管轄) (儒教の経典) ・ (律令・格式) (漢詩・歴史) ・ (算術) 地方= ( の子弟の教育→ の管轄) ★ ( が設置した最初の私設図書館)
六国史	( ) > (797) > (840) > (869) > (879) > (901) (神代~持統朝) (文武朝~桓武朝) (桓武朝~淳和朝) (仁明朝一代) (文徳朝一代) ( ・ ・ ) [ ] [菅野真道・藤原経縄] [藤原緒嗣・藤原冬嗣] [藤原良房] [藤原基経] [ ・ ]		

	文化 (桓武・嵯峨・清和天皇時の文化)	____(____)文化 (藤原摂関政治全盛期の文化)	文化 (白河・鳥羽・後白河法皇時の文化)
特徴	文化の影響	唐文化に基礎を置いた日本風文化	
建築	[山岳寺院 (山中に自由な伽藍配置)]   比叡山 _____ 寺 (____ が創建)   高野山 _____ 寺 (____ が創建)   _____ 寺 (「女人高野」と呼ばれる)   → _____ ・ _____ (屋根は _____ → 現在は _____)	[ _____ ] (阿弥陀如来を安置する堂)   _____ 無量寿院 (____ が 1020 年に建立)   _____ (____ が 1053 年に建立)   _____ 寺阿弥陀堂 (日野資業が 1051 年に建立)	[ _____ ] (阿弥陀堂建築の地方普及)   _____ (____ 国 _____ に _____ が建立)   _____ (____ 国(____ 県))   _____ (陸奥国(____ 県))   _____ (伯耆国(____ 県))
彫刻	[ _____ ] (一本の木材から丸彫りして制作)   → [ _____ ] (各部を別々に制作し組み合わせる)   [ _____ ] (仏像の衣のひだを表現する技法)   _____ 寺 _____ (密教彫刻の代表作)   _____ 寺 _____ (神仏習合の影響)   _____ 寺金堂釈迦如来像 (金堂の本尊)   _____ 寺弥勒堂釈迦如来像 (翻波式)	_____ 寺阿弥陀如来像   _____ 寺阿弥陀如来像	
絵画・工芸	[ _____ ] (密教の仏の世界を構図化したもの)   _____ 寺両界曼荼羅   _____ 寺両界曼荼羅   [不動明王信仰]   _____ 寺 _____ (____)   高野山明王院不動明王像(_____)	[ _____ ] (阿弥陀如来が迎えに来る姿を描く)   『 _____ 聖衆来迎図』   [ _____ ] (____ に対する日本風絵画の総称)   _____ (大和絵の祖) ・ _____   [ _____ ] (金・銀粉を蒔いて文様を描く技法)   [ _____ ] (貝片を漆地や木地にはめこむ手法)	[ _____ ] (経典に特別な装飾をほどこしたもの)   『 _____ 』 (大和絵の上に経文を墨書)   『 _____ 』 (____ が _____ 神社に奉納)   [絵巻物] (絵画と文書を交互に記したもの)   『 _____ 』 (『源氏物語』が題材)   『 _____ 』 (____ (____ 年) が題材)   『 _____ 』 (動物を擬人化して世相を風刺)   『 _____ 』 (僧 _____ に関する奇跡談)
文学	[勅撰漢詩文集]   『 _____ 』 (____ 天皇の命で _____ が編纂)   『 _____ 』 (____ の命で _____ が編纂)   『 _____ 』 (____ 天皇の命で _____ が編纂)   [私撰漢詩文集・漢詩評論]   『 _____ 』 (____ の漢詩文を真訳が編纂)   『 _____ 』 (空海の著した漢詩評論書)   『 _____ 』 (____ の漢詩文集)   [説話文学]   『 _____ 』 (____ の著した仏教説話集)	[勅撰和歌集]   『 _____ 』 (最初の勅撰和歌集)   _____ 天皇の命で _____ ・ _____ ・ _____ が編纂   [物語・日記・随筆]   『 _____ 』 (最古の物語文学)   『 _____ 』 (____ が主人公の歌物語集)   『 _____ 』 (____)   『 _____ 』 (____)   『 _____ 』 (____)   『 _____ 』 (____ の母)   『 _____ 』 (____ の女)	(八代集の編纂) →   [軍記物語]   『 _____ 』 (平将門の乱が題材)   『 _____ 』 (前九年の役が題材)   [歴史物語]   『 _____ 』 (藤原道長の栄華を賛美)   『 _____ 』 (藤原道長の栄華に批判的)   [説話文学]   『 _____ 』 (本朝・天竺・震旦から成る)
書道	_____ = _____ ・ _____ ・ _____ 『 _____ 』	_____ = _____ ・ _____ ・ _____ 『 _____ 』 (____ 流の祖)	鎌倉時代に世尊寺流を学んで『 _____ 』を書いた _____ は _____ 流を創始 (のちの _____ 流)
教育	① 大学教育で _____ (____) を重視   ② _____ (有力貴族が設置した寄宿舎)   _____ (藤原氏) ・ _____ (和気氏)   _____ (在原氏) ・ _____ (橘氏)   ③ _____ (____ が設立した民衆教育機関)	① _____ (平安時代の貴族の住宅)   ② _____ ・ _____ (男子・女子の成人儀式)   ③ _____ (中国の _____ に基づく)   _____ (一定期間、建物の中で謹慎する)   _____ (外出の時忌避すべき方向を避ける)	[ _____ ] (貴族も愛好した現代歌謡)   [ _____ ] (貴族も愛好した古代歌謡)   『 _____ 』 (____ が歌謡を集成)

④服装	男 性	女 性
正 装	_____ ・ _____	_____
日常着	_____ ・ _____	_____ ・ _____
庶民着	_____ ・ _____	小袖・腰布



	文化 (貴族層が民衆文化を受容、独自の地方文化が発展)	文化 (公武二元文化、禪宗文化の影響)	文化
建築	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及) _____ ( _____ 国) に _____ が建立 _____ ( _____ 国( _____ 県)) _____ (陸奥国( _____ 県)) _____ (伯耆国( _____ 県))	寺 = _____ ( _____ ) ★ _____ (俊乗坊)の指導・ _____ (宋の工人)の協力 寺 = _____ ( _____ ) 蓮華王院本堂 = _____ 観心寺金堂 = _____ (新和様)	〔 _____ (奈良仏師)の彫刻(鎌倉文化)〕 寺 _____ ( _____ ・ _____ ら) 寺僧形八幡神像 ( _____ ) 寺無著像・世親像 ( _____ ら) 寺天灯鬼像・竜灯鬼像 ( _____ ら) 寺空也上人像 ( _____ )
絵画	〔 _____ 〕(経典に特別な装飾をほどこしたもの) 『 _____ 』(大和絵の上に経文を墨書) 『 _____ 』( _____ が _____ 神社に奉納) ★巖島神社参詣のために _____ ( _____ 国)を開削 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『 _____ 』『源氏物語』が題材 ★ _____ が引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く 『 _____ 』( _____ ( _____ )が題材) 『 _____ 』(動物を擬人化して世相を風刺) 『 _____ 』(僧 _____ に関する奇跡談)	〔 _____ 〕(写実的な大和絵の肖像画) _____ (父)『源頼朝像・平重盛像』 _____ (子)『後鳥羽上皇像』 〔 _____ 〕(禪宗で師から与えられる師の肖像画) 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『 _____ 』( _____ の生涯を描く) 『 _____ 』(建築現場の様子を描く) 『 _____ 』( _____ 国福岡市の様子) 『 _____ 』( _____ 国の御家人 _____ ) 『 _____ 』(武蔵国の武士の生活)	〔 _____ (禅の精神を墨の濃淡で描く)〕 _____ 『布袋図』 _____ 『寒山図』  〔工芸(鎌倉文化)〕 ①刀工 = _____ (京都) _____ (備前) _____ (鎌倉) ②甲冑 = _____ (京都の甲冑製作の名家) ③陶器 = _____ (尾張の _____ の祖?)
文学	〔軍記物語〕 『 _____ 』(平将門の乱が題材) 『 _____ 』(前九年の役が題材) 〔歴史物語〕 『 _____ 』(道長の栄華を賛美し記述) ★ _____ (女流歌人)の作といわれる 『 _____ 』(道長の栄華を批判的に記述) 〔説話文学〕 『 _____ 』( _____ が著したとされる?) 本朝・天竺・震旦の3国から成る仏教等説話集	〔軍記物語〕 『 _____ 』( _____ の _____ で庶民に流行) 『 _____ 』(平家物語を増補したもの) 〔歴史書・歴史物語〕 『 _____ 』(鎌倉幕府の記録を編年体で記述) 『 _____ 』( _____ ( _____ )の _____ による歴史書) →『 _____ 』→『 _____ 』 〔説話文学〕 『 _____ 』( _____ が著した古今の説話集) 『 _____ 』( _____ が著した庶民的な仏教説話集) 〔私設図書館〕 _____ ( _____ が設立した私設図書館)	〔軍記物語〕 『 _____ 』(南北朝の動乱が題材) ★南朝に同情的な記述が多い 〔歴史書・歴史物語〕 『 _____ 』(南朝の正統性) 『 _____ 』(北朝の正統性) 『 _____ 』(公家の立場から記述した歴史物語)  〔日記・随筆(鎌倉文化)〕 『 _____ 』( _____ (摂政・関白)の日記) 『 _____ 』( _____ の京都へ鎌倉の日記) 『 _____ 』( _____ の随筆) 『 _____ 』( _____ の随筆)
詩歌	(八代集の編纂) →『 _____ 』(八代集の最後) _____ 上皇の命で _____ ・ _____ らが編纂 〔私撰和歌集〕 『 _____ 』( _____ ) 『 _____ 』( _____ )	〔勅撰和歌集〕 →『 _____ 』(八代集の最後) _____ 上皇の命で _____ ・ _____ らが編纂 〔私撰和歌集〕 『 _____ 』( _____ ) 『 _____ 』( _____ )	〔連歌〕(上の句と下の句を交互に読み合わせる) → _____ 『 _____ 』(最初の連歌集→準勅撰となる) 『 _____ 』(連歌の規則書)
学問	〔有職書〕(朝廷の儀式・年中行事などを記す)→『 _____ 』(国風文化) _____ 『 _____ 』(国風文化) _____ 『 _____ 』(院政期文化)	→『 _____ 』(朝廷の儀式や年中行事を研究)→ _____ 天皇『 _____ 』 〔古典研究〕 _____ 『 _____ 』(日本書紀の注釈書)	→『 _____ 』(朝廷の儀式や年中行事を研究)→ _____ 天皇『 _____ 』 _____ 『 _____ 』
芸能	→〔 _____ 〕(滑稽を主とした雑芸)→ _____ 芸として専門的に演じる者が登場 →〔 _____ 〕(田植祭りの際の歌舞)→ _____ 演劇( _____ )としての仕組みを整える	→〔 _____ 〕(大和猿楽四座 = _____ 座(もと _____ 座)・ _____ 座・ _____ 座・ _____ 座) → _____ (田楽の要素を取り入れる) → _____	→〔茶道(茶の湯)〕 _____ (多人数で開かれた娯楽的な茶会) _____ (茶の種類や産地を飲みあてる競技)

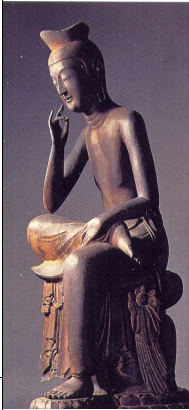
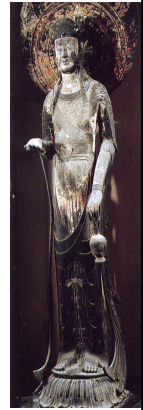
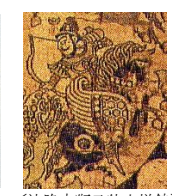
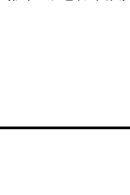
	文化 (公家文化を基礎に武家文化が発展、禅宗文化の影響)	文化 (伝統的な日本文化の形成、中央文化の地方普及)	文化 (新興武家などの豪壮・華麗な文化、南蛮文化の影響)
建 築	金閣 ( ) が京都北山山荘に建立	銀閣 ( ) が京都東山山荘に建立 慈照寺 ( ) の義政の書斎 慈照寺庭園 ( ) (作庭師) の ( ) の作 [ ] (岩石で滝、砂利で水を表した庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	[ ] ( ) を持つ ( ) を中心とする建築 城 (豊臣秀吉が1583年に築城) (秀吉晩年の邸宅兼城郭→後陽成天皇行幸) 城 (秀吉晩年の邸宅兼城郭→江戸時代に破却) 城 ( ) が1609年に改築した平山城
絵 画	[水墨画 (禅の精神を墨の濃淡で描く)] → ( ) → ( ) 『 ( ) 』 ＜狩野派系図＞ (狩野派始祖) —○— ( ) —○— (弟子) 『花下遊楽図屏風』	[水墨画 (禅の精神を墨の濃淡で描く)] (日本の水墨山水画を大成) 『 ( ) ( ) 』 『秋冬山水図』・『天橋立図』 [大和絵] (日本風絵画の総称) 派 = (大和絵の主流) 派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) (父) 『周茂叔愛蓮図』 (子) 『 ( ) 』	[ ] (屏風・障子・襖などに描かれた絵画) (金碧に青・緑などの濃彩で描いた障壁画) (狩野元信の孫) 『 ( ) 』・『檜図屏風』 『 ( ) 』 (信長が上杉謙信に贈る) 『牡丹図』・『松鷹図』 (雪舟5代を自称) 『智積院襖絵』・『松林図屏風』 『山水図屏風』 [ ] (南蛮人の風俗を狩野派が描く)
文 学	[軍記物語] 『 ( ) ( ) 』 ★北朝の立場から『太平記』中の誤りを訂正 [ ] (五山の僧による漢文学・漢詩文) → (五山の僧によって出版された書籍) (南禅寺の五山文学僧) (相国寺の五山文学僧)	[ ] (室町時代の庶民的な短編物語) ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』 『物くさ太郎』・『酒呑童子』 [教育] ( ) が再興した学校施設 ★ ( ) から「坂東の大学」と称される 儒学普及 ( ) (薩南学派の祖) (地方伝播) ( ) (海南学派の祖) 庶民教育『 ( ) 』 (庶民教科書) 『 ( ) 』 (国語辞典)	(江戸時代の仮名草子に大きな影響を与える) [活字印刷術] ①活字印刷術 (ヨーロッパ式) ★ ( ) が伝えた銅活字の印刷術 → ( ) (イェス会の出版物) 『 ( ) 』 『天草版 ( ) 』 ②活字印刷術 (朝鮮式) ★朝鮮出兵で伝えられた木活字の印刷術 → ( ) (天皇の命で出版)
詩 歌	→ [連歌] (上の句と下の句を交互に読み合わせる) (正風連歌を確立) 『 ( ) 』 (準勅撰の連歌集) 『 ( ) 』 ( ) ・ ( ) ・ ( ) [ ] (連歌から生じた五・七・五の短詩) ( ) 『 ( ) 』 (俳諧連歌集)		
学 問	→ [ ] (朝廷の儀式や年中行事を研究) (能の脚本→観阿弥・世阿弥の作が多い) (風刺性の強い喜劇でしばしば上演停止) 『 ( ) 』 (有職故実書) [ ] (古今和歌集に関する秘事を口伝) → ( ) → ( )	[ ] (子は ( ) 寺の僧) 『 ( ) 』 (源氏物語の注釈書) 『 ( ) 』 ( ) の語問に答える)	
芸 能	[ ] ( ) (父) ・ ( ) (子) が大成 『 ( ) ( ) 』 (世阿弥の能楽書) 『 ( ) 』 (世阿弥の秘伝を二男能が筆録) → [茶道 (茶の湯)] ( ) (寺の僧) から 禅の精神を学んで取り入れる	[ ] (庶民に広く流行した民間歌謡) → [ ] ( ) が節付けした小歌) 『 ( ) 』 (1518年に成立した小歌集) [ ] (桃井直詮が創始→織田信長も愛好) → ( ) を創始 ( ) (侘び茶を簡素化) ( ) ( ) の豪商出身 → ( ) を指導 ( ) を大成 ex. ( ) (千利休の茶室)	

	文化 (豪壮・華麗な文化)	文化 (豪壮・華麗な桃山文化の継承)	文化 ( ( ) ( ) ( ) を中心とした町人文化)
建 築		[ ] (霊廟建築様式の一つ)   ( ) を東照大権現として祀る   [ ] (書院造に茶室建築を取り入れる)   (八条宮智仁親王の別邸)   (後水尾上皇の山荘)	学 問   (本草学の基礎) 『大和本草』   (本草学を大成) 『庶物類纂』   (和算の基礎) 『 ]   (和算を大成) 『発微算法』   暦 学 ( ) ( ) を作成
文 学	小 説   [ ] → [ ] (仮名書きによる小説の総称) → [ ] (町人・武家社会の生活を描いた風俗小説)   (東山文化～)   (浮世草子の祖)   『 ]   『好色五人女』・『好色一代女』   『 ]』・『武家義理物語』   『 ]』・『 ]』		
俳 諧	[ ] → [俳諧] (連歌から独立した五・七・五の短詩) → [俳諧] (連歌から独立した五・七・五の短詩)   (東山文化～)   = 貞門俳諧 (貞門派)   = 談林俳諧 (談林派)   (蕉風(正風)俳諧を確立)   『 ]』・『野ざらし紀行』・『笈の小文』   『猿蓑』(芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)		
絵 画	風 俗 画   『彦根屏風』(彦根藩井伊家が所有)   [ ] (遊女や役者を題材とした庶民的風俗画)   (浮世絵版画的の創始者→元禄期は墨一色刷りの木版画)   『見返り美人図』(肉筆画)		
障 壁 画	(狩野派) 狩野永徳 → [ ] (幕府御用絵師) → [ ] (狩野派を破門される) (明治期まで続く)   『大徳寺方丈襖絵』 『夕顔棚納涼図屏風』   (土佐派) 土佐光信 → [ ] (京都) [ ] (土佐派を復興) (明治期まで続く)   (東山文化) [ ] (江戸) [ ] (住吉派の祖) → [ ] 『洛中洛外図巻』   (琳派) [ ] (大胆な構図で、装飾性に富んだ )   (本阿弥光悦に絵画を師事→琳派の先駆け) → [ ] ( の創始者)   『風神雷神図屏風』 『紅白梅図屏風』・『燕子花図屏風』		
工 芸	蒔 絵   「舟橋蒔絵硯箱」 → 「八橋蒔絵硯箱」   [ ]   (鍋島氏) → (有田焼の陶工) → (京焼の祖) → (尾形光琳の弟)   (島津氏) 色絵磁器の創始者 (赤を基調とした の技法を完成) 色絵陶器の創始者 [染物] ( の祖)   (毛利氏) ★ (肥前) の技法が (加賀) に伝わる [彫刻] ( ) による造像		
芸 能	浄 瑠 璃   「人形浄瑠璃」 → (浄瑠璃脚本家)   ① 浄瑠璃 (語り＝ナレーション)   ② 人形遣い (操り人形を操る人)   ③ から伝来した の伴奏   (義太夫節) 時代物『 ] (明の の史実を脚色)   (人形遣い) 世話物『 ] (大坂で起こった心中事件を脚色)   『 ]』・『 ]』		
歌 舞 伎	[ ] → [ ] 歌舞伎 → [ ] 歌舞伎 → [ ] 歌舞伎 → [元禄歌舞伎] (役者の容色中心から演技・脚本の演劇に発達)   ( が創始) (幕府により禁止) (幕府により禁止)   江戸 = ( ) (勇猛な演技)   上方 = ( ) (恋愛的な演技)   上方 = ( ) (女役)		

特徴	文化 ( _____ を中心とした享乐的・退廃的な町人文化)		
	田沼時代 ( _____ ・ _____ 期の文化)	寛政の改革 (寛政期)	大御所時代 ( _____ ・ _____ 期の文化)
文 学	小 説   _____ (前期) (怪奇物を題材) → _____ (後期) (歴史物を題材)   _____ 『雨月物語』 _____ 『南総里見八犬伝』   _____ (見料という料金をとって本を貸す) _____ 『椿説弓張月』 ( _____ の武勇伝)   ★江戸で約 _____ 軒・大坂で約 _____ 軒 (19世紀初め)   _____ (滑稽を要素とした会話中心の小説) _____ 『東海道中膝栗毛』   _____ 『浮世風呂』・『浮世床』   _____ (遊里での会話を主体とした小説) _____ (男女間の恋愛小説) _____   _____ 『仕懸文庫』 _____ 『春色梅児誉美』   _____ (赤本・青本・黒本から始まる絵入り小説の総称) _____   _____ (大人向けの絵入り小説) _____ (黄表紙を数冊分綴じた長編絵入り小説) _____   _____ 『金々先生栄花夢』 _____ 『 _____ 』 (家斉の大奥生活を描く)   _____ 『江戸生艶気権焼』 _____ (五街道の発達により旅への関心が高まる) ★紀行文 = _____ 『 _____ 』・ _____ 『遊覧記』		
	俳諧など   → [俳諧] (連歌から独立した五・七・五の短詩) → [俳諧] (連歌から独立した五・七・五の短詩)   _____ (摂津国出身) 『蕪村七部集』 _____ (信濃国出身) 『おらが春』   → [ _____ ] _____ [和歌] _____ ( _____ の祖・古今調の和歌)   _____ ( _____ ・四方赤良) ・ _____ (宿屋飯盛) _____ (越後出雲崎の禅僧・万葉調の和歌)		
絵 画	_____ (多色刷り浮世絵版画) → _____ (美人・役者を上半身で大写しに描く) → [風景版画] (旅への関心の高まりが背景)   _____ (錦絵の創始者) _____ 『婦女人相十品』 (美人画) _____ 『富嶽三十六景』   『弾琴美人』 _____ 『市川鯉蔵』 (役者絵) _____ 『東海道五十三次』   浮世絵版画が墨一色刷り→三色刷り→多色刷りへ _____ 『江戸名所百景』		
	_____ ( _____ ) (絵画の専門ではない文人や学者が趣味として描いた絵画)   _____ + _____ (渡辺華山らを指導) → _____ (三河田原藩家老で高野長英らと蘭学を学ぶ)   『 _____ 』 (二人による合作) _____ (豊後竹田の人) 『鷹見泉石像』 (鷹見泉石は古河藩家老)		
	洋 風 画   [洋風画] (蘭学の隆盛の影響を受けて、西洋画の手法に基づき描かれた絵画) _____ ( _____ を創始) → _____ (白河藩主松平定信に仕える)   _____ 『西洋婦人図』 『解体新書』の挿絵を描く 『不忍池図』 (油絵) 『浅間山図屏風』		
	写 生 画   [写生画] (遠近法や陰影法を用いた写実的絵画)   _____ (円山派を創始) → _____ ( _____ ) (円山応挙に学び、 _____ を創始)   『 _____ 』 『柳鷺群禽図屏風』		
教 育	_____ ( _____ ) (藩士の子弟教育機関) 熊本藩 = _____ ( _____ が創立) 会津藩 = _____ (松平容頤が創立)   岡山藩 = _____ ( _____ が創立) 秋田藩 = _____ ( _____ が創立) 水戸藩 = _____ (徳川斉昭が創立)   ★ _____ (庶民教育機関) = _____ (岡山藩) 米沢藩 = _____ ( _____ が創立) 薩摩藩 = _____ (島津重豪が創立)		
芸 能	浄 瑠 璃   _____ (近松門左衛門に師事) → _____ (竹田出雲に師事) → _____ (人形操りを離れた演奏中心)   『仮名手本忠臣蔵』 (赤穂事件が題材) 『本朝廿四孝』 (衰退) _____ ・ _____ ・ _____ ・ 一中節   『菅原伝授手習鑑』 (目泰の変を脚色)   『義経千本桜』 (義経伝説を脚色)		
	歌 舞 伎   [芝居小屋] (歌舞伎の劇場) → [江戸三座] (興行を幕府が公認) → _____ (四世) (歌舞伎作者)   ★浄瑠璃に押され、歌舞伎は一時停滞するが、 _____ 座・ _____ 座・ _____ 座 『東海道四谷怪談』 (写実性の強い _____ )   花道・付舞台・回り舞台・せり上がりなど _____ (五世鶴屋南北に師事した歌舞伎作者)   舞台装置の開発・所作事の発達で再度隆盛 『白浪五人男』 (盗賊を主人公とする _____ )		



## [A] 文化

特徴	①<u>最初の仏教文化</u> (飛鳥地方を中心とした文化)   ②<u>文化の影響</u> (朝鮮半島を経由して導入)   ③<u>国際性に富む文化</u> (ギリシア・インドとの共通性)	  
建築	[ ] (古墳に代わる新たな権威の象徴として豪族が建立・管理した寺院)   仏教受容に伴い、従来の..... (地面に穴を掘り、そこに柱を立てる技法) から、..... (建物の土台となる石) の上に柱を立てて屋根に..... を葺く技法が導入される   ..... = ..... 寺 (..... 寺) (596年に建立された日本最古の寺院)   ★飛鳥寺塔の..... (中心柱となる礎石) から従来の古墳の副葬品と同種の品が出土   ..... = ..... 寺 (太秦寺) (603年に京都の太秦に建立)   ..... (.....) = ..... 寺 (..... 寺) ・ ..... 寺 (難波)   ..... 天皇 (厩戸王(聖徳太子)の父) のために建立した世界最古の木造建築物   ★法隆寺金堂などの柱は..... (円柱の中央部がふくらんでいる様式)   →古代ギリシアのパルテノン神殿に用いられている技法   [法隆寺再建論争]   法隆寺は..... 年に建立されたが、『.....』に..... 年法隆寺炎上の記事があり、その真偽をめぐって明治末以降歴史学者の中で再建説・非再建説が主張された。その後、1939年に..... 跡 (..... 寺式) の発掘により再建説が有力となり、2004年に木材の建築年代の調査によって再建説が確定した。	[寺金堂] [寺] [法隆寺夢殿救世観音像]    
彫刻	[.....] (力強く端厳で男性的な造像様式)   ..... 寺 (飛鳥大仏) (.....) が..... 年に制作した金銅像   ..... 寺金堂 (.....) が..... 年に制作した金銅像   ..... 寺夢殿救世観音像 (フェノロサの調査で初めて解明された木像)   [.....] (柔和で丸みがある造像様式)   ..... 寺百済観音像 (百済からの渡来と伝えられる(?)木像)   ..... 寺 (.....) (木像)   ..... 寺 (.....) (木像)	[寺] [寺] [法隆寺百済観音像]   
工芸	..... 寺 (..... の死後, ..... が作らせた刺繍)   ..... (つる草がからみあった様子を図式化した文様)   ★古代エジプト・..... で発達し、中国を経て伝来   ..... 寺獅子狩文様錦 (ベガサスにまたがった武者が獅子を射る様子)   ★西アジアササン朝..... の狩猟文の影響   ..... 寺竜首水瓶 (竜をかたどった蓋と把手を付けた水差し)   ..... 寺『.....』 (玉虫の羽が伏せてあった仏像・経巻などを安置する箱)	[寺] [寺]    
絵画	..... 寺『.....』   須弥座の左右に「.....」・「.....」が描かれている   ★..... (古代の油絵の一種) の技法 (漆絵ともいわれる)	[忍冬唐草文様] [法隆寺獅子狩文様錦] [法隆寺竜首水瓶]    

## ㊦ 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

①池辺の大宮に天下治めしし天皇②太御身勞づき賜ひし時、③歳は丙午に次る年、④太玉天皇⑤太子とを召して誓願し賜ひ、  
「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に、將に寺を造りて⑥薬師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ  
賜ひて造り堪へずありしかば、⑦小治田の大宮に天下治めしし大王天皇及び⑧東宮聖王、大命を受け賜はりて⑨歳は丁卯に次れ  
る年に仕へ奉る。

[① 天皇 ② 病気になられた時 ③ 586 年 ④ 推古天皇 ⑤ 聖徳太子 ⑥ 薬師如来像 ⑦ 天皇 ⑧ ( ) ⑨ 607 年]

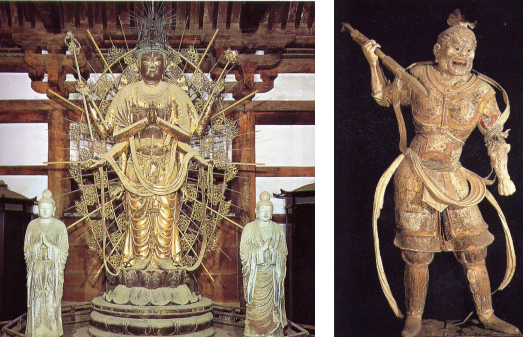
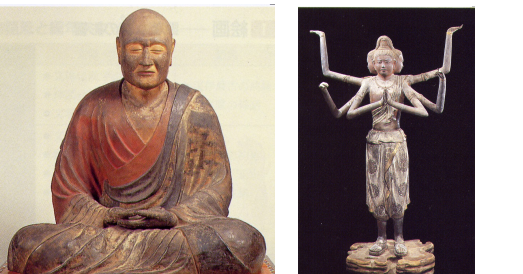
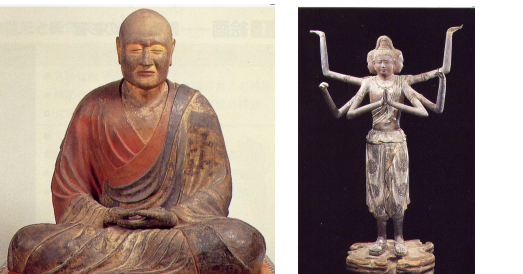
## 〔B〕 文化

特徴	① <u>文化の影響</u> (インド・アジア・高句麗の影響もみられる) ② 律令国家建設期の文化 (若々しい清新な文化)			
建築	〔 <u>      </u> ( <u>      </u> )〕 (国家が建立・管理した寺院) <u>      </u> 寺 (もと <u>      </u> 天皇が建立した <u>      </u> 寺) <u>      </u> 寺 ( <u>      </u> 天皇が皇后の病氣平癒のため建立) ↳ <u>      </u> 寺 ①頂上に天女と飛雲を配した <u>      </u> がある ② <u>三重塔</u> の各層に <u>      </u> がつく <u>      </u> 寺( <u>      </u> 寺) <u>      </u> 寺( <u>      </u> 寺)	〔 <u>      </u> 寺〕 (もと <u>      </u> 寺の本尊)	〔 <u>      </u> 寺〕 (もと <u>      </u> 寺の本尊)	〔法隆寺 夢違 観音像〕
彫刻	<u>      </u> 寺仏頭 (金銅像) ★もと <u>      </u> の建立した <u>      </u> 寺の本尊 <u>      </u> 寺 <u>薬師三尊像</u> (金銅像) <u>      </u> 寺 <u>聖観音像</u> (金銅像) <u>      </u> 寺夢違観音像 (金銅像) <u>      </u> 寺阿弥陀三尊像 (金銅像)			〔薬師寺金堂薬師三尊像〕 〔薬師寺東院堂聖観音像〕
絵画	<u>      </u> 寺 <u>壁画</u> ( <u>      </u> 年に焼損した仏教壁画) インドの <u>      </u> 壁画・中国の <u>      </u> 石窟壁画に類似 <u>      </u> 古墳壁画 ( <u>      </u> 年に <u>      </u> 県明日香村で発見された古墳の壁画) 高句麗古墳壁画の影響/ <u>      </u> 古墳 (奈良県) と類似 石室の天井に ( <u>      </u> 星座)・東西南北の壁面に <u>      </u> や男女群像が描かれている ★ <u>      </u> = <u>      </u> (東)・ <u>      </u> (西)・ <u>      </u> (南)・ <u>      </u> (北)			〔壁画〕 〔壁画〕
文学	漢詩文 = <u>      </u> (天智天皇の皇子) <u>      </u> (天武天皇の皇子) } のち『 <u>      </u> 』に収録される 和歌 = <u>      </u> (天智天皇の妃) <u>      </u> (下級官吏) } のち『 <u>      </u> 』に収録される 「大君は <u>      </u> にし坐せば 天雲の 雷の上に 慮せるかも」			

時代名	文化名	特徴	詩歌 (漢詩文・和歌・俳句など) の展開
飛鳥時代	<u>文化</u>	<u>文化の影響</u>	
白鳳時代	<u>文化</u>	<u>文化の影響</u>	<u>漢詩文・和歌の成立</u>
奈良時代	<u>文化</u>	<u>文化の影響</u>	↓ ex. 『 <u>      </u> 』 (漢詩文集)・『 <u>      </u> 』 (和歌集)
平安初期	<u>文化</u>	<u>文化の影響</u>	<u>漢詩文の隆盛</u> ex. 『 <u>      </u> 』 (最初の勅撰漢詩文集)
平安中期	<u>文化</u>	<u>唐風文化を基礎にした日本文化の形成</u>	<u>和歌の隆盛</u> ex. 『 <u>      </u> 』 (最初の勅撰和歌集)
平安末期	<u>文化</u>	貴族層が民衆文化を受容, 独自の地方文化が発展	↓
鎌倉時代	<u>文化</u>	公武二元文化, 禅宗文化の影響	ex. 『 <u>      </u> 』 (八代集の最後)
南北朝時代	<u>文化</u>	南北朝の動乱期の世相を反映	<u>連歌の隆盛</u> ex. 『 <u>      </u> 』 (最初の准勅撰連歌集)
足利義満時代	<u>文化</u>	<u>公家文化を基礎に武家文化が発展, 禅宗文化の影響</u>	↓
足利義政時代	<u>文化</u>	「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成	ex. 『 <u>      </u> 』 ( <u>      </u> の連歌集)
戦国時代	天文文化	<u>      </u> で京都荒廃による中央文化の地方普及	<u>俳諧連歌成立</u> ex. 『 <u>      </u> 』 ( <u>      </u> の俳諧連歌集)
安土桃山時代	<u>文化</u>	<u>豪壮・華麗な文化, 南蛮文化の影響</u>	↓
徳川家光時代	<u>文化</u>	<u>豪壮・華麗な桃山文化の継承</u>	<u>俳諧の隆盛</u>
元禄時代	<u>文化</u>	( <u>      </u> ・ <u>      </u> )を中心とした町人文化	ex. 『 <u>      </u> 』 ( <u>      </u> の俳諧集)
大御所時代	<u>文化</u>	<u>      </u> を中心とした享乐的・退廃的な町人文化	ex. 『 <u>      </u> 』 ( <u>      </u> の俳諧集)



## 〔C〕 文化

特 徴	① 文化の影響 ② 貴族中心の仏教文化（平城京を中心とした文化） ③ 国際色豊かな文化（正倉院宝物に多くみられる）	
建 築	寺 { _____ (天平期に建築された本格的な八角円堂) _____ (県犬養三千代宅を移築したものと伝わる) 寺 { _____ (三月堂ともいう法華会が行われた建物) _____ (東大寺創建当時の中で現存する唯一の門) _____ (_____の建築様式で、_____天皇の遺愛品を_____が献納) 寺 { _____ (天平期の金堂の中で現存する唯一の金堂) _____ (平城宮の_____を移築し改修)	 〔東大寺正倉院宝庫〕
彫 刻	〔_____〕(麻布を重ねて漆で塗り固めてつくった像) 寺 _____ 寺鑑真和上像 寺阿修羅像 (興福寺八部衆像の一つ) 興福寺須菩提像 (興福寺十大弟子像の一つ)	 中央 〔 寺 _____ 〕 〔東大寺法華堂執金剛神像〕 左右 〔 寺 _____ 日光・月光菩薩像 〕
刻	〔_____〕(粘土でつくった像) 寺 _____ 日光・月光菩薩像 寺 _____ 執金剛神像 寺 _____ 四天王像 ★四天王=持国天・増長天・広目天・多聞天 新薬師寺十二神将像	 〔東大寺戒壇院四天王像〕
工 芸	寺 _____ (_____の戦没者供養のため _____天皇の発願で作成) ★ _____ 経 (百万塔の塔内に納められた現存最古の印刷物) 宝物 (_____が _____寺に寄進した _____天皇の遺品) _____・漆胡瓶・白瑠璃碗・楽毅論・雑集	 〔東大寺戒壇院四天王像〕
絵 画	_____『_____』(樹下に唐衣装を着けた美女を描いた美人画) _____『_____』(麻布に吉祥天女を描いた仏教絵画) 醍醐寺『_____』(絵巻物の源流)	 〔 寺 _____ 〕 〔 寺 _____ 〕
文 学	〔漢詩文〕 『_____』( _____年) 現存最古の漢詩集 ( _____・ _____の作品などを収録) ★ _____『_____』を著述)・ _____( _____を開設) 〔和歌〕 『_____』( _____年) _____らが編纂した最古の和歌集 _____(漢字の音・訓を用いて日本語を表記)で記す →有名歌人や _____・ _____の歌など約 4500 首を収録 ★ _____『_____』を著述)・ _____(自然・叙景を詠む) _____(九州歌壇の中心人物)・ _____(万葉集で最多収録)	 〔 寺 _____ 〕 〔 寺 _____ 〕
教 育	中央= _____ (五位以上の貴族や東西 _____の子弟の教育→ _____の管轄) 学科 { _____ (儒教の經典を学ぶ) ・ _____ (律令・格式を学ぶ) _____ (漢詩文・歴史を学ぶ) ・ _____ (算術を学ぶ) } 地方= _____ ( _____の子弟の教育→ _____の管轄) ★ _____ ( _____が設置した最初の私設図書館)	 〔 _____ 〕 〔 _____ 〕 〔百万塔陀羅尼經〕

記・紀の編集		編 纂 過 程
		天皇が _____ に『 _____ 』『 _____ 』を誦習させる   ★『帝紀』(天皇の系譜を記録)・『旧辞』(神話・伝承などを記録)
	『 _____ 』( _____ 年)	_____ が誦習→ _____ が筆録(神代～ _____ 天皇までを記述)
	『 _____ 』( _____ 年)	諸国の地誌(地名の由来・産物・伝承など)を編纂させる   現存 = _____ (完備現存)・ _____ ・ _____ ・ _____ ・ _____
	『 _____ 』( _____ 年)	_____ ( _____ 天皇皇子)が編纂(神代～ _____ 天皇までを記述)   ① _____ の最初(最初の勅撰国史)   ② _____ (年代を追って出来事を記す叙述法)で記述(異説も併記)



〔漆胡瓶〕



〔螺鈿紫檀五絃琵琶〕



〔過去現在絵因果経〕

天皇	成立	六 国 史	内 容	編 者	そ の 他
_____	_____ 年	『 _____ 』	神代～持統	_____	『 _____ 』(編纂 = _____) 六国史の内容を部門別に分類したもの
桓武	797 年	『 _____ 』	文武～桓武	菅野真道・藤原継縄	
仁明	840 年	『 _____ 』	桓武～淳和	藤原緒嗣・藤原冬嗣	
清和	869 年	『 _____ 』	仁明一代	藤原良房	
陽成	879 年	『 _____ 』	文徳一代	藤原基経	
_____	901 年	『 _____ 』	_____	_____	

## □ _____ の _____ 『 _____ 』

…綿も無き 布肩衣の ①海松の如 ②わわけさがれる ③襦袢のみ 肩にうち懸け ④伏慮の ⑤曲慮の 内に⑥直土に 藁  
 解き敷きて 父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に 囲み居て 憂へ⑦吟ひ 竈には 火氣ふき立てず ⑧顛には 蜘蛛の  
 巣懸きて 飯炊く 事も忘れて ⑨鵲鳥の ⑩呻吟ひ居るに いとのきて 短き物を ⑪端載ると 云へるが如く ⑫楚取る  
 ⑬五十戸良が声は 寝屋処まで 来立ち呼びばぬ 斯くばかり 術無きものか 世間の道 世間を憂しとやさしと思へども 飛  
 び立ちかねつ鳥にしあらねば

〔①海藻の一種 ②破れてぶら下がる ③ぼろ ④屋根の低い家 ⑤ゆがみ傾いた家 ⑥土にじかに ⑦うめく ⑧蒸し器  
 ⑨呻吟うの枕詞 ⑩細々と力のない声で鳴く ⑪短いものをさらに端を切って短くすること ⑫むち ⑬_____〕

## □ _____ の序文『 _____ 』

臣①(ア)言す。……是に於て②天皇詔すらく。「朕聞く。諸家の責る所の③(イ)及び④本辞、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふ。  
 今の時に当りて其の失を改めざれば、未だ幾年をも経ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯、王化の⑤鴻基なり。故惟  
 に(イ)を撰録し、(ウ)を⑥討纂し、偽を削り実を定め、後葉に流えむと欲す」と。時に⑦舍人有り。姓は(エ)、名は(オ)。年は  
 是れ廿八。人となり聡明にして、⑧目に度れば口に読み、耳に払るれば心に勤す。即ち(オ)に勅語して、⑨帝皇の日継及び先代  
 の(ウ)を⑩誦習はしむ。然れども⑪運移り世異りて、未だ其の事を行はず。伏して 惟るに⑫皇帝陛下、……ここに於て(ウ)の  
 誤り忤えるを惜しみ、⑬先紀の謬り錯えるを正さむとして、⑭和銅四年九月十八日を以て臣(ア)に詔すらく。「(エ)(オ)の誦め  
 る所の勅語の(ウ)を撰録して以て献上せよ」者り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り撫ふ。……大抵所記せるは、天地の開闢けし  
 より始めて、⑮小治田の御世に記る。……并せて三巻を録し、謹みて献上る。

⑮和銅五年正月二十八日

正五位上勳五等太朝臣臣(ア)謹上

〔①_____ ②_____ 天皇 ③歴代の天皇の事績や皇位継承の記録 ④旧辞と同じ。神話や伝説など ⑤天皇が徳をもって人々  
 を導くための基礎 ⑥検討する ⑦天皇や皇子などの側近く仕え、雑事を勤めた下級官人 ⑧一度見れば声に出して読み、一  
 度聞けば記憶する ⑨天皇 ⑩暗誦させる ⑪時代が移り、_____ 天皇から代が改まった ⑫_____ 天皇 ⑬_____ ⑭711 年 ⑮  
 _____ 天皇 ⑯_____ 年〕

## □ _____ の編集命令『 _____ 』

(①和銅六年)五月甲子。制すらく、畿内・_____ 諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の、銀・銅・彩色・  
 草木・禽獸・魚虫等の物は、具に②色目を録せしむ。……  
 〔①_____ 年 ②種類・品目〕



建築	[山岳寺院 (山岳修行を重視するため、自由な伽藍配置で山中に建立)]   寺 (女性が唯一参詣できる寺→「<u>女人高野</u>」と呼ばれる)   ↳ <u>      </u>・<u>      </u> (金堂の屋根は檜の皮で葺いた<u>      </u>→現在は<u>      </u>)		
彫刻	[<u>      </u>] (一本の木材から丸彫りして制作する彫法)   [<u>      </u>] (仏像の衣のひだを表現する彫刻技法)   寺 <u>      </u> (密教彫刻の代表作)   寺金堂釈迦如来像 (金堂の本尊)   寺弥勒堂釈迦如来像 (翻波式の典型例)   寺 <u>      </u> (僧の形をした八幡神の像)		
絵画	[<u>      </u>] (密教の仏の世界を構図化したもの)   寺両界曼荼羅・<u>      </u> 寺両界曼荼羅   ★両界曼荼羅=<u>      </u> (金剛頂経に依拠)・<u>      </u> (大日経に依拠)   [不動明王信仰]   寺 <u>      </u> (<u>      </u>と呼ばれる→<u>      </u>が描かせたもの)   高野山明王院不動明王像 (<u>      </u>と呼ばれる)		
書道	<u>      </u>=<u>      </u>・<u>      </u>・<u>      </u>   ↳「<u>      </u>」(812年、空海が最澄へ送った書状)   cf.「<u>      </u>」(813年、最澄が弟子の素範へ送った書状)		
文学	[勅撰漢詩文集] (天皇の命により撰定・編集された漢詩文集)   『<u>      </u>』(天皇の命で<u>      </u>らが編集した<u>最初</u>の勅撰漢詩文集)   『<u>      </u>』(天皇の命で<u>      </u>らが編集した<u>2番目</u>の勅撰漢詩文集)   『<u>      </u>』(天皇の命で<u>      </u>らが編集した<u>3番目</u>の勅撰漢詩文集)   [私撰漢詩文集・漢詩評論]   『<u>      </u>』(<u>      </u>の漢詩文を弟子の<u>      </u>が編集した漢詩文集)   『<u>      </u>』(<u>      </u>の漢詩文集)   『<u>      </u>』(空海の著した漢詩評論書)   [その他]   『<u>      </u>』(薬師寺の僧である<u>      </u>が著した日本最古の仏教説話集)   『<u>      </u>』(<u>      </u>が編集した畿内氏族の系譜→氏姓の乱れを正す)		
教育	① <u>      </u> (<u>      </u>) (漢詩文・歴史を学ぶ→教授=<u>      </u>) を重視   ② <u>      </u> (有力貴族が子弟教育のために設置した寄宿舎)   藤原氏=<u>      </u>・和気氏=<u>      </u>   在原氏=<u>      </u>・橘氏=<u>      </u>   ③ <u>      </u> (...年に<u>      </u>が設立した身分差別を設けない民衆教育機関)		

文化	<u>      </u> (嵯峨・清和天皇)	<u>      </u> (藤原摂関政治)	院政期文化
特徴	嵯峨天皇による唐風化政策	唐の衰退・嵯峨上皇の死・律令国家の変質→貴族社会の成熟	
	→唐風文化(晚唐文化)が全盛	→唐風文化を基盤に日本的に発展させた日本文化の形成	→継続
	↳①漢詩文の流行→勅撰漢詩集の編纂	↳①仮名文字の発達	
	→ <u>      </u> に基づき、貴族の	(1) 和歌の隆盛→勅撰和歌集の編纂	
	教養として漢詩文が重視される	(2) 仮名文学の隆盛	
	↳②三筆(唐風の書体)	↳②三蹟(和風の書体)	
仏教	<u>      </u> ・ <u>      </u> → <u>      </u> の隆盛	<u>      </u> の影響→ <u>      </u> の隆盛	→聖による布教で
	→密教美術( <u>      </u> ・不動明王像)	→浄土教美術( <u>      </u> ・ <u>      </u> ・ <u>      </u> )	浄土教地方伝播
生活	唐風の衣服・建築	日本的な衣服・建築( <u>      </u> ・ <u>      </u> ・ <u>      </u> など)	

建築	[ ] (阿弥陀如来を安置する堂) 無量寿院 (1020年に [ ] が建立→現存せず) [ ] ( [ ] 年に [ ] が建立) 寺阿弥陀堂 (1051年に日野資業が建立)
	[ ] (仏像の各部を別々に制作し、組み合わせる彫法→ [ ] が大成) [ ] (制作= [ ]) 寺阿弥陀如来像 寺阿弥陀如来像
	[ ] (阿弥陀如来が臨終の人を迎えに来る姿を描いたもの) ex. 聖衆来迎図 [ ] ( [ ] に対する日本的風物を題材にした日本風絵画の総称) 絵師= [ ] (大和絵の祖)・ [ ]
	[ ] (漆を塗った漆器に、金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法) [ ] (夜光貝・あわび貝などの貝片を漆地や木地にはめこむ手法)
書道	[ ] = [ ] 「秋萩帖」(小野道風の書と伝わる) [ ] 「 [ ] 」(大宰大貳の赴任途中にあてた書状) [ ] 「白氏詩巻」( [ ] の祖とされる)
文学	[ ] [かな文字の発達] [ ] 漢字 → [ ] → [ ] (草書体を簡略化) ( [ ] ) (漢字の音・訓を用いる) [ ] (漢字の一部から)
	[勅撰和歌集] (天皇の命により撰定・編纂された和歌集) 『 [ ] 』(最初の勅撰和歌集→「 [ ] 」の最初) [ ] 年に [ ] 天皇の命で、 [ ] ・ [ ] ・ [ ] らが編纂 →序文=平仮名による仮名序 ( [ ] 作) と漢字による真名序 (紀淑望) がある [物語]
	『 [ ] 』(かぐや姫などを描いた最古の物語文学) 『 [ ] 』(主人公の [ ] の恋愛談を中心とした短編物語集) ★六歌仙 ( [ ] ・ [ ] ・ [ ] ・ [ ] ・ [ ] ・ [ ] ) 『太和物語』(伝説・説話集的性格の強い歌物語) 『宇津保物語』(洞穴に住む貧しい一家が、琴の霊力により繁栄する物語) 『落窪物語』(継母にいじめられる落窪姫が、貴公子と結婚し幸福になる物語) 『 [ ] 』( [ ] /光源氏の恋愛と薫大将の悲劇を描いた代表的物語文学) [日記・随筆]
	『 [ ] 』( [ ] /任期を終えた貫之が土佐から帰京するまでの仮名日記) 『 [ ] 』( [ ] の母/夫兼家との不和を中心とする結婚生活を描く) 『 [ ] 』( [ ] /一条天皇の中宮定子に仕えていた頃の宮廷生活を描く) 『 [ ] 』(和泉式部/教道親王との恋愛を歌日記風に記した回想記) 『 [ ] 』(紫式部/宮廷での見聞や人物評などを随筆風に記す) 『 [ ] 』( [ ] の女/上総からの帰郷より老境までの一生を回想) [漢詩文] 『 [ ] 』( [ ] /今までの優れた漢詩文を集める) 『 [ ] 』( [ ] /和歌と漢詩文の中で朗詠に適したものを編集) 『 [ ] 』( [ ] /百科事典的漢和辞書)



[ ]

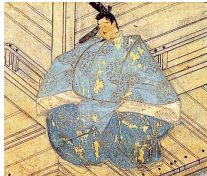



[高野山聖衆来迎図]

[ ] by [ ]




[ ] [ ] (十二単)





[ ] [ ] [ ]

[生活]

①服装

	男性	女性
正装	[ ] ・ [ ]	[ ] (十二単)
日常着	[ ] ・ [ ]	[ ] ・ [ ]
庶民着	[ ] ・ [ ]	小袖・腰布

②邸宅

[ ] (平安時代の貴族の住宅)  
ex. [ ] 邸 (源高明の娘の明子の邸宅)  
[ ] 邸 (藤原道長の邸宅)

③成人儀式

男子= [ ] ・ 女子= [ ]

④ [ ] (朝廷で慣例として毎年行われる儀式)  
↓ ex. 節会 (元日・端午・七夕など) ・ 祈年祭 ・ 大祓

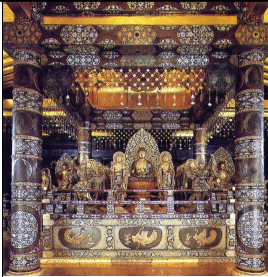
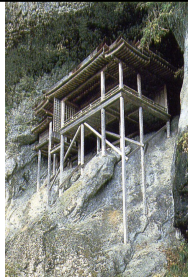
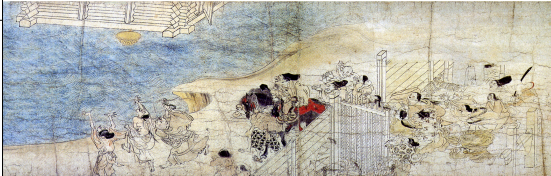
⑤儀式書 (朝廷の儀式・行事のあり方を記したもの)  
ex. 『 [ ] 』( [ ] ) ・ 『 [ ] 』( [ ] )

⑥迷信の流行

[ ] の影響 (古代中国の [ ] に基づく)  
→ [ ] (一定期間、特定の建物の中で謹慎する)  
→ [ ] (外出の時忌避すべき方向を避ける)



## 〔F〕院政期文化

建築	〔<u>          </u>〕(阿弥陀堂建築の地方普及)   <u>        </u> 寺 ( <u>        </u> 県〔<u>        </u> 国〕) ★ <u>        </u> が <u>        </u> に建立   〔奥州藤原氏〕   〔<u>        </u> 寺〕 → <u>        </u> → <u>        </u> → <u>        </u> → <u>        </u>   〔<u>        </u> 県〔<u>        </u> 国〕〕   〔<u>        </u> 県〔<u>        </u> 陸奥国〕〕   〔<u>        </u> 県〔<u>        </u> 伯耆国〕〕	  〔<u>        </u> 寺 (岩手県平泉)〕    〔三仏寺投入堂(鳥取県)〕
絵画	〔<u>          </u>〕(仏教経典に特別な装飾をほどこしたもので、後に寺院に奉納する)   『<u>          </u>』(下絵に大和絵で風俗を描き、その上に経文を墨書した古写経)   ★大阪 <u>        </u> 寺・東京国立博物館に所蔵されている   『<u>          </u>』( <u>        </u> が一門の繁栄を祈って <u>        </u> 国 <u>        </u> に奉納した古写経)   〔<u>        </u> 絵巻物〕   『<u>          </u>』(絵師= <u>        </u> /源氏物語を絵巻物にしたもの)   ★引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く   『<u>          </u>』(絵師= <u>        </u> / <u>        </u> ( <u>        </u> 年)を題材にしたもの)   『<u>          </u>』(絵師= <u>        </u> /動物を擬人化して世相を風刺)   『<u>          </u>』(絵師=鳥羽僧正覚猷? /僧 <u>        </u> に関する奇跡談を描く)	  〔富貴寺大堂(大分県)〕    〔白水阿弥陀堂(福島県)〕    〔<u>          </u>〕 by 鳥羽僧正覚猷
文学	〔<u>        </u> 歴史物語〕   『<u>          </u>』(作者= <u>        </u>? /藤原道長の栄華を賛美して記述)   『<u>          </u>』(大宅世継と夏山繁樹の対談形式で、藤原道長の栄華を批判的に記述)   〔<u>        </u> 説話文学〕   『<u>          </u>』(編者= <u>        </u>? /本朝・天竺・震旦の3種類から成る説話文学)   〔<u>        </u> 軍記物語〕   『<u>          </u>』(平将門の乱を題材にした軍記物語)   『<u>          </u>』(前九年の役を題材にした軍記物語)   〔<u>        </u> 歌謡〕   <u>        </u> (貴族も愛好した現代歌謡)   <u>        </u> (貴族も愛好した古代歌謡)   → 『<u>          </u>』( <u>        </u> が当時流行した今様・催馬楽などを集成)	  〔<u>          </u>〕    〔<u>          </u>〕 by 藤原隆能    〔<u>        </u> 扇面古写経〕

□          『          』 by         

仏は常^{つね}に在^{いま}せども、現^{うつ}ならぬぞあはれなる、人の音^{おと}せぬ^{あかづき} 曉^{ほの}に、仄^ほかに夢に見えたまふ。  
遊びをせむとや生まれけむ、戯^{あそ}れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供^{こども}の声聞^{こゑ}けば、我が身^みさへこそ動^{うご}かるれ。

## 〔NOTE〕

## 《三浦知良－カズ－》

サッカー選手として、そして一人の人間として僕は三浦知良を尊敬している。最近では欧州で活躍する海外組の選手達が脚光を浴びているが、僕の小学校の頃のヒーローは何と言ってもカズだった。当時のカズは J リーグ草創期を象徴するスターだった。華々しいプレーは観るものを魅了し、そしてここぞという時に決めてくれる偉大なストライカーだった。もちろん、今現在も横浜 FC で現役としてプレーしている。ただ、やはり全盛期のようなキレはあまり見られなくなってしまった。それでも僕は、その全盛期の頃のカズと今のカズでは、今のカズの方が人を魅了する選手だと思っている。

高校一年の時学校を中退し、ブラジルでプロとなり、数クラブを渡り歩きあのベレのいた名門サントス FC でレギュラーを担っていたカズは 1990 年、日本に帰国した。そのまま、ヨーロッパに出て行くことも出来ただろうが、まだ、プロリーグさえなかった日本に彼は戻ってきたのだ。「日本を W 杯に連れて行くために帰ってきました」これが、カズの日本帰国の第一声だ。今現在の日本代表を見ると想像できないかもしれないが、その当時の日本代表はアジアの中でも決して強いチームではなかった。その日本を W 杯に連れて行く、それは簡単に言えることではない。自らに責任というプレッシャーをわざとかけていたのではないだろうか。やがて J リーグが開幕し、初代 J リーグ MVP を獲得したカズだったが、夢である W 杯出場は本当にあと一步のところで届かなかった。有名な「ドーハの悲劇」、ロスタイム残りあと 1 分さえ凌ぎきれば W 杯が決まるところだった。しかし悪夢のようなロスタイム、イラクのゴールによって日本代表は W 杯への出場権を得ることはできなかった。彼が掴みかけていた夢はすりと逃げていってしまった。

その後、イタリアセリエ A へと舞台を移したカズは結果を残すことはできなかったが、日本に帰ってきたその翌年、彼は J リーグ得点王となっている。次のフランス W 杯の時には彼は 30 歳になる、それだけラストチャンスにかける意気込みもあったのだと思う。

1997 年、最後のチャンス、フランス W 杯のアジア予選が始まった。カズは初戦のウズベキスタン戦で 4 得点を挙げ、見事に結果を残した。しかし、その後怪我の回復具合が思わしくないなど、彼はゴールを決めることが出来なかった。日本の苦戦と共に、点の取れないカズへの批判は徐々に増していった。何とかイランとのアジア第 3 代表決定戦にまわった日本は延長後半、岡野雅行(当時浦和レッズ)のゴールによって W 杯への出場権をもぎ取る。カズにとっても 8 年かけてやっと掴んだ W 杯への出場権であった。

1998 年 5 月、日本代表監督である岡田武史はフランスへ向かう代表 25 人を発表した。その中にはカズの名前があった、正直ホッとした。実はこの時、カズは年齢限界説や、足の怪我の回復が思わしくないなど、当落線上にいると噂になっていたからだ。5 月 27 日、日本代表は直前合宿が行われるスイスへ出発した。この合宿の後、W 杯に出場する最終登録メンバー 22 人が発表される。もしかしてその外れる 3 人にカズが入ってしまうのではないかと、といった不安もあった。しかし、この時の代表についてのコメントをしたジーコも「カズのような経験のある選手はこういった大舞台でこそ代えの効かない最も重要な選手なんだ、私が現役時代そうだったようにね」というように、代表から外れるといったことは考えられなかった。だが、その選考当日 6 月 2 日、岡田武史が発表した言葉に僕は耳を疑うしかなかった、「外れるメンバーは市川、カズ、三浦カズ、北沢の 3 選手です。」

カズは北沢と共に日本に帰国することになった。どれだけ辛かったかというのは、正直僕も想像が出来ない。日本サッカーのため、ブラジルから帰国し、J リーグを盛り上げ、ドーハの悲劇を経験し、それでも夢である W 杯を目指し、そして 4 年後出場権をようやく得た。それにもかかわらず、W 杯のピッチに立つことは出来なかったのだ。それもフランスの隣国スイスにまで来ていながら…。

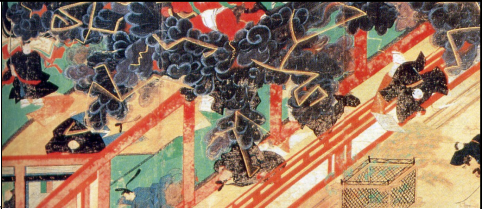
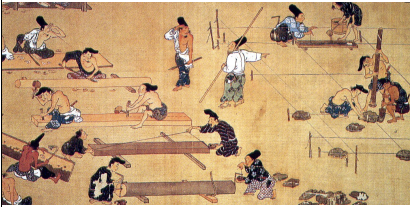
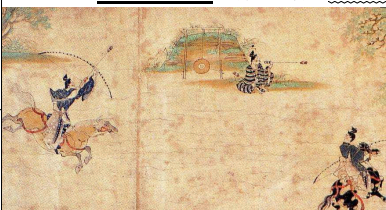
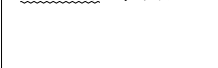
しかし、帰国したカズと北沢を待っていたものは、マスメディアへの会見だった。2 人に対しいろいろな質問が飛び交う。「岡田監督から話を聞いた際、どのようなことが頭をよぎったか?」「いま挫折感を味わっているか?」質問をするレポーター達を殺してやりたいと思った。そんな中、カズは文句の一つも言わず、丁寧に応対した。そして「向こう(フランス)に自分の魂みたいなものは置いてきたと思っている。」と最後に結んだ…。正直文句の一つくらい言って欲しかった。でも、言いたい事は山ほどあるはずなのにカズも、そして北沢も文句を何一つ言わなかった。それとも辛くて言えなかったのかもしれない。

この後、彼がこの事をどう考え、どう乗り越えていったのかはわからない。それはカズ本人が話していないから。でも、一つだけ僕にわかるのは、カズが今とってもいい顔をしているということ。見た目のかっこよさとかじゃないんだ。なんか、ほんとこんな人になりたいなって思う。これまでも本当に辛くて、逃げ出したくなった時もあった。将来もしかしてこれまで以上に辛いことがあるかもしれない。でも、それを乗り越えた時、人としてもう一つ大きくなれるんだって感じる。そんな風に思わせてくれる人。



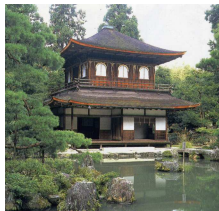


特徴	①<u>公武二元文化</u> (公家の伝統的文化と武士の新しい文化)                  ②<u>宋・元の新しい中国文化の導入</u> (禅宗の伝来など)                  ③<u>庶民文化の成長</u>			
建築	寺 _____ = _____ (_____) ★ _____ の南都 (寺・寺) 焼打ち (_____) 年                  ★ _____ による東大寺再建事業 (_____) [勅進職] の指導・ _____ [宋の工人] の協力                  寺 _____ = _____ (_____)                  蓮華王院本堂 = _____                  ★ <u>三十三間堂</u> ともよばれる (蓮華王院は後白河法皇の命で _____ が創建)                  ★ その他の和様建築 = 石山寺多宝塔・秋篠寺本堂・興福寺北円堂  <u>観心寺金堂</u> = _____ (新和様)			
彫刻	寺 _____ (_____) (_____) (_____) 寺                  寺僧形八幡神像 (_____)                  寺無著・世親像 (_____) 寺                  寺天灯鬼・竜灯鬼 (_____) 寺                  寺空也上人像 (_____)                  東大寺<u>重源上人像</u> (運慶一派の作と推定される)                  鎌倉名月院<u>上杉重房像</u> (奈良仏師に属さない人物が作成)		[奈良仏師 (_____) の系譜]  <pre>                 _____                                     (東大寺金剛力士像)                   (興福寺無著・世親像)                   (東大寺金剛力士像)                                     (東大寺金剛力士像)                   (興福寺天灯鬼・竜灯鬼)                   (六波羅蜜寺空也上人像)             </pre>	
絵画	肖像画 ① _____ (写実的な大和絵の肖像画)                  _____ 『源頼朝像(伝)・平重盛像(伝)』                  _____ 『後鳥羽上皇像』                  _____ 『親鸞聖人像』(鏡の御影と呼ばれる)                  _____ 『明恵上人樹上坐禅図』                  ② _____ (禅宗で、修行僧が一人前になった時、師から与えられる師の肖像画)   伝記物 『 _____ 』 (_____/ _____ 国(_____)福岡市の様子が描かれている)                  『法然上人絵伝』(土佐吉光/法然の生涯を描く)                  『 _____ 』 (_____/ _____ の生涯と寺社の由来を描く)                  縁起物 『粉河寺縁起絵巻』(作者不詳/粉河寺の霊験談を描く)                  『石山寺縁起絵巻』(高階隆兼/石山寺の霊験談を描く)                  『 _____ 』 (_____/鎌倉時代の建築現場の様子を描く)                  六道絵 『地獄草紙』(地獄の場面を描いた六道絵巻の一つ)                  『餓鬼草紙』(餓鬼の苦しみを描いた六道絵巻の一つ)                  『病草紙』(病の苦しみを描いた六道絵巻の一種)                  合戦物 『平治物語絵巻』(平治の乱を題材にした合戦絵巻)                  『 _____ 』 (_____) の御家人 _____ が描かせる                  『 _____ 』(武蔵国の武士の生活を描く→ _____ の様子が有名)		[寺] _____ by _____ . _____ . _____                  [寺] _____ by _____   by _____ . _____ . _____   by 快慶	
工芸・書道	工芸 ①刀工 = _____ (京都)・ _____ (備前)・ _____ (鎌倉)                  ②甲冑 = _____ (京都の甲冑製作の名家)                  ③陶器 = _____ ( _____ に従って入宋し陶法を学び、尾張の _____ の祖となる?)   書道 ④書道 = _____ (伏見天皇皇子/ _____ を創始し、「 _____ 」を書く)                  ★世尊寺流(国風文化に藤原行成が創始した流派)を学び、江戸時代に _____ へ発展		[寺] _____ by _____   [興福寺無著・世親像] by 運慶	

文 学	古典研究	[ ] (朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『 』 ( 天皇の有職故実書)   [ 古典注釈書]   『 』 ( 著した『日本書紀』の注釈書)   『万葉集註釈』 ( 著した『万葉集』の注釈書)	
	和歌集	[勅撰和歌集] (天皇の命により撰定・編集された和歌集)   『 』 ( 年)   上皇の命で らが編集した「 」の最後の勅撰和歌集   ★ ( の日記)   [私撰和歌集]   『 』 ( /格調高い万葉調の歌を詠む)   『 』 ( もと北面の武士) /隠者となり、諸国をまわり歌を詠む)	 
	随筆	『 』 ( 鎌倉初期) /天変地異を体験して世の無常を嘆く)   『 』 ( 鎌倉後期) /自然・人間・社会を深い洞察力で描く)	
	紀行文・日記	『海道記』 (作者不詳/京都・鎌倉間の紀行文)   『東関紀行』 (源親行?/京都・鎌倉間の紀行文)   『 』 ( /息子の所領訴訟解決のため、京都から鎌倉に赴く紀行文)   『 』 ( /平氏最盛期～幕府成立までを知る史料的な意味の濃い日記)	[ ] 騎馬武将=  
	歴史書	『 』 (藤原為経?/藤原頼通～基房までの歴史を記す)   『 』 ( ?/神武～仁明天皇までの歴史を記す)   『 』 (作者不詳/鎌倉幕府の記録を日記の体裁をとり編年体で記す)   『 』 ( /末法思想と による歴史観)   →承久の乱前に後鳥羽上皇に提出し、討幕挙兵を諫める   ★ =社会的に正しいと認められた物事の筋道(規範)   『 』 ( /日本最初の日本仏教歴史書)	[ ] の様子   
	軍記物語	『 』 (作者不詳/鎮西八郎と呼ばれた の活躍を中心に保元の乱を描く)   『 』 (作者不詳/源義朝の子の義平を英雄的に平治の乱を描く)   『 』 ( ?/ による琵琶の伴奏で語る で庶民に流行)   『 』 (作者不詳/『平家物語』を増補したもの)	[ ] by   国( 県)福岡市の様子   
学 問	説話集	『十訓抄』 (作者不詳/年少者の修養のため、仏教的教訓にあたる説話を集める)   『 』 ( /庶民的・地方的な説話を集めた仏教説話集)   『 』 ( /神祇・政道・忠臣など古今の説話を集める)   『 』 (作者不詳/『今昔物語集』の後を追った説話集)	
	図書館	[私設図書館]   (評定衆として幕政に参加した が設立した私設図書館)   ★自分の蔵書を公開して 国 荘の 寺 (金沢氏の菩提寺) 境内に設置	(伝 像) by 藤原隆信? (後鳥羽上皇像) by 藤原信実   



## [C] 室町文化(南北朝文化・北山文化)

特徴	南北朝文化(建武新政～南北朝) 南北朝の動乱を背景に発達	文化(_____)＝幕府全盛期) ①武家文化が伝統的な公家文化を基礎に発展/②元・明の禅宗文化の影響
文 学	[歴史書・軍記物語]   『_____』(_____の理論に基づき、_____国_____城で_____が著した南朝側[_____天皇]の正統性を説いた歴史書)   『_____』(北朝側[足利幕府]の正統性を説いた歴史書)   『_____』(公家の立場から鎌倉時代の歴史を記述した歴史書)   『_____』(_____が著したといわれる南北朝を題材にした軍記物語) → 『_____』(_____が著した歴史書)   ★南朝に同情的な記述が多い(江戸時代に太平記読で普及)   [連歌](和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる)   『_____』(_____が著した最初の連歌集→準勅撰となる)   『_____』(_____が著した連歌の規則書)   [有職故実](朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『_____』(_____天皇が著した有職故実書)   『_____』(_____が著した有職故実書)	[_____](五山の禅僧を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称)   (五山の禅僧によって出版された書籍)の出版   → _____(南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『_____』)   → _____(相国寺の五山文学僧)   [歴史書・軍記物語]   『_____』(_____が著した歴史書)
建 築	    [_____]   [同朋衆]   [太平記読]     [_____の興行風景]   [_____]	① _____寺金閣(_____ [3代将軍] が建立した3層の楼閣)   (1層) _____・(2層)和様・(3層) _____     [ _____寺 ] by _____ [ _____寺 ] by _____
絵 画	水墨画   [_____ (草創期)] (禅の精神を墨の濃淡による墨一色で描く) →   _____ (画僧) 『布袋図』   _____ (画僧) 『寒山図』	[水墨画 (確立期)]   _____ (東福寺の画僧) → _____ ( _____寺の画僧) → _____ (相国寺の画僧)   『五百羅漢図』 『_____』 『寒山拾得図』
芸 能	[能(能楽)] (猿楽・田楽から発達した演劇) →   <b>図解NOTE [能楽の発達]</b>   飛鳥時代 _____ (百済から伝わった仮面を用いた舞踊)   奈良時代 _____ (唐から伝わった滑稽な物まね芸)   ↓   平安時代 _____ (物まね) _____ (田植えの際にする踊り)   ↓   芸として専門的に演じる者が登場 → 演劇( )としての仕組みを整える   ↓   ←.....   ↓ (田楽の要素を取り入れる)	[_____] (寺社の保護を受けて座を結成)   _____ [大和猿楽四座 (本所= _____)]   _____座 (もと _____座)・ _____座・ _____座・ _____座   ↓   [_____] ( _____ [3代将軍] の保護を受けて _____・ _____ が大成)   清次 (父) } 将軍の _____ (阿弥号を持つ時宗の信者が多い)   元清 (子)   『_____ ( _____) 』 (能作論・演出法などを記した能の伝書)   『_____』 『風姿花伝』に続き、嫡子の元雅に伝えた能の伝書)   『_____』 (世阿弥の能楽に関する秘伝を二男の元能が筆録)   ★ _____ (能の脚本のこと→観阿弥・世阿弥の作が多い)   ★ _____ (能の合間に演じられ、猿楽や田楽の物真似を受け継ぐ)

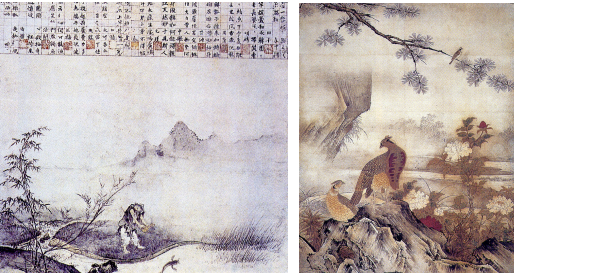
## 回 能一能楽論一『_____』 by _____

## (ア)の①風体の事

書道諸事において(ア)なるをもて②上果とせり。ことさら③当芸において、(ア)の風体第一とせり。……

そもそも(ア)の④塙とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく 柔和なる体、(ア)の本体なり。……

[①芸風 ②最高の境地 ③_____ ④境地]

特徴	文化( _____ = 応仁の乱期) ①「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成/② _____ による中央文化の地方普及と民衆化が進む	
文 学	[学問]   ① _____ (関白・太政大臣となった当代随一の学者/子は尋尊) 『 _____ 』(有職故実書) 『 _____ 』『源氏物語』の注釈書 『 _____ 』( _____ [9代将軍]の問いに答えた政治意見書)   ② _____ 『古今和歌集』の故事・解釈などの秘事を口伝 _____ → _____ → _____ [連歌] (和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる)   ① _____ (正風連歌を確立) 『 _____ 』(宗祇が編集した準勅撰の連歌集) 『 _____ 』( _____ の3人が詠んだ百韻の連歌)   ② _____ ( _____ の祖) 『 _____ 』(山崎宗鑑が編集した俳諧連歌集)	[教育]   ① _____ ( _____ [関東管領]が再興した学校施設) _____ から「坂東の大学」と称される   ② 儒学の普及(地方伝播) _____ (薩摩の _____ 氏, 肥後の _____ 氏に招かれる→薩南学派の祖) _____ (土佐の _____ 氏に招かれる→海南学派(南学派)の祖となる)   ③ その他 『 _____ 』( _____ が作者と言われる往来物(書簡形式)の庶民教科書) ★ _____ (往復一対の手紙形式の教科書)   『 _____ 』( _____ が刊行したと言われる国語辞典)
建 築	① _____ 寺銀閣 ( _____ [8代将軍]が建立した2層の楼閣) (1層) _____ ・(2層) _____   ② _____ 寺 _____ ( _____ による足利義政の書斎) ★ _____ ( _____ ・ _____ ・ _____ などを持つ室町時代の住宅建築様式)   ③ 回遊式庭園 (一巡することによりいろいろな風景を鑑賞できる庭園) 慈照寺庭園(善阿弥)・西芳寺庭園(苔寺)(夢想疎石) ★作庭師= _____ ex. _____ (義政から天下第一と称えられた作庭)   ④ _____ (岩石と砂利による象徴的な自然をつくりだした禅宗風の庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	  [龍安寺石庭] [大徳寺大仙院庭園]  
絵 画	[水墨画(大成期)] _____ (日本の水墨山水画を大成) 『 _____ ( _____ ) 』 『秋冬山水図』・『天橋立図』   [大和絵] (唐絵に対する日本の風物を題材にした日本風絵画の総称)   ① _____ 派 (室町中期以降の大和絵の一派) _____ (宮廷絵所預や幕府絵所預となり、土佐派の地位を確立)   ② _____ 派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) _____ (狩野派の始祖) 『周茂叔愛蓮図』 _____ (狩野派を大成) 『 _____ 』	[ _____ 寺 ] [ _____ ( _____ ) ] by _____    [ _____ ] by _____ [ _____ ] by _____
芸 能	[茶道(茶の湯)]   ① 南北朝文化 _____ (多人数で開かれた娯楽的な茶会) ↓ _____ (茶の種類や産地を飲みあてる競技) ② 東山文化 _____ (茶に禅宗の精神を取り入れる閑寂な茶) _____ → _____ → ( _____ ) ( _____ を創始) (侘び茶を簡素化) (侘び茶を大成)   [花道(華道)] _____ (仏前に添える花から発展した生け花の様式) _____ → 池坊専応 → 池坊専好 (池坊花道の祖)   [金工(刀に装飾をする)] _____ (足利義政に仕える)     _____ [庶民文芸] _____   ① _____ (桃井直詮(幸若丸)が創始し、織田信長も愛好した舞)   ② _____ (華美な風体で踊る) _____ (念仏を唱えて踊る) _____ (盆に歌謡にあわせて踊る)   ③ _____ (庶民に広く流行した民間歌謡) 『 _____ 』(1518年に成立した小歌集)   ④ _____ (室町時代の庶民的な短編物語) ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』・『物くさ太郎』	



- 68 -

《 母が僕にしてくれた話～帰ってきたアスラ～ 》

以前、母が僕にしてくれた話です。ずいぶん昔の話になりますが、母が学生のころの話です。当時、家は大きくなかったのですが犬のシェパードを飼っていました(アスラと言います)。非常に賢く、真っ黒な毛並みを持ち、母と祖母になついていたのですが、友人に賢いのだから訓練所に預けてみてはどうかと言われ、母と祖母はアスラを埼玉の訓練所に預けることにしました。

最初のうちはそちらにお世話になっていたのですが、ある日、その訓練所からアスラが訓練中に逃げ出してしまった、という連絡がきました。推測ですが、アスラは母と祖母に会いたかったのではないのでしょうか。とにかく、母と祖母は車や自転車で埼玉中を探しました。祖母は仕事があったのですが、それでも探し続けました。一ヶ月…二ヶ月すぎましたが見つかりませんでした。ある日、母が林の中を探していると、遠くにアスラらしき犬を見かけました。驚きながらも母は「アスラ!」と叫びました。しかし、その犬はびっくりしたのか、何故か遠くへ逃げ去ってしまいました。

すっかり気落ちした母は家に帰るとそのことを祖母に話しました。「もうダメだよ、アスラ私だってわからないんだよ。もう探しても無理だよ、もうアスラ帰ってこないよ…」すると、祖母は「あんた何言ってるのよ、アスラ見たんでしょ?つまり生きてるってことでしょ!生きてるってわかったのなら、なおさら諦めるわけにはいかないでしょ!このままだとアスラが野犬になっちゃうのよ、あんたそれでもいいの?私たちが一緒にいればアスラだってわかるはずよ」と言ったそうです。

その日から二人で一緒に探すことになったのですが、それ以降アスラを見かけることはありませんでした。また、一ヶ月…二ヶ月が過ぎようとしていました。

諦めかけようとしていたある日の帰り道でした。二人が農道を歩いていると、遠くに汚れた灰色をした犬が道を横切って歩いていました。母は「あれアスラじゃないよね…アスラあんな汚くないもん…」祖母が「いや、アスラよ!きっとアスラよ!」と言ったその瞬間。灰色に汚れた犬がこちらを向き、まっしぐらに駆けてきたのです。その犬は母と祖母に駆けてくると、すごい勢いで飛びついたのでした。

真っ黒だった毛並みは、汚れのせいで灰色になっていました。その帰り道、車の中で普段は泣き声などたてないアスラが泣いていたそうです。

そのアスラは僕が生まれるずっと前に亡くなりました。そして、迷惑ばかりかけつづけたけど、大学に合格したという報告も出来ずに、僕が18の時に祖母も亡くなりました。祖母が亡くなり、自分自身何をしたらよいのかわからず浪人していた頃、気落ちしていた僕に母が話してくれた話です。

そんな我が家ですが、今僕の家には5代目の名前をもらったアスラが暮らしています。

A man is not finished when he is defeated. He is finished when he quits.

「人間は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。」 R. Nixon



[ ] by _____



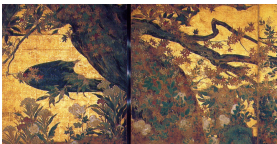
〔牡丹図〕 by 狩野山楽



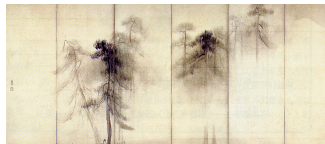
〔松鷹図〕 by 狩野山楽



[ ] by _____



[ ] by _____



〔松林図屏風〕 by 長谷川等伯



〔山水図屏風〕 by 海北友松



〔欄間〕



[ ]



[ ]



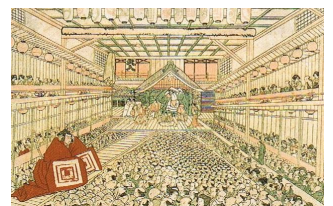
[ ]

特徴	(桃山文化)	文 化 ①桃山文化の継承/②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化	文 化 ( . )を中心とした町人文化
建 築		① _____ (霊廟建築様式の一つ) _____ ( _____ を東照大権現として祀る) ② _____ (書院造に茶室風建築の様式を取り入れる) _____ (八条宮智仁親王の別邸) _____ (後水尾上皇の山荘)	<b>東大寺大仏殿</b> 松永久秀により焼失したため 1705 年再建 <b>善光寺本堂</b> 火災により焼失したため 1707 年再建  [日光東照宮]
文 学	小 説	_____ (室町文化～) → _____ (仮名書きによる啓蒙・教訓など 様々な内容を扱った小説の総称)	_____ (町人・武家社会の生活を描いた風俗小説) _____ (浮世草子の祖) 『 _____ 』 (世之介の愛欲生活を描く) 『 _____ 』 (実在した 5 件の恋愛事件を描く) 『 _____ 』 (好色女の愛欲生活と転落を描く) 『 _____ 』 (武家の敵討ちが題材) 『 _____ 』 (武家社会の義理が題材) 『 _____ 』 (町人社会の出世・没落を描く) 『 _____ 』 (大晦日の借金取り立てを描く)
	俳 諧	_____ ( _____ ) → _____ = 貞門俳諧 ↓ ★貞門派 (保守的で形式的な作品) ex. 北村季吟 _____ = 談林俳諧 ★談林派 (自由奔放な作品) ex. ....	_____ = 蕉風(正風)俳諧 『 _____ 』 (江戸～大和までの俳文紀行) 『 _____ 』 (江戸～関西地方までの俳文紀行) 『 _____ 』 (江戸～奥羽・北陸～美濃大垣までの俳文紀行) 『 _____ 』 (芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)
芸 能	浄 瑠 璃	人形浄瑠璃 → 人形浄瑠璃 _____ (語り=義太夫節) _____ (人形遣い) _____ (脚本) 時代物 『 _____ 』 明の復興をはかった _____ の史実を脚色 世話物 『 _____ 』 (徳兵衛と遊女お初的心中物語) 『 _____ 』 (忠兵衛と遊女梅川の墮落失敗) 『 _____ 』 (治兵衛と遊女小春的心中物語)	
	歌 舞 伎	_____ → 歌舞伎 (1629 年幕府により禁止) ↓ 歌舞伎 (1652 年幕府により禁止) ↓ 歌舞伎	<b>歌舞伎</b> 江戸 = _____ ( _____ ) (勇猛な演技) 上方 = _____ ( _____ ) (恋愛的な演技) 上方 = _____ ( _____ ) (女役)

_____	_____ (本草学の基礎) 『大和本草』
_____	_____ (本草学を大成) 『庶物類纂』
_____	_____ (和算の基礎) 『 _____ 』
_____	_____ (和算を大成) 『発微算法』
暦学	_____ ( _____ ) (幕府の天文方に任じられる) 従来の _____ に代わり、元の _____ を参考にして _____ を作成



[ _____ (曽根崎心中) ]



[ _____ (中村座) ]

特徴	文化(大御所時代)を中心とした享楽的・退廃的な町人文化		
	田沼時代( 期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代( 期の文化)
文学	_____ (草双紙に対し、文章を読むことを主体とした小説)   前期 _____ (怪物物を題材) → 後期 _____ (歴史物を題材)   _____ 『雨月物語』 _____ 『南総里見八犬伝』(里見家を題材)   _____ 『椿説弓張月』( _____ を題材)   _____ (滑稽を要素とした会話中心の小説)   _____ 『東海道中膝栗毛』   _____ 『浮世風呂』『浮世床』   _____ (遊里での会話を主体とした小説) → _____ (男女間の恋愛小説)   _____ 『仕懸文庫』 _____ 『春色梅児誉美』   _____ (絵を主体とした小説の総称)   赤本 → 青本・黒本 → _____ (大人向けの絵入り小説) → _____ (黄表紙を数冊綴じた長編絵入り小説)   _____ 『金々先生栄花夢』 _____ 『 _____ 』		
	俳諧 _____ (俳諧を中興/文人画を大成『 _____ 』) → _____ (強者への反感・弱者への同情をうたう)   _____ 『蕪村七部集』 _____ 『おらが春』		
	その他 ①和歌 = _____ ( _____ 派の祖・古今調の和歌)   _____ (越後出雲崎の禅僧・万葉調の和歌)   ②紀行文 = _____ 『 _____ 』(雪国の自然や生活を紹介)   _____ 『 _____ 遊覧記』(東北地方を巡歴)   ③ _____ = _____ ( _____ ・四方赤良・寝惚け先生)   _____ (宿屋飯盛)   ④ _____ = _____ 『 _____ 』		
	浄瑠璃 _____ → _____ (人形操りを離れた演奏中心)   _____ 『仮名手本忠臣蔵』(赤穂浪士の討入りを素材) _____ 『本朝廿四孝』(衰退) _____ (一中節など)   _____ 『菅原伝授手習鑑』(菅原道真の左遷を題材)		
芸能	歌舞伎 一時停滞 _____ → 再び隆盛 _____ → 隆盛続く (←歌舞伎脚本作者の活躍)   (←浄瑠璃に押される) (←舞台装置の開発・所作事の発達) _____ 『東海道四谷怪談』( _____ 物)   ★江戸三座 ( _____ 座・ _____ 座・ _____ 座) _____ 『白浪五人男』( _____ 物)		

教育機関	①幕府 朱子学 = _____ (1691) → _____ ( _____ ) ( _____ 年)   ★ _____ 時に _____ の _____ ( _____ の設立した林家の家塾) を _____ に移築→のち _____ として幕府の官立学校とする( _____ 年)   洋学 = _____ (1811) → _____ (1855) → _____ (1856) → _____ (1862) → _____ (1863)   ★ _____ の建議により設置された洋書翻訳機関   医学 = _____ (1858) → _____ (1863) ★ _____ が設立した牛痘接種機関→のち、幕府に移管され(1860), _____ と改称(1863)   ②諸藩 _____ ( _____ ) (藩士の子弟教育機関)・ _____ ( _____ ) (藩士の子弟・庶民教育機関) ex. _____ [ _____ 藩]・ _____ [摂津平野]   ③民間 _____ (読み・書き・算盤を教える庶民教育→『 _____ 』・『 _____ 』・『 _____ 』などを初等教科書として使用)		
	_____ (秋田藩) = _____   _____ (仙台藩) = 伊達吉村   _____ (米沢藩) = _____   _____ (会津藩) = 松平容頌   _____ (水戸藩) = 徳川斉昭   明倫堂(加賀藩) = 前田治脩   _____ (尾張藩) = 徳川宗睦	_____ (岡山藩) = _____   ★郷校 = _____ ( _____ 藩)   修道館(広島藩) = 浅野重晟   _____ (長州藩) = 毛利吉元   修猷館(福岡藩) = 黒田斉隆   _____ (熊本藩) = _____   _____ (薩摩藩) = 島津重豪	_____ (大坂) = _____   _____ ( _____ ) = _____   学主 = _____ → _____ → _____   出身者 = _____ 『 _____ 』・ _____ 『 _____ 』   _____ ( _____ ) = _____   _____ (長州) = _____ の叔父   出身者 = _____ ・ _____ ・ 伊藤博文・前原一誠
	藩校設立者		



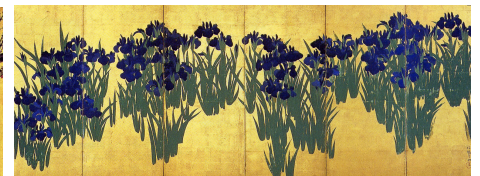
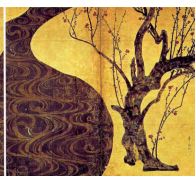
特徴	(桃山文化)		文 化	文 化
			①桃山文化の継承/②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化	( )を中心とした町人文化
絵 画	風俗画		『彦根屏風』(彦根藩井伊家が所有)	(遊女や役者を題材とした庶民的風俗画) (浮世絵版画の創始者) 『見返り美人図』(肉筆画)
	(狩野派)	狩野永徳 → (幕府御用絵師) 『大徳寺方丈襖絵』	→ 『夕顔棚納涼図屏風』	→ 英一蝶 (明治期まで続く)
	障壁画	(土佐派) 土佐光信 (室町期)	→ [ ] 派 (官廷絵所預) → (明治期まで続く) → [ ] 派 (住吉派の祖) → (幕府御用絵師) 『洛中洛外図巻』	
	(琳派)	(大胆な構図で、装飾性に富んだ) (琳派の先駆け) 『風神雷神図屏風』	→ ( ) の創始者 『紅白梅図屏風』 『燕子花図屏風』	
工 芸	蒔絵		「舟橋蒔絵硯箱」 ★ (漆を塗った漆器に金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法)	「八橋蒔絵硯箱」
	陶磁器	(長次郎が創始) [ ] 鍋島氏 = 焼 毛利氏 = 焼 島津氏 = 焼 松浦氏 = 平戸焼	(有田焼の陶工→色絵の創始者) (赤を基調とした色絵) の技法 ★ 「色絵花鳥文大深鉢」 ★ 色絵 (釉をつけた陶器や磁器に絵を描いて仕上げる技法) 色絵磁器 = 焼(肥前) 焼(加賀)	(京焼色絵陶器の創始者) ↓ (尾形光琳の弟)
	その他			[染物] = [仏像] =



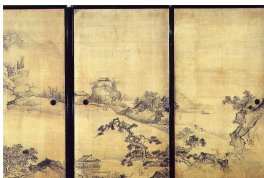
[ ] by [ ]



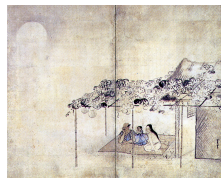
[ ] by [ ]



[ ] by [ ]



〔大徳寺方丈襖絵〕  
by 狩野探幽



[ ]  
by [ ]

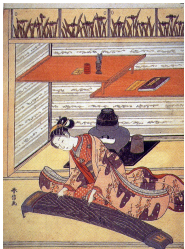


〔彦根屏風〕



[ ]  
by [ ]

特徴	文化(大御所時代)を中心とした享乐的・退廃的な町人文化		
	田沼時代(・期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(・期)
風俗画	= を創始   『弾琴美人』   墨摺絵(墨一色刷り版画)   紅摺絵(三色刷り版画)   錦絵(多色刷り版画)	= 美人画   『婦女人相十品』   = 役者絵   『市川鯉藏』	= 風景画   『富嶽三十六景』   = 風景画   『東海道五十三次』
絵	文人や学者が余技として描いた絵画   + 『 』(二人による合作)	(豊後竹田の人/谷文晁の門人)	(谷文晁の門人)   『鷹見泉石像』
洋風画	西洋画の手法に基づき描かれた絵画   『西洋婦人図』   『解体新書』の挿絵を描く	= を創始   『不忍池図』(油絵)   ★ (銅版を薬品で腐食させた版画)	『浅間山図屏風』
写生画	遠近法や陰影法を用いた写実的絵画   (円山派を創始)   『雪松図屏風』	( 派を創始)   『柳鷺群禽図屏風』	



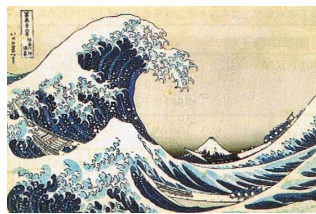
by _____



「ポッピンを吹く女」  
by _____



by _____



「神奈川沖浪裏」  
by _____



「庄野」  
by _____



「釣便図」  
by 池大雅



by _____



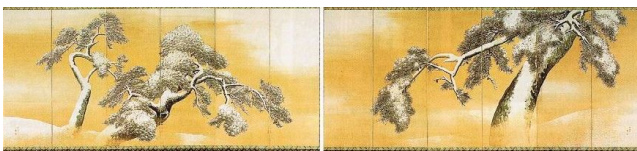
by _____



「不忍池図」 by 司馬江漢



「浅間山図屏風」 by 亜欧堂田善



「雪松図屏風」 by 円山応挙



「色絵花鳥文大深鉢」  
by 酒井田柿右衛門



「舟橋蒔絵硯箱」



「八橋蒔絵硯箱」



「護法神像」 by 円空

## 朱子学

〔 _____ ( _____ 年) 〕  
 儒学のうち _____ を _____ とし、朱子学以外の学派を _____ とする  
 での _____ 以外の講義を禁止 ( _____ の建議)

_____ ( ) — _____ (春斎) — _____  
 ~ ( )  
 『 _____ 』  
 _____ が _____ に設立した _____ (林家の家塾) を  
 _____ に移築した _____ の初代 となる ( 時 )

→ 寺の僧となり  
朝鮮の儒学者.....  
から朱子学を学ぶ

_____ ( _____ の侍講)  
 _____  
 _____ [ 藩主 ] に仕える  
 _____ の _____  
 → のち、 _____ の _____ ( _____ の侍講)

( ) .....  
└───(土佐藩家老)───────────┐  
          佐藤直方  
        ───────┘  
        〔藩主〕に仕える  
       → (吉川神道と朱子学を結合) を創始

—

## 陽明學

(明の _____ が創始) → 「 _____ 」 (知識は人間の経験・実践を通して初めて本当の知となるという思想)  
 _____ ( _____ 〔 _____ 藩主 〕に仕える)  
 『 _____ 』 (師と門人の問答形式)      『 _____ 』 (武士の帰農や参勤交代の緩和を主張)  
 (近江) → 幕政も批判したため下総古河に幽閉

〔 _____ ( _____ ) 〕  
(大坂町人が出資して設立)  
出身 = _____ 『 _____ 』  
『 _____ 』

古学

(朱熹の朱子学や王陽明の陽明学などの解釈を排し、・ の原典から聖人の真意を汲み取ろうとする)

『                    』(朱子学を批判し、古代の聖賢に戻ることを主張→赤穂に配流される)  
『                    』(「中華」の中心は中国ではなく、日本こそ「中華」であることを主張)  
『                    』(武家政治の由来・武家の儀礼・風俗・習慣などを集大成した実用書)

( ) ( ) (京都)

( ) 『 』 ( の語問に答える) 『 』 (武士の土着を説く)  
 (江戸) 『 』 (藩専売制を説く)

## 經世論

- ① _____ 『 _____ 』(藩庫売切の採用など重商主義を説く)  
 ② _____ 『 _____ 』(海外貿易による富国策を説く)  
                   『 _____ 』(蝦夷地の開発・海外貿易による富国策を説く)  
 ③ _____ 『 _____ 』(農政の心得・農業による富国策を説く)  
                   『 _____ 』(流通の国家統制による富国策を説く)

— 「_____ (大義名分による皇室尊崇を説く) —  
前期 = _____ (中心 = _____)  
↓  
→ 江戸の _____ で『_____』の編纂事業  
後期 = _____ (中心 = _____)  
水戸藩の藩校(藩学)として _____ を設立  
_____ 『正名論』  
_____ 『_____』  
_____ 『_____』

社会批判

- ① _____ ( _____ 出身) 『 _____ 』 (儒教・仏教・神道を歴史的立場から否定)
- ② _____ ( _____ 出身) 『 _____ 』 ( _____ により儒教・仏教を批判)
- ③ _____ (寛政三奇人) 『 _____ 』 (朝鮮・琉球・蝦夷の地理的關係を解説)  
『 _____ 』 (ロシアの南下を警告し、海防の警備を主張)
- ④ _____ (八戸の医師) 『 _____ 』 (万人が農耕に従事することで、階級のない  
万人平等の社会「 _____ の世」を理想とする)
- (⑤ _____ 『玄語』 (儒学と洋学の知識をあわせた自然哲学である「条理学」を説く。))
- (⑥ 「 _____ 」 (東洋の道徳(精神)・西洋の芸術(技術)との融合を説く。))

「尊王論者」（幕政批判で処罰される者も）

① _____ (1758 年の _____ 事件で京都追放)

② _____ (1767 年の _____ 事件で死罪となる)

『 _____ 』で尊王論を説き幕政を批判したため

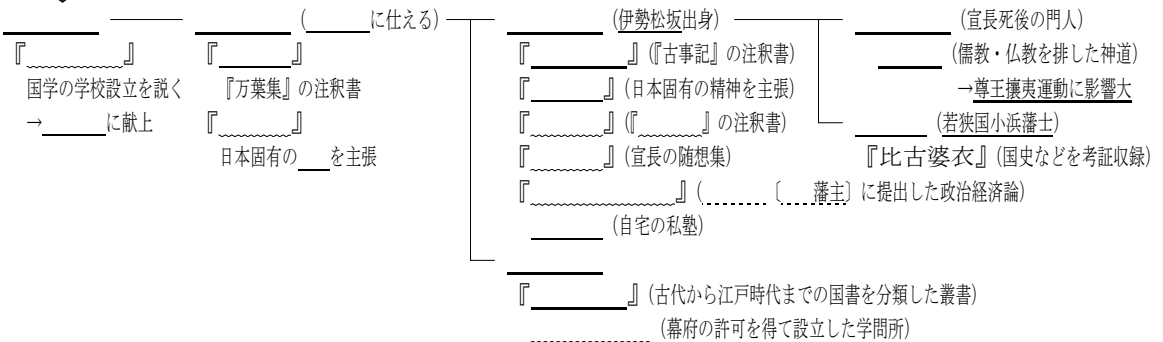
③ _____ 『 _____ 』（歴史書）

④ _____ ・ _____ (寛政の三奇人)

『万葉集』や『古事記』などの日本古典の研究から、日本固有の民族精神を明らかにしようとする学問

## [国学の先駆]

- ① 『源氏物語』の注釈書  
 ② 『古今伝授や制禁の詞など従来の拘束を排斥し、歌学の改革を主張した歌論書』  
 ③ 『(藩主)の命で編集した』の注釈書

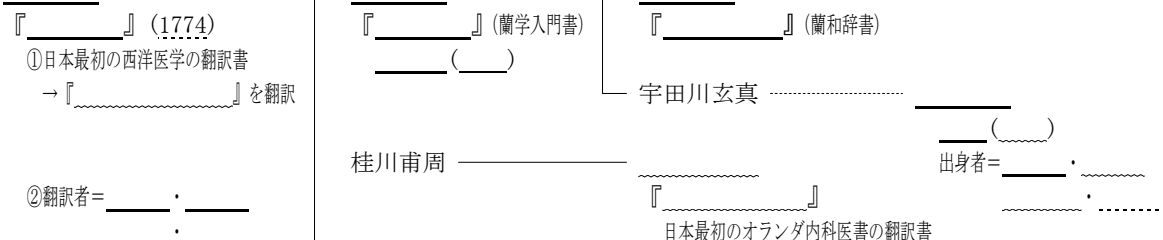
国  
学

## [蘭学の先駆]

- ① 『』 (長崎で見聞した海外事情を紹介した外国地理書)  
 ② 『』 (西洋の地理・風俗などを記録→極秘に伝えられる)  
 『』 (世界の地理・風俗などを記録→将軍に献上される)  
 ③ 漢訳洋書 (中国語に翻訳された洋書) の輸入制限の緩和 (享保の改革)  
 → 『』・『』にオランダ語の学習を命じる

## [新井白石の著書]

- 『』 (家継死後の隠退までの自叙伝)  
 『』 (西洋の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
 『』 (世界の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
 『』 (九変五変論で幕府の正統性を説いた史論書)  
 『』 『』の合理的注釈書  
 『』 (大名の系譜と伝記を集録)  
 『』 (日本の古代語の辞書)

蘭  
学

## [洋学の発達]

- ① 物理学=『』・『』・『』 (石綿) を発明  
 ② 化学=『』 (日本最初の西洋化学の翻訳書)  
 ③ 天文学=『』 (ニュートンの力学やコペルニクスの地動説などを紹介)  
 ④ 暦学=『』を作成 ★貞享暦(洪川春海)→宝暦暦→寛政暦  
 ⑤ 地理学=『』を作成  
 ⑥ 医学=『』 (出身者=『』・『』)  
 ★『』事件 (『』年、『』幕府天文方) を処分・シーボルトを国外追放  
 『』 (江戸) を開設 (→のち、幕府に移管され『』に改称)

心  
学

(神道・儒教・仏教などの諸説を融合し、町人道德を説いた平易な庶民の学問)  
 → 人間性の尊さにおいては平等→商人の存在意義と商業の正当性を説く

『』 (心学の根本原理を説く) 京都に明倫舎を創設 江戸に参禅舎を創設

## 漢学など

『』 (読み・書き・算盤を教える近世の庶民教育機関)  
 『』 (『』が長門萩に開設した私塾)  
 出身者=『』・『』・伊藤博文・品川弥二郎など  
 『』 (『』が豊後日田に開設した私塾)



明治初期	①神道国教化の推進 (王政復古による祭政一致の立場から神道国教化政策を推進)   _____年 _____ (_____を禁止した法令)   → _____ (仏教排斥運動) が激化 (→ 仏教衰退)   _____年 _____ (浄土真宗の僧)・ _____ (_____を創立) らが仏教復興に努力   _____ (神道国教化の推進を表明)   宣教師による神道国教化の推進→失敗   1873年 祝祭日の制定   _____ = _____ 月 _____ 日 (神話上の神武天皇即位日)   _____ = _____ 月 _____ 日 (天皇誕生日)   ②啓蒙思想   _____ 『 _____ 』 ( _____ の『自助論(Self Help)』を翻訳)   _____ 『自由之理』 ( _____ の『自由論(On Liberty)』を翻訳)   _____ 『 _____ 』 (欧米諸国の諸制度・実情を紹介)   _____ 『 _____ 』 (学問による個人の独立・国家の隆盛を説く)   _____ 『文明論之概略』 (自国の自主独立のための西洋文明の摂取を説く)   _____ 『国会論』 (イギリスをモデルとした三権分立を伴った立憲君主制を説く)   _____ 年 _____ 結成 (初代社長= _____ [初代文相])   社員= _____ ・ _____ ・ _____ ・ _____ (『 _____ 』)   _____ (『泰西国法論』) ・ _____ (『日本道徳論』)   _____ 年 『 _____ 』 (明六社の機関誌) 発行	[神道国教化政策]   1869年 _____ (版籍奉還後の官制改革で設置)   ↓   1871年 _____ (戊辰戦争の戦没者を祭る)   → _____ と改称(1879)   ↓   1872年 _____ (廃藩置県後の官制改革で設置)   ↓   1872年 _____ (のち、1877年に廃止)
明治10年代	③ _____ (人民の権利伸張を第一に主張する考え→フランスの _____ を基礎理論とする)   _____ 『 _____ 』 『真政大意』 (天賦人權論を紹介)   _____ 『 _____ 』 ( _____ の『 _____ 』を翻訳)   _____ 『 _____ 』 (民衆に平易に民権思想を説く)   ④ _____ (国家の権利伸張を第一に主張する考え)   _____ 『 _____ 』 (ダーウィンの進化論の立場から天賦人權論を否定)   _____ 『天賦人權論』 (加藤弘之の『人権新説』を批判)   (反発) _____ 『天賦人權弁』 (加藤弘之の『人権新説』を批判)   _____ 「 _____ 」 『 _____ 』 に発表した「脱亜入欧」を説いた論説)	図解NOTE [近代思想の展開]   ①明治維新後、政府は近代化政策を推進   → 欧米の新しい制度・知識・思想   などを知識人たちが紹介(啓蒙思想)   ex. _____ by _____ (フランス)   「人は生まれながらにして平等である」   ↓   ② _____ (国民の利益を優先しろ)   → 五箇条の御誓文の「公儀世論の尊重」を根拠に国会設立・憲法   ↓ V S   制定を要求= _____   ③ _____ (国家の発展を優先しろ)   → 後に国民の利益につながる   ④ _____ (1882)・ _____ (1884) 以後、   朝鮮における日本の影響力が後退   → _____ の「 _____ 」 ( _____ 年)   ↓   (国権論に与してアジア進出を説く)
明治20年代	⑤近代的民族主義   (1) _____ (政府の欧化政策を批判して、日本的な伝統・美意識の尊重を説く)   _____ ・ _____ → _____ を結成し 『 _____ 』 (雑誌) を発行   (2) _____ (政府の欧化政策を批判して、国家の独立・国民の統一・公共の利益を説く)   _____ → 『 _____ 』 (新聞) を発行   (3) _____ (日清戦争後に海外進出を唱え、君民一体・国祖崇拜など伝統の重視を説く)   _____ → 『 _____ 』 (雑誌) を発行   ⑥平民的欧化主義   (1) _____ (政府による上からの貴族的欧化主義を批判し、平民による下からの平民的欧化主義を説く)   _____ → _____ を結成し 『 _____ 』 (雑誌) ・ 『 _____ 』 (新聞) を発行   ★ _____ は日清戦争を機に国家主義へ転じ、対外膨張論を説き、『大日本膨張論』を著す	⑤条約改正交渉における _____ 外相の _____ (西洋文化無批判の模倣) に反発   → 日本民族の尊重を主張(近代的民族主義)   (1) _____ (日本の伝統を重視)   (2) _____ (国民の自立・統一を重視)   (3) _____ (日本の大陸進出を肯定)
明治30年代	⑦ _____ (国家の利益を個人の利益より優先させる思想)   _____ 年 _____ (日露戦争後の国家主義思想強化のため、国民の _____ と皇室の尊重を説く)   1909年 _____ ( _____ が中心となり推進した地方自治体の財政再建と農業復興運動)	[ _____ ]   (1) キリスト教社会主義   _____ ・ _____ ・ _____   (2) ドイツ流社会主義   _____ ・ _____ ・ _____

大 正	① _____ (憲法学者・東大教授・貴族院議員) in 『 _____ 』 (1912)・『 _____ 』 (1923) → _____ (統治権は _____ である国家にあり、天皇はその国家法人の最高機関として、憲法に従って統治権を行使するという憲法学説) ⇕ → <u>天皇の統治権は憲法の制約を受ける</u> (ドイツ人イエリネックの _____ に基づく) _____ (統治権は天皇にあり、天皇の権力行使の制限はないとする憲法学説) → _____ (穂積八束に師事)らが主張 ② _____ (政治学者・東大教授) in 『 _____ 』 (1916) (論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表) → _____ (主権在民の _____ とは一線を画し、 <u>主権在君の明治憲法</u> での民衆の政治参加のため、 <u>普通選挙法と政党内閣制の実現</u> を説く)	
	1920 年 _____ ( _____ の論文「クロボトキンの社会思想の研究」が危険思想とされる) [ _____ 内閣] → _____ (東大助教授)と掲載した _____ (編集署名)が休職処分となる 1933 年 _____ (共産党幹部)の _____ (獄中で国家社会主義への転向を声明) 1933 年 _____ ( _____ [京大教授]の『 _____ 』が反国体的として _____ [文相]が休職処分) _____ 年 _____ ( _____ で _____ が _____ の _____ が国体に反する学説と非難) ↓ [ _____ 内閣] → 著書『 _____ 』が発禁処分となり、美濃部達吉は貴族院議員を辞職 _____ 年 _____ (政府は「 <u>天皇は統治権の主体</u> 」と声明→天皇主権説を支持、天皇機関説を否定) 1937 年 _____ (『 _____ 』・『 _____ 』で大陸政策を批判した _____ (東大教授)が反戦思想と攻撃され辞職) ★キリスト教徒として人権尊重の立場から、軍部の戦争政策、日本の帝国主義的植民地政策を批判したため 1937 年 第1次 _____ (加藤勤十・ _____ ・ _____ ら日本無産党員を検挙→ _____ 解散) 1938 年 第2次 _____ ( _____ ・有沢広巳・美濃部亮吉ら労働派学者を検挙) ★人民戦線 (ファシズムに反対する団体) 結成を企図したとして弾圧 1938 年 _____ 筆禍事件 ( _____ [東大教授]の『 _____ 』がファシズムに反対するものとして発禁処分とされる) 1940 年 _____ 筆禍事件 ( _____ [歴史学者]の『 _____ 』が皇室の尊厳を傷つけるものとして発禁処分とされる)	「 _____ ( _____ )」 (社会運動や思想の取り締まりにあたる警察) _____ 年 <u>警視庁内に設置</u> _____ 年 <u>大逆事件(1910)後に設置</u> _____ 年 <u>全国の警察に設置</u> _____ 年 <u>3.15 事件(1928)後に設置</u>
大 正 末 期 と 昭 和 初 期	1948 年 _____ (日本文化の向上・発達に寄与した者に授与される勲章)の復活 1949 年 _____ (学術の発達・国民生活の反映を目的とした学界の最高代表機関) _____ 年 _____ <u>金堂壁画の焼損</u> _____ 年 _____ (文化財の保護活用をはかるための法律) →のち、 _____ (文化財の指定・保護などにあたる)設置(1968) _____ 年 <u>NHKテレビ本放送開始</u> _____ 年 _____ <u>開催</u> _____ 年 _____ (東京～大阪間) <u>開通</u> 1965 年 _____ (最初の自動車専用高速道路) <u>開通</u> 「 _____ [都市問題の深刻化(急速な経済発展に伴い社会問題が発生)]」 ①公害問題(四大公害訴訟= _____ ・ _____ ・ _____ ・ _____ ) ②都市公害( _____ ・大気汚染・水質汚濁・地盤沈下・騒音・交通難・住宅難) ③都市の過密化・農村の過疎化(農村の農業衰退・食糧自給率の低下が進む)	「 _____ [核兵器制限]」 1963 年 _____ <u>条約</u> _____ 地下実験を除く水中核実験の禁止 1967 年 _____ by _____ ↓ _____ <u>核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず</u> 1968 年 _____ <u>条約</u> _____ 核兵器保有国を拡大させないための条約 1986 年 _____ <u>原発事故</u> 1987 年 _____ <u>条約</u> _____ 米ソ2国の中距離核戦力の全廃を約束
	_____ 年 _____ (公害対策の推進をはかるため大気汚染・水質汚濁などを規制) ★ _____ (1993)に引き継がれる(環境問題の複雑化・地球規模化に伴い制定) _____ 年 _____ <u>開催</u> (シンボルは中央広場の「 _____ (作= _____ )」) _____ 年 _____ <u>設置</u> (中央公害対策本部(1970)が前身) 1992 年 _____ (リオデジャネイロで開かれた国連会議→「 _____ 」を採択) 1997 年 _____ (160以上の国・地域・NGOが参加) _____ 年 _____ (地球温暖化防止京都会議で採択→日本は2002年に国会で国内批准) ①内 容=二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減率・排出量取引などを定める ②意 義=二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減の数値目標を具体的に示す ③問題点=世界2位(当時1位)のCO2排出国のアメリカが京都議定書から離脱 _____ <u>発展途上国に対してガス排出削減義務が課されていない</u>	「 _____ [戦後の文化人]」 ① _____ (映画監督) 『羅生門』でベネチア国際映画祭グランプリ受賞(1950) ② _____ (映画監督) 『西鶴一代女』でベネチア国際映画祭国際賞受賞(1952) ③ _____ (歌 手) 『柔』『川の流れるように』などが代表作 ④ _____ (漫 画 家) 『鉄腕アトム』など「戦後ストーリー漫画の開拓者」 ⑤ _____ (野球選手) 読売巨人軍背番号「3」(永久欠番)・終身名誉監督 ⑥ _____ (サッカー選手) 93年のドーハの悲劇を体験・93年Jリーグ初代MVP →のち、98年の仏W杯のスイス直前合宿で代表落選 ★日本サッカー界の至宝「キングKAZU」

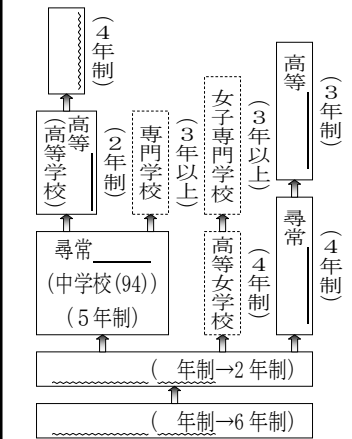
明治初期	① _____ (江戸後期の遊戯的文芸の総称で、明治初期に継承)          _____ 「<u>安愚楽鍋</u>」(文明開化の風俗を牛鍋屋の客を通して描く)          _____ 「<u>西洋道中膝栗毛</u>」(弥次・喜多のロンドン見物道中記)	<b>図解NOTE [近代文学の発展]</b>   現実的・客観的      理想的・主観的   (現実のみを強調)      (高踏派・余裕派)          (深い洞察力)      (虚構性を重視)          (理想主義)   日清戦争…日本の自立を確保する戦争          →個人の自立を求めるロマン主義と結合          日露戦争…国民に挫折感を与える          →理想を排した写実的な自然主義へ
明治10年代	② _____ (自由民権運動の政治思想を宣伝・啓蒙する目的で書かれた小説)          _____ 「_____」(青年政治家国野基の自由民権運動活動を描く)          _____ 「_____」(古代ギリシアになぞらえて民権思想を宣伝)          _____ 「<u>佳人之奇遇</u>」(憂国の青年東海散士の活躍を描く)	
明治20年代前半	③ _____ (人生や社会の現実をありのまま客観的に描く作風=近代文学の誕生)          _____ 「_____」(ありのままに描写する写実主義を唱えた文学論)          _____ 「<u>当世書生気質</u>」『小説神髓』の趣旨にそい、写実的に描いた小説          _____ ★ _____ (文章を話し言葉に近い口語体で表現する)          _____ 「_____」(小市民生活における人々の心理を言文一致体で描写)          _____ 「<u>あひびき</u>」(ツルゲーネフの『<u>嵐日記</u>』を翻訳)          _____ 「_____」( _____ ・ _____ らが結成した文学結社)          _____ 『 _____ 』(硯友社の文芸同人誌)          _____ 「<u>夏木立</u>」(言文一致体の短編集)          _____ 「<u>金色夜叉</u>」(金銭と愛情の相克を描く)          _____ 「<u>多情多恨</u>」(知識人の内面を描く)   ④理想主義 (東洋風の雄渾な作風)          _____ 「<u>五重塔</u>」(五重塔を建てる大工の姿を力強く描く)          ★「<u>紅露時代</u>」と呼ばれ、<u>尾崎紅葉</u>と<u>幸田露伴</u>は並び称された	
明治20年代後半	⑤ _____ [日清戦争前後] (感情・空想を重んじ、個性の尊重と自我の解放を主張)          _____ 「_____」(ドイツを舞台とした太田豊太郎と踊り子エリスの恋愛)          _____ 「<u>即興詩人</u>」(伊の即興詩人アンデルセンの『<u>愛の物語</u>』を翻訳)          _____ 「_____」(遊郭に近い下町の少年少女たちの淡い恋を流麗に描く)          _____ 「<u>こごりえ</u>」(銘酒屋の酌婦お力をめぐる人情の機微を精細に描く)          _____ 『 _____ 』(1893年に創刊されたロマン主義文学の母体となった雑誌)          _____ 「<u>高野聖</u>」(高野山の旅僧が飛騨山中で経験した神秘的な物語)          _____ 「<u>不如帰</u>」(結核にかかった妻が病気感染を理由に離縁される悲劇を扱う)          _____ 「<u>自然と人生</u>」(散文詩風の文体で自然風物を写生する)	_____ [詩歌]   ①俳句          _____ 「<u>歌よみに与ふる書</u>」          「<u>病牀六尺</u>」          ★写生を主張して俳句・短歌の革新をめざす          _____ 『 _____ 』(俳句雑誌)   ②短歌          (1) 明星派 (ロマン的歌風を主張)          _____ 『 _____ 』(短歌雑誌)          _____ 「 _____ 」          ★明星派では北原白秋や石川啄木も活躍          _____ 「<u>一握の砂</u>」(歌集)          「<u>悲しき玩具</u>」(歌集)          「 _____ 」(評論)   (2) アララギ派 (写実的歌風を主張)          _____ 『 _____ 』(短歌雑誌)          _____ 「<u>土</u>」
明治30年代	⑥ _____ [日露戦争前後] (理想を排して現実をありのままに描く→日本では私小説の方向に)          _____ 「 _____ 」(被差別部落出身者の行き方を扱い、自然主義文学の先駆となる)          ★昭和初期には「<u>夜明け前</u>」(狂死した父をモデルに維新前後の苦闘の生活を描く)          _____ 「<u>蒲団</u>」(美しい女弟子芳子へ寄せる中年作家の欲情を描く)          _____ 「<u>田舎教師</u>」(利根川べりの田舎の小学校教師の短い生涯の物語)          _____ 「<u>武蔵野</u>」(武蔵野の自然美を綴った短編集)          _____ 「<u>牛肉と馬鈴薯</u>」(現実と理想とを著した短編小説)          _____ 「<u>儼</u>」(無為・無理想の男の人生を客観的に描いた自伝的私小説)          _____ 「<u>あらくれ</u>」(自我と奔放に生きる女お島の半生を描く本格小説)          _____ 「<u>何処へ</u>」(生活目標を失い「幻滅の悲哀」に生きるインテリの姿を描く)   ⑦ _____ (対象から一步離れて高所から眺める高踏派・余裕派)          _____ 「<u>吾輩は猫である</u>」「<u>坊っちゃん</u>」「<u>三四郎</u>」「<u>道草</u>」          _____ 「<u>それから</u>」「<u>彼岸過迄</u>」「<u>こころ</u>」「<u>草枕</u>」「<u>明暗</u>」          _____ 「<u>阿部一族</u>」「<u>雁</u>」	③ _____ (西洋詩にならって生まれた新しい詩体)          _____ 「<u>若菜集</u>」          _____ 「<u>天地有情</u>」          _____ 「<u>海潮音</u>」          _____ 「<u>邪宗門</u>」          } 文語定型詩

明治末期 → 大正	「_____」   自然主義の現実志向に反発し、 官能的な美を最高の価値とする	『_____』(耽美派を主とした文芸雑誌)・『_____』(永井荷風が主宰した耽美派を主とした文芸雑誌)   「<u>腕くらべ</u>」(新橋の芸者駒代の生活を通して、花柳界(芸者・遊女の社会)の人情の機微を写す)   「<u>刺青</u>」(刺青師の清吉が刺青(入墨)を彫った女性の官能的姿とフェティシズムを描く)   「<u>痴人の愛</u>」(主人公がカフェで見出した少女のナオミにとりつかれ、破滅するまでを描写)
	「_____」   理想主義・人道主義・個人主義を 基調として、雑誌『白樺』によった 文学者グループ	「<u>お目出たき人</u>」(片思いの少女が結婚した後も、少女が自分を愛していたと信じる主人公の失恋話)   「<u>その妹</u>」(戦争で盲目となった画家と、兄の眼となっている妹が人間の葛藤に苦しむ姿を描写)   「<u>暗夜行路</u>」(母と祖父の子という出生の秘密に苦しむ主人公時任謙作の暗夜に似た人生過程を描く)   「<u>カインの末裔</u>」(北海道の荒涼たる自然と小作人の惨めな生活を背景に人間の希望と獣性を描写)   「<u>或る女</u>」(自我に目ざめた強い個性を持つ女性、早月葉子が転落する一生をまとめた長編小説)   「<u>出家とその弟子</u>」(親鸞の弟子唯円や善鸞の恋愛と信仰の対立の苦悩を戯曲化して描く)
	「_____」   現実を明晰な知性によってとらえ 直す新現実主義を基調として、雑誌 『新思潮』によった文学者グループ	「<u>鼻</u>」(『今昔物語集』が素材となった15cmの異常な鼻の持ち主の心情を描写)   「<u>羅生門</u>」(『今昔物語集』が素材となった死者の髪を抜く老女と盗賊の物語)   「<u>恩讐の彼方に</u>」(九州耶馬溪のトンネル開削にまつわる海・実之助の恩讐を超えた物語)   「<u>父帰る</u>」(20年前に妻子を捨て愛人と駆け落ちした父が帰ってきて展開される兄弟の心情の葛藤を描写)   「<u>破船</u>」・「<u>学生時代</u>」・「<u>受験生の手記</u>」   「<u>女の一生</u>」・「<u>波</u>」・「<u>路傍の石</u>」
大正末期 → 昭和初期	「_____」   社会主義思想による無産階級の文学 →労働者・農民の立場からその思想 や生活を描き現実の発展をめざす	『_____』(プロレタリア文学の出発点となった雑誌→関東大震災により廃刊)   『_____』(1925年に結成された日本プロレタリア文芸連盟の機関誌的存在)   「<u>海に生くる人々</u>」(石炭を運んで室蘭・横浜間を往復する貨物船での船員の苦難と闘争を描く)   『_____』(1928年に結成された全日本無産者芸術連盟(略称=ナップ)が発刊した機関誌)   「<u>太陽のない街</u>」(自分が印刷工として体験した1926年の共同印刷争議を素材に描く)   「<u>蟹工船</u>」(カムチャッカに出漁する蟹工船労働者たちの悲惨な労働条件とその争議を描く)   ★後に共産党として非合法活動中に治安維持法によって逮捕され、特別高等警察の拷問により警察署で撲殺された
	「_____」   自然主義的リアリズムに反発し、 感覚的・印象的な内容を表現する	「<u>伊豆の踊子</u>」(下田に向かう旅芸人の一座と道連れになった、孤独に悩む少年の淡い恋と旅情を描く)   「<u>雪国</u>」(雪国の町に住む芸者と東京育ちの青年との純粋な愛情を描く)   「<u>日輪</u>」(邪馬台国女王卑弥呼を日輪にみたて、周辺の国々の王子たちが倒れる有様を描く)   「<u>旅愁</u>」(日中戦争前後のパリを主な舞台に、主人公矢代が愛する女性をめぐる悩み)
	「_____」   広範な小市民階級の要求に応じて 出された娯乐的・商業的な通俗小説	「<u>大菩薩峠</u>」(虚無にとりつかれた剣客机竜之介が幕末を舞台に展開する波乱の時代小説)   「<u>鞍馬天狗</u>」(鞍馬天狗の名をもつ志士を描く時代小説)・「<u>赤穂浪士</u>」(赤穂浪士を描く時代小説)   「<u>宮本武蔵</u>」(剣弾一如を目指す求道者宮本武蔵を描いた歴史小説)   「<u>南国太平記</u>」(南国薩摩藩の島津家をめぐるお家騒動を素材にした時代小説)
戦前	「<u>児童文学</u>」   童謡や童話など児童を対象とする	「_____」『<u>赤い鳥</u>』(児童文学雑誌)   「<u>蜘蛛の糸</u>」・「<u>ごんぎつね</u>」などの童話を掲載
	① _____ 『<u>風立ちぬ</u>』(肺結核の婚約者と療養所で暮らす私が永遠の生を発見する物語)   ② _____ 『<u>麦と兵隊</u>』(徐州作戦に軍報道班として従軍して描く→ベストセラーとなる)   ③ _____ 『<u>生きてゐる兵隊</u>』(南京攻略時の日本軍の残虐を描く→発禁処分となる)	「_____」『<u>詩歌(大正時代)</u>』   ① 新体詩 (西洋詩にならって生まれた新しい詩体)   「_____」『<u>道程</u>」   「_____」『<u>月に吠える</u>」 } 口語自由詩   「_____」『<u>抒情小曲集</u>」   ② 短歌   (1) アララギ派 (伊藤左千夫の死後)   「_____」『<u>赤光</u>」   「_____」『<u>柿蔭集</u>」
戦後	① _____ 『<u>俘虜記</u>』   ② _____ 『<u>真空地帯</u>』   ③ _____ 『<u>原爆詩集</u>』   ④ _____ 『<u>黒い雨</u>』   ⑤ _____ 『<u>墮落論</u>』・『<u>白痴</u>』   ⑥ _____ 『<u>斜陽</u>』・『<u>人間失格</u>』	⑦ _____ 『<u>点と線</u>』   ⑧ _____ 『<u>天平の甞</u>』   ⑨ _____ 『<u>坂の上の雲</u>』   ⑩ _____ 『<u>仮面の告白</u>』   ⑪ _____ 『<u>太陽の季節</u>』   ⑫ _____ 『<u>飼育</u>』・『<u>個人的な体験</u>』



明治	功利主義的教育	1871年 _____ (教育行政を統轄する機関) ★初代文部卿= _____ _____ 年 _____ (_____ 流の学制にならう) ★序文は「_____ (学事奨励に関する太政官布告)」 理念=① _____ 的な教育観から _____ を説く・② _____ ・教育の機会均等 内容=①画一的で中央集権的 (全国を _____ 大学区・ _____ 中学区・ _____ 小学区に分ける) ex. _____ (1876年に落成した長野県松本市の和洋折衷式建築の小学校) ②学校の設立費や授業料は民衆の負担・③農民は児童という労働力が奪われる but 当時の実情に合わず、就学率は _____ %
	自由主義的教育	_____ 年 _____ (_____ 流の自由主義的教育制度にならう) ★文部大輔= _____ _____ 年 _____ (_____ 流の国家主義的教育方針) ★初代文相= _____
	国家主義的教育(義務教育Ⅱ年間)	(伊藤①内閣) _____ 令・ _____ 令・ _____ 令・ _____ 令の総称 →小学校令 (_____ ( _____ 年制)・ _____ ( _____ 年制)→尋常小学校が義務教育) ★ _____ ( _____ 年)→帝国大学(1886)→東京帝国大学(1897)に改称 _____ 年 _____ (教育の基本方針を示した明治天皇による「教育に関する勅語」) ( _____ 内閣) 起草= _____ 内容=儒教的精神に基づく「 _____ 」などの国民道徳を説く → _____ 不敬事件( _____ 年) キリスト教徒の立場から教育勅語に拝礼を拒否 → _____ が「教育と宗教の衝突」で国家主義の立場からキリスト教を攻撃 [中等・高等教育機関] 1894年 _____ 令 (高等学校を中等学校とする→尋常中学校は中学校に) _____ 年 _____ 令 (男子の中学校に対応する女子の中等教育機関) 中流階級層の _____ の育成を主眼とする 1903年 _____ 令 (中等学校卒業者を入学資格とする専門高等教育機関)
	国家主義的教育(義務教育Ⅱ年間)	1900年 小学校令改正 (就学義務の規定を厳密化し、義務教育の授業料を無償化) ★国民生活の向上も背景となり、義務教育の就学率が90%を超える(1902) _____ 年 _____ (教科書を _____ から文部省著作の _____ に統一) → _____ (1911) _____ が国定教科書を南北朝併立説を執筆→南朝正統側から非難受け辞職 _____ 年 小学校令改正 (小学校の義務教育を _____ 年間に延長)
大正	大正	_____ 年 _____ (帝国大学以外に公立・私立大学、 _____ の設置を許可) 1918年 _____ 改正 (官立以外に公立・私立の高等学校の設置を許可)
	昭和	1937年 『 _____ 』 ( _____ 思想局が発行した天皇への絶対随順などを説いた教科書) 1941年 『 _____ 』 (文部省 _____ が発行した国民道徳のあり方などを説いた教科書) _____ 年 _____ (「皇国民」の錬成を目的に、小学校を _____ と改称)
戦後	戦後	1945年 教育改革指令 (GHQが軍国主義教育の禁止を指令) (1) _____ (職業軍人・軍国主義者・国家主義者を教職から追放) (2) _____ ・ _____ ・ _____ の授業停止 (のち社会科として復活) 1946年 _____ の来日・勧告 _____ に代わる新しい民主主義的な教育理念を提示 (→ _____ 年に教育勅語失効) _____ 年 _____ (義務教育9年間・男女共学・教育の機会均等など教育の理念を規定) _____ 年 _____ (教育基本法の精神に基づき、六・三・三・四制の _____ 学校系列を規定) _____ 年 _____ ( _____ を各道府県・市町村に設置) ★教育委員会委員= _____ →地方自治体の首長による _____ ( _____ 年) 1954年 _____ (教職員の政治活動・政治教育禁止) 2006年 教育基本法改正 (愛国心に関する条項などが盛り込まれる)
	年間	

図解NOTE [教育制度]



1869年 _____ が鉛製活字の活版印刷技術を発明  
 ↓  
 ★(官版) _____ (1862年に幕府の _____ が発行)  
 _____ 年 『 _____ 』(日本最初の日刊新聞)  
 1872年 『 _____ 』(英人 _____ が創刊→ _____ を掲載)  
 1872年 『 _____ 』(末広鉄腸が主筆を務めた自由民権派の立場の政論新聞)  
 1872年 『 _____ 』( _____ が主筆を務めた立憲帝党派の機関紙)  
 1872年 『 _____ 』( _____ の支援で創刊された立憲改進黨の機関紙)  
 1882年 『 _____ 』(板垣退助が社長を務めた自由党の機関紙)  
 1882年 『 _____ 』( _____ が創刊→ _____ 年に _____ の『 _____ 』を掲載)  
 1883年 『 _____ 』(国の公示事項を記載した政府機関紙)  
 1892年 『 _____ 』( _____ が創刊→ _____ ・ _____ ・ _____ ら記者が活躍)  
 ★日露戦争に際し、社が非戦論から主戦論に転じたため幸徳らは退社  
 1903年 『 _____ 』( _____ の機関紙→ _____ ・ _____ らが発行)  
 [言論弾圧(これ以降、新聞は大新聞から小新聞が中心になる)]  
 _____ 年 _____ (事実の有無を問わず、人を誹謗・誹謗する者を処罰する)  
 _____ 年 _____ (政府や法律に対する新聞の非難を禁じ、処罰する)  
 ↓  
 ★ _____ (自由民権期の政治評論中心の新聞)  
 _____ ( _____ を継いだ娯楽重視の新聞)  
 1874年 『 _____ 』(小新聞の元祖→のち大衆新聞として全国紙へと成長)  
 1879年 『 _____ 』(のち『 _____ 』と『 _____ 』に分かれる)  
 1888年 『 _____ 』(のち『 _____ 』を買収→『毎日新聞』となる)

— [文明開化(欧米列強の文明・風俗・慣習を取入れる)] —  
 ① _____ の採用( _____ 年)  
 _____ (旧暦)による _____ 年 _____ 月 _____ 日を  
 太陽暦(新暦)による1873年1月1日とする  
 ★農村ではいぜんとして太陰太陽暦(旧暦)を使用  
 ② 1日24時間制・日曜休日制  
 ③ 祝祭日の制定(1873)  
 _____ = _____ 月 _____ 日(神話上の神武天皇即位日)  
 _____ = _____ 月 _____ 日(明治天皇の誕生日)  
 ★端午の節句などの五節供・年中行事は祝祭日とされず

— [生活(日本風と西洋風の混合)] —  
 ① 衣……洋服・散髪の普及→ _____ の新風俗  
 ② 食……都市中心に食生活の洋風化(肉食・コーヒーなど)  
 ex. _____ の流行  
 ③ 住……公共建築の洋風化(民家は和風が主体)  
 ex. 一般家庭では石油ランプを使用  
 ④ 交通…銀座通りには _____ の洋風建築が並び、鉄道馬車・ _____ が走り、街路に _____ (→のち _____) がとまる、  
 ★自転車・乗合馬車→鉄道馬車→電車  
 ⑤ 活動写真(→映画制作)・蓄音機(→レコード)

- ① 新聞の普及(発行部数が100万部を超える)  
 『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』・『東京日日新聞』・『大阪毎日新聞』
- ② _____ (政・経・社会・文化全般についての評論など様々な情報を掲載した雑誌)  
 『 _____ 』(1887年に創刊→ _____ 年に _____ の「 _____ 」の論文を掲載)  
 『 _____ 』(1919年に _____ が _____ を創立して創刊→社会改造を民衆解放に求める)
- ③ 文化雑誌(自由主義からマルクス主義に至る論説を掲載した雑誌)  
 『 _____ 』(1919年に _____ ・ _____ らが創刊)
- ④ 経済雑誌(経済を主とした情報を掲載した雑誌)  
 『 _____ 』(1895年に創刊→ _____ (記者)の _____ の論文を掲載)
- ⑤ 大衆雑誌(大衆の要求に応え、娯楽的な内容・情報を掲載した娯楽雑誌)  
 『 _____ 』(1925年に大日本雄弁会講談社が創刊→毎月発行部数が100万部を超える)
- ⑥ 週刊誌(1週間に1回発行される雑誌)  
 『 _____ 』・『 _____ 』(1922年に発刊された日本最初の週刊誌)
- ⑦ 児童雑誌(児童を読者対象とした文学雑誌)  
 『 _____ 』(1918年に _____ が創刊した児童雑誌)
- ⑧ _____ 『現代日本文学全集』などの文学全集を1冊1円で売る)
- ⑨ 文庫本( _____ など内外の古典を手軽な形で世に紹介した本の形式)

— [ _____ (教育と活字文化の普及により文化が大衆化)] —  
 ① 教育の発達  
 (1) 義務教育の普及(日露戦争後に就学率97%を超える)  
 (2) 中等学校卒業者の急増  
 (3) 高等学校卒業生・大学卒業生の増大  
 ↓  
 ★背景= _____ ・ _____ による高等教育機関の拡充  
 ② 一般勤労者の増大  
 (1) 事務系の職場で働く給与生活者(サラリーマン)の大量出現  
 (2) 女性の産業界への職場進出  
 → _____ ( _____ ・電話交換手など)と呼ばれる

— [生活(洋風生活の普及)] —  
 ① 衣…洋服の普及  
 ex. _____ ( _____ )・ _____ ( _____ )  
 ② 食…食生活の洋風化(トンカツ・カレーライスなど)  
 ③ 住…都心=鉄筋コンクリート造りのビル・デパート(百貨店)  
 郊外= _____ (和洋折衷の小市民住宅)  
 ★一般家庭で _____ が普及(水道・ガスの供給事業本格化)

ラジオ・テレビ		映画(活動写真)	
_____ 年	ラジオ放送の開始 ★東京放送局(1925)・ _____ ( _____ )(1926)	1896年	_____ (映画の旧称)輸入 ★大正時代まではサイレント( _____ )を弁士が解説
1951年	民間放送の開始(スポーツの実況中継が人気をよぶ) 全国中等学校優勝野球大会( _____ 年～)・東京六大学野球(1925～)など	1931年	_____ (有声映画)開始
_____ 年	テレビ放送の開始 初の国産テレビアニメとして『 _____ 』が人気を博す(1963～)	1951年	カラー映画開始 『羅生門』『生きる』・ _____ 『西鶴一代女』 _____ 『東京物語』・山田洋二『男はつらいよ』

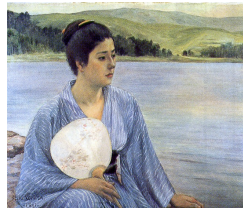
西洋画	★明治政府により工部省内に併設された美術学校 _____ (1876) _____ 廃止   イタリアから _____ (画家) _____ (彫刻家) を講師に招く   _____ [日本洋画] _____ _____ 『蛙』 近代日本洋画の先駆者 ( _____ に師事)	→ _____ (暗い色調の画風) と呼ばれる   ★ _____ らが結成した日本最初の洋画団体 _____ (1889) _____ 『収穫』	★白馬会に対抗して結成 太平洋画会 (1901) _____ (文展へ統合)
		→ _____ (明るい色調の画風) と呼ばれる   ★ _____ を中心に結成された洋画団体 _____ (1896) _____ (文展へ統合)   _____ 『湖畔』『読書』『舞妓』 _____ 『海の幸』 _____ 『天平の面影』 _____ 『渡頭の夕暮』 _____ 『南風』	
日本画	★ _____ の尽力により設立 _____ ( _____ 年) _____ (アメリカ人) _____ (校長→のち辞職) _____ _____ 『悲母観音』 _____ 『竜虎図』 _____	★西洋画科を新設し (1896), 黒田清輝を教授に迎える (1898)   → ★校長を辞職した _____ が創立した美術団体 _____ (1898) _____ (文展へ統合)   _____ 『無我』『生々流転』 _____ 『太原御幸』 _____ 『黒き猫』『落葉』	



〔蛙〕 by _____



〔収穫〕 by _____



〔湖畔〕 by _____



〔読書〕 by _____



〔舞妓〕 by 黒田清輝



〔海の幸〕 by _____



〔渡頭の夕暮〕 by 和田英作



〔南風〕 by 和田三造



〔天平の面影〕  
by 藤島武二



〔竜虎図〕 by _____



〔悲母観音〕  
by _____



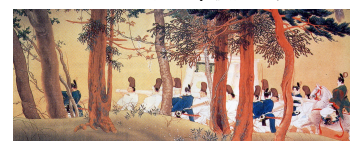
〔黒き猫〕  
by _____



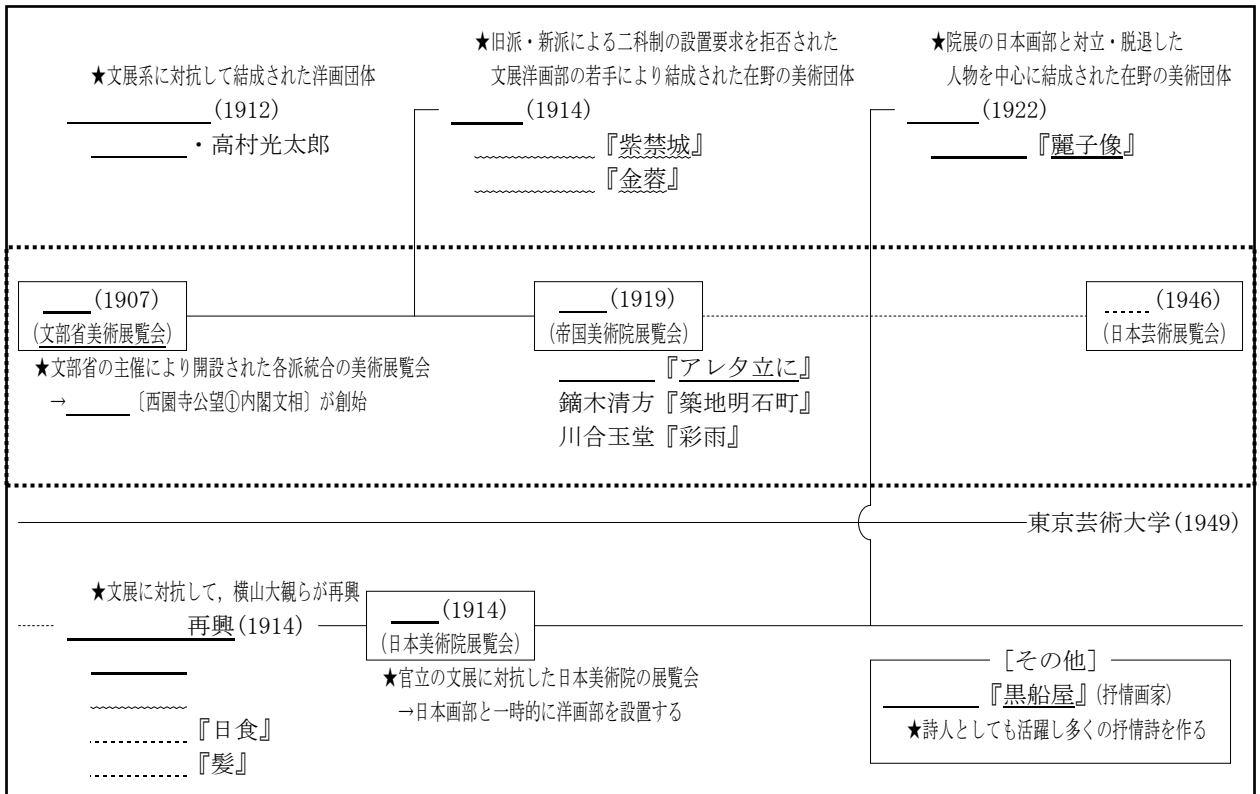
〔無我〕  
by _____



〔生々流転〕 by 横山大観



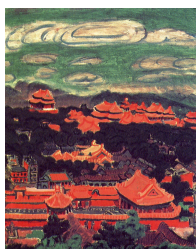
〔太原御幸〕 by 下村観山



[建築史]	
明治	① _____ = _____ (東京日比谷の国際社交場) _____ ニコライ堂 (神田駿河台の大聖堂)
	② _____ = 日本銀行本店・東京駅
	③ _____ = 赤坂離宮 (現在の _____)

[彫刻史]	
明治	① _____ (イタリア人彫刻家で工部美術学校の講師) ② _____ 『女』『抗夫』(ブロンズ像) ③ _____ 『ゆあみ』(ブロンズ像) ④ _____ 『老猿』(木彫像) _____ 『西郷隆盛像』(原型を木彫で制作)
大正	① _____ 『墓守』『いづみ』(ブロンズ像) ② _____ 『転生』『五浦釣人』(木彫像)

[音楽史]	
明治	① _____ (国立の音楽教育機関) の設立 (1887) ② _____ (東京音楽学校初代校長→西洋音楽を導入し、小学校教育に _____ を採用) ③ _____ (『荒城の月』『花』『箱根八里』などの唱歌を作曲)
大正	④ _____ (『赤とんぼ』『この道』『からたちの花』などの唱歌を作曲) ⑤ _____ (オペラ歌手として『蝶々夫人』を欧米で20年間2000回公演) ⑥ _____ (『カチューシャの唄』『東京音頭』『東京行進曲』などの流行歌を作曲)
戦前	⑦ _____ (中山晋平が作曲した『東京音頭』『東京行進曲』などの流行歌を歌詞) ⑧ _____ (『酒は泪か溜息か』『影を慕いて』などを作曲)
戦後	⑨ _____ (1945年に『リンゴの歌』の明るいメロディーが大ヒット) ⑩ _____ (1947年に『東京ブギウギ』の爆発的な歌と踊りが大ヒット) ⑪ _____ (『柔』『川の流れのように』などで女性初の国民栄誉賞を受賞)



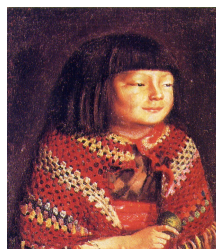
『紫禁城』

by _____



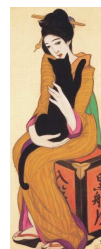
『金荳』

by _____



『麗子像』

by _____



『黒船屋』

by 竹久夢二



『女』

by 荻原守衛



『老猿』

by 高村光雲



明治	①	(医学)	の発見・破傷風菌の純粋培養に成功・伝染病研究所を設立
	②	(医学)	の発見 (伝染病研究所に入所)
	③	(医学)	(梅毒の化学療法剤) の発見 (伝染病研究所に入所)
	④	(薬学)	(強心薬)・(消化薬) の創製
	⑤	(薬学)	( ) (脚氣に有効な成分) の創製
	⑥	(地震学)	大森式地震計・大森式公式 (地震に関する公式) の考案
	⑦	(天文学)	Z 項 (地球の自転軸に関する緯度変化の公式に「Z」を加える) の発見
	⑧	(物理学)	原子構造の研究 (土星型原子模型の理論を発表)
	⑨	(物理学)	地磁気の測定 (航空物理学の発達に寄与)
	⑩	(歴史学)	『 ( ) 』 (古代から明治維新までの日本史論) ★『 ( ) 』を創刊
	⑪	(歴史学)	「神道は祭天の古俗」(論文) で教授を辞職 ★『 ( ) 』(岩倉使節団の見聞録)
	⑫	(歴史学)	南北朝正閏問題 (国定教科書に南北朝併立説を執筆したことが問題化) で休職処分
	⑬	(歴史学)	日本文献学を確立 (国学にドイツ文献学を取り入れる)
大正	①	(医学)	黄熱病の研究・梅毒スピロヘータの純粋培養に成功
	②	(電気工学)	八木アンテナ (今のテレビ用アンテナの原型となる指向性超短波用アンテナ) の発明
	③	(物理学)	K S 磁石鋼 (強力磁石鋼) の発明
	④	(研究機関)	本多光太郎の主唱で東北帝国大学に設立 (1919)
	⑤	(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立 (1918)
	⑥	(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立 (1925)
	⑦	(研究機関)	物理・化学の応用研究を目的とする半官半民の研究機関 (初代所長= )
	⑧	(哲学)	『善の研究』(ドイツ流観念論を中心に善などの東洋思想を加味して「西田哲学」を完成)
	⑨	(哲学)	『風土』(ニーチェ・キルケゴールなど西洋哲学を研究し、独自の思想を示す)
	⑩	(経済学)	『資本論』(資本主義経済の運動法則を論理的・歴史的に分析したマルクスの著作) を紹介
	⑪	(経済学)	『 ( ) 』(奢侈の根絶による貧乏廃絶を説く) ★『 ( ) 』(雑誌) を刊行し、マルクス主義経済学に傾倒
	⑫	(経済学)	『日本資本主義発達史講座』(マルクス主義経済学) を企画・編集
	⑬	(歴史学)	満州・蒙古・朝鮮など中国周辺民族史・邪馬台国九州説を主張
	⑭	(歴史学)	『神代史の研究』(日本神話の科学的解釈を行う)
	⑮	( )	★民間伝承・風習などを研究する学問 ★柳田国男は知識人に対する階層として、民間伝承を保持している階層を と表現した
	⑯	(思想家)	民芸運動の創始者 (朝鮮や琉球の民衆工芸の美を強調し、朝鮮文化に関する大きな影響を与える)
昭和	①	(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌) 刊行 (保田与重郎と共に刊行)
	②	(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌) 刊行 (亀井勝一郎と共に刊行)
戦後	①	(政治学)	日本ファシズムの精神構造を明らかにした『超国家主義の論理と心理』を著す
	②	(経済史学)	近代社会成立史観(大塚史学)を確立 (『近代資本主義の系譜』を著す)
	③	(法社会学)	法社会学者として民法改正にも影響を与える (『日本社会の家族的構成』を著す)

ノーベル賞受賞者	年	(物理学賞)	2008 年 益川敏英 (物理学賞)
	1965 年	(物理学賞)	2008 年 南部陽一郎 (物理学賞)
	1968 年	(文学賞)	2010 年 鈴木 章 (化学賞)
	1973 年	(物理学賞)	2010 年 根岸英一 (化学賞)
	1974 年	(平和賞)	2012 年 山中伸弥 (医学生理学賞)
	1981 年	(化学賞)	2014 年 赤崎 勇 (物理学賞)
	1987 年	(医学生理学賞)	2014 年 天野 浩 (物理学賞)
	1994 年	(文学賞)	2014 年 中村修二 (物理学賞)
	2000 年	白河英樹 (化学賞)	2015 年 梶田隆章 (物理学賞)
	2001 年	野依良治 (化学賞)	2015 年 大村 智 (医学生理学賞)
	2002 年	小柴昌俊 (物理学賞)	2016 年 大隅良典 (医学生理学賞)
	2002 年	田中耕一 (化学賞)	2018 年 本庶 佑 (医学生理学賞)
	2008 年	下村 脩 (化学賞)	2019 年 吉野 彰 (化学賞)
	2008 年	小林 誠 (物理学賞)	2021 年 真鍋淑郎 (物理学賞)

[ (マルクス主義者間の論争) ]	
①	(当面の課題はブルジョワ革命であるとする)
↑	
・ 服部之総	
『日本資本主義発達史講座』を創刊	
②	(当面の課題はプロレタリア革命であるとする)
↓	
・	
『 ( ) 』を創刊	

鎖国時の来日外国人	_____ [ オランダ商館 _____ 人医師 ] 『 _____ 』   ★のち _____ [ オランダ通詞 ] が翻訳し「 _____ 」と題す (1801)   _____ [ オランダ商館 _____ 人医師 ] 『 日本植物誌 』   _____ [ オランダ商館 _____ 人医師 ] 『 日本 』   ①長崎郊外に _____ を創設 (門下生 = _____ ・ _____ ・ _____ )   ②帰国時 ( _____ 年 ) , 日本地図の持ち出しが発覚し国外追放 ( _____ 事件 )   →地図を渡した _____ (1811 年に _____ の設置を建議) を処罰   ③ _____ (樺太が島であることを確認) が発見した _____ の命名者	_____ (米人宣教師→横浜にヘボン塾 (現在の明治学院) を創設)   ★ヘボン式ローマ字を考案・『 _____ 』 (日本最初の和英辞典)   _____ ブラウン (米人宣教師→横浜にブラウン塾 (現在の明治学院) を創設)   ★横浜バンド (ブラウン塾の学生が結成) = _____ ・ 島田三郎   _____ (米人宣教師→長崎の私塾で _____ に英語を教授)   ★開成学校の教師として勤務→政府顧問として翻訳などに尽力)   _____ (米人宣教師→フルベッキの仲介で熊本洋学校教師として来日)   ★熊本バンド (熊本洋学校の学生が結成) = _____ ・ _____
アメリカ	_____ (農政家→開拓使顧問として _____ 設立の指導にあたる)   _____ (教育家→札幌農学校教頭となり「Boys be ambitious!」を残す)   ★札幌バンド (札幌農学校の学生が結成) = _____ ・ _____   _____ (教育家→文部省顧問として教育制度の整備・女子教育に貢献)   _____ (思想家→東大で哲学を教授→ _____ と _____ を設立)   ★ _____ を「凍れる音楽」と評す・ _____ 夢殿救世観音像を初めて調査   _____ (動物学者→東大で生物学を教授→ _____ の進化論を紹介)   ★ _____ ( _____ ) の発見などが日記『日本その日その日』に記されている	_____ (法 学 者→政府顧問として市制・町村制などの整備に尽力)   _____ (法 学 者→政府顧問として大日本帝国憲法の制定に尽力)   _____ (医 学 者→東大で医学を教授し『ベルツの日記』を著す)   _____ (医 学 者→大学東校で内科医学を教授)   _____ (哲 学 者→東大で哲学を教授)   _____ (地質学者→東大で地質学を教授)   ★ナウマン象の名称の由来・フォッサ＝マグナを指摘   _____ (軍 人→陸軍にドイツ式軍制を導入)
イギリス	_____ (鉄道技師→新橋～横浜間の鉄道敷設を指導)   _____ (大阪造幣寮首長として貨幣鑄造を指導)   _____ (地震学者→日本地震学会設立に尽力)   _____ (小 説 家→日本に帰化して _____ と改名し、『怪談』を著す)   _____ (建 築 家→ _____ を設計)   ★弟子 = _____ (日本銀行本店・東京駅設計) ・ _____ (赤坂離宮設計)   _____ (洋 画 家→『絵入ロンドン＝ニュース』の特派員として来日)   ★横浜で洋画画法を教える→弟子 = _____ 『蛙』	_____ (洋 画 家→ _____ で指導)   ★門下生 = _____ 『収穫』   _____ (彫 刻 家→ _____ で指導)   _____ (銅版画家→紙幣・切手などの製版や銅版画技術を指導)   _____ (製糸技師→富岡製糸場でフランス製の製糸機械を指導)   _____ (法 学 者→政府顧問として刑法・民法を起草→民法典論争)   _____ (洋 画 家→漫画雑誌『 _____ 』を創刊し、世間を風刺)

明治初期	[ 歌舞伎 (旧派劇) ]   ① _____ (歌舞伎脚本作者)   (1) _____ (散切頭の俳優によって演じられた文明開化の新風俗を主題とする演劇)   (2) _____ (史実を重んじ、写実的に演出する歴史劇←坂名垣魯文が「活きた歴史」と評す)
中期	② _____ 時代 (歌舞伎の黄金時代)   _____ (9 代目)   _____ (5 代目)   _____ (初 代)   [ _____ ] (歌舞伎 [旧派劇] に対抗して新しく起こった演劇 [新派劇])   ① _____ (自由民権運動を宣伝するために自由党壮士らが演じた演劇)   → _____ (自由民権を盛り込んだオペケベー節で人気を博す)   ② 現代劇 (男女混合の演劇) → 伊井蓉峰 (『金色夜叉』『不如帰』などを上演し人気を博す)   [ _____ ] (歌舞伎 [旧派劇] ・ 新派劇 に対するヨーロッパ近代劇の総称)
後期	[ _____ ] (歌舞伎に西洋劇の要素を取り入れる)   ③ _____ (演劇の改良を志す) → _____ (1906)   『桐一葉』 (豊臣家滅亡を題材とする)   (結成 = _____ ・ _____ )   ★ _____ 作『人形の家』の主人公ノラ役を _____ (女優) が主演して人気を博す   _____ (1909)   (結成 = _____ ・ 2 代目 _____ )   ★新劇発展の先駆的な役割を果たす
大正	_____ (1913)   (結成 = _____ [阪急電鉄社長])   ★関西で女性だけの劇団として発展   _____ (1917)   (結成 = _____ )   ★『国定忠治』などの剣劇で人気を博す   _____ (1913)   (結成 = _____ ・ _____ )   ★トルストイ作『復活』で松井須磨子の劇中歌「カチューシャの唄」が流行歌として大ヒット   →のち、島村抱月・松井須磨子の死後に解散   _____ (1924)   (結成 = _____ ・ _____ (弟子))   ★東洋の演劇と西洋の演劇を掛け合わせた新劇運動の拠点となる   →『演劇の実験室』と呼ばれる

## 回 仏教私伝『扶桑略記』 by 皇円

①^{じんいん}継体天皇即位十六年^{あやひとくらつくりのすてき}壬寅，大唐の漢人^{しほたつと}秦部村主^{たけち}②司馬達止(等)，此の年春二月に入朝す。即ち草堂を大和国高市郡坂田原に結び，本尊を安置し，帰依礼拝す。世を挙げて皆云ふ，「是れ③^{たけち}太唐の神なり」と。

〔①522年 ②鞍作鳥(止利仏師)の祖父 ③中国の神様〕

## 回 仏教公伝『上宮聖徳法王帝説』

①^{しきしき}志鸕鷁天皇の御世に，②^{ぼご}戊午の年の十月十二日に，百済国の主③^{あわ}明王，始めて仏の像經教并せて僧等を度し奉る。勅して蘇我^{そが}稲目宿禰大臣に授けて興し隆えしむ。

〔①欽明天皇 ②538年 ③聖明王〕

## 回 仏教公伝『日本書紀』

(①^{きんめい}欽明天皇十三年)冬十月，百済の^{せいめい}聖明王……釈迦仏の金銅像一軀，②^{はしら}幡蓋若干，^{きとうろん}經論若干巻を献る。……(天皇)乃ち群臣に歴問して曰く，「③^{たてまつ}西蕃の献れる仏の相貌④^{はらけ}端嚴し。至ら未だ曾て有ず。⑤^{いん}礼ふべきや不や」と。蘇我大臣稲目宿禰奏して曰さく，「西蕃の諸国，一に皆礼ふ。⑥^{いん}豊秋日本，⑦^{あにひと}豈独り背かなむ」と。物部大連尾真・中臣連鎌子，同じく奏して曰さく，「我が国家の，天下に王とましますは，恒に天地社稷の⑧^も臣人土神を以て春夏秋冬，祭拝りたまふことを事とす。方に今改めて⑨^{あだしくにの}蕃神を拝みたまはば，恐るらくは国神の怒を致したまはむ」と。⑩^{あま}天皇曰く，情願ふ人稲目宿禰に付けて，試に礼ひ拝ましむねし」と。

〔①552年。壬申 ②仏堂内の荘嚴具 ③百済のこと ④端正で美しい ⑤礼拝 ⑥日本の国号につけた美称 ⑦どうして日本だけ背くことができるでしょうか ⑧たくさんの神々 ⑨外国の神。仏のこと ⑩欽明天皇〕

## 回 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

①^{いげ}池辺の太宮に^{あまのしたし}天下治しめしし天皇②^{あま}太御身^{あいた}芳づき賜ひし時，③^{はし}歳は丙午に^{へいご}次る年，④^{あま}太玉天皇の太子とを召して誓願し賜ひ，「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に，將に寺を造りて⑥^{やくし}薬師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ賜ひて造り堪へずありしかば，⑦^{おはり}小治田の太宮に^{あまのしたし}天下治しめしし大王天皇及び⑧^{あま}東宮聖王，大命を受け賜はりて⑨^{いげ}歳は丁卯に^{たてまつ}次れる年に仕へ奉る。

〔①用明天皇 ②病気になられた時 ③586年 ④推古天皇 ⑤厩戸王(聖徳太子) ⑥薬師如来像 ⑦推古天皇 ⑧厩戸王(聖徳太子) ⑨607年〕

## 回 古事記の序文『古事記』

臣①^{あま}安万侶言す。……是に於て②^{あま}天皇詔すらく。「朕聞く。諸家の貴る所の③^{あま}帝紀及び④^{あま}本辞，既に正実に違ひ，多く虚偽を加ふ。今の時に当りて其の失を改めざれば，未だ幾年をも経ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯，王化の⑤^{あま}鴻基なり。故惟に帝紀を撰録し，旧辞を⑥^{あま}討察し，偽を削り実を定め，後葉に流えむと欲す」と。時に⑦^{あま}舍人有り。姓は稗田，名は阿礼。年は是れ廿八。人となり聡明にして，⑧^{あま}目に度れば口に誦み，耳に払るれば心に勸す。即ち阿礼に勸語して，⑨^{あま}帝皇の日継及び先代の旧辞を⑩^{あま}誦み習はしむ。然れども⑪^{あま}運移り世異りて，未だ其の事を行はず。伏して惟るに⑫^{あま}皇帝陛下，……ここに於て旧辞の誤り忤えるを惜しみ，⑬^{あま}先紀の謬り錯えるを正さむとして，⑭^{あま}和銅四年九月十八日を以て臣安万侶に詔すらく。「稗田阿礼の誦める所の勸語の旧辞を撰録して以て献上せよ」著り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り摭ふ。……大抵所記せるは，天地の開闢けしより始めて，⑮^{あま}小治田の御世に訖る。……并せて三巻を録し，謹みて献上る。

⑯^{あま}和銅五年正月二十八日

正五位上勳五等太朝臣臣安万侶謹上

〔①太安万侶 ②天武天皇 ③歴代の天皇の事績や皇位継承の記録 ④旧辞と同じ。神話や伝説など ⑤天皇が徳をもって人々を導くための基礎 ⑥検討する ⑦天皇や皇子などの側近く仕え，雑事を勤めた下級官人 ⑧一度見れば声に出して読み，一度聞けば記憶する ⑨天皇 ⑩暗誦させる ⑪時代が移り，天武天皇から代が改まった ⑫元明天皇 ⑬帝紀 ⑭711年 ⑮推古天皇 ⑯712年〕

## 回 風土記の編纂命令『続日本紀』

(①^{あま}和銅六年)五月甲子。制すらく，畿内・七道諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の，銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫等の物は，具に②^{あま}邑目を録せしむ。……

〔①713年 ②種類・品目〕

回 仏教私伝『扶桑略記』 by 皇円
--------------------

繼体天皇即位 16 年の壬寅(522 年)、中国の鞍作鳥(止利仏師)の祖父である司馬達等が、この年の春 2 月に来日した。彼はすぐに大和国高市郡坂田原(現在の奈良県高市郡明日香村の坂田付近)に草堂を建て、本尊を安置し、仏に帰依して礼拝した。世間の人が皆言うことには、「これは中国の神様だ」と。

回 仏教公伝『上宮聖徳法王帝説』
------------------

志葵嶋天皇(欽明天皇)の治世、戊午の年(538 年)の 10 月 12 日に、百済国の聖明王が初めて仏像・経文を伝え、僧侶をおくってきた。そこで天皇は命令を下し、大臣の蘇我稲目に仏像などを授け、仏法を盛んにさせたのである。

回 仏教公伝『日本書紀』
--------------

欽明天皇 13 年(552 年)冬 10 月、百済の聖明王が、…釈迦仏の金銅像一体と幡蓋(仏堂内の荘厳具)と、いくらかの経論を献上した。…そこで天皇は群臣に一人一人問いかけられた。「百済から献上された仏の顔は端正で美しい。いまだかつて見たことがないものであるが、礼拝すべきかどうか」と。大臣の蘇我稲目が申し上げた。「西隣りの国ではすべて礼拝しています。どうして日本だけがそむけましょうか」と。大連の物部尾輿と中臣鎌子が同じように申し上げた。「わが国で天下を支配されている天皇は、常に天地の多くの神々を春夏秋冬おまつりされることになっています。今、改めて外国の神を拝まれるならば、おそらくわが国の神の怒りをまねくことになりましょう」と。すると欽明天皇は、「では、礼拝を希望している蘇我稲目に仏像をあずけ、試みに礼拝させてみることにしよう」と述べられた。

回 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』
-----------------------

池辺宮で天下を治めていた天皇(用明天皇)は、自らが病気になる 586 年、後の推古天皇と厩戸王(聖徳太子)に「私の病気が治ることを願って、寺を建立し薬師如来像を造りなさい」とお命じになりました。しかし、用明天皇は間もなく崩御なされて寺院建立は延期されていましたが、小治田宮で天下を治めていた天皇(推古天皇)と東宮聖王(厩戸王(聖徳太子))は、用明天皇の命令を受けて 607 年に寺を建立しました。

回 古事記の序文『古事記』
---------------

臣太安麻呂が申し上げます。……天皇(天武天皇)がおっしゃった。「私の聞くとくによれば、豪族の家々に伝わる帝紀や旧辞の記事は、すでに真実と異なり、多くの虚偽が加わっているという。今の内に、その誤りを改めなければ、何年も経たないうちに、本当のことがわからなくなってしまうだろう。こうした記録は国家にとって骨組みを示すものであり、天皇が民を導く基礎となるものである。そこで、帝紀を撰び記録し、旧辞を調べ尽くし、偽りの記録を削って真実を定め、後世に伝えたいと思う」と仰せられた。その時、天皇の側近くに仕える舎人に、姓は稗田、名は阿礼という者がいた。年齢は 28 で、聡明な人物であり、一度見ただけで音読することができ、一度聞いただけで記憶することができた。そこで、天皇は阿礼に命じて、皇位の継承についての記録や旧辞などの古い物語を誦み習わせた。しかしながら、時代が移り、代も改まったので(天武天皇が崩御されて)、その事業も実行することができなくなった。これを考慮なさった皇帝陛下(元明天皇)は、旧辞に誤りがあるのを残念に思い、先紀(帝紀)の誤りや不統一を正そうとされて、和銅四年(711 年)9 月 18 日に太安麻呂に「稗田阿礼が天武天皇の命によって誦み習った旧辞を撰び記録して、献上するように」と命じられた。そこで、御命令の通りに事細かに記録した。……記録した内容は、天地が開けてから小治田の御世(推古天皇)までである。そして、全 3 巻を記録して献上するものである。

和銅五年(712 年)正月 28 日

正五位上勲五等太朝臣太安万侶

回 風土記の編纂命令『続日本紀』
------------------

(和銅六年(713 年))5 月 2 日、五畿・七道諸国の郡・郷などの地名は良い字を選んでつけよ。その地域で産出する銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫などの物は、その品目を詳しく記録せよ。……



## 回 国分寺建立の詔『続日本紀』

(^①天平十三年三月)乙巳,^②詔して曰く、「……宜しく天下諸国をして、各敬みて七重塔一区を造り、并せて^③金光明最勝王經、妙法蓮華經、各一部を写さしむべし。……^④僧寺には必ず^⑤廿僧有らしめ、其の寺の名を^⑥金光明四天王護國之寺と爲し、^⑦尼寺には^⑧二十尼ありて、其の名を^⑨法華滅罪之寺と爲し、兩寺相共に宜しく教戒を受くべし。……」と。

〔①741年 ②聖武天皇が詔した ③金光明最勝王經は国分寺、妙法蓮華經(略称は法華經)は国分尼寺で読ませた經典で、ともに護国經 ④国分寺 ⑤20人の僧 ⑥国分寺の正式名称 ⑦国分尼寺 ⑧10人の尼 ⑨国分尼寺の正式名称〕

## 回 大仏造立の詔『続日本紀』

(天平十五年)冬十月辛巳,^②詔して曰く、「……粵に^①天平十五年歳は癸未に次る十月十五日を以て、^③菩薩の大願を發して、^④盧舍那仏の^⑤金銅像一軀を造り奉る。……夫れ天下の富を有つ者は^⑥朕なり。天下の勢を有つ者も^⑥朕なり。この富勢を以て、この尊像を造る。」

〔①743年 ②聖武天皇が詔した ③衆生を救済しようとする菩薩の願い ④華嚴經の本尊。俗に大仏という ⑤銅に鍍金した仏像 ⑥聖武天皇〕

## 回 古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之

^①やまとうたは、ひとのこゝろをたねとして、よろづのことの葉とぞなれりける。世中にある人、^②ことわざしげきものなれば、心におもふことを、見るもの、きくものにつけて、いひいだせるなり。花になくうぐひす、みづにすむかはづのこゑをきけば、いきとしいけるもの、^③いづれかうたをよまざりける。

〔①和歌 ②行うことが多い ③歌を詠まないものがあるか〕

## 回 土佐日記『土佐日記』by 紀貫之

をとこもすなる日記といふものを、をむな(女)もしてみんとてするなり。^①そ(其)れのとし(年)のしはす(十二月)のはつか(二十日)あま(余)りひとひ(一日)のひ(日)の^②いぬ(戌)のときに、かどで(門出)す。そのよし(由)、いさゝかにものにかきつく。…

〔①紀貫之は930年に土佐守に任官、934年に離任した ②午後7～9時〕

## 回 源氏物語『源氏物語』by 紫式部

いづれの御時にか。^①女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いと、^②やむごとなき際にはあらぬが、すぐれて^③時めき給ふありけり。……

〔①天皇の配偶者。序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順 ②身分・家柄が尊い ③寵愛を受ける〕

## 回 浄土教『往生要集』by 源信

それ往生極楽の^①教行は、^②濁世末代の^③目足なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらむや。ただし^④顕密の教法は、其の文、一にあらず。^⑤事理の業因、其の行惟れ多し。^⑥利知の精進の人、未だ難しと為さざるも、^⑦予の如き^⑧頑魯の者、豈に敢てせむや。是の故に、念仏の一門に依りて、聊か^⑨経論の要文を集む。之を披き之を修すれば、覺り易く行ひ易からむ。之を披きて之を修すれば、覺り易く、行ひ易からむ。惣べて^⑩士門あり、分ちて三巻と為す。一には^⑪厭離穢土、二には^⑫欣求淨土、三には^⑬極楽の証拠、……九には^⑭往生の諸業、十には^⑮問答料簡なり。芝を座右に置きて^⑯廢忘に備へむ。

〔①教えと修行 ②けがれの多い末法の世。末法思想に基づく ③道しるべ ④顕教と密教。すべての仏教 ⑤真理を悟るための修行 ⑥賢くて仏道修行をしている人 ⑦成仏するための修行 ⑧源信 ⑨かたくなで愚かな人 ⑩経と論の重要な部分 ⑪『往生要集』は十の章からなる。以下はその章の目次 ⑫汚れた現世を厭い離れる ⑬浄土を願い求める ⑭極楽についての經典上の根拠 ⑮極楽往生をするための種々の修行 ⑯問答して他とはかりくらべる ⑰信心のすたれや忘却〕

## 回 往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤

^①沙門空也は、^②父母を言はず、^③亡命して世に在り。或は云く、^④漢流より出でたりといふ。口に常に阿弥陀仏を唱ふ。故に世に^⑤阿弥陀聖と号づく。或は市中に住して仏事を作し、また市聖と号づく。

〔①僧侶 ②父母の名前 ③本籍地から逃亡する ④皇族の血筋 ⑤阿弥陀仏を信仰して苦行する徳の高い修行者〕

## 回 僧兵の横暴『源平盛衰記』

^①白河の院は、賀茂川の水、双六の^②賽、^③山法師、是れぞ^④朕が心に随はぬ者と、常に仰せの有りけるとぞ申し伝へたる。

〔①白河法皇 ②さいころ ③比叡山延暦寺の僧兵 ④白河法皇〕

## 回 国分寺建立の詔『続日本紀』

(天平十三年(741年3月))24日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……諸国に命じて各々七重塔一基を建立し、**金光明最勝王經**(国分寺で読ませた護国經)・**妙法蓮華經**(国分尼寺で読ませた護国經)を各一部を写させよ。……僧寺(国分寺)には必ず僧20人を置き、**金光明四天王護国之寺**(国分寺の正式名称)と名づけ、尼寺(国分尼寺)には尼僧10人を置き、**法華滅罪之寺**(国分尼寺の正式名称)と名づけ、両寺ともに仏の教えと戒律を伝えよ。」

## 回 大仏造立の詔『続日本紀』

(天平十五年(743年))冬10月15日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……天平十五年(743年)10月15日をもって、普く衆生を救済しようという菩薩の願いを起こして、**盧舎那仏**(俗に大仏と呼ばれる華嚴經の本尊)の金銅像一体をお造りする。……天下の富をもつ者は**私**(聖武天皇)であり、天下の勢いをもつ者も**私**(聖武天皇)である。この富と勢いをもつて仏の尊像をお造りする。」

## 回 古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之

**やまとうた**(和歌)は、人の心を種として、多くの言葉となって出たものである。世の中の人々は、様々なことを行うので、そうした行いの中で、心で思ったことを、見るもの聞くものにつけて口に出しているのである。花のもとで鳴く鶯や水中に住む蛙の鳴く声を聞けば、生きとし生けるもの、歌を詠まない者がいるだろうか。

## 回 土佐日記『土佐日記』by 紀貫之

この日記は、男が書く日記というものを女も書いてみようと思って記したものである。ある年(紀貫之は930年に土佐守に任官し、934年に離任した)の12月21日の戌の時刻(午後7～9時)に旅立ったのだが、その旅の事情を少々書き記したものである。

## 回 源氏物語『源氏物語』by 紫式部

どの帝の時代のことであろうか。多数おられる女御・更衣(天皇の配偶者で、序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順)の中に、それほど高い家柄の出身ではないが、特別に帝の寵愛を受けられた女性がいた。

## 回 浄土教『往生要集』by 源信

**往生極楽**(極楽浄土に往生)するための教えと修行は、けがれの多い末法の世(末法思想に基づく末法の世)における道しるべとなるものである。僧も俗人も、貴族も庶民も皆この教えに帰依しない者があるだろうか。**顕教**・**密教**といった仏教の教えは、経文も一つではなく、成仏するための修行も多い。知恵があり仏道修行に励んでいる人ならば、それほど難しいことではないだろうが、**私**(源信)のような頑なで愚かな者には、到底できないことである。こうした理由で、**念仏**の教えに限って、経論の中の重要な部分を集めてみた。この書を開いて修行すれば、教えもわかりやすく、修行も行いやすいであろう。内容は全部で10部門であり、3巻から成っている。(その10部門は)第1は汚れた現世を厭い離れること、第2は浄土への往生を願い求めること、第3は極楽浄土が最も尊いという根拠、……第9は極楽往生するための種々の修行、第10は問答によって他の教えと比較することである。この書を身近において、信心が弱まったり忘れそうになったりした時の備えとしたらよかろう。

## 回 往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤

僧侶**空也**は、自分の父母の名前を言わず、本籍地から逃亡して世にいる。ある人は、皇族の流れをくむ出身であるという。常に南無阿弥陀仏を唱えている。そのため周囲からは**阿弥陀聖**とよばれる。また市中に住み仏教を説いているので、**市聖**とも呼ばれている。

## 回 僧兵の横暴『源平盛衰記』

白河法皇は、賀茂川の洪水、双六のさいころの目、**山法師**(比叡山延暦寺の僧兵)、これが**私**(白河法皇)の思い通りにならないものであると、常におっしゃっていたと伝えられている。

# ㊦ 平安末期の歌謡—今様—『梁塵秘抄』by 後白河法皇

仏は常に在せども、①現ならぬぞ②あはれるなる、人の音せぬ曉に、仄かに夢に見えたまふ  
 遊びをせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ③動がるれ  
 〔①姿として現実に現れない ②尊く心うたれる、または仏の姿をおがめず悲しい、と解する二様ある ③自然におどり動きたくなる〕

# ㊦ 専修念仏『一枚起請文』by 法然

①もろこし②我がてうに、もろもろの智者達の③さたし申さるゝ、④観念の念ニモ非ズ。又⑤学文をして念の心を悟リテ申念仏ニモ非ズ。ただ往生極楽のためニハ、南無阿弥陀仏と申て、疑いなく往生スルゾト⑥思とりテ、申外ニハ、別ノ⑦子細候はず。…念仏ヲ信ぜん人ハ、たとひ⑧二代ノ法ヲ能々学ストモ、一文不知ノ愚とんの⑨身ニナシテ、尼入道ノ⑩無ちノともがらニ同シテ、⑪ちしやノふるまひヲせずして、⑫只一かうに念仏すべし。  
 〔①唐土。中国のこと ②我が朝。日本のこと ③沙汰 ④眼をとじて仏の世界を観想する念仏 ⑤学問 ⑥思いこんで ⑦理由・手段 ⑧釈迦一代の教え ⑨身になりきって ⑩無知の仲間 ⑪智者 ⑫ひたすら〕

# ㊦ 親鸞の悪人正機説『歎異抄』by 唯円

①善人なほちて往生をとぐ、いはんや②悪人をや。しかるを世のひとつねにいはいく、②悪人を往生す、いかにいはんや①善人をやと。この条、③一旦その④いはれあるにたれども、⑤本願他力の⑥意趣にそむけり。……⑦煩惱具足のわれらはいづれの行にても生死をはなるゝことあるべからざるをあはれみたまひて、願をおこしたまふ本意、⑧悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる②悪人、⑨もともと往生の⑩正因なり。よりて善人だにこそ往生すれ、まして②悪人はと、仰さぶらひき。  
 〔①善行をつんで成仏しようとする人 ②善行をつんで成仏する能力に欠けていると自覚する人、自分の悪行を自覚する人 ③一応 ④理由 ⑤ひたすら弥陀の本願を信ずる ⑥教えのおもむき ⑦ありとあらゆる迷いにつきまといわれている ⑧悪人が浄土ですくわれる ⑨もっとも ⑩正しい原因〕

# ㊦ 日蓮の主張『立正安国論』by 日蓮

若し、先ず国土を安んじて、①現当を祈らんと欲せば、速かに②情慮を廻らし、忿て③対治を加へよ。所以は何ん。薬師經の④七難の内、五難忽ち起り、二難猶残せり。所以「⑤他国侵逼の難、⑥自界叛逆の難」なり。  
 〔①現在と未来 ②深い考え ③災難退治 ④薬師經に、人々が疾病にかかる難以下七つの災難があげられている ⑤外国の来襲。元寇を予言したことになる ⑥国内の謀叛〕

# ㊦ 茶の効用『喫茶養生記』by 栄西

①將軍家いささか②御病悩。諸人奔走す。但し、ことなる御事なし。これもしくは去夜③御酒酔の余氣か。ここに④葉上僧正御加持に候ずるところ、この事を聞き、良薬と称し本寺より茶一盞を召し進じ、⑤二巻の書を相副え献ぜしむ。茶の徳を嘗むるところの⑤書なり。①將軍家御感悦に及ぶと云々。  
 〔①源実朝 ②ご病気 ③酒宴 ④栄西 ⑤喫茶養生記〕

# ㊦ 只管打坐『正法眼蔵随聞記』by 懷奘

一日①奘問云、「②叢林の③勤学の④行履と云は如何」。⑤示云、⑥只管打坐也。或は⑦閣上...或は楼下にして、常⑧坐をいとなむ。人に交り物語をせず、⑨尊者の如く⑩瘞者の如くにして、常に独坐を好む也。  
 〔①道元の弟子懷奘 ②禅宗の寺院 ③修行 ④行いや生活 ⑤道元 ⑥ひたすら坐禅をくむこと ⑦閣上はたかどのの上、楼下はたかどの下。場所を選ばずの意 ⑧座定・坐禅 ⑨耳の聞こえない者 ⑩物を言うことのできない者〕

# ㊦ 専修念仏の批判『摧邪輪』by 高弁

ここに①近代、②上人あり、一卷の書を作る。名づけて選択本願念仏集と曰ふ。經論に③迷惑して、諸人を④欺誑せり。往生の行を以て宗とすと雖も、反って往生の行を⑤妨害せり。……  
 〔①最近 ②法然 ③迷いまどう ④まどわす ⑤妨害する〕

# ㊦ 能一能楽論—『花鏡』by 世阿弥

幽玄の①風体の事  
 書道諸事において幽玄なるをもて②上果とせり。ことさら③當芸において、幽玄の風体第一とせり。……  
 そもそも幽玄の④堺とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔和なる体、幽玄の本体なり。……  
 〔①芸風 ②最高の境地 ③能 ④境地〕

## ㊦ 平安末期の歌謡—今様—『梁塵秘抄』by 後白河法皇

阿弥陀如来さまは、不滅なものとしていつも存在するのだが、目に見えないことが、尊いのだ。人の物音のしないような静かな暁には、かすかに夢の中に姿を見せてくださいます。

私たちは遊びをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？それとも戯れをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？無心に遊んでいる子供たちの声を聞いていると、自分の体も自然と動き出すように思われる。

## ㊦ 専修念仏『一枚起請文』by 法然

中国や我が日本において、あらゆる智者(高僧)たちが勧める瞑想して仏の世界を観想する念仏のことでもありません。また学問をして観想の境地を理論的に理解して唱える念仏でもありません。ただ単に極楽浄土に往生するためには、南無阿弥陀仏と唱えて、疑いなく往生できるぞと信じきって念仏を唱えるという他には別の理由はないのです。……念仏を信じようとする人は、たとえ釈迦が生涯をかけて説かれた教を十分学んだとしても、学問のひとつかけらもない人間になりきって、尼や入道などの無知の者たちと同じように、智者(高僧)のような振る舞いをせず、ただひたすら念仏だけを唱えるべきです。

## ㊦ 親鸞の悪人正機説『歎異抄』by 唯円

善人でさえも極楽に往生するのであるから、悪人が往生できないはずはない。ところが、世間の人は一般に「悪人でさえ往生するのだから、どうして善人が往生できないことがあろうか」と言っている。この言い分は一応正しいように思われるが、阿弥陀仏の本願である他力による救いの考え方には反している。……欲望や悩みにつきまとわれている私たちが、どのような修行をつんでも、生死を繰り返す苦しみから解放されない。そのことを阿弥陀仏はお憐みになって、救ってやろうという願いを起こされたのは、悪人を極楽浄土で救うためである。だから、阿弥陀仏の救いを求める悪人こそが、最も往生できる理由を備えているのである。それゆえ、善人でも往生するのだから、まして悪人が往生できないはずがないと、親鸞がおっしゃったのである。

## ㊦ 日蓮の主張『立正安国論』by 日蓮

もし、まず国土を平安にして、現在と未来の安楽を祈ろうと思うならば、速やかに深い考えをめぐらして、急いで煩惱を断ち切りなさい。その理由は何か。薬師経に見える七難の内、五難(疫病の流行・天体の異変・日蝕月蝕・風雨の異常・日照り)が実際に起こり、二難がまだ残っている。いうところの「他国が侵略してくる難(元寇を予言したことになる)と、国内に反乱が起こる難」である。

## ㊦ 茶の効用『喫茶養生記』by 栄西

将軍(源実朝)が御病気になられた。人々は奔走した。しかし、容態は一向によくならない。これは、もしかしたら昨晚の酒宴のせいではないか。そこで、葉上僧正(栄西)に加持を行わせるところ、これ聞き、良薬だと言って本寺から茶を持参し、一卷の書(『喫茶養生記』)を添えて献上した。これは茶の徳を誉めた書(『喫茶養生記』)である。将軍(源実朝)はたいそう喜んだという。

## ㊦ 只管打坐『正法眼蔵随聞記』by 懷奘

ある日、奘(懷奘)が質問した。「禅宗の道場での修行生活の送り方はどのようにすればよいのでしょうか」。師(道元)が言われた。「只管打坐(ひたすら坐禅すること)である。ある時は高殿の上で、ある時は高殿の下で、常に坐禅を行うのである。人と一緒にあっても雑談をせず、耳の聴こえない者や話すことのできない者のように、たえず一人で坐禅を好んですることである」。

## ㊦ 専修念仏の批判『摧邪輪』by 高弁

最近、上人(法然)がいて、『選択本願念仏集』という一卷の書を作った。経論を迷わせるもので、人々を惑わすものである。極楽往生の修行を宗旨としているが、かえって極楽往生の修行を妨害するものである。

## ㊦ 能一能楽論—『花鏡』by 世阿弥

幽玄(幽はかすか、ほのか、奥深いという意味)の芸風について  
すべての芸道において、幽玄が理想の美とされている。とりわけ我が芸(能)においては、幽玄の芸風が第一とされている。…  
一体、幽玄の最高の境地というのは、本当はどのようなものとしてあるべきなのであろうか。……ただ美しくもの柔らかな表情が幽玄の本質である。…



# 回 貨幣経済の浸透『政談』by 荻生徂徠

……①^{当時}ハ②^{旅宿ノ境界}ナル故、金無テハナラヌ故、米ヲ売テ金ニシテ、商人ヨリ物ヲ買ヒテ日々ヲ送ルコトナレバ商人主ト成テ武家ハ客也。故ニ③^{諸色ノ直段}、武家ノ④^{心儘}ニナラスコト也。武家皆⑤^{知行所}ニ住スル時ハ、米ヲ売ラズニ事スム故、商人米ヲ欲シガルコトナレバ、武家主ト成テ商人客也。サレバ諸色ノ直段ハ武家ノ心儘ニ成ル事也。是レ皆⑥^{古聖人ノ}⑦^{広太甚深}ナル智慧ヨリ出タル⑧^{万古不易}ノ捷也。

〔①この頃。享保の頃 ②旅宿先にいるような不安定な境遇 ③様々な物品 ④思い通りにならない ⑤領地 ⑥中国の聖人 ⑦広く深い ⑧永久に変わらない〕

# 回 大名の窮乏『経済録』by 太宰春台

①^{今ノ世ノ}諸侯ハ、②^{太王小王}、皆頭ヲタレテ商人ニ③^{無心ヲ}イヒ、江戸、京都、大坂、其外処々ノ富商ヲ憑デ、其④^{續々}計ニテ世ヲ渡ル。⑤^{邑人}ヲバ悉ク⑥^{其方ニ}振向ケ置テ、収納ノ時節ニハ、⑦^{子銭家}ヨリ⑧^{倉ヲ封ズル}類也。子銭家トハ、金銀ヲ借ス者ヲ云フ。

〔①享保の頃 ②石高の多い大大名も、石高の少ない小大名も ③借金をする ④金銭の援助 ⑤知行からの年貢収入 ⑥借金の返済 ⑦高利貸のこと ⑧米蔵を差し押さえる〕

# 回 藩専売制『経済録拾遺』by 太宰春台

……凡そ今の①^{諸侯}は、金なくては②^{国用}足らず、職責もなりがたければ、唯如何にもして金を豊饒にする計を行ふべし。金を豊饒にする術は③^{市賣}の利より近きはなし。諸侯として④^{市価}の利を求むるは、国家を治むる上策にはあらねども、当時の急を救ふ一術なり。

〔①大名 ②藩の財政難 ③商人 ④市賣の誤りか〕

# 回 寛政異学の禁『憲法類集』

①^{林太学頭江}朱学の儀は、③^{慶長}以来御代々御信用の御事にて、已ニ④^{其方家}代々右学風維持の事仰せ付け置かれ候儀ニ候得共、油断無く⑤^{正学}励、門人共取立申すべき筈に候。然処近來世上⑥^{種々新規}の説をなし、⑦^{異学}流行、風俗を破り候類之有り、全く⑧^{正学}衰微の故ニ候哉、甚だ相済まざる事ニて候。其方門人共の内にも右体の學術純正ならざるも、折節は之有る様ニも相聞え、如何ニ候。此度⑨^{聖堂}緒取締厳重に仰せ付けられ、⑩^{紫野彦助}、⑪^{岡田清助}儀も⑫^{右御用}仰せ付けられ候事に候得ば、能々此旨申し談じ、急度門人共異学相禁じ、猶又、自門に限らず他門ニ申し合せ、⑬^{正学}講義致し、人材取立候様相心掛申すべく候事。

〔①大学頭林信敬 ②朱子学 ③徳川家康が林羅山を登用した 1605(慶長 10)年 ④林家 ⑤朱子学のこと ⑥新学説。すなわち古学・陽明学・折衷学など ⑦朱子学以外の儒学の学派を異学であるとした ⑧聖堂学問所 ⑨柴野栗山 ⑩岡田寒泉 ⑪右の御用。聖堂に属する儒官に登用されたこと ⑫講義・研究〕

# 回 海国貿易論『経世秘策』by 本多利明

……日本は海国なれば、渡海・運送・交易は、固より①^{国君}の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を②^{抜き取}テ③^{日本へ}入れ、国力を厚くすべきは海国④^{具足}の仕方なり。自国の力を以て治る計りにては、国力次第に弱り、其弱り皆農民に当り、農民連年⑤^{耗減}するは自然の勢ひなり。

〔①將軍をさす ②貿易による利益をもってくる意 ③輸入の意 ④必然的に備わっている ⑤弱くなる〕

# 回 無神論『夢の代』by 山片蟠桃

生熟スルモノハ、年数ノ短調ハアレドモ、大テイソレゾレノ持前有リテ死枯セザルハナシ。生ズレバ智アリ、神アリ、血氣アリ、①^{四支・心志・臟腑}皆働キ、死スレバ②^智ナシ、神ナシ、血氣ナク、③^{四支・心志・臟腑}ミナ働クコトナシ。然レバ何クンゾ④^鬼アラン。又神アラン。……

〔①手足・心臓・はらわた ②知能の働き ③靈魂〕

# 回 海防論『海国兵談』by 林子平

①^{当世}の俗置にて、異国船の②^{入津}ハ長崎に限たる事にて、別の浦え船を寄ル事ハ決して成らざる事ト思ひ。実に③^{太平}に鼓腹するト云べし。……④^{当時}長崎に厳重に⑤^{石火矢}の備有て、却て⑥^{安房}・相模の海湾に其備なし。此事甚いぶかし。細力に思へば、江戸の日本橋より⑦^{唐・阿蘭陀}迄境なしの水路也。然ルを此に備へずして長崎にのみ備るは何ぞや。

〔①今の世の習わし ②入港 ③平和に慣れきった人 ④現在 ⑤大砲のこと ⑥房総・三浦半島にある旧国名 ⑦清国〕

## 回 貨幣経済の浸透『政談』by 荻生徂徠

……現在(享保の頃)は、武士は旅の宿先にいるような不安定な境遇なので、金が無くては立ち行かないから、米を売って金にして、商人より品物を買って日々を送っているの、商人が主となり、武家は客となってしまった。したがって、諸物価の値段が武家の思うようにはならないのである。武家が皆知行地(領地)に住めば、米を売らなくても済むので、商人が米を欲しがることになり、武家が主となり、商人は客となる。そうなれば、諸物価の値段は武家の思うままになる。これは皆、昔の中国の聖人の広く深い知恵より生まれた永久に変わらない掟である。

## 回 大名の窮乏『経済録』by 太宰春台

現在(享保の頃)の大名は、石高の多い大名も少ない大名も、すべてが頭を下げて町人に借金を頼み、江戸・京都・大坂、その他あちこちの富商に頼って、彼らからの借金を続けていくことで世を渡っている。村入り(知行地の農民からの年貢収入)を、ほとんど富商からの借金の返済にあて、年貢を収納する期には、子銭家という高利貸によって米蔵を封印されて、差し押さえられてしまう。子銭家とは、大名に金銀を貸す者をいう。

## 回 藩専売制『経済録拾遺』by 太宰春台

……今の大名は、金がなければ藩も財政難になり、満足な政治もできないのだから、何よりも金を手に入れる工夫を行うべきである。金を手に入れる方法は市買(商人)のように商売をするのが一番よい。大名が市買(商人)のように商売を行うのは、国家を治める上で良い方法とはいえないが、財政難の中で急いで金を手に入れるには1つの手段である。

## 回 寛政異学の禁『憲法類集』

林大学頭(大学頭林信敬)へ

朱子学については、慶長(徳川家康が林羅山を登用した1605年)以来、將軍家が代々信用してきた学問で、すでにお前の家(林家)が代々その学風を維持するよう命じられているのであるから、油断することなく正学(朱子学)を学び研究し、門人たちを取り立てなければならない。ところが最近、世間ではいろいろな新しい学説(古学・陽明学・折衷学など)を唱え、異学(朱子学以外の儒学の学派)が流行し、風俗をしている。これは、正学(朱子学)が衰えたためであろうか、このままでは済まないことである。お前の門人共の中にも、前に述べたような正しくない学問を学んでいる者も時々いるような噂も聞いているが、困ったことである。この度、聖堂(聖堂学問所)の取り締まりを厳重にすることを命じられ、柴野彦助(柴野栗山)・岡田清助(岡田寒泉)も、右の御用を仰せつけられたので、よくこの趣旨を申し聞かせ、門人には異学を学ぶことを厳しく禁じ、そしてまた、自分の門下に限らず他の門派とも話し合い、正学(朱子学)を講義・研究して、人材を取り立てるように心がけなくてはならない。

## 回 海国貿易論『経世秘策』by 本多利明

……日本は海国(海で囲まれた国)であるから、渡海・運送・交易は、本来国君(將軍)の仕事の中で最も重要な政務であり、万国へ船を派遣して、国政に役立つ産物や金・銀・銅を手に入れて日本に輸入し、国力を盛んにすることは海国が備える当然の方法である。自国の力をもって国を治めるばかりでは、国力は次第に弱まり、その衰弱がすべて農民の負担となり、農民が年々衰え減少するのは自然の流れである。

## 回 無神論『夢の代』by 山片蟠桃

あらゆる生き物は、年数の長い短いはある、ほとんどがそれぞれの寿命があり、死んで枯れてしまう。生きていれば、知恵があり、神経があり、血が流れ、手足も心臓も腸がみな働くが、死んでしまえば、知恵もなく、神経もなく、血も流れず、手足も心臓も腸もみな動くことはない。それならば、どうして鬼や神のような霊魂などというものが存在するだろうか。そんなことは全くありえるものではない。……

## 回 海防論『海国兵談』by 林子平

今の世の習わしとして、外国船の入港は長崎に限られていて、他の港に船を寄せることは決してできない事と思っている。実に平和に慣れきった人というべきである。……現在、長崎には厳重に砲台の備えがあるが、安房(房総半島)・相模(三浦半島)の港にはその備えがない。この事は大変不可解である。よく考えてみると、江戸の日本橋から清国やオランダまでは境のない水路で結ばれている。にもかかわらず、ここ(江戸周辺)に備えをしないで、長崎のみ備えるとはどういうことであろうか。

# 回 身分制の否定『自然真営道』by 安藤昌益

①中平土の②人倫は③士穀盛んに耕し出し、山里の②人倫は薪材を取りて之を平土に出し、海浜の人倫は諸魚を取て之を平土に出し、薪材・十穀・諸魚、之を易して、山里にも薪材・十穀・諸魚、之を食し之を家作し、海辺の人倫も家を作り穀食し魚菜し、平土の人も相同ふして、平土に過余も無く、山里に少く不足も無く、海浜に過不足無く、彼に富も無く、此に貧も無く、④此に上も無く、彼に下も無く、……⑤上無れば下を責め取る⑥奢欲も無く、下無れば上に諂ひ巧むことも無し。……各耕して子を育て、子壮になり、能く耕して親を養ひ子を育て、一人之を為れば万人之を為て、貪り取る者無れば貪るる者も無く、⑦転定も人倫も別つごと無く、⑦転定生ずれば人倫耕し、此の外一點の私事無し。是れ⑧自然の世の有様なり。

〔①平地 ②人間 ③穀物 ④支配階級も被支配階級もない ⑤支配階級 ⑥はなはだしい欲望 ⑦天地 ⑧安藤昌益の考える理想社会をあらわした言葉。万人農耕の無階級平等社会〕

# 回 百姓一揆発生の原因『秘本玉くしげ』by 本居宣長

百姓町人大勢徒党して、強訴①濫放することは、昔は②治平の世には、③をさをさうけ給はり及ばぬこと也。④近世になりても、⑤先年はいと稀なる事なりしに、⑥近年は年々所々にこれ有て、めづらしからぬ事になれり。……抑此事の起るを考ふるに、いづれも⑦下の非はなくして、皆⑧上の非なるより起れり。今の世百姓町人の心も、あしくなりたりとはいへ共、よくよく堪がたきに至らざれば、⑨此事はおこる物にあらず。……近年たやすく一致し固まりて、⑨此事の起りやすきは、⑩畢竟これ⑪人爲にはあらず。上たる人深く⑫遠慮をめぐらさるべきこと也。然りとていかほど起らぬやうのかねての防ぎ工夫をなす共、⑬未を防ぐばかりにては、止がたかるべし。とかくその因て起る本を直さずばあるべからず。その本を直すといふは、⑭非理のはからひをやめて、民をいたはる是なり。たとひいかほど困窮はしても、上のはからひだによろしければ、此事は起る物にあらず。

〔①乱暴 ②平和な時代 ③ほとんど ④近頃。ここでは江戸時代の意 ⑤江戸時代初期 ⑥天明の頃 ⑦下々の者。百姓や町人 ⑧上に立つ者。支配者。幕府や領主をさす ⑨百姓一揆 ⑩つまり。結局は ⑪人の意志の力だけによるのではない ⑫先々のことまでよく考える ⑬目先にとらわれた処置。表面的な解決をもたらす処罰や鎮圧をさす ⑭非道な扱い。悪政〕

# 回 九変五変論『読史余論』by 新井白石

①神皇正統記に、光孝天皇より上つかたは②二向③上占也。万の例を勘ふるも、仁和より下つかたをぞ申める。五十六代清和幼主にて、外祖良房摂政す。是、外戚専権の始<一変>。基経④外舅の親によりて陽成を廃し光孝を建しかば、天下の権⑤藤氏に帰す。そののち⑥関白を置き或は置ざる代ありしかど、⑤藤氏の権おのづから日々盛也<二変>。六十三代冷泉より……後冷泉、凡八代百三年の間は⑦外戚権を専にす<三変>。後三条・白河兩朝は⑧政天子に出ず<四変>。堀河……安徳、凡九代九十七年の間は、⑨政上皇に出ず<五変>。後鳥羽・土御門・順徳、三世凡三十八年の間は、鎌倉殿、天下兵馬の権を分ち掌らる<六変>。後堀河……光厳、十二代凡百十二年の間は、北条、⑩陪臣にて国命を執る<七変>。後醍醐重祚す、天下朝家に帰する事纔に三年<八変>。そののち天子⑪蒙塵。尊氏、光明を立てて共主となしてより、天下ながく武家の代となる<九変>。

武家は源頼朝幕府を開て、⑫父子三代天下兵馬の権を司どれり。凡三十三年<一変>。⑬平義時、承久の乱後天下の権を執る。そののち、七代凡百十二年、高時が代に至て滅ぶ<二変>。<この時に⑭摂家将軍二代、親王将軍四代ありき。>……後醍醐中興ののち、⑮源尊氏反して天子⑯蒙塵。尊氏、光明院を北朝の主となして、みづから幕府を開く。子孫相継て十二代におよぶ。凡二百卅(三十)八年<三変>。<このうち南北戦争五十四年、応仁の乱後百七年の間、天下大に乱る。実に七十七年が間、武威あるがごとくなれども、東国は皆鎌倉に属せしなり。>……足利殿の末、織田家勃興して⑰将軍を廢し、⑱天子を挾みて天下に令せんと謀りしかど、事未だ成らずして凡十年がほど⑲其臣光秀に弑せらる。豊臣家、其⑲故智を用ひ、みづから関白となりて天下の権を恣にせしこと、凡十五年<四変>。そののち終に⑳当代の世となる<五変>。

〔①著者は北畠親房 ②すべて ③古代 ④妻の父親 ⑤藤原氏 ⑥醍醐・村上天皇時代(延喜・天曆の治) ⑦藤原実頼が関白となつてから頼通が関白を辞すまでの摂関政治 ⑧後三条・白河天皇時の天皇親政 ⑨1086年から始まった白河・鳥羽・後白河上皇(法皇)の院政 ⑩執権北条氏の執権政治 ⑪難を避けて他所へ行漂泊すること ⑫頼朝・頼家・実朝の三代 ⑬北条義時。北条氏は平氏の一族 ⑭藤原(九条)頼経・頼嗣 ⑮足利尊氏。足利尊氏は源氏の一族 ⑯1573年に将軍足利義昭を京都から追放して室町幕府を滅ぼした ⑰天皇を擁して ⑱本能寺の変 ⑲昔の人の用いた知略 ⑳徳川家の時代〕

※読史余論は、新井白石が6代将軍徳川家宣に武家の勃興の過程を進講した際の草稿で、公家政権における「九変」、武家政権における「五変」という「九変五変論」により、徳川幕府の正統性を説いたもの。こうした歴史書が記されるようになった背景には、江戸時代に朱子学の「大義名分論」が重視されるようになったように、儒学が隆盛し文治政治が行われて、徳川幕府の正統性など歴史についても合理的・実証的に解釈する必要性が出たためである。なお、公家政権の<六変>以降と武家政権の<一変>以降の中で時代的に重複している部分があるのは、鎌倉幕府・室町幕府と京都朝廷が並存しており、将軍が朝廷の権威に依存し、経済基盤も重複していたため。

## 回 身分制の否定『自然真営道』by 安藤昌益

平地に住む人々は盛んに耕作して穀物をつくり、山里に住む人々は薪用の木材を切り出して平地へ出荷し、海岸に住む人々は魚をとって平地へ出し、薪材・穀物・魚を互いに交易して、山里でも薪材・穀物・魚のこれらを食べて家をつくり、海辺に住む人々も家をつくり穀物や魚・野菜を食べ、平地の人々も同様にする。こうして平地に余りもなく、山里でも不足なく、海辺においても過不足なく、一方に富める者もなく、他方に貧しい者もなく、ここに支配する者もなく、むこうに支配される者もなく、……支配者がいなければ支配される者を責め取るおごった欲望もなく、支配される者がいなければ支配者に諂ったり、または企みをもつこともない。……各々が耕作して子を育て、子が大人になり、一生懸命耕作して親を養い、また、その子を育て、一人がこのようにすれば皆がこれを行い、奪い取る者がいないので奪い取られる者もない。天地と人々は常に一緒に、天地が誕生すると(陽が昇れば)、人々は耕作を始める。これ以外に一切の私事もない。これが自然の世の様子である。

## 回 百姓一揆発生の原因『秘本玉くしげ』by 本居宣長

百姓・町人が大勢で徒党を組んで、強訴乱暴するようなことは、昔の平和な世の中では、ほとんど聞いたことのなかったことである。江戸時代になっても、以前(江戸時代初期)は大変まれなことであったが、この頃(天明の頃)になると毎年あちらこちらで起こり、珍しくないことになった。……そもそも、百姓一揆が起こる原因は、いずれも下の者の落ち度はなく、皆上に立つ者の落ち度から起こるのである。今の世、百姓や町人の心も悪くなったとはいうものの、よほど我慢できなくならなければ、このようなことは起こるものではない。……近頃、容易に団結して一揆が起きやすいのは、結局は人の仕業によるものではない。上に立つ者は、一揆が起こることのないよう先々のことまでよく考えるべきことである。だからといって、どれ程かねてから防止策の工夫をしようとも、目先にとらわれた表面的な鎮圧策ばかりでは一揆はなくならないであろう。とにかく、その百姓一揆が起こる根本を直さなければならない。その根本を直すというのは、悪政をやめて、民を大切にすることである。たとえ、どんなに困窮しても、上に立つ者の政治が良ければ、この事は起きるものではない。

## 回 九変五変論『読史余論』by 新井白石

(北畠親房が著した)神皇正統記には、第 58 代光孝天皇より以前はすべて古代とある。いろいろな例を考えると、光孝天皇の仁和年間(885～889 年)より後を新しい時代としているようだ。第 56 代清和天皇は幼少であったので、外祖父の藤原良房が摂政となった。これは外戚が権力を握った始めである<一変>。藤原基経は陽成天皇の女御(佳珠子)の父であることを利用して陽成天皇を退位させ、光孝天皇を擁立したので、天下の権勢は藤原氏に帰した。その後、(醍醐・村上天皇の延喜・天暦の治のように)関白を置いたり置かなかったりした時代があったが、藤原氏の権勢は当然日々盛んとなった<二変>。第 63 代冷泉天皇より……後冷泉天皇までの 8 代・103 年の間は、外戚が権力を独占した(摂関政治)<三変>。後三条天皇・白河天皇は天皇が政治を行った(天皇親政)<四変>。堀河天皇から安徳天皇までの 9 代・97 年間は、上皇が政治を行った(1086 年から白河・鳥羽・後白河上皇(法皇)が行った院政)<五変>。後鳥羽・土御門・順徳天皇までの 3 代・38 年の間は、鎌倉幕府が天下の武力を掌握した<六変>。御堀河天皇から光厳天皇まで 12 代・112 年の間は、執権北条氏が将軍の家臣として政治を行った(執権政治)<七変>。後醍醐天皇が重祚して、天下が朝廷に戻ったのはわずかに 3 年<八変>。その後、天皇は都から逃れて、足利尊氏が光明天皇を立てて北朝の主として、天下は長く武家の世となった<九変>。

武家は源頼朝が幕府を開いて、父子 3 代(頼朝・頼家・実朝の 3 代)天下の武力を掌握した。約 33 年間<一変>。北条義時(北条氏は平氏の一族)は承久の乱後、天下の実権を握った。その後、7 代 112 年間たつて北条高時の時代に至り、滅亡した<二変>。この時に摂家将軍(藤原(九条)頼経・頼嗣)2 代、親王将軍(宗尊・惟康・久明・守邦親王)4 代があった>……後醍醐天皇が親政を再開したが、足利尊氏(足利氏は源氏の一族)が叛いて天皇は都から逃れた。尊氏は光明天皇を立てて北朝の主として、自ら幕府を開き、子孫が続いて 12 代に及んだ。約 238 年間<三変>。<このうち南北朝の動乱が 54 年、応仁の乱後の 107 年の間、天下は非常に乱れた。実に 77 年の間、武家の威光があるようにみえるが、東国はみな鎌倉に属していた。>……足利家の後に、織田家が台頭して将軍を廃し(足利義昭を京都から追放)、天皇を擁して天下に号令しようと謀ったが、成就しないうちにおよそ 10 年間で家臣明智光秀によって殺された(本能寺の変)。豊臣家は古人の知恵を利用して自ら関白となって、天下の権力を思いのままにしたのが、約 15 年間であった<四変>。その後、とうとう徳川家の世となった<五変>。



# 回 蘭学の評価『西洋紀聞』by 新井白石

凡そ、^①其の人^②博聞強記にして、彼方多学の人と聞えて、天文地理の事に至ては、^③企て及ぶべしとも覺えず。其^④教法を説くに至ては、一言の道にちかき所もあらず。智恵たちまちに地を易へて、二人の言を聞くに似たり。こゝに知りぬ、彼方の学のごときは、ただ^⑤其形と器とに精しき事を。所謂^⑥形而下なるもののみを知りて、^⑦形而上なるものは、いまだあづかり聞かず。〔^①イタリア人宣教師シドッチ ^②博学であること ^③我々の知識が及ばない ^④キリスト教 ^⑤形(物質)と器(技術)に詳しく、精神面は不十分ということ ^⑥形のあるもの。具体的なもの ^⑦形のないもの。観念的・抽象的なもの〕

# 回 蘭学の発達―解体新書の苦勞談『蘭学事始』by 杉田玄白

一、帰路は、^①良沢、^②淳庵と、^③翁と三人同行なり。途中にて語り合ひしは、さてさて、今日の^④実験一々驚き入る。且つこれまで心付かざるは恥づべきことなり。苟くも医の業を以て互ひに主君主君に仕ふる身にして、その術の基本とすべき吾人の形態の真形をも知らず、今迄一日一日とこの業を勤め来りしは面目もなき次第なり。

一、^⑤その翌日、良沢が宅に集まり、前日のことを語り合ひ、先づ、彼「^⑥ターヘル・アナトミア」の書にうち向ひしに、誠に鱸・舵なき船の大船に乗り出だせしが如く、茫洋として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり。……

〔^①前野良沢 ^②中川淳庵 ^③杉田玄白 ^④死刑囚の死体解剖。腑分け ^⑤解剖を見た翌日。1771年3月5日 ^⑥ドイツ人クルムスの解剖書『解剖学図譜』のオランダ語訳本〕

# 回 蘭学の統制『宇下人言』by 松平定信

^①寛政四五のころより^②紅毛の書を集む。蛮国は^③理にくはし、天文地理又は兵器あるは内外科の治療、殊に益も少なからず。されどもあるは^④好奇の媒となり、または^⑤悪しき事などいひ出す。さらば禁ずべしとすれど、禁ずれば猶やむべからず。況やまた益もあり。さらば^⑥其書籍など、^⑦心なきものの手には多く渡り侍らぬやうにはすべきなり。……

〔^①1792～93年頃 ^②オランダ ^③科学が発達している ^④関心を持つきっかけ ^⑤幕藩体制への批判的な言辞をさす。具体的には『海国兵談』がこれにあたる ^⑥『海国兵談』をさす ^⑦思慮にとぼしいもの。幕府部外者・批判者をさす〕

# 回 心学―商人蔑視の社会を批判―『都鄙問答』by 石田梅岩

^①四民ヲ治メ玉フハ君ノ職ナリ。君ヲ相ルハ四民ノ職分ナリ。士ハ元来位アル臣ナリ。農人ハ^②草莽ノ臣ナリ。商工ハ^③市井ノ臣ナリ。……商人ノ売買スルハ天下ノ相ナリ。^④細工人ニ^⑤作料ヲ給ルハ工ノ禄ナリ。農人ニ^⑥作聞ヲ下サルルコトハ、是モ士ノ禄ニ同ジ。天下万民産業ナクシテ、何ヲ以テ立ツベキヤ。商人ノ買利モ天下御免シノ禄ナリ。夫ヲ汝独、売買ノ利バカリヲ慾心ニテ道ナシト云ヒ、商人ヲ悪ンデ断絶セントス。何以テ商人計リヲ賤メ嫌フコトゾヤ。

〔^①士農工商 ^②民間 ^③まち ^④職人 ^⑤工賃 ^⑥耕作料〕

## [干支の法]

		十二支											
		子(鼠)	丑(牛)	寅(虎)	卯(兔)	辰(龍)	巳(蛇)	午(馬)	未(羊)	申(猿)	酉(鶏)	戌(犬)	亥(猪)
五行・十干	木	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)		
		甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥
	火	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)
		丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥
	土	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)
		戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
	金	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)
		庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥
	水	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジン)	弟 癸(キ)
		壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥

※干支の法は十干と十二支を組み合わせた 60 を周期とする数詞。ゆえに、干支は 60 年周期となる。

- ①歴史事項 乙巳の変(645)・甲子の宣(664)・庚午年籍(670)・壬申の乱(672)・庚寅年籍(690)・戊戌封事(1838) 戊戌夢物語(1838)・戊辰戦争(1868～)・壬申戸籍(1872)・壬申地券(1872)・戊申詔書(1908)・辛亥革命(1911)
- ②史料(資料) 朝鮮出兵＝辛卯年(391)・稻荷山古墳出土鉄剣銘＝辛亥年(471) 隅田八幡神社人物画像鏡銘＝癸未年(443or503)・仏教公伝＝戊午説(538)・壬申説(552)
- ③日朝関係 癸亥約条(嘉吉条約)(1443)・壬辰の倭乱(文禄の役)(1592)・丁酉の倭乱(慶長の役)(1597)・己酉約条(慶長条約)(1609)・壬午事変(軍乱)(1882)・甲申事変(政変)(1884)・甲午農民戦争(1894)

### ㊦ 蘭学の評価『西洋紀聞』by 新井白石

おおよそ、その人(シドッチ)は博学であり、西洋では優れた学者として知られ、天文・地理の事に関しては、我々の知識が及ぶところではない。(シドッチの言うことはいろいろと理にかなっているが)一たびキリスト教の教えを説くことになると、道理にかなった所が一つもなくなってしまう。智者が突然愚者に入れかわって、まるで別の人が話しているような感じがする。これでわかるのは、西洋の学問は、ただその形(物質)と器(技術)に詳しいだけということである。いわば(物質や技術などの形の具体的な)形而下のものだけを知っていて、(道徳などの観念的・抽象的な)形而上のものについてはほとんど知らない。

### ㊦ 蘭学の発達—解体新書の苦勞談『蘭学事始』by 杉田玄白

一、帰路は前野良沢・中川淳庵と私(杉田玄白)の3人が一緒であった。途中で帰り合ったことは、いやいや、今日の実験(1771年3月4日の千住小塚原の刑場で行われた死刑囚の死体解剖)はどれも驚くことばかりであった。また、これまで気づかなかったことは恥ずべきことである。いやしくも医師として互いに主君に仕える身で、その医術の基本である人間の形態の本当の姿を知らず、今まで毎日この仕事を勤めてきたのは面目ない次第だ。

一、その翌日(解剖を見た翌日の1771年3月5日)、良沢の家に集まり、前日のことを語り合い、まず、その「ターヘル・アナトミア(ドイツ人クルムスの解剖書『解剖学図譜』のオランダ語翻訳本)」の書に向かったが、本当に艦も舵もない船で大海に乗り出したようなもので、広々として寄るべきところもなく、ただあきれ返るばかりであった。

### ㊦ 蘭学の統制『宇下人言』by 松平定信

寛政4～5年(1792～93年)頃から、紅毛(オランダ)の本を集めた。西洋は科学が発達していて、天文・地理や兵器、内科・外科の治療については、有益なものも多い。しかし、人々が関心をもつきっかけとなり、幕藩体制を批判するような悪いこと(具体的には『海国兵談』がこれにあたる)を言いだす元にもなる。それならば、禁止すればよいかというと、禁止すればかえって興味をもつ者も増えてしまう。まして、有益なものでもある。そこで、そのような本(『海国兵談』)などは、幕府を批判する部外者の手に入らないようにしなければならない。……

### ㊦ 心学—商人蔑視の社会を批判—『都鄙問答』by 石田梅岩

士農工商を治めるのは君主の仕事であり、君主を助けるのは士農工商の仕事である。武士はもとから位をもった臣下であり、農民は野にいる臣下であり、商人・工人は町にいる臣下である。……商人が売買するのは、世の中の助けとなる。職人に工賃を払うことは職人への給料であり、農民が耕作料を得ていることは、武士が俸禄(給料)をもらうことと同じである。天下の人々が産業に関わることで、世の中は動いている。商人が商売で利益を得ることも天下で認められていることである。それなのに、商人ばかりが商売の利益を得ることが欲心であり、「道」を知らないことであると叱咤し、商人を憎んで断絶しようとする。どういうわけで、商人ばかりを賤んだり、嫌うのであろうか。

## Ⅱ 福沢諭吉の啓蒙思想『学問のすゝめ』by 福沢諭吉

①天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生れながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働を以て天地の間にあるよろづの物を資り、以て衣食住の用を達し、自由自在、互に人の妨をなさずして各安楽にこの世を渡らしめ給ふの趣意なり。されども今広く此人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。其次第甚だ明なり。②英語教に、人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なりとあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由て出来るものなり。

〔①天賦人權思想(人間は天から平等に権利を授かっているという説)に基づいたもの ②平安末期に作成されたものと推定されている初等教科書。中国古典の格言を中心に集めた教訓書で、江戸時代に刊本となり広範に流布され、寺子屋で使用された〕

## Ⅲ 被仰出書(学事奨励に関する太政官布告)ー学制序文(1872)ー『法令全書』

人々自ラ其身ヲ立テ、其①産ヲ治メ、其②業ヲ昌ニシテ、以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ他ナシ、身ヲ修メ、智ヲ開キ、③才芸長スルニヨルナリ。而テ其身ヲ脩メ、智ヲ開キ、才芸ヲ長スルハ、学ニアラサレハ能ハス。是レ学校ノ設アル所以ニシテ、④日用寛行、言語、書算ヲ初メ、士官・農商・百工・技芸及ビ法律・政治・天文・医療等ニ至ル迄、凡人ノ営ムトコロノ事、学アラサルハナシ。人能ク其才ノアル所ニ応シ、勉励シテ之ニ従事シ、而シテ後初テ⑤生ヲ治メ、産ヲ興シ、業ヲ昌ニスルヲ得ヘシ。サレハ学問ハ身ヲ立ルノ財本共云ヘキ者ニシテ、人タルモノ誰カ学ハスシテ可ナランヤ。……之ニ依テ、今般⑥文部省ニ於テ⑦学制ヲ定メ、追々教則ヲモ改正シ、布告ニ及フヘキニツキ、自今以後、一般ノ人民(華土族農工商及婦女子)必ス邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス。

〔①資産をたくわえる ②生計をたてていくこと ③才能や技芸 ④平素の行動 ⑤暮らしの道をたてる ⑥1871年に創設された教育・学術・文化行政の中央行政官庁 ⑦学制の内容は6編109章からなり、学区・学校・教員・生徒・試業・留学規則・学費などについて規定。学区は全国を8大学区、各大学区を32中学区、各中学区を210小学区に分け、各区1校とした〕

## Ⅳ 教育に関する勅語(教育勅語)(1890)ー第一次山県有朋内閣ー『法令全書』

①朕惟フニ我カ②皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ③億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ④国体ノ精華ニシテ、⑤教育ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。爾臣民、父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ⑥恭儉已レフ持シ博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓発シ⑦徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ広メ⑧世務ヲ開キ、常ニ国憲ヲ重シ国法ニ遵ヒ一旦⑨緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ⑩天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。是ノ如キハ独リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス、朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

〔①天皇の一人称。ここでは明治天皇 ②天皇家の祖先神とされる天照大神に始まる天皇歴代の祖先 ③人民。すべての国民 ④国柄の優れて美しいこと ⑤教育の源もこの国体の美に根ざす ⑥人に対しては恭しく、自分自身の言行を慎み深くする ⑦徳行と器量。徳性と能力 ⑧世の中の務め ⑨国家の危急の場合 ⑩天地とともに極まりない皇室の運命 ⑩1890年〕

## Ⅴ 天皇の人間宣言『官報』

然れども①朕は爾等国民と共に在り、常に利害を同じうし②休戚を分たんと欲す。朕と爾等国民との間の③紐帯は終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ、単なる神話と伝説とに依りて生ぜるものに非ず。天皇を以テ④現御神とし、且日本国民を以テ他の民族に優越せる民族にして、延て世界を支配すべき運命を有すとの⑤架空なる觀念に基くものに非ず。

〔①天皇の一人称。昭和天皇 ②喜びと悲しみ ③ひとと帯。すなわち、つながり ④あらひとがみ ⑤太平洋戦争の間、大和民族最優秀論や、八紘一宇の理念が盛んに宣伝されていた〕

## Ⅵ 教育基本法(1947)ー第一次吉田茂内閣ー『官報』

われらは、さきに日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。

われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、①普遍的にしてしかも②個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、③この法律を制定する。〔①神話を根拠に日本を「神国」として世界の諸国から区別し、「八紘一宇」つまり世界を日本の下に統一する特別の使命をもつ国だとの立場からの教育が強められていた ②戦前は、日本人ひとりひとりの個性を育てることではなく、民族としての自覚や共通性を身につけることに教育の目標がおかれていた ③教育基本法〕

## ㊦ 福沢諭吉の啓蒙思想『学問のすゝめ』by 福沢諭吉

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言われる。そうであるならば、天から人が生ずる以上、万人が万人みんな同じ身分のはずで、生まれながらにして貴い賤しい、身分が高い低いといった差別はないはずである。また、人は、万物の霊長たる人間の身と心の働きをもって、天地の間にある万物を活用して衣食住の必要を満たし、人々がお互いに妨げをしないで、各々安心してこの世を自由自在に渡ることができるはずである。しかし、今、広くこの人間社会を見渡してみると、賢い人もいれば、愚かな人もいるし、貧しい人もいれば、お金持ちもいるし、生まれながらにして身分の高い人(貴い人)いれば、人に使われる下人という人もいる。このように同じはずの人の間に雲泥の差があるように思われるのはどうしてだろうか。だが、このことは実はとても簡単なことである。実語教(平安末期に作成されたものと推定されている初等教科書)の教えに、人が学ばなければ智は無いし、智が無いということは愚かということだ、とある。ならば、賢人と愚人との違いは、学ぶのか学ばないのかという理由で生まれてくるのである。

## ㊦ 被仰出書(学事奨励に関する太政官布告)－学制序文(1872)－『法令全書』

人々が自分自身で立身し、その資産を蓄え、その生計を立てていく、そうすることでその一生を全うすることができるのは、それは他でもない、身を修め、知識を広め、才能や技芸を伸ばすことによるのである。そうして、その身を修め、知識を開き、才能や技芸を伸ばすことは、学問によらなければ不可能である。これが学校を設置している理由であって、日常生活の行い、言葉遣いや書道・算数を始めとして、役人・農民・商人・様々な職人・技芸に携わる人、及び法律・政治・天文・医療などに至るまで、およそ人の営むもので学問が関係しないものはない。人はその才能のあるところに応じて勉め励んで学問に従事し、そうして初めて自分の暮らしの道を立て、資産を蓄え、事業を盛んにすることができるであろう。そうであるから、学問は立身のための資本というべきものであって、人たるものは、誰が学問をしないでよいということがあろうか(いや、人間誰しもが皆学ばなければならないのである)。……このために、このたび文部省で学制を定め、順を追って教則を改正し布告していくので、今から以後、一般の人民(華族・士族・卒族・農民・職人及び女性や子供)に、必ず村に学ばない家が一軒もなく、家には学ばない人が一人もいないようにしようと期待する。

## ㊦ 教育に関する勅語(教育勅語)(1890)－第一次山県有朋内閣－『法令全書』

私が思うには、我が皇室の先祖が国を始められたのは、はるかに遠い昔のことで、代々築かれてきた徳は厚く深いものでした。我が臣民(国民)は忠義と孝行を尽くし、全国民が心をつ一つにして、世々にわたって立派な行いをしてきたことは、我が国体(ここでは国柄の意味)の優れたところであり(国柄の優れて美しいこと)、教育の根源もまたこの国体の美に根ざしています。あなたたち臣民(国民)は、父母に孝行し、兄弟は仲良くし、夫婦は仲睦まじく、友人とは互いに信じあい、自分自身の言動は慎み深く、全ての人々に博愛の手を差し伸べ、学問に努め、職業に専念し、知識を養い、徳と才能を磨き上げ、進んで社会公共の利益や世の中の努めに貢献し、いつも憲法を重んじ、法律に従いなさい。そして、国家の危急の事態が生じたら、正義心から勇気を持って公のために奉仕し、それによって永遠に続く皇室の運命を助けるようにしなさい。これらのことは、単にあなた方が忠義心を厚く善良な臣民(国民)であるということだけでなく、あなた方の祖先が残した伝統的美風を褒め称えることでもあります。このような国民の歩むべき道は、実に我が皇室の祖先が残された教訓であり、その子孫と臣民(国民)が共に守っていかなければならぬことであると共に、昔も今も変わらず、国の内外を問わず、間違いのない道理です。私はあなた方臣民(国民)と共に、この押し手を胸に抱いて、皆一致して立派な行いをしていくことを切に願っております。

明治二十三年(1890年)十月十三日

## ㊦ 天皇の人間宣言『官報』

しかし、私(昭和天皇)はあなたたち国民と共にいて、常に利害は同じくし、喜びも悲しみも共に持ちたいと思う。私(昭和天皇)とあなたたち国民との間のつながりは、いつもお互いの信頼と敬愛によって結ばれ、単なる神話と伝説によって生まれたものではない。天皇を現御神(現人神)とし、または日本国民は他の民族より優れた民族だとし、それで世界を支配すべき運命にあるという架空の観念に基づくものでもない。

## ㊦ 教育基本法(1947)－第一次吉田茂内閣－『官報』

われらは、さきに日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。

われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、この法律(教育基本法)を制定する。



© 仏教私伝『 』 by 皇円

① 継体天皇即位十六年 じんいん 壬寅，大唐の漢人 あひろひとふりつりすてり 案部村主^②_____，此の年春二月に入朝す。即ち草堂を大和国高市郡坂田原に結び、本尊を安置し、帰依礼拝す。世を挙げて皆云ふ、「是れ^③大唐の神なり」と。

〔① 年 ② ( )の祖父 ③中国の神様〕

㊦ 仏教公伝『_____』

①志^し美^み嶋^{じま}天皇の御世に、②戊^か午^ごの年の十月十二日に、____国の主③____、始めて仏の像^{あわ}經^{わた}教^{たてまつ}并せて僧等^{そうどう}を度^{わた}し奉^{たてまつ}る。勅^{しつ}して宿禰^{すくね}大臣^{おおみ}に授^{さづ}けて興^{おこ}し隆^{たか}えしむ。

〔① 天皇 ② 年 ③ 〕

㊦ 仏教公伝 ㊧

(①欽明天皇十三年)冬十月、      の      ……釈迦仏の金銅像一軀、②幡蓋若干、経論若干巻を献る。……(天皇)乃ち群臣に歴問して曰く、「③西蕃の献れる仏の相貌、④端嚴し。全ら未だ曾て有ず。⑤礼ふべきや不や」と。蘇我大臣(ア)宿禰奏して曰さく、「西蕃の諸国、一に皆礼ふ。⑥豊秋日本、⑦豈独り背かむや」と。物部大連      ・中臣連      、同じく奏して曰さく、「我が国家の天下に王とましますは、恒に天地社稷の⑧百八十神を以て春夏秋冬、祭拝りたまふことを事とす。方に今改めて⑨蕃神を拝みたまはば、恐るらくは国神の怒を致したまはむ」と。⑩天皇曰く、情願ふ人(ア)宿禰に付けて、試に礼ひ拝ましむわし」と。

① 年。壬申 ② 仏堂内の荘厳具 ③ 百済のこと ④ 端正で美しい ⑤ 礼拝 ⑥ 日本の国号につけた美称 ⑦ どうして日本だけ背くことができるでしょうか ⑧ たくさんの神々 ⑨ 外国の神。仏のこと ⑩ 天皇

◎ 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

①池辺の大宮に天下治しめしし天皇②太御身勞づき賜ひし時、③歳は丙午に次る年、④太王天皇⑤太子を召して誓願し賜ひ、「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に、將に寺を造りて⑥兼師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ賜ひて造り堪へずありしかば、⑦小治田の大宮に天下治しめしし大王天皇及び⑧東宮聖王、大命を受け賜はりて⑨歳は丁卯に次れる年に仕へ奉る。

①____天皇 ②病気になられた時 ③586年 ④推古天皇 ⑤厩戸王(聖徳太子) ⑥薬師如来像 ⑦____天皇 ⑧____( ) ⑨607年]

③ の序文『 』

臣^①（ア）言す。……是に於て^②天皇詔すらく。「朕聞く。諸家の實る所の^③（イ）及び^④本辞、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふ。今の時に當りて其の失を改めざれば、未だ幾年をも經ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯、王化の^⑤鴻基なり。故惟に（イ）を撰録し、（ウ）を^⑥討竅し、偽を削り実を定め、後葉に流えむと欲す」と。時に^⑦舎人有り。姓は（エ）、名は（オ）。年は是れ廿八。人となり聡明にして、^⑧且に度れば口に誦み、耳に払るれば心に勅す。即ち（オ）に勅語して、^⑨帝皇の日繼及び先代の（ウ）を^⑩誦み習はしむ。然れども^⑪運移り世異りて、未だ其の事を行はず。伏して惟るに^⑫皇帝陛下、……ここに於て（ウ）の誤り忤えるを惜しみ、^⑬先紀の謬り錯えるを正さむとして、^⑭和銅四年九月十八日を以て臣（ア）に詔すらく。「（エ）（オ）の誦める所の勅語の（ウ）を撰録して以て献上せよ」者り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り撫ふ。……大抵所記せるは、天地の開闢けしより始めて、^⑮小治田の御世に訖る。……并せて三卷を録し、謹みて献上る。

⑬和銅五年正月二十八日

正五位上勲五等太朝臣臣（ア）謹上

〔①太安万侶 ②_____天皇 ③歴代の天皇の事績や皇位継承の記録 ④旧辞と同じ。神話や伝説など ⑤天皇が徳をもって人々を導くための基礎 ⑥検討する ⑦天皇や皇子などの側近く仕え、雑事を勤めた下級官人 ⑧一度見れば声に出して読み、一度聞けば記憶する ⑨天皇 ⑩暗誦させる ⑪時代が移り、_____天皇から代が改まった ⑫_____天皇 ⑬_____ ⑭711年 ⑮_____天皇 ⑯_____年〕

© の編纂命令『 』

(①和銅六年)五月甲子。制すらく、畿内・      諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の、銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫等の物は、具に色目を録せしむ。……

〔① 年 ②種類・品目〕

□ _____ 『 _____ 』

(①^{てんぴょう}天平十三年三月)乙巳, ②^{しんし}詔して曰く, 「……宜しく天下諸国をして, 各^{おののおのづつし}敬みて七重塔一区を造り, 并せて③_____, _____, 各一部を写さしむべし。……④^{のたまわ}僧寺には必ず⑤_____^{あわ}僧有らしめ, 其の寺の名を⑥_____と為し, ⑦^に尼寺には⑧_____^に尼ありて, 其の名を⑨_____と為し, 両寺相共に宜しく教戒を受くべし。……」と。  
〔①____年 ②____天皇が詔した ③_____は____寺, _____(略称は法華經)は____寺で読ませた經典で, ともに護国經 ④国分寺 ⑤____人の僧 ⑥国分寺の正式名称 ⑦国分尼寺 ⑧____人の尼 ⑨国分尼寺の正式名称〕

△ _____ 『 _____ 』

(①^{てんぴ}天平十五年)冬十月辛巳, ②^{しんし}詔して曰く, 「……粵に①^{ここの}天平十五年歳は癸未に次る十月十五日を以て, ③^{ぼさつ}菩薩の大願を發して, ④_____の⑤^く金銅像一軀を造り奉る。……夫れ(ア)の____を有つ者は⑥^{みづか}朕なり。(ア)の____を有つ者も⑥^{みづか}朕なり。この富勢を以て, この尊像を造る。〕  
〔①____年 ②____天皇が詔した ③^{しんじょう}衆生を救済しようとする菩薩の願い ④華嚴經の本尊。俗に大仏という ⑤銅に鍍金した仏像 ⑥____天皇〕

□ _____ 仮名序 『 _____ 』 by _____

①^{やまとうた}やまとうたは, ひとのこゝろをたねとして, よろづのことの葉とぞなれりける。世中にある人, ②^{ことわざ}ことわざしげきものなれば, 心におもふことを, 見るもの。きくものにつけて, いひいだせるなり。花になくうぐひす, みづにすむかはづのこゑをきけば, いきとしいけるもの, ③^{いづれかうた}いづれかうたをよまざりける。  
〔①____ ②行くことが多い ③歌を詠まないものがあるか〕

□ _____ 『 _____ 』 by _____

をとこもすなる日記といふものを, をむな(女)もしてみんとするなり。①^{そ(其)れのとし(年)}そ(其)れのとし(年)のしはす(十二月)のはつか(二十日)あま(余)りひとひ(一日)のひ(日)の②^{いぬ(戌)のとき}いぬ(戌)のときに, かどで(門出)す。そのよし(由), いさゝかにものにかきつく。…  
〔①紀貫之は930年に土佐守に任官, 934年に離任した ②午後7～9時〕

□ _____ 『 _____ 』 by _____

いづれの御時にか。①^{にようぎ}女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに, いと, ②^{やむごとなき}やむごとなき際にはあらぬが, すぐれて③^{ときめき}時めき給ふありけり。……  
〔①天皇の配偶者。序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順 ②身分・家柄が尊い ③寵愛を受ける〕

△ 浄土教 『 _____ 』 by _____

それ_____の①^{きょうぎょう}教行は, ②^{しよせまたの}濁世末代の③^{めそく}目足なり。道俗貴賤, 誰か帰せざる者あらむや。ただし④_____の⑤^{きょうほう}教法は, 其の文, 一にあらず。⑥^{じり}事理の業因, 其の行惟れ多し。⑦^{りち}利知の⑧^{しんしん}精進の人は, 未だ難しと為さざるも, ⑨^{しよ}予の如き⑩^{しんじゆ}頑魯の者, 豈に敢てせむや。是の故に, _____の一門に依りて, 聊か⑪^{きんろん}經論の要文を集む。之を披き之を修すれば, 覚り易く行ひ易からむ。之を披きて之を修すれば, 覚り易く, 行ひ易からむ。惣べて⑫^{しゆもん}十門あり, 分ちて三巻と為す。一には⑬^{しんじ}厭離穢土, 二には⑭^{しんじ}欣求浄土, 三には⑮^{きんらく}極楽の証拠, ……九には⑯^{しんじ}往生の諸業, 十には⑰^{もんとう}問答料簡なり。之を座右に置いて⑱^{はいつしやう}廢忘に備へむ。  
〔①教えと修行 ②けがれの多い末法の世。_____に基づく ③道しるべ ④_____と_____。すべての仏教 ⑤真理を悟るための修行 ⑥賢くて仏道修行をしている人 ⑦成仏するための修行 ⑧_____ ⑨かたくなで愚かな人 ⑩經と論の重要な部分 ⑪『往生要集』は十の章からなる。以下はその章の目次 ⑫汚れた現世を厭い離れる ⑬浄土を願い求める ⑭極楽についての經典上の根拠 ⑮極楽往生をするための種々の修行 ⑯問答して他とはかりくらべる ⑰信心のすたれや忘却〕

□ 往生集(_____) 『 _____ 』 by _____

①^{しやもん}沙門_____は, ②^{ふぼ}父母を言はず, ③^{むい}亡命して世に在り。或は云く, ④^{はうりゅう}漢流より出でたりといふ。口に常に阿弥陀仏を唱ふ。故に世に⑤_____と号づく。或は市中に住して仏事を作り, また_____と号づく。  
〔①僧侶 ②父母の名前 ③本籍地から逃亡する ④皇族の血筋 ⑤阿弥陀仏を信仰して苦行する徳の高い修行者〕

□ _____ の横暴 『 _____ 』

①_____の院は, 賀茂川の水, 双六の②^か養, ③_____, 是れぞ④^{みづか}朕が心に随はぬ者と, 常に仰せの有りけるとぞ申し伝へたる。  
〔①_____ ②さいころ ③_____寺の僧兵 ④_____〕

□ 平安末期の歌謡－ _____ ー 『 _____ 』 by _____

仏は常に在せども、①現ならぬぞ②あはれる、人の音せぬ曉に、仄かに夢に見えたまふ  
遊びをせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ③動がるれ  
〔①姿として現実に現れない ②尊く心うたれる、または仏の姿をおがめず悲しい、と解する二様ある ③自然におどり動きたくなる〕

□ _____ 『 _____ 』 by _____

①もろこし②我がてうに、もろもろの智者達の③さたし申さるゝ、④観念の念ニモ非ズ。又⑤学文をして念の心を悟リテ申念仏ニモ非ズ。ただ往生極楽のためニハ、 _____ と申て、疑いなく往生スルゾト⑥思とりテ、申外ニハ、別ノ⑦子細候はず。…念仏ヲ信ぜん人ハ、たとひ⑧一代ノ法ヲ能々学ストモ、一文不知ノ愚とんの⑨身ニナシテ、尼入道ノ⑩無ちノともがらニ同シテ、⑪ちしやノふるまひヲせずして、⑫只一かうに念仏すべし。

〔①唐土。中国のこと ②我が朝。日本のこと ③沙汰 ④眼をとじて仏の世界を観想する念仏 ⑤学問 ⑥思いこんで ⑦理由・手段 ⑧ _____ ⑨身になりきって ⑩無知の仲間 ⑪智者 ⑫ひたすら〕

□ _____ の _____ 『 _____ 』 by _____

①(ア)なほもちて往生をとぐ、いはんや②(イ)をや。しかるを世のひとつねにいはいく、②(イ)なを往生す、いかにいはんや①(ア)をやと。この条、③一旦その④いはれあるにたれども、⑤本願他力の⑥意趣にそむけり。……⑦煩惱具足のわれらはいづれの行にても生死をはなるゝことあるべからざるをあはれみたまひて、願をおこしたまふ本意、⑧悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる②(イ)、⑨もとも往生の⑩正因なり。よりに善人だにこそ往生すれ、まして②(イ)はと、仰さぶらひき。

〔①善行をつんで成仏しようとする人 ②善行をつんで成仏する能力に欠けていると自覚する人、自分の悪行を自覚する人 ③一応 ④理由 ⑤ひたすら弥陀の本願を信ずる ⑥教えのおもむき ⑦ありとあらゆる迷いにつきまといわれている ⑧悪人が浄土ですぐわれる ⑨もっとも ⑩正しい原因〕

□ _____ の主張 『 _____ 』 by _____

若し、先ず国土を安んじて、①現当を祈らんと欲せば、速かに②情慮を廻らし、念て③対治を加へよ。所以は何ん。薬師經の④七難の内、五難忽ち起り、二難猶残せり。所以「⑤他国侵逼の難、⑥自界叛逆の難」なり。

〔①現在と未来 ②深い考え ③災難退治 ④薬師經に、人々が疾病にかかる難以下七つの災難があげられている ⑤外国の来襲。 _____ を予言したことになる ⑥国内の謀叛〕

□ 茶の効用 『 _____ 』 by _____

①將軍家いささか②御病悩。諸人奔走す。但し、ことなる御事なし。これもしくは去夜③御淵酔の余氣か。ここに④葉上僧正御加持に候ずるところ、この事を聞き、良薬と称し本寺より茶一盞を召し進じ、⑤一卷の書を相副え献ぜしむ。茶の徳を嘗むところの⑤書なり。①將軍家御感悦に及ぶと云々。

〔① _____ ②ご病気 ③酒宴 ④ _____ ⑤ _____ 〕

□ _____ 『 _____ 』 by _____

一日①葉問云、「叢林の③勤学の④行履と云は如何」。⑤示云、⑥ _____ 也。或は⑦閣上...或は楼下にして、常⑧坐をいとなむ。人に交り物語をせず、⑨尊者の如く⑩癡者の如くにして、常に独坐を好む也。

〔①道元の弟子 _____ ②禅宗の寺院 ③修行 ④行いや生活 ⑤ _____ ⑥ひたすら坐禅をくむこと ⑦閣上はたかどのの上、楼下はたかどのの下。場所を選ばずの意 ⑧座定・坐禅 ⑨耳の聞こえない者 ⑩物を言うことのできない者〕

□ 専修念仏の批判 『 _____ 』 by _____

ここに①近代、②上人あり、一卷の書を作る。名づけて _____ と曰ふ。經論に③迷惑して、諸人を④欺誑せり。往生の行を以て宗とすと雖も、反って往生の行を⑤妨礙せり。……

〔①最近 ② _____ ③迷いまどう ④まどわす ⑤妨害する〕

□ 能一能楽論－ 『 ..... 』 by _____

(ア)の①風体の事

書道諸事において(ア)なるをもて②上果とせり。ことさら③當芸において、(ア)の風体第一とせり。……

そもそも(ア)の④塙とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔かなる体、(ア)の本体なり。……

〔①芸風 ②最高の境地 ③ _____ ④境地〕

# 回 貨幣経済の浸透『 』 by

……^①当時ハ^②旅宿ノ境界ナル故、^③無テハナラヌ故、米ヲ売テ金ニシテ、商人ヨリ物ヲ買ヒテ日々送ルコトナレバ商人主ト成テ武家ハ客也。故ニ^④諸色ノ直段、武家ノ^⑤心儘ニナラスコト也。武家皆^⑥ 二住スル時ハ、米ヲ売ラズニ事スム故、商人米ヲ欲シガルコトナレバ、武家主ト成テ商人客也。サレバ諸色ノ直段ハ武家ノ心儘ニ成ル事也。是レ皆^⑦古聖人ノ^⑧広太甚深ナル智慧ヨリ出タル^⑨万古不易ノ捷也。

〔①この頃。 ②の頃 ③旅宿先にいるような不安定な境遇 ④様々な物品 ⑤思い通りにならない ⑥領地 ⑦中国の聖人 ⑧広く深い ⑨永久に変わらない〕

# 回 大名の窮乏『 』 by

^①今ノ世ノ諸侯ハ、^②大モ小モ、皆頭ヲタレテ商人ニ^③無心ヲイヒ、江戸、京都、大坂、其外処々ノ富商ヲ憑デ、其^④續々計ニテ世ヲ渡ル。^⑤邑入ヲバ悉ク^⑥其方ニ振向ケ置テ、収納ノ時節ニハ、^⑦(ア)ヨリ^⑧食ヲ封ズル類也。^⑨(ア)トハ、金銀ヲ借ス者ヲ云フ。

〔① ②の頃 ③石高の多い大大名も、石高の少ない小大名も ④借金をする ⑤金銭の援助 ⑥知行からの ⑦借金の返済 ⑧高利貸のこと ⑨米蔵を差し押さえる〕

# 回 藩専売制『 』 by

……凡そ今の^①諸侯は、金なくては^②国用足らず、職責もなりがたければ、唯如何にもして金を豊饒にする計を行ふべし。金を豊饒にする術は^③市賣の利より近きはなし。諸侯として^④市廩の利を求むるは、国家を治むる上策にはあらねども、当時の急を救ふ一術なり。

〔①大名 ②藩の財政難 ③ ④市賣の誤りか〕

# 回 『憲法類集』

^①林太学頭江

^②の儀は、^③以来御代々御信用の御事にて、已ニ^④其方家代々右学風維持の事仰せ付け置かれ候儀ニ候得共、油断無く^⑤正学励、門人共取立申すべき筈に候。然処近來世上^⑥種々新規の説をなし、^⑦流行、風俗を破り候類之有り、全く^⑧正学衰微の故ニ候哉、甚だ相済まざる事ニて候。其方門人共の内にも右体の學術純正ならざるも、折節は之有る様ニも相聞え、如何ニ候。此度^⑨緒取締厳重に仰せ付けられ、^⑩彦助、^⑪清助儀も^⑫右御用仰せ付けられ候事に候得ば、能々此旨申し談じ、急度門人共異学相禁じ、猶又、自門に限らず他門ニ申し合せ、^⑬正学^⑭講義致し、人材取立候様相心掛申すべく候事。

〔①大学頭林信敬 ② ③徳川家康が林羅山を登用した 1605(慶長 10)年 ④ ⑤ のこと ⑥新学説。すなわち ⑦・ ⑧・ など ⑨朱子学以外の儒学の学派を異学であるとした ⑩聖堂学問所 ⑪柴野栗山 ⑫岡田寒泉 ⑬右の御用。聖堂に属する儒官に登用されたこと ⑭講義・研究〕

# 回 海国貿易論『 』 by

……日本は なければ、渡海・運送・交易は、固より^①国君の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を^②抜き取テ^③日本へ入れ、国力を厚くすべきは海国^④具足の仕方なり。自国の力を以て治る計りにては、国力次第に弱り、其弱り皆農民に当り、農民連年^⑤耗減するは自然の勢ひなり。

〔① をさす ②貿易による利益をもってくる意 ③輸入の意 ④必然的に備わっている ⑤弱くなる〕

# 回 無神論『 』 by

生熟スルモノハ、年数ノ短調ハアレドモ、大テイソレゾレノ持前有リテ死枯セザルハナシ。生ズレバ智アリ、神アリ、血氣アリ、^①四支・心志・臟腑皆働キ、死スレバ^②智ナシ、神ナシ、血氣ナク、^③四支・心志・臟腑ミナ働クコトナシ。然レバ何クンゾ^④鬼アラン。又神アラン。……

〔①手足・心臓・はらわた ②知能の働き ③靈魂〕

# 回 海防論『 』 by

^①当世の俗置にて、異国船の^②入津ハ(ア)に限たる事にて、別の浦え船を寄ル事ハ決して成らざる事ト思ひ。実に^③太平に鼓腹するト云べし。……^④当時(ア)に厳重に^⑤石火矢の備有て、却て^⑥ ⑦の海湾に其備なし。此事 甚いぶかし。細力に思へば、 ⑧の ⑨より^⑩ ⑪迄境なしの水路也。然ルを此に備へずして(ア)にのミ備るは何ぞや。

〔①今の世の習わし ②入港 ③平和に慣れきった人 ④現在 ⑤大砲のこと ⑥房総・三浦半島にある旧国名 ⑦清国〕



# 回 身分制の否定『_____』 by _____

①中平土の②人倫は③士穀盛んに耕し出し、山里の②人倫は薪材を取りて之を平土に出し、海浜の人倫は諸魚を取て之を平土に出し、薪材・十穀・諸魚、之を易して、山里にも薪材・十穀・諸魚、之を食し之を家作し、海辺の人倫も家を作り穀食し魚菜し、平土の人も相同ふして、平土に過余も無く、山里に少く不足も無く、海浜に過不足無く、彼に富も無く、此に貧も無く、④此に上も無く、彼に下も無く、……⑤上無れば下を責め取る⑥奢侈も無く、下無れば上に諂ひ巧むことも無し。……各耕して子を育て、子壯になり、能く耕して親を養ひ子を育て、一人之を為れば万人之を為て、貪り取る者無れば貪るる者も無く、⑦転定も人倫も別つごとと無く、⑦転定生ずれば人倫耕し、此の外一點の私事無し。是れ⑧_____の世の有様なり。

〔①平地 ②人間 ③穀物 ④支配階級も被支配階級もない ⑤支配階級 ⑥はなはだしい欲望 ⑦天地 ⑧安藤昌益の考える理想社会をあらわした言葉。万人農耕の無階級平等社会〕

# 回 百姓一揆発生の原因『_____』 by _____

百姓町人大勢_____して、_____①濫放することは、昔は②治平の世には、③をさをさうけ給はり及ばぬこと也。④近世になりても、⑤先年はいと稀なる事なりしに、⑥近年は年々所々にこれ有て、めづらしからぬ事になれり。……抑此事の起るを考ふるに、いづれも⑦下の非はなくして、皆⑧上の非なるより起れり。今の世百姓町人の心も、あしくなりたりとはいへ共、よくよく堪がたきに至らざれば、⑨此事はおこる物にあらず。……近年たやすく一致し固まりて、⑩此事の起りやすきは、⑪畢竟これ⑫人怨にはあらず。上たる人深く⑬遠慮をめぐらさるべきこと也。然りとていかほど起らぬやうのかねての防ぎ工夫をなす共、⑭未を防ぐばかりにては、止がたかるべし。とかくその因て起る本を直さずばあるべからず。その本を直すといふは、⑮非理のはからひをやめて、民をいたはる是なり。たとひいかほど困窮はしても、上のはからひだによろしければ、此事は起る物にあらず。

〔①乱暴 ②平和な時代 ③ほとんど ④近頃。ここでは江戸時代の意 ⑤江戸時代初期 ⑥天明の頃 ⑦下々の者。百姓や町人 ⑧上に立つ者。支配者。幕府や領主をさす ⑨百姓一揆 ⑩つまり。結局は ⑪人の意志の力だけによるのではない ⑫先々のことまでよく考える ⑬目先にとらわれた処置。表面的な解決をもたらす処罰や鎮圧をさす ⑭非道な扱い。悪政〕

# 回 九変五変論『_____』 by _____

①_____に、光孝天皇より上つかたは②二向③上占也。万の例を勘ふるも、仁和より下つかたをぞ申める。五十六代清和幼主にて、外祖_____摂政す。是、外戚専権の始<一変>。_____④外舅の親によりて陽成を廃し_____を建しかば、天下の権⑤藤氏に帰す。そののち⑥関白を置き或は置ざる代ありしかど、⑦藤氏の権おのづから日々盛也<二変>。六十三代冷泉より……後冷泉、凡八代百三年の間は⑧外戚権を専にす<三変>。_____・_____兩朝は⑨政_____に出ず<四変>。堀河……安徳、凡九代九十七年の間は、⑩政上皇に出ず<五変>。後鳥羽・土御門・順徳、三世凡三十八年の間は、鎌倉殿、天下兵馬の権を分ち掌らる<六変>。後堀河……光厳、十二代凡百十二年の間は、北条、⑪陪臣にて国命を執る<七変>。⑫(ア)重祚す、天下朝家に帰する事纔に三年<八変>。そののち天子⑬蒙塵。(イ)、光明を立てて共主となしてより、天下ながく武家の代となる<九変>。

武家は_____幕府を開て、⑭父子三代天下兵馬の権を司どれり。凡三十三年<一変>。⑮_____、_____後天下の権を執る。そののち、七代凡百十二年、_____が代に至て滅ぶ<二変>。<この時に⑯將軍二代、親王將軍四代ありき。>……⑫(ア)中興ののち、⑮(イ)反して天子⑮蒙塵。(イ)、_____を北朝の主となして、みづから幕府を開く。子孫相継て十二代におよぶ。凡二百卅(三十)八年<三変>。<このうち南北戦争五十四年、_____後百七年の間、天下大に乱る。実に七十七年が間、武威あるがごとくなれども、東国は皆鎌倉に属せしなり。>……足利殿の末、_____家勃興して⑯將軍を廃し、⑰天子を挟みて天下に令せんと謀りしかど、事未だ成らずして凡十年がほど⑱其臣に弑せらる。_____家、其⑲故智を用ひ、みづから_____となりて天下の権を恣にせしこと、凡十五年<四変>。そののち終に⑳当代の世となる<五変>。

〔①著者は_____ ②すべて ③古代 ④妻の父親 ⑤藤原氏 ⑥醍醐・村上天皇時代(延喜・天曆の治) ⑦藤原実頼が関白となつてから頼通が関白を辞すまでの_____ ⑧後三条・白河天皇時の_____ ⑨_____年から始まった白河・鳥羽・後白河上皇(法皇)の_____ ⑩執権北条氏の_____ ⑪難を避けて他所へ行漂泊すること ⑫頼朝・頼家・実朝の三代 ⑬北条義時。北条氏は_____氏の一族 ⑭_____・_____ ⑮足利尊氏。足利尊氏は_____氏の一族 ⑯_____年に將軍_____を京都から追放して室町幕府を滅ぼした ⑰天皇を擁して ⑱_____ ⑲昔の人の用いた知略 ⑳徳川家の時代〕

※_____は、_____が6代將軍_____に武家の勃興の過程を進講した際の草稿で、公家政権における「九変」、武家政権における「五変」という「九変五変論」により、徳川幕府の正統性を説いたもの。こうした歴史書が記されるようになった背景には、江戸時代に朱子学の「大義名分論」が重視されるようになったように、儒学が隆盛し文治政治が行われて、徳川幕府の正統性など歴史についても合理的・実証的に解釈する必要性が出たためである。なお、公家政権の<六変>以降と武家政権の<一変>以降の中で時代的に重複している部分があるのは、鎌倉幕府・室町幕府と京都朝廷が並存しており、將軍が朝廷の権威に依存し、経済基盤も重複していたため。

# 蘭学の評価『_____』by _____

凡そ、^①其の人^②博聞強記^③にして、彼方^④多学の人と聞えて、天文地理の事に至ては、^⑤企て及ぶべしとも覺えず。其^⑥教法を説くに至ては、一言の道にちかき所もあらず。智恵たちまちに地を易へて、二人の言を聞くに似たり。こゝに知りぬ、彼方の学のごときは、ただ^⑦其形と器とに精しき事を。所謂^⑧形而下なるもののみを知りて、^⑨形而上なるものは、いまだあづかり聞かず。〔^①_____人宣教師 ^②博学であること ^③我々の知識が及ばない ^④キリスト教 ^⑤形(物質)と器(技術)に詳しく、精神面は不十分ということ ^⑥_____。具体的なもの ^⑦_____。観念的・抽象的なもの〕

# 蘭学の発達—解体新書の苦勞談『_____』by _____

一、帰路は、^①(ア)、^②_____と、^③翁^④と三人同行なり。途中にて語り合ひしは、さてさて、今日の^⑤実験一々驚き入る。且つこれまで心付かざるは恥づべきことなり。苟くも医の業を以て互ひに主君主君に仕ふる身にして、その術の基本とすべき吾人の形態の真形をも知らず、今迄一日一日とこの業を勤め来りしは面目もなき次第なり。

一、^⑥その翌日、(ア)が宅に集まり、前日のことを語り合ひ、先づ、彼「^⑦_____」の書にうち向ひしに、誠に鱸・鮓なき船の大船に乗り出だせしが如く、茫洋として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり。……

〔^①_____ ^②_____ ^③_____ ^④死刑囚の死体解剖。腑分け ^⑤解剖を見た翌日。1771年3月5日 ^⑥ドイツ人クルムスの解剖書『解剖学図譜』のオランダ語翻訳本〕

# 蘭学の統制『_____』by _____

^①寛政四五のころより^②紅毛^③の書を集む。蛮国は^④理にくはし、天文地理又は兵器あるは内外科の治療、殊に益も少なからず。されどもあるは^⑤好奇の媒^⑥となり、または^⑦悪しき事^⑧などいひ出す。さらば禁ずべしとすれど、禁ずれば猶やむべからず。況やまた益もあり。さらば^⑨其書籍^⑩など、^⑪心なきもの^⑫の手には多く渡り侍らぬやうにはすべきなり。……

〔^①1792～93年頃 ^②_____ ^③科学が発達している ^④関心を持つきっかけ ^⑤幕藩体制への批判的な言辞をさす。具体的には『_____』がこれにあたる ^⑥『_____』をさす ^⑦思慮にとぼしいもの。幕府部外者・批判者をさす〕

# _____—商人蔑視の社会を批判—『_____』by _____

^①四民ヲ治メ玉フハ君ノ職ナリ。君ヲ相ルハ四民ノ職分ナリ。士ハ元来位アル臣ナリ。農人ハ^②草莽ノ臣ナリ。商工ハ^③市井ノ臣ナリ。……商人ノ売買スルハ天下ノ相ナリ。^④細工人ニ^⑤作料ヲ給ルハ工ノ禄ナリ。農人ニ^⑥作聞ヲ下サルルコトハ、是モ士ノ禄ニ同ジ。天下万民産業ナクシテ、何ヲ以テ立ツベキヤ。商人ノ買利モ天下御免シノ禄ナリ。夫ヲ汝独、売買ノ利バカリヲ慾心ニテ道ナシト云ヒ、商人ヲ悪ンデ断絶セントス。何^⑦以テ商人計リヲ賤メ嫌フコトゾヤ。

〔^①士農工商 ^②民間 ^③まち ^④職人 ^⑤工賃 ^⑥耕作料〕

## 〔干支の法〕

		十 二 支											
		子(鼠)	丑(牛)	寅(虎)	卯(兎)	辰(龍)	巳(蛇)	午(馬)	未(羊)	申(猿)	酉(鶏)	戌(犬)	亥(猪)
五行・十干	木	兄 甲(カ)	甲子	甲寅	甲辰	甲午	甲申	甲戌	甲子	甲寅	甲辰	甲午	甲申
		弟 乙(カヅ)	乙丑	乙卯	乙巳	乙未	乙酉	乙亥	乙丑	乙卯	乙巳	乙未	乙酉
	火	兄 丙(ヘ)	丙子	丙寅	丙辰	丙午	丙申	丙戌	丙子	丙寅	丙辰	丙午	丙申
		弟 丁(テ)	丁丑	丁卯	丁巳	丁未	丁酉	丁亥	丁丑	丁卯	丁巳	丁未	丁酉
	土	兄 戊(ホ)	戊子	戊寅	戊辰	戊午	戊申	戊戌	戊子	戊寅	戊辰	戊午	戊申
		弟 己(キ)	己丑	己卯	己巳	己未	己酉	己亥	己丑	己卯	己巳	己未	己酉
	金	兄 庚(カ)	庚子	庚寅	庚辰	庚午	庚申	庚戌	庚子	庚寅	庚辰	庚午	庚申
		弟 辛(シ)	辛丑	辛卯	辛巳	辛未	辛酉	辛亥	辛丑	辛卯	辛巳	辛未	辛酉
	水	兄 壬(ジ)	壬子	壬寅	壬辰	壬午	壬申	壬戌	壬子	壬寅	壬辰	壬午	壬申
		弟 癸(キ)	癸丑	癸卯	癸巳	癸未	癸酉	癸亥	癸丑	癸卯	癸巳	癸未	癸酉

※ _____は十干と十二支を組み合わせた _____を周期とする数詞。ゆえに、干支は60年周期となる。

- ①歴史事項 _____の変(645)・ _____の宣(664)・ _____年鑑(670)・ _____の乱(672)・ _____年鑑(690)・ _____封事(1838)・ _____夢物語(1838)・ _____戦争(1868～)・ _____戸籍(1872)・ _____地券(1872)・ _____詔書(1908)・ _____革命(1911)
- ②史料(資料) 朝鮮出兵=辛卯年(391)・ 稻荷山古墳出土鉄剣銘=辛亥年(471)・ 隅田八幡神社人物画像鏡銘=癸未年(443or503)・ 仏教公伝= _____説(538)・ _____説(552)
- ③日朝関係 _____約条(嘉吉条約)(1443)・ _____の倭乱(文禄の役)(1592)・ _____の倭乱(慶長の役)(1597)・ _____約条(慶長条約)(1609)・ _____事変(軍乱)(1882)・ _____事変(政変)(1884)・ _____農民戦争(1894)

□ _____ の啓蒙思想『 _____ 』 by _____

①天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生れながら ..... の差別なく、万物の霊たる身と心との 働 を以て天地の間にあるよろづの物を資り、以て衣食住の用を達し、自由自在、互に人の 妨 をなさずして各 安楽にこの世を渡しめ給ふの趣意なり。されども今広く此人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。其次第甚だ明なり。②英語教に、人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なりとあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由て出来るものなり。

[①天賦人權思想(人間は天から平等に権利を授かっているという説)に基づいたもの ②平安末期に作成されたものと推定されている初等教科書。中国古典の格言を中心に集めた教訓書で、江戸時代に刊本となり広範に流布され、寺子屋で使用された]

□ _____ ( _____ ) — _____ 序文( _____ 年) — 『法令全書』

人々自ラ其(ア)ヲ立テ、其①(イ)ヲ治メ、其②業ヲ昌ニシテ、以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ他ナシ、(ア)ヲ修メ、(ウ)ヲ開キ、③才芸長スルニヨルナリ。而テ其(ア)ヲ脩メ、(ウ)ヲ開キ、才芸ヲ長スルハ、学ニアラサレハ能ハス。是レ ..... ノ設アル所以ニシテ、④日用常行、言語、書算ヲ初メ、士官・農商・百工・技芸及ビ法律・政治・天文・医療等ニ至ル迄、凡人ノ営ムトコロノ事、学アラサルハナシ。人能ク其才ノアル所ニ応シ、勉励シテ之ニ従事シ、而シテ後初テ⑤生ヲ治メ、(イ)ヲ興シ、業ヲ昌ニスルヲ得ヘシ。サレハ学問ハ身ヲ立ルノ財本共云ヘキ者ニシテ、人タルモノ誰カ学ハスシテ可ナランヤ。……之ニ依テ、今般⑥ _____ ニ於テ⑦ _____ ヲ定メ、追々教則ヲモ改正シ、布告ニ及フヘキニツキ、自今以後、一般ノ人民(華士族農工商及婦女子)必ス邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス。

[①資産をたくわえる ②生計をたてていくこと ③才能や技芸 ④平素の行動 ⑤暮らしの道をたてる ⑥1871年に創設された教育・学術・文化行政の中央行政官庁 ⑦学制の内容は6編109章からなり、学区・学校・教員・生徒・試業・留学規則・学費などについて規定。学区は全国を8大学区、各大学区を32中学区、各中学区を210小学区に分け、各区1校とした]

□ _____ ( _____ ) ( _____ 年) — _____ 内閣 — 『法令全書』

①朕惟フニ我カ②皇祖祖宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ(ア)克ク忠ニ克ク孝ニ③億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ④ ..... ノ精華ニシテ、⑤ ..... ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。爾(ア)、父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ⑥恭儉已レフ持シ博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓発シ⑦徳器ヲ成就シテ公益ヲ広メ⑧世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦⑨緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ⑩天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。是ノ如キハ独リ朕カ忠良ノ(ア)タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖祖宗ノ遺訓ニシテ子孫(ア)ノ俱ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス、朕爾(ア)ト俱ニ奉々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

[①天皇の一人称。ここでは明治天皇 ②天皇家の祖先神とされる天照大神に始まる天皇歴代の祖先 ③人民。すべての国民 ④国柄の優れて美しいこと ⑤教育の源もこの国体の美に根ざす ⑥人に対しては恭しく、自分自身の言行を慎み深くする ⑦徳行と器量。徳性と能力 ⑧世の中の務め ⑨国家の危急の場合 ⑩天地とともに極まりない皇室の運命 ⑪1890年]

□ _____ 『官報』

然れども①朕は爾等国民と共に在り、常に利害を同じうし②休戚を分たんと欲す。朕と爾等国民との間の③紙張は終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ、単なる神話と伝説とに依りて生ぜるものに非ず。天皇を以て④現御神とし、且日本国民を以て他の民族に優越せる民族にして、延て世界を支配すべき運命を有すとの⑤架空なる觀念に基くものに非ず。

[①天皇の一人称。昭和天皇 ②喜びと悲しみ ③ひとと帯。すなわち、つながり ④ _____ ⑤太平洋戦争の間、大和民族最優秀論や、八紘一宇の理念が盛んに宣伝されていた]

□ _____ ( _____ 年) — _____ 内閣 — 『官報』

われらは、さきに _____ (ア) _____ を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。

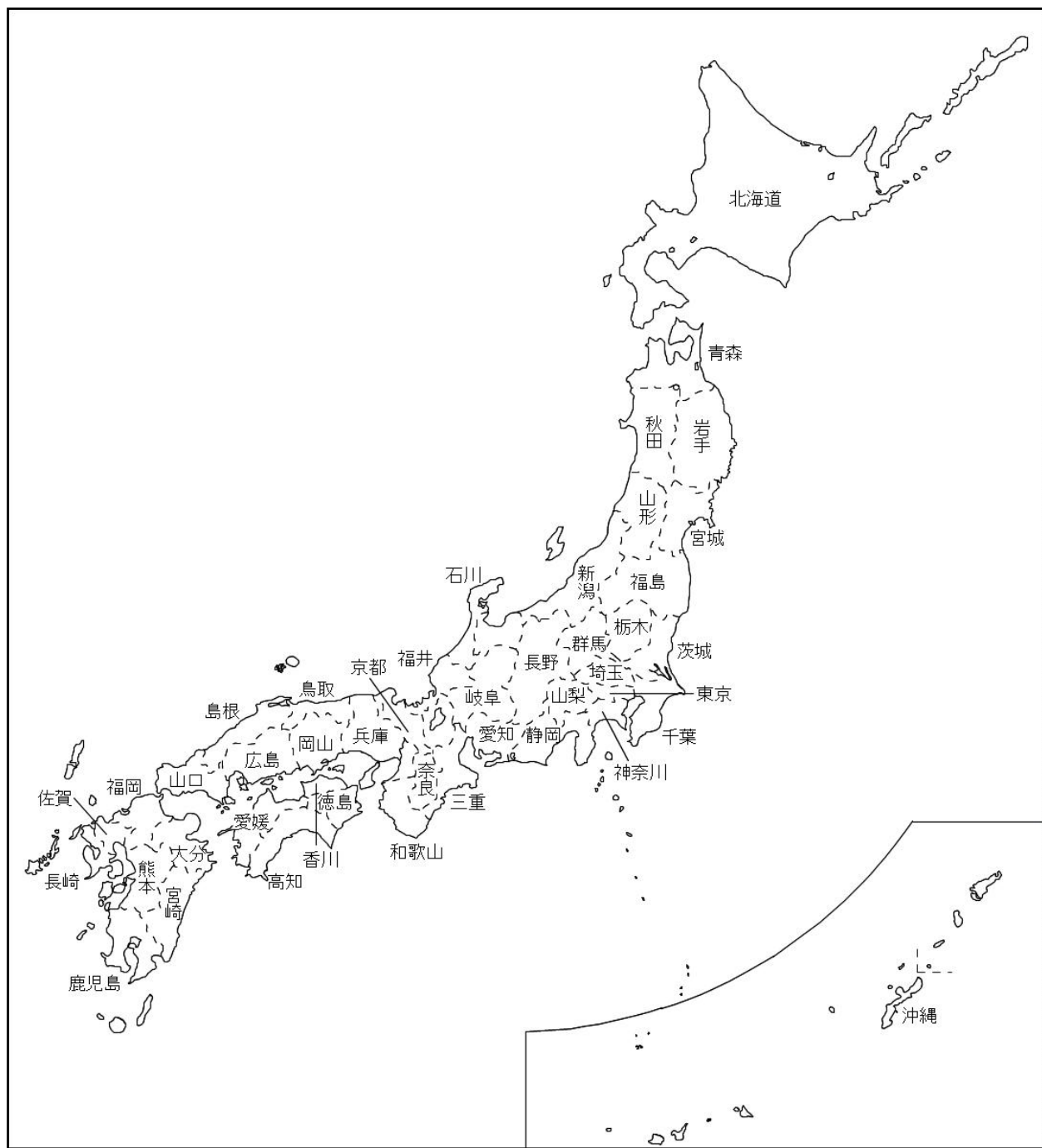
われらは、 _____ を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、①普遍的にしてしかも②個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、 _____ (ア) _____ の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、③この法律を制定する。  
[①神話を根拠に日本を「神国」として世界の諸国から区別し、「八紘一宇」つまり世界を日本の下に統一する特別の使命をもつ国だとの立場からの教育が強められていた ②戦前は、日本人ひとりひとりの個性を育てることではなく、民族としての自覚や共通性を身につけることに教育の目標がおかれていた ③ _____ ]

[A] 元号(年号) ※太字は重要な歴史事項として使用されているもの

元号	西 暦	元号	西 暦	元号	西 暦	元号	西 暦	元号	西 暦	元号	西 暦				
飛鳥時代		永祚	989～990	永万	1165～1166	応長	1311～1312			弘治	1555～1558				
大化	645～650	正暦	990～995	仁安	1166～1169	正和	1312～1317			永祿	1558～1570				
(白雉)	650～654	長徳	995～999	嘉応	1169～1171	文保	1317～1319			元亀	1570～1573				
(朱鳥)	686～701	長保	999～1004	承安	1171～1175	元応	1319～1321			安土・桃山時代					
大宝	701～704	寛弘	1004～1012	安元	1175～1177	元亨	1321～1324	天正		1573～1592					
慶雲	704～708	長和	1012～1017	治承	1177～1181	正中	1324～1326	文祿		1592～1596					
奈良時代		寛仁	1017～1021	養和	1181～1182	嘉暦	1326～1329	江戸時代							
和銅	708～715	治安	1021～1024	寿永	1182～1184	元徳	1329～1331	慶長		1596～1615					
霊亀	715～717	万寿	1024～1028	元暦	1184～1185	南北朝時代(北朝)		南北朝時代(南朝)		元和	1615～1624				
養老	717～724	長元	1028～1037	文治	1185～1190	元徳	1329～1331	元弘	1331～1334	寛永	1624～1644				
神亀	724～729	長暦	1037～1040	鎌倉時代		正慶	1332～1333	建徳 文中 天授 弘和 元中	1370～1372 1372～1375 1375～1381 1381～1384 1384～1392	正保	1644～1648				
天平	729～749	長久	1040～1044	建久	1190～1199	建武	1334～1336			建武	1334～1336	慶安	1648～1652		
天平感宝	749	寛徳	1044～1046	正治	1199～1201	暦応	1338～1342			延元	1336～1340	承応	1652～1655		
天平勝宝	749～757	永承	1046～1053	建仁	1201～1204	康永	1342～1345			興国	1340～1346	明暦	1655～1658		
天平宝字	757～765	天喜	1053～1058	元久	1204～1206	貞和	1345～1350			正平	1346～1370	万治	1658～1661		
天平神護	765～767	康平	1058～1065	建永	1206～1207	観応	1350～1352					寛文	1661～1673		
神護慶雲	767～770	治暦	1065～1069	承元	1207～1211	文和	1352～1356					延宝	1673～1681		
宝亀	770～781	延久	1069～1074	建暦	1211～1213	延文	1356～1361					天和	1681～1684		
天応	781～782	承保	1074～1077	建保	1213～1219	康安	1361～1362					貞享	1684～1688		
平安時代		承暦	1077～1081	承久	1219～1222	貞治	1362～1368					元禄	1688～1704		
延暦	782～806	永保	1081～1084	貞応	1222～1224	応安	1368～1375					建徳	1370～1372	宝永	1704～1711
大同	806～810	応徳	1084～1087	元仁	1224～1225	永和	1375～1379					文中	1372～1375	正徳	1711～1716
弘仁	810～824	寛治	1087～1094	嘉禄	1225～1227	康暦	1379～1381					天授	1375～1381	享保	1716～1736
天長	824～834	嘉保	1094～1096	安貞	1227～1229	永徳	1381～1384					弘和	1381～1384	元文	1736～1741
承和	834～848	永長	1096～1097	寛喜	1229～1232	至徳	1384～1387					元中	1384～1392	寛保	1741～1744
嘉祥	848～851	承德	1097～1099	貞永	1232～1233	嘉慶	1387～1389							延享	1744～1748
仁寿	851～854	康和	1099～1104	天福	1233～1234	康応	1389～1390	寛延	1748～1751						
斉衡	854～857	長治	1104～1106	文暦	1234～1235	明德	1390～1394	宝暦	1751～1764						
天安	857～859	嘉承	1106～1108	嘉禎	1235～1238	室町時代		明和	1764～1772						
貞観	859～877	天仁	1108～1110	暦仁	1238～1239	応永	1394～1428	安永	1772～1781						
元慶	877～885	天永	1110～1113	延応	1239～1240	正長	1428～1429	天明	1781～1789						
仁和	885～889	永久	1113～1118	仁治	1240～1243	永享	1429～1441	寛政	1789～1801						
寛平	889～898	元永	1118～1120	寛元	1243～1247	嘉吉	1441～1444	享和	1801～1804						
昌泰	898～901	保安	1120～1124	宝治	1247～1249	文安	1444～1449	文化	1804～1818						
延喜	901～923	天治	1124～1126	建長	1249～1256	宝徳	1449～1452	文政	1818～1830						
延長	923～931	大治	1126～1131	康元	1256～1257	享徳	1452～1455	天保	1830～1844						
承平	931～938	天承	1131～1132	正嘉	1257～1259	康正	1455～1457	弘化	1844～1848						
天慶	938～947	長承	1132～1135	正元	1259～1260	長祿	1457～1460	嘉永	1848～1854						
天暦	947～957	保延	1135～1141	文応	1260～1261	寛正	1460～1466	安政	1854～1860						
天徳	957～961	永治	1141～1142	弘長	1261～1264	文正	1466～1467	万延	1860～1861						
応和	961～964	康治	1142～1144	文永	1264～1275	応仁	1467～1469	文久	1861～1864						
康保	964～968	天養	1144～1145	建治	1275～1278	文明	1469～1487	元治	1864～1865						
安和	968～970	久安	1145～1151	弘安	1278～1288	長享	1487～1489	慶応	1865～1868						
天禄	970～973	仁平	1151～1154	正応	1288～1293	延徳	1489～1492	近現代							
天延	973～976	久寿	1154～1156	永仁	1293～1299	明応	1492～1501	明治	1868～1912						
貞元	976～978	保元	1156～1159	正安	1299～1302	文亀	1501～1504	大正	1921～1926						
天元	978～983	平治	1159～1160	乾元	1302～1303	永正	1504～1521	昭和	1926～1989						
永観	983～985	永暦	1160～1161	嘉元	1303～1306	大永	1521～1528	平成	1989～						
寛和	985～987	応保	1161～1163	徳治	1306～1308	享祿	1528～1532	※一世一元の制 (1868～)							
永延	987～989	長寛	1163～1165	延慶	1308～1311	天文	1532～1555								







© (株)shidenkai 2017~

[本テキストを著作権者の許諾なく無断複写・複製・転載・転売することは著作権法上での例外を除き禁じられています]